日本金融学会 70 年の歩み

The 70th Anniversary of Japan Society of Monetary Economics

2014 年 5 月

日本金融学会

はしがき

日本金融学会 70 年史の編集にあたって

日本金融学会は 1943 年 6 月に設立されましたので、2013 年は日本金融学会設立 70 周年の年でした。それを記念するために、常任理事会は『70 年史』誌の刊行を理事会に提案しました。理事会の先生方の賛成が得られ、また、総会でも了承されたことから、2013 年夏頃から本格的に編集作業を進めてきました。

日本金融学会では、40 周年時に『金融学会の創立と初期の活動』（以下、『40 年史』）が刊行され、さらに 60 周年の際には、晝間文彦早稲田大学教授を編集代表者として『日本金融学会 60 年の歩み』（以下、『60 年史』）が発行されました。この『40 年史』や『60 年史』のおかげで、過去 60 年間の日本金融学会の活動の歴史の重みを認識することができるようになっています。

『70 年史』の編纂に当たっては、『70 年史』編集委員会は、次のような目標と方針を立てました。

第一に、『60 年史』以降、70 周年を迎えた 2013 年度までの活動を対象にして、将来、たとえば、『100 年史』を編集する際のために、この 10 年間の学会活動に関連する資料をまとめておくこと。

第二に、数字的な記録だけではなく、学会活動を支えてこられた先生方のご苦労の一端を記録しておくことで、学会の活動への一般会員の理解を深めていただき、今後の学会の発展につなげること。

第三に、学会ＨＰが充実されてきたことから、費用の問題も踏まえて、紙媒体の印刷を行わず、ホームページ上に掲載する形で刊行すること。また、将来、紙媒体で印刷されることの承諾を受けて寄稿していただくこと。

以上のような目標・方針の下で、まず、歴代の会長経験者に寄稿していただきました。次に、学会の最も重要な行事は春と秋の全国大会の開催です。この 10 年間に 20 大学が主催校の役割を果たして下さいました。それぞれの主催校の先生に大会運営の思い出について寄稿していただきました。

日本金融学会の特徴の一つは、地域ごと、専門分野ごとに組織された部会活動が活発なことです。現在、９つの地域・専門部会がありますので、それぞれの部会の代表者の先生に部会運営の経験を寄稿していただきました。

本部活動に関連して、日本金融学会が持つ 2 つの機関誌の編集委員長や編集委員の先生方、およびホームページ委員長にも寄稿していただきました。さらに、日本金融学会は韓

国や中国の金融学会と学術交流を進めてきましたが、それを担当していただいた先生方にも寄稿していただきました。

また、『60 年史』の中から、日本金融学会の 60 年の歴史を展望している佐藤政則麗澤大学教授の論文を特別に収録させていただくことにしました。これによって、この『70 年史』だけをみても金融学会の 70 年間がわかることになりました。

さらに、総会資料などについては事務局の助けを得ながら、おもに編集委員の橋本理博氏（名古屋大学研究員）に整理していただきました。

具体的な原稿の依頼から原稿の提出まで時間的なゆとりがあまりない中、協力していただいた先生方に深く感謝します。本書が日本金融学会の活動の一層の活発化につながることになれば、編集委員会としては望外の喜びであります。

2014 年 5 月

編集委員長
日本金融学会常任理事・神戸大学教授　家森信善

＜編集委員（50 音順）＞
常任理事・九州大学教授　川波洋一
麗澤大学教授　佐藤政則
常任理事・神戸大学教授　地主敏樹
理事・北九州市立大学教授　前田　淳
理事・一橋大学教授　三隅隆司
＜編集ワーキンググループ委員＞
名古屋大学特別研究員　橋本理博

目　　次

はしがき …… i
第Ⅰ部　歴代会長からのメッセージ …… 1
日本金融学会の活動　2004 年春季大会～2008 年春季大会　一橋大学　清水啓典　2
思いがけず会長になって　大阪大学　筒井義郎　4
2 期 4 年間（2010 年 5 月春季大会以降 2014 年 5 月春季大会まで）の学会の歩み
同志社大学　藤原秀夫　7

第Ⅱ部　全国大会の記録 …… 17
日本金融学会　2004 年度春季大会　神奈川大学　数阪孝志　18
愛知大学での全国大会開催　愛知大学　栗原　裕　20
日本金融学会 2005 年度春季大会　日本大学　長谷川　勉　22
2005 年度秋季大会（大阪大学）　大阪大学　筒井義郎　24
2006 年度春季金融学会（早稲田大学）　早稲田大学　畫間文彦　26
2006 年度秋季大会（小樽商科大学開催）の概要　小樽商科大学　大矢繁夫　28
日本金融学会 2007 年度春季大会　開催校：麗澤大学　麗澤大学　佐久間裕秋　30
麗澤大学　佐藤政則
麗澤大学　陳　玉雄
2007 年度秋季全国大会について　同志社大学　藤原秀夫　32
2008 年度春季大会の記録　成城大学　村本　孜　33
2008 年度秋季大会（広島大学）　広島大学　矢野順治　36
日本金融学会 2009 年度秋季大会について　香川大学　藤井宏史　37
2010 年秋季大会　9 月 25・26 日　神戸大学　神戸大学　地主敏樹　40
2011 年度日本金融学会春季大会　明治大学　渡辺良夫　43
2011 年度日本金融学会秋季大会　東日本大震災の影響・対策など喫緊の課題を議論
近畿大学　山上秀文　45
近畿大学　安孫子勇一
2012 年度日本金融学会春季大会　立正大学　林　康史　47
2012 年度 日本金融学会秋季大会
アジア経済のダイナミズムが日本の金融に与える影響などを議論
北九州市立大学　前田　淳　49
一橋大学での学会開催の思い出　一橋大学　小西　大　51
名古屋大学での全国大会開催　名古屋大学　金井雄一　53
名古屋大学　家森信善

愛知大学　栗原　裕

第Ⅲ部　部会活動の記録 …… 55
日本金融学会 70 年史　北海道部会報告　北海学園大学　小林真之　56
中部部会の活動状況　名古屋大学　金井雄一　57
関西部会　神戸大学　藤原賢哉　59
日本金融学会 70 周年史地域部会記録（2004 年～2013 年）西日本部会
九州大学　川波洋一　61
歴史部会　日本大学　岸田　真　63
国際金融部会　一橋大学　小川英治　65
中央銀行研究部会（2003~2013 年）　関西学院大学　春井久志　68
震災復興金融部会―設立と活動　東北福祉大学　鴨池　治　70

第Ⅳ部　学会本部の諸委員会活動の記録 …… 73
機関紙『金融経済研究』の発展―完全レフェリー制から年 2 回定期刊行へ―
関西大学　本多佑三　74
機関紙『金融経済研究』の継承　慶應義塾大学　櫻川昌哉　76
英文電子ジャーナルの創刊　慶應義塾大学　金子　隆　78
ホームページ委員会　愛知大学　栗原　裕　80
日韓学術交流について　広島大学　矢野順治　83
中国金融学会との学術交流　熊本学園大学　坂本　正　85

第Ⅴ部　資料編 …… 87
①対象期間中の学会（全国大会）のプログラム　88
②春秋の大会参加者数　239
③各大会のプログラム委員名簿　240
④対象期間中の学会（部会）のプログラム　247
⑤学会誌（金融経済研究・ＪＪＭＦＥ）の目次　310
⑥役員名簿　328
⑦編集委員会の歴代委員名簿　330
⑧会員の動向　334
⑨予算・決算の状況　335
⑩年表　340
⑪現行学会諸規則（含む「日本金融学会 70 年史編集に関する申し合わせ」）　342

第Ⅵ部　特別資料編 …… 348
「日本金融学会の 60 年」　麗澤大学　佐藤政則　349

第Ⅰ部
歴代会長からのメッセージ

【歴代会長一覧】

1　山崎　覚次郎（1943 年 6 月～1944 年 10 月）
2　結城　豊太郎（1944 年 10 月～1950 年 12 月）
3　高垣　寅次郎（1950 年 12 月～1982 年 5 月）
4　館　龍一郎　（1982 年 5 月～1988 年 6 月）
5　小寺　武四郎（1988 年 6 月～1992 年 6 月）
6　花輪　俊哉　（1992 年 6 月～1994 年 5 月）
7　三木谷　良一（1994 年 5 月～1998 年 5 月）
8　堀内　昭義　（1998 年 5 月～2002 年 5 月）
9　千田　純一　（2002 年 5 月～2004 年 5 月）
10　清水　啓典　（2004 年 5 月～2008 年 5 月）
11　筒井　義郎　（2008 年 5 月～2010 年 5 月）
12　藤原　秀夫　（2010 年 5 月～2014 年 5 月）

日本金融学会の活動

2004 年春季大会～2008 年春季大会

一橋大学　**清水啓典**

私の会長在任中に理事の皆様と共に注力したのは、全国大会活性化活動と情報発信力の向上です。日本金融学会は学界のみならず官界、実業界、大学院生など金融にそれぞれの専門的立場から関心を持つ多様な人々によって構成されている組織です。その学会がメンバーである会員に対してどのような貢献が出来るかを考えたとき、全会員が全国から集う春季と秋季年２回の全国大会に参加してそれ以外の場では得られない新たな情報や知見、視野を獲得し、また知己との交流や新たな出会いの場として貴重な人脈を築き、自らの研究教育活動や実務推進上の糧を得る機会を提供するという役割が重要だと考えました。そのため全会員の方々から全国大会に参加して意義深かったと評価される大会運営を目指そうと、大会主催校の方々にプログラム作成から大会運営の細部に至るまで、大変なご尽力を頂きました。１年以上に亘り大会開催準備に献身的にご尽力頂ける多数の会員の存在こそ、日本金融学会の力だと実感した次第です。恒例になっている懇親会も他の学会では類を見ない貴重な出会いの場となっています。

また、学会として社会への情報発信を担うという役割も重要であり、世界的にも金融環境が激変する中であるべき方向性を示す研究や提言を世に問う場として、より広くメンバーの研究活動の成果が社会に知られるための支援を進めてきました。その一つが全国大会の一般参加者への公開であり、もう一つが学会ホームページの充実による情報発信力の向上です。後者はホームページ委員会のご尽力のお陰で、広く誰でもが全国大会の報告論文を見ることが出来るようになり、会員専用の名簿検索等々、情報発信のみならず研究活動促進や会員同士の交流のためのインフラも整えられてきました。

又、私個人としては全国大会で会長講演という機会を与えて頂いたことを機に、その時々の学会にとって取り組むべき重要なテーマを取り上げてお話をさせて頂きました。過去の全国大会プログラムを見ると、学会での議論の対象が時代と金融環境の変化と共に移り変わり、全国大会がその時々の重要課題を議論する場を提供してきた様子が分かります。以下、私の会長在任中の全国大会のプログラムから主要なトピックを抜き出してご参考に供したいと思います。

2004 年秋季大会：愛知大学
時代背景：日本の金融危機後メガバンクの誕生、小泉政権の郵政民営化政策
会長講演「銀行の健全性とは何か」

特別パネル：「郵貯の民営化と財政投融資」
記念講演：竹中平蔵金融・財政政策担当大臣「わが国金融行政の現状と課題」
特別講演：荒木隆司トヨタ自動車（株）副社長「トヨタの財務戦略」

2004 年春季大会：日本大学経済学部
時代背景：日銀のゼロ金利政策や国債の累積による財政危機
会長講演：「ゼロ金利と日本国の健全性」
特別講演：岩田一政日本銀行副総裁「２５年後の『金融政策と銀行行動』」
共通論題：「新 BIS 規制をめぐる諸問題」

2005 年秋季大会：大阪大学吹田キャンパス
時代背景：米国不動産市場の活況、中国経済の成長と人民元の過小評価
会長講演：「不動産価格と金融市場」
特別講演：吉富勝（経済産業研究所）「世界の新しい経常収支不均衡と人民元の関係」

2006 年春季大会：早稲田大学
時代背景：米国での Great Moderation, 世界的なデフレ傾向
会長講演：「インフレーションの終焉」
特別講演：五味廣文金融庁長官「金融行政の現状と今後の課題」
国際金融パネル：「欧州通貨統合と新規加盟国」

2006 年秋季大会：小樽商科大学
時代背景：メガバンクによる公的資金完済、日本の金融危機の収束
会長講演：「日本の金融市場：変貌と課題」
特別講演：吉村正吉早稲田大学大学院アジア太平洋研究科長
「バブル崩壊以降の派案そり政策の彷徨－事前行政と事後行政－」

2007 年春季大会：麗澤大学
時代背景：日本の脱デフレのため大規模緩和を主張していたミルトン･フリードマン逝去、
日銀の脱デフレ・量的緩和政策が課題
会長講演：「ミルトン・フリードマン：業績と日本への教訓」
特別講演：武藤敏郎日本銀行副総裁「中央銀行の政策決定と委員会制度」
中央銀行パネル：「新日銀法制定から 10 年」
共通論題：「量的金融緩和政策を振り返って」

2007 年秋季大会：同志社大学

時代背景：グローバリゼーション、
会長講演：「金融業の国際競争力」
中央銀行パネル：日米欧の金融政策
国際金融パネル：「アジア通貨危機から 10 年：地域金融協力の進展と今後の行方」

2008 年春季大会：成城大学
時代背景：米国のサブプライム問題、ファンドの成長、金融危機の国際的波及
会長講演：「グローバリゼーションと金融規制」
学会活性化パネル：理事会での日本金融学会活性化の議論を踏まえ、学会のあり方を探る
特別講演：佐藤隆文金融庁長官「金融規制の質的向上ーベター・レギュレーションへの取組み」
中央銀行パネル：「サブプライム問題と中央銀行」
国際金融パネル：「サブプライムローン問題：現状と展望」
共通論題：「金融イノベーションー決済システムの新展開ー」

思いがけず会長になって

大阪大学　筒井義郎

会長選出の経緯

その時、私は、会長選挙の投票用紙の配布・収集・開票作業をしていました。２００５年の新規理事会で、わたしはそのとき続けて理事を２期務めていたので、新規の理事には就任していなかったためです。会長は理事の互選で選ばれるので、私がなることはないと考えられ、当開票作業に従事していたわけです。しかし、その少し前に規約が改正され、理事だけでなく、「役員改選時点で連続２期の任期を終えた前理事」も会長の被選挙権を有することになっていました（選挙権はない)。全く意外なことに、滑り込みで候補者に入った私が、決選投票に残り、ついには会長に選出されたのです。今から考えると、この新制度の導入が、私を focal point にし、票を集める結果になったのかもしれないと思います。

在任中の活動

こうして私は２００８年５月に成城大学において開かれた会員総会で無事承認され、金融学会会長に就任しました。その時、会員の皆さんに直接語りかけることが重要と考え、「日本金融学会会長就任にあたって」と称する３ページにわたる文書を公開しました。そこでのスタンスは、前任者である清水啓典会長が推し進めてきた「改革路線」を引き継いで、発展させていこうというものでした。私は清水会長が諮問した「学会活性化検討ワーキンググループ」の一員であり、ワーキンググループは「研究指向」の方向を一層強めることを提言していました。しかし、漸進的改革の多くは清水会長在任時にほとんど達成されていました。具体的には、プログラム委員会の強化、『金融経済研究』の年２回発行、英文のウェブサイトの公開、などです。そこで、私の在任中には、①学会賞の創設、②他学会との連携・提携、③会員相互の交流の場としてウェブサイトの利用、などを目指すとしました。しかし、現実にはこれらのうちどれも実現に至ったものはありません。財政の改善のため、日本銀行や銀行協会などを訪問して資金援助をお願いしましたが、これについても成功例はありませんでした。こんなわけで、私の２年間の在任期間中、私は目立った改革を成功させることはできませんでした。当時、私は新しく創設された行動経済学会の会長を兼務しており、また、大阪大学の Center of Excellence 事業の研究拠点リーダーであったりして忙しかったこともありますが、基本的には私のアイディアと実行力が不足していたためであると認めざるを得ません。また、前任の清水会長の改革により、学会の状況が改善されていたことも、手抜きを助長させる結果になったかと思います。会長の任期は２年で再選が許されていますが、当初より、すぐれた人材が輩出している金融学会で、私ごときが４年もやるのは不適当だと考えていました。そこで、2 年目末にあたる２０１０年の４月より、

オランダのアムステルダム大学に在外研修に出かけ、５月の中央大学の大会には一時帰国で対処しました。こうして、次期藤原会長にバトンタッチしたわけです。

会長講演

前任者の清水会長は毎回の大会で会長講演をしていましたが、私にはとてもそんな能力はなく、秋季大会だけに計２回の会長講演を行いました。第１回目は、２００８年度の広島大学における大会で、「地域金融研究の課題」という演目で報告しました。これは、Kano-Tsutsui (2003)の成果に基づいて、地方金融市場が県別に分断されていることを明らかにし、それが、地域金融という分野が成立するための条件であることを強調しました。そして、Uchida-Tsutsui(2005)の成果に基づいて、地方銀行の競争度は都市銀行の競争度より低いことを明らかにし、地方金融市場には競争上の問題があることを示唆しました。さらに、信用金庫の競争度について、新たな分析結果を報告しました。この論文は、『金融経済研究』第２８号（２００９年４月）に掲載されています。

２００９年度の香川大学における秋季大会では「バブルと金融危機:行動経済学的アプローチ」という報告をしました。これは１９９０年の日本と２００８年のアメリカのバブルクラッシュの似た点と相違点を指摘し、Yale 大学の Shiller 教授とともに実施している日米投資家のアンケート調査結果をもとに、日米投資家の予想が驚くほど違うことを明らかにました。さらに、日米投資家行動の違いが投資家の気質－アメリカ人の自信過剰と日本人のグループ主義によるということを主張しています。最近の私の関心が行動経済学にも向いていることを反映した論文で、『金融経済研究』特別号（２０１３年１月）に掲載されています。

Reference

[1] Masaji Kano and Yoshiro Tsutsui (2003) “Geographical Segmentation in Japanese Bank Loan Markets,” Regional Science and Urban Economics, vol. 33 no. 2, pp.157-174.

[2] Hirofumi Uchida and Yoshiro Tsutsui (2005) “Has Competition in the Japanese Banking Sector Improved?” Journal of Banking and Finance, vol. 29 no. 2, pp. 419-439.

2 期 4 年間

（2010 年 5 月春季大会以降 2014 年 5 月春季大会まで）の

学会の歩み

同志社大学　**藤原秀夫**

本題に入る前に、最初にお断りしておかなければならない。それは、学会の歩みに関して、たとえ短い時期であっても、その全容を明らかにすることなど、私には、到底、不可能であるし、またその能力も資格もないということである。以下で述べるのは、私がお世話をさせていただいていた時期の常任理事会の視点からみた学会の歩みをごく簡単にご説明するということに過ぎない。しかるに、独断的なものになることは否めない。また、事実誤認や書き損じと抜け落ちの類いも多々あるかもしれないし、何よりも不遜なところがないかと危惧せざるをえないのである。その点について、ご海容くだされば誠に幸いである。この間の正確な学会の歩みに関しては、各大会、各部会を主催された方々、ご担当の役職の方々のご説明をご高覧いただきたい。

２０１０年５月に、前会長から引き継いだ課題であると、当時、私が考えたのは、大きくみて、２つであった。１つは、半ば恒常的になりつつあった財政状態悪化を正常化させるという課題であり、もう１つは、（歴代会長が取り組まれた）学会活動のさらなる活性化の課題であった。私が見ることになった４年間の学会の歩みも、この２つ課題を中心に振り返ることにしたい。

学会財政上の困難な問題とは、平成２２年度決算において、次期繰越金が約３８０万円という危機的水準にまで落ち込み、春季大会後にやってくる外部業者への諸経費支払い、『金融経済研究』刊行費用の支払いなどが困難になっていたという問題を、直接的には、指していた。事務局からのご報告によると、たびたび、東洋経済新報社を含む関係業者に支払い延期をお願いし、会費徴収を繰り上げして充当し何とか切り抜けるという綱渡り的な資金繰りの状態が出現していた。

そもそも一般会員会費収入（約１３００万円超）の大部分が、『金融経済研究』刊行費用（１号あたり約４２０万計約８４０万ほど）と事務局体制を支える事務経費（事務局室料、電話代、事務用品費計約１３０万円ほど、平成１８年度から急激に増大）、事務局人件費（平均約２２０万ほど。これは契約職員としては標準的）に消えてしまい、長年据え置かれてきた大会費用（年２００万円）を支払えば、たとえ考案されたとしても、新規事業を含む

学会活動の活性化のための費用など到底、捻出できないという財政構造上の問題が存在していたことは明白であった。これこそが、私が把握した学会財政問題の本質的な内容であった。学会活動のさらなる活性化には、財政の制約が大きくのしかかっていた。

２０１０年以前、前者の問題を切り抜けるために、部会運営費の削減、大会報告要旨の配布（いわゆる会報）の中止など種々の経費削減などが実行される反面、大会運営費の不足が指摘され、プログラム委員会経費などの必要性が明らかとなり予算計上されていった。また、大会案内制作費（いわゆる大会パンフレット）には、１大会当たり７０万円程度、計１４０万円程度が予算化されていた。これは、不要で、ウェブ上で閲覧していただき、必要があれば会員自身でダウンロードしていただくという案も浮上していた。会員名簿作成には、２年毎に５０万円程度がかかったが、これも不要であるという意見が出されていた。まさに、一般会員の傾向的な増加に伴う会員会費収入の着実な増大にもかかわらず、財務上の困難に陥り、経費削減の課題が設定されその遂行が半ば恒常化し、経費削減すれば、会員諸兄へのサービスは著しく低下するという悪循環にあった。これは、驚くべき事態であった。こうした現状では、この構造上の問題の真の原因がどこにあるかを看破し、それを打破しない限り、新規事業はもちろんのこと経費を伴う学会活性化などありえないということであった。現に、後述するように、この４年間、新規事業が考案されるたびに、この財政上の制約が大きな壁となって現れた。いわば、学会は、活動活性化と財政上の制約のトレード・オフの関係に直面していた。このような事態では、年会費値上げや大会参加費の徴収などは、一時的に財政状態改善が達成されたとしても、むしろ真実を隠蔽し、財政構造上の問題を放置することになり、時間はかかっても真の解決を目指すことの妨げになる安易な手段であり、会員諸兄へのサービスの向上にはならないと、私は、判断した。

そこで、経費削減の余地はまだあるとしても、会員諸兄への便宜を考慮するとその余地は少ないと判断し、経費の中で、年間約８００万を超す『金融経済研究』刊行費用の削減を目指すことになった。すでに前会長の任期の終わりの時に、刊行業務を委託していた東洋経済新報社と減額交渉が行われていたが、基本的にはゼロ回答を突きつけられていた。刊行費用削減のための交渉を引き続き、財務担当常任理事を中心に押しすすめることになった。強く値下げを迫る交渉であった。また、この時、この問題に関して、常任理事会において常に多角的な視野から議論をリードしたのは、北岡孝義総務担当常任理事であり、刊行経費の算定に関する鋭い理論的分析の観点から財務担当常任理事の交渉を支えていただいた。かねてより、この問題の重要性を指摘され、事務局メモなどを通じて、我々にアドバイスを惜しまなかった事務局の黒野幸春氏にも、この交渉においては、困難であるにもかかわらず、大いに支えていただいた。
（小川英治常任理事を中心とした）財務担当常任理事の懸命の努力の結果、１冊あたりの買い取り価格を定価（２６００円）として設定し、１割引で１５５０部を買い上げるとい

う方式により、約８０万円（編集経費が別立てになることにより、実質約６０万円）ほどの刊行費用の（名目上の）削減に成功した（増ページには新たな費用もかかり、実質の削減額はもっと小さい）。以前は、刊行委託業務に対する契約というものは存在しなかった。そこで、事務局の勧めもあり、正式に覚書という形式で契約を交わして透明化し、１年更新で、今後の交渉の余地を残した形となった。しかし、これらの交渉の中で、これ以上の刊行費用の削減の余地は、刊行委託業者をかえないかぎり存在しないように見えたのも、また明白な事実であった。事実、その後、刊行費用削減の交渉は行われていない（今後、その余地がないわけではない）。

財務の現状と財政制約を打破するために、小川英治、家森信善両常任理事など、多くの方々が新たな特別会員（楽天、日本郵政など）の獲得にご尽力され、長年の不況からくるこの面での会費収入の減少に歯止めをかけ、増収化に成功した。その後も、特別会員の獲得が財政状態改善の対策として実行され、今日に至る。『金融経済研究』の広告協賛を募る勧誘活動も積極的に行われ、刊行費用を直接まかなうことに貢献した（この広告協賛というかたちでの資金援助を募るというアイデアは、私の時代以前から存在したものであり、事務局黒野幸春氏の貢献の一つである）。だが、このような努力だけでは、財務上の本質的問題の解決には繋がらないこともまた明白となりつつあった。

さて、もう１つの大きな課題である学会活動の活性化の課題について、この４年間を大まかに振り返ることにする。記憶の不鮮明な部分があるかもしれないが、基本的な大筋としてご理解いただきたい。

財政上の制約は、大会運営に陰を落としていた。各開催校準備委員会は、学会本部から支給される大会運営費（１大会あたり、１００万円）の少なさからくる運営上の困難を、大学からの公的援助や地域の様々な団体から資金援助を得ることによって切り抜ける場合がほとんどであった。この面でも、常任理事会は、これまでの開催校準備委員会との慣行の変更にまで踏み込んで開催校準備委員会をご支援させていただくように努力してきた（大学・他団体からの公的援助には、学会本部は形式的には関わりをこれまで持たなかったが、形式的にも開催校準備委員会の要請に応え後押しすることとなった）。この面で、池尾和人常任理事から、これまでの慣行と両立する開催校と学会本部との新たな関係の構築についての様々な卓越した運営上のアイデアについてご教示を得た。このご教示がなければ、事態を正しくみることができなかったことを思うと、誠にありがたいご教導であった。各大会の担当常任理事も最初は２名で分担していたが、その後、大会毎に担当常任理事を決めて支援することとなった。特に、これまでのように空白が出ないように配慮がなされた。

いうまでもなく、学会活動の中心ラインは、大会開催と各地域部会、各専門部会の活動

である。ここに、十分な経費をかけることができないというジレンマは、すでに限界に達していた。大会プログラム委員会の費用は別立てで予算化して実費として１０万円を確実に支給するだけでは、大会を充実したものにすることはできないことは明らかであった。ところが、常任理事会の懸命の努力の結果、財務上の当面の危機を回避し、少し手元資金面で余裕が生まれていたことも事実であった。

この事実を見逃すことなく、２０１１年春季大会の理事会での予算審議の中で、常任理事会は、予算を組み替え、大会活性化費（１大会あたり２０万を限度として）を実費で支給するという積極的な提案を行った。この予算化により、大会へのゲスト・スピーカーの招聘を後押しした。大会の特別講演をより充実したものにすることにその目的はあった。

この予算化の後、各大会において、大会活性化費は積極的に毎回申請されて、大いに役立つことになった。各大会で特別講演が常に実施されていった。財政制約が厳しい中、この大会活性化経費の新設には、『金融経済研究』刊行費用の削減と特別会員の増収が充てられることになったのである。特別会員の会費の使途としては、今後のよき慣例になると考えている。このような歳入と歳出の基本的関係について、後に川波洋一財務担当常任理事に論点を体系的に整理していただいている。紙幅の関係上、省略させていただく。

この成果を踏まえて、２０１１年秋期理事会では、部会活性化費の創設を提案することになった。藤田誠一総務担当常任理事と部会担当常任理事として矢野順治常任理事に検討と立案をお願いした。この提案は、大会活性化費と同様に、部会にゲスト・スピーカーを招聘して活性化を図ることを目的としていた。部会活性化のもう一つの柱は、学会機関誌『金融経済研究』投稿に関する部会報告者の推薦制度であった。この創設には、『金融経済研究』編集委員会の熱心なご協力があった。

『金融経済研究』の刊行費用ばかりに焦点が当てられたのではない。逆に、『金融経済研究』の若手研究者中心の査読付き投稿誌の役割を持続させながら、可能な限り多くの会員の投稿を促すために、通常号の発刊とは別に、特別号の企画を立てて刊行し、会員に配布するとともに、同時に市販を視野に入れることにより、財政面からの貢献ができないかという方策が検討されてきた。これは、後に、『金融経済研究』金融危機特別号（市販は、櫻川昌哉・福田慎一編著『なぜ金融危機は起こるのか：金融経済研究のフロンティア』）として結実し、全国銀行学術研究振興財団からの刊行助成をえることができた。対応して、結果として実質的に刊行費用を削減することが可能となったことはきわめて貢献大なるものがあった。この事業と刊行費削減に関しては、東洋経済新報社のご支援ご援助があったことはいうまでもない。このような研究成果の刊行と財政面の両立というアイデアが大いに模索されたのである。この事業は、福田慎一財務担当常任理事と櫻川昌哉金融経済研究編集委員長・理事が中心になって企画から編集、そして刊行へとご尽力いただいた。

２０１０年春季大会で会長に選出された後、韓国金融学会（Korea Money and Finance

Association: ２０１１年６月時点で、個人会員７２５人)の会長および理事会が、日韓の学術交流に期待を寄せているという情報を得た。そこで、水面下で、韓国金融学会の事務局（韓国金融学会理事 Lee MinHwan(仁荷大学教授)）と非公式の折衝を開始した。すでに、日本金融学会では、１９９０年代後半から２０００年初頭にかけて、中国金融学会との間で学術交流の協定を締結し、交流を活発に実施した経緯と経験が蓄積されていた。常任理事会でも、財政上の制約と衝突しない限り、前向きに対処すべきであるという意見が大勢であった。そこで、２０１１年には、私と矢野順治担当常任理事が、韓国ソウルで協定内容と学術交流の内容について韓国側（韓国金融学会会長と事務局）と詰めた非公式の事前協議を行い、協定案の確定作業に入った。２０１１年秋季の理事会（近畿大学において）で、協定（案）を提案し、総会では、交渉の一任を取り付けることとなった。協定（案）の要諦は、日中学術交流協定を踏襲するものであった。相互互恵、対等平等の学術交流を行っていくことが謳われるとともに、刊行学術文献の相互交換の便宜供与や、大会などの研究集会に相互に会員を派遣すること、そのための資金は両学会が相互に独立して負担することが明記された。日韓学術交流は、大会での研究交流を中心とすること、大会で交流を実際に行うかどうか、またそのプログラム上の内容については、開催校準備委員会（とプログラム委員会）の判断に委ねられ、韓国側との事前折衝は担当常任理事が行うこと、韓国側会員の招聘については大会活性化費を充てることも可能であること、などが、理事会で合意された。

２０１１年１２月２３日に協定締結のための記念式典を韓国金融学会会長及び役員（理事）を招待して執り行った。この記念行事は、矢野順治担当常任理事が責任者となり、事務局の黒野幸春氏とともに、指揮をとった。会場は、小川英治常任理事のご配慮で、無料で、一橋大学大学院商学研究科丸の内産学連携センター・オフィスで設営された。厳しい財政上の制約の下、韓国側には、実費ご負担で、来日していただき、会場の設営費用以外、日本側はすべて常任理事の自己負担で行った。実際に協定締結の費用は当日のサインセレモニーの約１０万円程度であった。協定についてのサインセレモニーの後、懇親会を開催し、交流を深めた。

韓国側の出席者は、Kim DeaSik 会長（漢陽大学)、Kim KyungSoo 副会長（成均館大学、２０１２年に会長就任)、Jun SunEae 代表幹事（中央大学)、そして、前述した Lee 理事、であった。式典への日本側の出席者は、私、藤原秀夫と、矢野順治、川波洋一、北岡孝義、福田慎一、藤田誠一、小川英治、地主敏樹、の各常任理事であった。懇親会には、清水啓典常任理事（第１０代会長）も出席された。

日韓学術交流協定は、２０１２年４月１日に発効し２０１２年５月の春季大会総会において正式に批准された。この春季大会（立正大学）において記念シンポジウムが日中韓の報告者を招聘して開催された。テーマは北東アジア地域の経済発展と経済協力であった。この記念シンポジウムの座長は、矢野順治担当常任理事が務められた。

２０１２年度秋期理事会において、日韓学術交流における会員相互派遣についての日本

側の対応を決定した。財政的な困難はあるが、（他学会が行っているように）交流において最低限の資金援助は学会本部として行うべきであることと、会員に広く交流をよびかけるための方策について検討し決定した。研究報告を目的とする会員相互派遣について、旅費については、双方の学会が自己負担も含めて負担すること、滞在費用については招聘した側が負担すること、などを決定し、韓国側に提案し了解を得た。日本側としては、学会本部が、旅費を実費で支給することに決定した。多くの会員の参加を促すために、１大会あたり派遣人数を３名まで可能とした。さらに、原則、公募で派遣会員を決定することを、決め、ＨＰ上で募集し、応募者がいない場合、常任理事会が派遣会員を選ぶことができるようにした。また、派遣会員については、帰国後のご報告を義務として、それをＨＰ上に文書で掲載することとした。これは、あくまで海外での研究報告のための両学会の資金援助であって、両学会の役員の渡航派遣については、それぞれの学会が責任と独自の考え方を持ち干渉しないことで韓国側と了解に達した。同時に日本側では、この点については学会本部からは資金援助をしないことを決定した。資金援助はあくまで研究報告のための派遣会員のみである。これらに基づいて、両学会の役員が相互に大会に出席し会員にご挨拶をすることとなった。

２０１２年の春季大会の後、６月の韓国金融学会全国大会に３名の会員を派遣し、自由論題で研究報告を行った（この時点では、渡航費用は自己負担であった）。秋季大会（北九州市立大学において）で韓国金融学会から３名の研究報告者を招聘し、使用言語を英語とする日韓セッションを開催した。このときの日韓セッションの座長は福田慎一常任理事が務められた。２０１３年の春季大会（一橋大学）でも韓国セッションが設定され、一橋大学奥田英信教授が座長を務められた。２０１３年６月の韓国金融学会全国大会において、高橋豊治担当常任理事を団長兼研究報告者として、３名の会員派遣を行い研究報告を行った。２０１３年９月の秋季大会（名古屋大学において）では、これまでの自由論題での招聘を行わず、アベノミクスを論題とする特別セッションに韓国金融学会の会員を１名招聘して報告者に加わっていただいた。以上のように、日韓学術交流は、双方の全国大会への会員派遣を中心として、大きく前進し展開して現在に至っている。今後は、停滞している日中学術交流との関係をどのように取り扱っていくかも重要な課題である。すでに、担当常任理事（川波洋一常任理事）、担当理事（坂本正理事）の方々を中心に、中国側と折衝を開始したが、政治情勢の困難な局面の中、活発な交流までには至っていない。遡る２０１１年の春季大会において、開催校である明治大学で、特別講演をしていただいた Benjamin Friedman ハーバード大学教授にも、地主敏樹常任理事を通じて、アメリカ経済学会でのジャパン・セッションの開設を働きかけた。このように、国際交流については、関連の他学会との比較での遅れを急速に取り戻していった。このように、韓国の学会だけに目を向けていたのでないこともまた明らかである。

２０１１年３月１１日に東北地域を中心に関東方面を含む東日本の広域にまたがる巨大

地震が発生し、日本社会と日本経済に多大なる衝撃と損失を与え多くの尊い人命と財産が失われたことは、我々にとっても忘れることのできない記憶である。この未曾有の災害に対して、日本金融学会も緊急に常任理事会で対応することとなった。まず、会員の安否情報を、常任理事会と事務局を中心に収集し、事務局や関連の先生方を通じてお見舞いを申し上げる活動に入った。震災に対するお見舞いの文書を会長名で、一般向けと会員向けに迅速に出して、ＨＰ上に掲載した。会員に対する年会費減免の措置も春季大会に向けて実施した。

常任理事会を中心に、この災害に対して、日本金融学会としてどのようなご支援およびご援助ができるのかを真剣に検討することとなった。結論からいえば、震災復興金融部会を部会規則にのっとり新設しそこを拠点にして、災害に対する研究とその成果を世に問うことを通じて、それを行うことを決めた。そのための準備的な活動に入ることを内々に合意した。

２０１１年７月２４日には、被災地仙台で復興金融研究会を創設し最初の研究会を開催したのをかわきりに、その後、東京、明治大学で、さらには、大阪、同志社大学大阪サテライトオフィスで、研究会を立て続けで開催していった。部会の前身である復興金融研究会の発起人は、清水啓典一橋大教授（現在名誉教授）、地主敏樹神戸大教授、鴨池治東北福祉大教授（以上、常任理事）、西山慎一東北大学准教授（会員）であった。その中で、部会設立の準備に入った。幸い、多くの賛同者（最終的には５０名を超える）をえて、２０１１年秋期理事会・総会で、震災復興金融部会は設立された。発起人は、復興金融研究会設立の呼びかけ人である４名の方々である。それと同時に、早い段階での復興金融の面での政策提言を行うこと、できるだけ早い時期に、部会の研究成果を金融経済研究特別号として刊行すること、などが提案され合意された。政策提言は、二重債務問題に限定して行われ、その内容を、参加者を代表して個人論文という形式で金融ジャーナル誌その他で内外に発信された（東北大学西山慎一准教授、相澤朋子氏（会員）などの部会メンバー）。

その後、部会の研究会は活発に継続され、２０１４年７月時点で７回を数えることになる。２０１１年度秋季大会、２０１２年度春季大会、秋季大会と震災復興金融部会が中心となった特別セッションが開催されることになった。これら踏まえた部会メンバーによる研究成果は、被災地にある東北大学出版会から、『金融経済研究』特別号（東日本大震災復興の金融問題）として刊行することになった。実際、２０１４年１月に刊行された。東北大学出版会からの刊行は、大局的には、ささやかなことではあるが、東北地域の復興支援に学会活動という分野からの意義のあるご支援になったと考えられる。

『金融経済研究』震災復興金融特別号を刊行するに際して、東北大学出版会に刊行業務を委託するにあたり、制度的な整備を行った。『金融経済研究』編集委員会細則を改定し委託業者を特別号に関しては、随時選定することができるようにした。さらに、東洋経済新報社との刊行業務の委託に関する覚書を、整合的になるように改定し更新した。東北大学出版会とも覚書を交わした。刊行費用は約２００万であったので、この面から、財政状態

の改善に大いに寄与する事業となった。大まかにみて、約２００万円もの資金的余裕が生まれることになった。これらの刊行に関わる制度的な整備は、川波洋一財務担当常任理事が中心になってすすめられた。また、特別号の刊行作業は、『金融経済研究』編集委員会の多大なるご援助・ご協力の下、鴨池治常任理事と地主敏樹常任理事が中心になってすすめられた。

日本金融学会は、２０１３年で創立７０周年を迎えた。その記念すべき大会は、２０１３年度春季大会として一橋大学で開催され、秋季大会として名古屋大学で開催された。その記念事業の一環として、２０１２年度秋期理事会で、電子ジャーナル（ＪＪＭＦＥ）を創設することを決定した。電子ジャーナル創設に関しては、会長就任時から検討を開始し、２期目の常任理事会でタスクフォース（担当は栗原裕常任理事）を設けて精力的に調査検討を行ってきた。２０１２年７月には、臨時の常任理事会を開催し、議論を尽くした。２０１２年度秋期理事会で、この事業の補正予算を組み、創立７０周年記念事業とすることを決定した（初代編集長に吉野直行慶應義塾大学教授を選出、編集幹事として栗原裕常任理事、後に副編集長。高橋豊治常任理事を編集幹事、後に副編集長、を選出。同時に小川英治常任理事、地主敏樹常任理事、金子隆常任理事を副編集に選出し、編集委員会編集委員も分野と地域を考慮して選出)。ジャーナルの正式名称を、Japanese Journal of Monetary and Financial Economics とした。編集者・編集委員会規定についても決定した。これらの組織立ち上げに関しては、栗原裕担当常任理事に昼夜を分かたずご尽力いただいたおかげである。

栗原裕編集幹事を中心に、投稿システム・審査システムを中心とした制度構築を、委託業者の協力を得て、急ぎ、それと同時に新雑誌への投稿を促した。２０１３年度春季大会（一橋大学）では、各セッションの座長に報告論文の中で投稿可能なものをご推薦いただくという試みもなされた。７０周年にあたる２０１３年度春季大会時での創刊号の刊行を目指して、編集長、栗原裕編集幹事、副編集長を中心に大変なご苦労があったわけであるが、何とか、その後に創刊号が発刊された。２０１３年度春季大会では、総会で吉野直行編集長から特別のご挨拶があった。創刊号は特別寄稿論文が中心となったが、現在は、一般投稿論文も増加しつつある。２０１４年春期大会時点で、２号まで刊行されている。これらの編集作業をすすめていく上で、編集長と編集幹事・副編集長との調整という大変なご苦労の伴う作業が必要となった。こうした点は、栗原裕編集幹事と金子隆副編集長の昼夜兼行によるところが大きいといわなければならない。機関誌の発刊は、こうした調整という泥臭い作業が膨大なものとなることはやむをえないことであるが、ある程度の合理化・効率化、システム化を図っていくことは今後重要性を増すことであろう。

特に、一般投稿論文数が多くないと、電子ジャーナルのプラツトフォームであるJ-STAGEなどへ、日本金融学会の機関誌としての電子ジャーナルとして登録ができない。そのための方策が検討されなければならないし、実際に実現するためには、ある程度の調整という

作業は必要不可欠であろう。

新雑誌については、その将来像に関して、多様な意見が存在するが、もっとも意見が分かれている論点は、次の通りである。あくまで電子ジャーナルとして確立していくべきであるという将来像と、アジアだけでなく世界に知られる一流雑誌を目指すためには、将来、紙媒体での発刊との併用でいくべきだという将来像の相違である。前者は設立当初の目標であった。つまり、学会機関誌としての『金融経済研究』を補い、同時にシナジー効果が発揮されるように、新雑誌 JJMFE は、英文誌と電子ジャーナルに特化すべきであるという主張である。機関誌事業での経費削減が同時に期待できて財政的にも貢献度大である前者のご意見も根強いものがある。いずれにしても、まだ創設間もない新雑誌であるので、大きく育てていくためにはそれなりの戦略が必要であることは論を待たないといえる。電子ジャーナルの新雑誌事業は、日本金融学会にとって、いわばＺ旗をかかげてやるべき戦略的事業である。

学会活動の中心ラインは大会と部会での研究活動と機関誌を中心とした研究成果の内外への発信であり、そのことを持って日本及び世界の金融経済学の発展に寄与することである。２期４年間は、以上のように、この中心ラインでの活性化が図られた。大会だけではなく部会の活性化も目指して、部会活性化費の創設や、学会機関誌金融経済研究の投稿と部会活動と結びつけるための推薦制度の創設などが試みられたが、部会の活性化は、情報通信メディアが発展する中で、難しい側面を持っているといわなければならない。さらなるアイデアが必要であることを物語っているのかもしれない。

こうした学会活動を情報活動の観点から支えたのが、ＨＰとＨＰ委員会組織である。最初は、家森信善常任理事が、私の２期目は、栗原裕常任理事が委員長を務められた。ＨＰ委員会の役割はますます大きくならざるをえない。最近、ＨＰリニューアルを行った。多くの学会活動を支える重要なメデイア、基礎的インフラとしての役割を果たしているが故に、担当常任理事、ＨＰ委員のご負担は非常に大きいといわざるをえない。経験の継承のシステム化が重要であると考えられる。電子ジャーナル創設の副産物として、大会自由論題報告応募システムも、栗原裕ＨＰ委員長の発案でシステムとして完成し、現在稼働中である。

７０周年記念事業の一つとして、７０年史をＨＰ上で掲載することを決定しその編集作業をすすめている。掉尾を飾る仕事がこの記念事業となったのは、好運以外のなにものでもない。この事業は、家森信善常任理事を責任者として、川波洋一常任理事、地主敏樹常任理事、栗原裕ＨＰ委員長を中心としてすすめられている。

この４年間で、学会の組織の改変にも手をつけた。まず、学会規則の改定を決定した。これは、前理事（職責上の理事）から選出された会長が任期終了時に、次期会長の被選挙権、選挙権があるかどうかという問題であった。これは、事務局黒野幸春氏からの不備が

あるという指摘に基づいて改定が行われた。結果として、２期連続理事となった方は、理事としての被選挙権がないということと整合性が図られたということである。

もっとも大きな点は、事務局の交代と引き継ぎであった。これらを進めていく中で、初めて、事務局も東洋経済新報社への委託業務であり、当時の契約が存在することが明確となった。東洋経済新報社との交渉の中で、事務局の交代を円滑に進めていくことは、大きな課題であった。これは、在京という観点から、金子隆常任理事が中心になってすすめられていった。これらの中で、我々は、過去の多くの合意事項について学ぶこととなった。新事務局（吉田郁恵様）も、東洋経済新報社のご厚意により、優秀な方をご推薦いただき、すでに昨年１０月から、事務局業務に就いていただいている。早急に事務局体制の確立が望まれるところである。

２期４年間に常任理事会がすすめてきた仕事は、膨大なものがあり、紙幅の関係上、触れられなかったもの、また、いまだ日の目を見ず水面下にあるものも多いといわなければならない。この間の活動については、私一人で成し遂げたものは何一つない。ご覧になられたとおり、すべて常任理事の方々のご尽力によるものである。常任理事の方々は、同時に我々の学会が誇りうる俊英の方々ばかりである。学会業務がご負担になり、ご研究の妨げになったのではないかと思うと心苦しい限りである。臆面も無く、これらの俊英の方々の中にあって仕事をした私がよほどの鉄面皮であることは万人の認めるところである。絶大なるご尽力にあらためてお礼を申し上げたい。総務担当常任理事の筆頭として、常任理事会の中心になられ理事会の司会として議論を主導された、北岡孝義（一期目）常任理事、藤田誠一常任理事、高橋豊治（二期目）常任理事は、とりわけご苦労が多かったことを記しておきたい。

冗長な話の最後になって、私事を述べるのは誠に恐縮の至りであるが、２回の会長講演として研究報告の機会を開催校準備委員会とプログラム委員会に与えていただいた。１回目は、私の修了した大学院のある神戸大学にて、２０１０年９月２５日の秋季大会で行われた。論題は「マクロ的枠組みの下での貨幣と銀行信用の基本問題」（『金融経済研究』第３２号，２０１１年４月）所収）であった。２回目は、名古屋大学にて、２０１３年９月２１日の秋季大会で行われた。論題は「市場の均衡および不均衡における信用創造と貨幣供給－閉鎖経済と開放経済－」であった。拙い研究報告の司会を担当していただいた地主敏樹常任理事、後者の司会を担当していただいた、金井雄一名古屋大学教授・理事に改めてお礼を申し上げる次第である。

学会活性化の新事業はまだ途についたばかりである。財政上の制約を突破し、今後のさらなる新事業の展開が、新しい常任理事会で検討され以前にも増して充実したものとして発展していくことを、７０周年に際して、期待してやまない。

第Ⅱ部
全国大会の記録

【対象期間中の大会一覧】

2004 年	春季	神奈川大学	秋季	愛知大学
2005 年	春季	日本大学	秋季	大阪大学
2006 年	春季	早稲田大学	秋季	小樽商科大学
2007 年	春季	麗澤大学	秋季	同志社大学
2008 年	春季	成城大学	秋季	広島大学
2009 年	春季	東京大学	秋季	香川大学
2010 年	春季	中央大学	秋季	神戸大学
2011 年	春季	明治大学	秋季	近畿大学
2012 年	春季	立正大学	秋季	北九州市立大学
2013 年	春季	一橋大学	秋季	名古屋大学

日本金融学会　2004 年度春季大会

神奈川大学　数阪孝志

2004 年度春季大会は、2004 年 5 月 15 日（土）・16 日（日）の両日、神奈川大学横浜キャンパスにおいて開催された。この大会は、共通論題のほか、2 つのパネル（中央銀行パネル、国際金融パネル）、13 のセッション（43 の自由論題報告）、それに日本銀行須田美矢子審議委員をお招きしての記念講演という内容を含み、主催校が事前に用意した参加者名簿には 450 名以上が登録されるなど、質量ともに充実したものとして行うことができた。

大会準備には 14 名のプログラム委員が当たられ、各セッションの座長を引き受けるなど、大会運営に多大の役割を果たされた。また、残念ながら会場の都合から、自由論題での報告希望者すべてを含むことができず、一部お断りせざるを得ない結果となった。

各報告はそれぞれに特徴のあるものであったが、とくにデフレ下の金融政策と人民元問題を扱った 2 つのパネル会場では、参加者が予想以上に多く、100 部用意したレジュメが足りなくなるほどの盛況で、関心の高さを示した。

須田美矢子日本銀行審議議員の記念講演は「中央銀行の情報発信と金融政策」と題され、とくに関心をよび 300 名以上が参加した。その主な内容は、日本銀行の政策策定プロセスにおける透明性と説明責任に関して、アメリカの FRB との比較を交えながら説明され、デフレ下での金融政策の舵取りの難しさと日本銀行の政策態度をあらためて認識させるものとして非常に有益なものであった。

13 のセッションは、銀行経営、金融理論（1）（2）、企業金融（1）（2）、各国の金融、金融機関、国際金融、生命保険、証券市場、金融政策、金融史、金融市場と構造であり、理論、実証、歴史、ファイナンスなど多岐にわたり、日ごろの研究成果の発表に対して、それぞれ真剣な討論がなされた。

とくに以下では共通論題に焦点を絞って紹介する。

この大会の共通論題のテーマは「市場型間接金融の展望」であり、報告者は、報告順に、淵田康之氏（野村資本市場研究所）、内田真人氏（日本銀行金融市場局）、村本孜氏（成城大学）の 3 氏であった。共通論題のはじめに座長の花輪俊哉氏（一橋大学名誉教授）から、問題の所在に関して長めの導入コメントがあり、3 氏の報告の後、もう一人の座長である伊藤修氏（埼玉大学）による総括コメントが行われた。

淵田氏は、まず市場型間接金融を、銀行を通じた相対型間接金融で提供される貸出（ローン）のリスクを、市場を通じてトランスファーするものと定義し、具体的には貸出債権の流動化、証券化、クレジットデリバティブの 3 形態を取り上げている。従来の産業金融モデルではコントロールされないリスクが銀行に集中するが、それを貸出債権の転売や証券化という市場型金融も出るとリレーションシップバンキング等の新しい産業金融モデル

との複線的金融モデルに仕分けることによって、リスクのコントロールとトランスファーが可能になるという。産業金融モデルの改革という視点の重要性を強調した報告となった。

内田氏は、大会直前の 4 月に公表された「証券化市場フォーラム報告書」をもとに、証券化市場の現状と課題について包括的に報告された。その上で、市場を通じるリスクのトランスファーがスムーズに進む仕組みを構築する際の問題点を指摘された。貸出債権のプライシングが市場メカニズムを反映したものとなるのかどうかが最も中核の問題であるが、同時に証券化商品の組成・売買コストの引き上げがどれほど達成されるのかも市場構築にとって重要である。また、報告では、情報開示や調査など日本銀行が果たすべき役割についても言及された。

村本氏は、中小企業金融の現状をベースとして、その担い手金融機関、手法（証券化、出資）、リスク対応（不動産担保以外の動産・売掛債権担保などの新しい対応）、の面での多様化を進める必要性を強調された。中小企業向け貸出債権の証券化に関しては、わが国での CLO 展開の経験などを通じて、証券化支援のスキームを保証型、買取型に分けて紹介した。また、アメリカ、ドイツの中小企業金融証券化の実態を紹介したうえで、あくまでも限定的なものにとどまるという問題点を指摘する一方、わが国での公的補完の重要性にも言及されている。

今回の共通論題のテーマは、理論的であると同時に、わが国の金融システムの将来像をどのように展望するのかというきわめて現実的な問題でもあり、議論が今後一層深化することが望まれるテーマであった。

愛知大学での全国大会開催

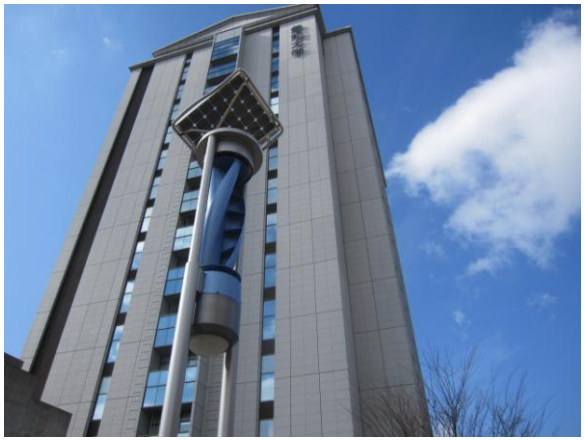
愛知大学　**栗原　裕**

日本金融学会（旧金融学会）全国大会が中部地区で開催されたのは、1952 年秋（東海銀行）、1959 年秋（名古屋大学）、1962 年秋（名古屋大学、東海銀行）、1970 年秋（南山大学）、1982 年秋（中京大学）、1987 年秋（名古屋大学）、1994 年秋（中京大学）、2004 年秋（愛知大学）、2013 年秋（名古屋大学）である。

2004 年度秋季全国大会は、9 月 11、12 日の両日、竣工間もない愛知大学車道校舎にて開催された。奥野博幸大会準備委員長（愛知大学）の下、中部部会に属する会員、開催校の教員ならびに事務職員が協力した。

第 1 日は清水啓典（一橋大学、当時）本学会会長（同）の講演「銀行の健全性とは何か」で幕を開け、自由論題とともに、パネル「拡大 EU と金融政策」をテーマに報告、討論が行われた。座長は春井久志氏（関西学院大学）、パネラーは髙屋定美氏（関西大学）、大橋千夏子氏（日本銀行）、Cornelis KEIJZER 氏（駐日欧州委員会代表部）、討論者は立脇和夫氏（早稲田大学、当時）、藤井良広氏（日本経済新聞社、当時）が務めた。「自由論題」をはさみ、特別パネル「郵貯の民営化と財政投融資」が、村本孜氏（成城大学）を座長、吉野直行氏（慶應義塾大学）、土居丈朗氏（慶應義塾大学）両氏をパネラー、根本忠宣氏（中央大学）を討論者として開催された。午後には、千田純一氏（元本学会会長）の司会により、竹中平蔵金融・経済財政政策担当大臣（当時）に「わが国金融行政の現状と課題」と題する講演を頂いた。郵政民営化の基本方針の閣議決定直後でもあり、マスコミを含む参加者の高い関心が集まり、出席者からの質問が相次いだ。その後、共通論題「地域金融の多様性と普遍性」を開催、鴨池治氏（東北大学、当時）、内藤純一氏（東海財務局長、当時）、筒井義郎氏（大阪大学、元本学会長）、内田滋氏（長崎大学、当時）の諸氏が報告者となり、清水会長、家森信善氏（名古屋大学）の両座長とともに、熱心な討議を展開した。

会場となった愛知大学車道校舎（現在）



第 2 日は「自由論題」後、荒木隆司トヨタ自動車株式会社取締役副社長（当時）に、「トヨタの財務戦略」と題した講演を頂いた。午後は、「アメリカ経常収支赤字と国際通貨システムの安定性」をテーマに、藤田誠一氏（神戸大学）が座長、小川英治氏（一橋大学）、小野亮氏（みずほ総合研究所）両氏がパネラー、田中素香氏（中央大学）、東條吉朗氏（経済産業省）両氏が討

論者となり、活発な議論が行われた。

この全国大会では、純粋な理論から、現実、制度、歴史に至るまで幅広く報告、討議が行われ、先駆的、意欲的な内容が多々あるなど興味の尽きないものであった。

会員総会に出席、ご挨拶頂いた武田信照理事長・学長（当時)、会の進行に協力頂いた愛知大学事務職員と学生、中部地区を中心とした大学関係者の皆様にも厚く御礼申し上げたい。

日本金融学会 2005 年度春季大会

日本大学　長谷川　勉

本大会は，2005 年 5 月 28・29 日，日本大学経済学部キャンパスにて開催された。大会では，清水啓典期日本金融学会会長による講演「ゼロ金利と日本国の健全性」，日本銀行副総裁，岩田一政氏による特別講演のほか，35 の自由論題報告と中央銀行，国際金融の 2 つのパネル，共通論題報告「新 BIS 規制をめぐる諸問題」の研究発表がおこなわれた。共通論題は，1998 年にはじまった BIS 規制の見直し作業が，2004 年 6 月に新 BIS 規制，「自己資本の測定と基準に関する国際的統一化：改訂された枠組み（バーセル II)」として公表されたことによるものである。

初日の 28 日は，学会長講演の後，「金融理論」，「金融機関」，「金融政策」，「企業金融」，「その他」の 5 会場で各 3 報告がなされた。午後は，「25 年後の『金融政策と銀行行動』」の演題で，2001 年 3 月から日本銀行が採用している量的緩和政策における有効性とデフレ克服について，岩田一政氏が特別講演をおこなった。その後に，中央銀行パネルでは，「中央銀行，金融システム，金融政策をめぐる金融教育の現状」のテーマで，金融論の標準的な教科書で描かれている日本銀行の金融政策や業務が事実と異なることがあること，金融システムに関する記述の問題点，さらには貨幣の創造をどのように教えるのかについて，3 名の報告者と 2 名の討論者による活発な議論がなされた。ほかに「各国の金融」2 会場と「国際金融」の合計 3 会場では，各 3 報告がおこなわれた。また，総会後，日本大学経済学部本館にて懇親会が開催された。

翌 29 日は，午前中に国際金融パネルで，「望ましいアジア通貨制度のあり方について」のテーマのもと，アジアにおける望ましい通貨制度を，域内で円を含むアジア通貨が安定し域外ではフロートする制度とし，段階的な制度的進展をする，あるいは長期的にはアジア共通通貨をめざしつつ，当面アジア通貨単位（ACU）の創出や制度的統合を図りつつ域内通貨協調を進化する，さらには固定制と完全フロートの中間的制度の方が望ましいとすることなどについて，3 名のパネリストと討論者による活発な討論がなされた。ほかに「金融機関」，「企業金融」，「地域金融」，「銀行経営」の 4 会場で 11 報告がおこなわれた。

午後は，共通論題について，中島善太氏（日本大学）を座長とし，白川俊介氏（金融庁），小山高史氏（日本銀行），池尾和人氏（慶應義塾大学），清水啓典氏（一橋大学）をパネリストとして報告，討論がなされた。民間銀行にリスク管理の高度化をもとめるバーゼル II において，事後チェック型である行政の枠組み内で，将来生じうるリスクの計測と正確性をどのように検証するのかといった金融行政の課題，民間金融機関と中央銀行の関係について，内部格付手法，内部モデルの検証に関連して，民間の自主性を尊重しつつ，適確な検証を行うといった課題，さらに BIS 規制は銀行部門全体が健全である「平時」を想定し

ているため，90 年代の日本の銀行がおかれていた状況との不適合性により BIS 規制に対する批判が高まったこと，また，主要銀行が BIS 規制水準を下回る資本不足状態に陥ったとき，全銀行に資本注入をおこなったことは事実上 BIS 規制が無効となっていることと同義であり，逆に規制がなければ，より少ない税金投入で支援できた可能性を示唆し，株式市場を通じた評価に監督を移行することが望ましいといったことなどについて活発な議論がなされた。

最後に，主催校を代表して大会準備委員長を務めた安田元三日本大学経済学部教授による閉会の挨拶で 2 日間にわたる春季大会が終了した。

さて、報告を結ぶに当たり大会運営に関して若干記述しておこう。結論から言えば、大会は全般的にスムーズに準備を行うことができた。また開催中も問題なく進行した。報告会場が比較的新しい建物であったことが幸いし、報告に必要な機材・設備等を容易に調達することができた。また、移動の動線も、駅から数分であり、また建物内もスムーズに垂直に移動することができたことから、最小限の案内表示と案内係で済ますことができた。水道橋ということもあって、ホテルの確保、交通機関の案内も容易であり、また近辺において食事をとることも容易であったため、報告以外のことで煩わされることはほとんど無く、報告の運営に集中することが可能であった。また、日本大学より学会開催に関わる補助金を支給されたことで、予算的にも余裕を持って準備そして実行することができた。

最後に、大会が無事滞りなく終了したのも、準備委員会・プログラム委員会等の会員、そしてお手伝いいただいた日本大学職員・学生のおかげである。記してお礼申し上げたい。

2005 年度秋季大会（大阪大学）

大阪大学　**筒井義郎**

金融学会 2005 年度秋季大会は、10 月 8 日（土）、9 日（日）に大阪大学吹田キャンパスのコンベンションセンターで行われた。特別報告は当時、経済産業研究所の所長をされていた吉富勝先生で「世界の新しい経常収支不均衡と人民元の関係」という壮大なタイトルで含蓄の深い講演をされた。アメリカの巨額の対外赤字の問題をとりあげ、それによる不均衡状態が持続可能でないこと、これを解決するには 30%にもおよぶドル切り下げが必要であることを指摘された。最近、中国人民元の為替調整が話題になっているが、アメリカの赤字を減らす目的の人民元切り上げはあまり意味がなく、人民元の問題は基本的に中国自体の問題であると主張された。

共通論題は「新しい時代に向けた公的金融制度」であり、翁百合氏（日本総合研究所）、深尾光洋氏（慶應義塾大学／日本経済研究センター）、吉野直行氏（慶應義塾大学）、中原広氏（財務省）というパネリスト、そして司会が堀内昭義先生（中央大学）という超豪華な顔ぶれであった。翁百合氏はこの問題を包括的に捉える理論的な枠組を示し、深尾光洋氏は郵貯の民営化案の問題点について詳細に検討を加え、吉野直行氏は郵貯と財投機関の両方の問題について考察を加えた。また、中原氏は現行の制度・事実関係について詳細に説明した。これらの報告の特徴は、それぞれのパネリストが、深い識見を持って、表面的でなく、根源的な観点から接近していたことである。

これまで、会長講演が、早朝に短時間（１５分から２５分）で行われていたのが、昼間の１時間をかけて行うようになったのは、この大会からであった。これは、実質的にプログラム委員長の任を担当された、当時の『金融経済研究』の編集委員長、本多佑三氏の意向によるところが大である。そして、会長講演は基本的に『金融経済研究』に掲載されることになった。本大会では、清水啓典会長によって「不動産価格と金融市場」が報告された。清水会長は、講演のなかで、地価が日本の長期不況と密接な関係があることを説明した。そして、不動産取引とは不動産権利書という金融資産の取引であるという点で株式と同じである。つまり、不動産は利子率と期待の変化をもっとも敏感に価格に反映する最大規模の金融資産であり、その価格安定化は、日本銀行にとって重要な政策目標であると主張した。この報告は『金融経済研究』第２３号（２００６年６月）に掲載されている。

A から F の６つの会場が使用された。このうち、F 会場は大会場であり、会長講演、特別講演、共通論題と２つのパネルの会場に使用された。自由論題は A~E 会場を使用し、金融政策、国際金融制度、ファイナンス、各国の金融、金融市場、東アジアの国際金融システム、銀行行動、企業金融、最近の金融問題、金融史、国際金融実証、企業金融（２）、戦前戦後の金融史、の１３のセッションで、36 の論題が報告された。

プログラム委員会は本多佑三氏をはじめ１４人から構成され、大会準備は、私（筒井）と福重元嗣氏が主としてあたった。学部の秘書の方々が支援してくれたので、こまごまとした運営は比較的楽であった。当時はまだ会報に報告要旨を掲載しており、その体裁の統一や記載が不明確なところの訂正などが一番の難事であったと記憶している。われわれの心配は、大阪大学は比較的不便なところにあり、とりわけ、吹田キャンパスの方は、新幹線で来た人は地下鉄、モノレールに乗り継ぎ、しかもモノレールでは１回乗り換え、さらに駅から１５分位ほど歩くという不便さであった。豊中キャンパスとどちらにするか迷ったが、会場の点で、吹田キャンパスにはコンベンションセンターがあり、懇親会場も手当しやすいということで、吹田キャンパスにした次第である。しかし、今でも「遠かったね」、「特に１日目の昼食が・・・」などと言われることがあり、やはり、遠かったのだと今さらながら、反省している。

この大会では、当日のコピー依頼には対応しないことを明記し、また、出席者名簿の配布もしないことにした。出席者名簿については文句が出て、要求する人がいるかもしれないと懸念して、実は何部か用意していたが、要求した人はいなかったそうである。出席名簿を取りやめる代わりに、必要な方には大会の参加証明書を配布することにし、用意した。懇親会の費用は事前申込者は４５００円、当日参加費は５０００円と５００円の差をつけることにした。事前の出席・欠席通知はがきを返信したのは５１８名、うち、出席通知が４４４名、欠席通知が７４名であった。懇親会の申込者数は１９５名で、そのうち振込は１４９名であった。当日の実際の懇親会参加数は２０１名であった。懇親会は、大阪大学吹田キャンパスの銀杏会館で行われ（業者はリーガロイヤルホテル）、盛会であった。

学会当日の様子

2006年度春季金融学会（早稲田大学）

早稲田大学　**晝間文彦**

2006年度の春季日本金融学会は、4月29日（土）、30日（日）の2日間にわたり、早稲田大学で開催された。大会実行委員長には西村吉正先生にお引き受けいただき、また、プログラム委員長には秋葉弘哉先生にお引き受けいただいた。準備委員長は筆者が担当した。

学会の開催を担当するのは筆者にとって初めての経験であったので、かなり不安であったが、学会事務局の黒野幸春氏や2005年度秋秋季日本金融学会を開催された大阪大学の筒井義郎氏から、学会開催手順に関する資料等を送っていただき、大いに助かった。

開催日は、会場確保と連動するので、なかなか決まらなかった。同じ会場を 2 日間にわたって確保するのは、予想外に難しかった。最終的には、実行委員長の吉村先生のご尽力で、先生が当時研究科長をされていた、大学院アジア太平洋研究科の建物（19 号館）を会場にお借りすることができ、また、総会や講演、共通論題の会場として、大学図書館の建物内にある国際会議場（井深大記念ホール）を確保することができた。4月29日は、ゴールデンウィークの最初の日なので、参加される会員数が減るのではないかと心配ではあったが、会場確保の点から、ゴールデンウィークに決めざるを得なかった。

報告公募は、事務局から頂いたスケジュールに基本的にしたがって、11 月に事務局から発送していただき、また学会 HP にアップしていただいた。公募締め切り後、早急にプログラム委員会を開催し、応募論文を検討し、セッションの割り振りを決め、プログラムを作成する作業をお願いした。プログラム委員会委員は、プログラム委員長秋葉弘哉先生のほか、以下の 15 名の先生にお願いした。内田滋（長崎大学）、大矢繁夫（小樽商科大学）、小川英治（一橋大学）、Marius Krawczyk（龍谷大学）、佐藤政則（麗澤大学）、首藤恵（早稲田大学）、高橋豊治（中央大学）、谷川寧彦（早稲田大学）、春井久志（関西学院大学）、日向野幹也（立教大学）、藤野次雄（横浜市立大学）、本多佑三（大阪大学）、宮尾龍蔵（神戸大学）、宮越龍義（東北大学）、矢野順治（広島大学）（敬称略、所属は当時）。プログラム委員会の仕事は、いわば大会の質を決めるものであり、最も重要な任務を負っているといえる。プログラム委員の先生方には、このほか各セッションの司会をはじめ、討論者の決定など、こまごまとした仕事もお願いしている。プログラム委員をお引き受けくださった諸先生方には、深く感謝するものである。

こうして決定したプログラムは、講演が 2 つ、パネルが 3 つ、共通論題と、11 の自由論題セッションから構成された。講演は、日本金融学会会長（当時）、清水啓典氏による会長講演「インフレーションの終焉」と、金融庁長官（当時）、五味廣文氏による特別講演「金融行政の現状と今後の課題」である。パネルは、国際金融パネルの「欧州通貨統合と新規加盟国」、中央銀行パネルの「金融危機以降の金融政策を振り返る」および地域金融パネル

の「顧客の期待する地域金融の機能と地域金融機関の対応」である。共通論題は「M&A と企業価値」である。講演も含めた報告総数は 44 である。

大会初日は朝 9 時半からの開催であったが、早稲田の学会関係の先生方にもお願いして少し早めに来ていただいて、アルバイトを頼んだゼミの院生や学生たちとともに、本部や受付設営などを行って、開始を待った。参加者が集まり始めて、受付も混んできたが、大きな問題もなくスムーズに運び、少しほっとした。事前の参加登録者数は 309 名に達していた。参加登録なしに当日申し込みされた参加者も含めれば、参加者は 330～350 名くらいにはなったと思われる。初日の午前は、国際金融パネルのほか、自由論題の 4 セッションの後、学会会長清水啓典氏による会長講演が行われた。午後は、中央銀行パネルのほか、自由論題の 4 セッションの後、金融庁長官（当時）五味廣文氏による特別講演が行われた。

初日の午後から小雨が降りだし、どうなることかと思ったが、幸い大降りにはならなかった。なんらかの問題が生じた場合に備えて、筆者は時々会場を見回るほかは、本部にいることが多かったが、大きな問題もなく大会は進行していった。そして総会の後、歩いて 5 分ほどにある大隈会館の「楠亭」で、懇親会が開かれた。予想以上に参加者が多く、会場がいっぱいになるくらいの大変な盛会であったことを記憶している。

大会 2 日目も 9 時半からの開始であったが、2 日目なので少しは余裕を持って対応できたような思いがした。2 日目の午前は、地域金融パネルのほか、自由論題の 3 つのセッションが行われた。午後は、13 時から 16 時まで井深大記念ホールで、共通論題が行われた。2 日目も幸いなことに大きな問題もなく進行し、最後に大会実行委員長西村吉正先生の閉会挨拶で大会は終了した。

正直なところ、筆者の整理の拙さもあって当時の資料があまりなく、細部にわたるような記憶もあまり残っていない。ただ、赤字も出さず、大きな失敗や事故も記憶にないことは、大会そのものは無事に終了したことを意味していると思いたい。この小文を終えるにあたって、大会を無事に終えられたことに対して改めて感謝したい思いが湧いている。

2006年度秋季大会(小樽商科大学開催)の概要

小樽商科大学　大矢繁夫

2006年度日本金融学会秋季大会は、9月9日（土)、10日（日）の両日にわたって、小樽商科大学小樽キャンパスで開催された。北海道での開催は1997年度秋季大会が北海道大学で開催されて以来、9年ぶりであった。

大会参加者は300名ほどであり、36の自由論題報告、「中央銀行」と「国際金融」の2つのパネル、会長講演と特別講演、そして共通論題報告が設けられた。これらのセッション・講演は、のべ95人にのぼる座長・報告者・討論者によって担われた。また、自由論題報告36のうち14が大学院生によるもので、これら若い研究者の報告参加も従来と同程度であった。以下、内容を簡単に振り返っておこう。

本学会の会長（当時）清水啓典氏による講演は、1日目の午前最後の時間帯に行われた。講演タイトルは、「日本の金融市場：変貌と課題」であり、不良債権問題の解決後、金融市場の構造や金融機関の行動等がどのように変貌しているのか、銀行収益は急回復を見せたが、その背景と課題は何か、について分析が提示された。金融機関経営者がリスクをとることに挑戦し、顧客企業への支援や社会的資源配分機能を果たすこと、そしてそれを支えるべく行政も環境づくりに努力することの重要性が論じられた。

1日目の最後を飾る特別講演は、西村吉正氏（早稲田大学）による「バブル崩壊以降の破綻処理政策の彷徨――事前行政と事後行政」という論題であった。西村氏は、銀行局長として金融行政に携わった経験をもとに、直近の12年間を3つの時期に整理し、行政が事態収拾のためにどのように試行錯誤を繰り返したか、すなわち破綻処理をめぐる事前処理的手法と事後処理的手法についての「彷徨」が分析された。金融行政の現場に密着した洞察力に富んだ講演であった。

2日目の午後の共通論題は、「新たなステージの地域金融」をテーマとし、経済・金融が長い“失速”状態を脱したとみることができた当時、地域金融をめぐる新しい動きがどのように生じているかを探ろうとするものであった。座長の鴨池治氏（東北大学）と川波洋一氏（九州大学）の司会のもとで、家森信善氏（名古屋大学)、小西龍治氏（九州大学)、多胡秀人氏（アビームコンサルティング)、山口義行氏（立教大学）が順次報告を行った。

家森氏は、詳細なアンケート調査をもとに、リレバンプログラムによって金融機関は何を求められ、どう変わったのか、という分析を提示し、小西氏は、沖縄金融特区をモデルとした全国地銀ＣＬＯの紹介とそこから導かれる地域金融機関の経営課題を分析した。多胡氏は、中小地域金融機関のリレバン取り組み状況、その機能強化による新ビジネスモデルのポイントは何か、という考察を示した。山口氏は、これまでの不良債権処理や「貸し渋り」等に改めてメスを入れ、当時のリレバン、企業再生、そして氏自身が推進してきた

「金融アセスメント法」をめぐる展望を示した。「新たなステージの地域金融」は、直接に地域企業の再生と発展に関わる問題であり、重要な課題であり続けることが確認された。

中央銀行パネルは、春井久志氏（関西学院大学）の座長のもとで、「わが国の金融システム安定化の社会的コスト」をテーマとし、パネラーとして、安達誠司氏（ドイツ證券）、中野瑞彦氏（桃山学院大学）、足立茂氏（日本総合研究所）、永田俊一氏（預金保険機構）、池尾和人氏（慶應義塾大学）の 5 人が報告を行った。研究者、実務家、行政の各方面から、当時の金融システム安定化とそれに関わる社会的コストの諸問題が論じられた。

国際金融パネルは、勝悦子氏（明治大学）の座長のもとで、「ＩＭＦ改革と今後の課題」がテーマとして取り上げられた。パネラーは、有吉章氏（国際通貨基金）、渡辺賢一郎氏（日本銀行金融研究所）、渋谷浩氏（小樽商科大学）であった。21 世紀のグローバル経済の下で、ＩＭＦの役割の再評価、ＩＭＦ改革のあり方、そして今後の課題が論じられた。

本大会開催は、日本の経済・金融が長い停滞から脱しつつあると見ることができた時期に重なったこともあり、共通論題等多くの報告には、「これからの金融」を探るという強い関心が感じられた。

なお、自由論題報告の次のようなセッションに分けられた。

「国際金融（Ⅰ）」座長：藤田誠一氏（神戸大）、「国際金融（Ⅱ）」座長：福田慎一氏（東京大）、「金融機関（Ⅰ）」座長：晝間文彦氏（早稲田大）、「金融機関（Ⅱ）」座長：内田滋氏（長崎大）、「各国金融（Ⅰ）」座長：小川英治氏（一橋大）、「各国金融（Ⅱ）」座長：有馬敏則氏（滋賀大）、「企業金融・ファイナンス（Ⅰ）」座長：釜江廣志氏（一橋大）、「企業金融・ファイナンス（Ⅱ）」座長：金子隆氏（慶応義塾大）、「金融政策（Ⅰ）」座長：高山洋一氏（大東文化大）、「金融政策（Ⅱ）」座長：金子邦彦氏（明治大）、「金融史」座長：佐藤正則氏（麗澤大）「中国の金融」座長：下平尾勲氏（福島学院大）、「地域金融」座長：濱田康行氏（北海道大）。

最後に、プログラム委員・座長を快く引き受けてくださった諸先生に、そして何よりも、深い問題意識に支えられた報告と講演をしてくださった研究者の皆様に、改めて厚く感謝申し上げます。

日本金融学会 2007 年度　春季大会

開催校：麗澤大学

麗澤大学　佐久間裕秋
麗澤大学　佐藤政則
麗澤大学　陳　玉雄

日本金融学会 2007 年度春季大会は、5 月 12 日（土）、13 日（日）の両日、千葉県柏市の麗澤大学で開催された。大会参加者は 434 名であった。「量的金融緩和政策を振り返って」を題とする大会の共通論題、「国際金融」、「中央銀行」の 2 パネルと、13 セッション 36 の自由論題で 6 会場に分けて報告、討論が行われた。

大会は国際金融パネルと自由論題 5 セッションの同時開始によって、12 日 9 : 30 にスタートした。国際金融パネル「東アジア金融市場」では、広島大学矢野順治座長のもと、京都産業大学の猪口真大氏、広島大学小松正昭氏、明海大学清水順子氏が報告を行った。コメンテーターは慶応義塾大学の吉野直行氏と東京大学の福田慎一氏。97 年のアジア通貨危機から 10 年、市場発展への課題に関し議論を深めた。

一日目の午前中は、清水啓典会長の講演で括られた。会長講演のテーマは、「ミルトン・フリードマン：業績と日本への教訓」であった。ノーベル賞経済学者また政策アドバイザーとしての幅広い活動の根幹にある実証主義の存在を指摘した。自由主義の立場から、経済自由度の拡大が経済発展には不可欠であり、日本では金融の自由度に課題があるとの見解が示された。

午後、短い昼食を経て中央銀行パネルと自由論題 4 セッションで再開された。中央銀行パネル「新日本銀行法制定から 10 年」では、関西学院大学の春井久志座長のもと、慶應義塾大学の吉野直行氏、日本銀行の高橋亘氏、東短リサーチの加藤出氏、中京大学の鐘ヶ江毅氏が報告を行った。日銀法改正 10 年の節目の年にあたり、改正時の背景と現状、新法の課題について活発な討議が行われた。

大会初日は、午後の特別講演でピークに達した。特別講演では、日本銀行の武藤敏郎副総裁が「中央銀行の政策決定と委員会制度」をテーマに講演した。日本銀行の金融政策決定のプロセスと委員会方式による合議制の実状について触れた上、ＦＲＢ等主要国の中銀と日銀の政策決定方法を対比した。日銀の金融政策決定会合の特徴として、政策委員の多数決による意思

決定と透明性の確保について指摘を行った。また、環境変化に応じた運用上の改善、市場との対話の不断の努力についても見解が示された。

特別講演の後、会員総会を経て、恒例の懇親会が“れいたくキャンパスプラザ レストランまんりょう”でビアガーデンも含め開催された。乾杯の発生から歓談で熱気があふれ、活発な議論が最後まで続いた。その余韻はさらに二次会の会場まで持ち込まれた。

大会の二日目には、午前の自由論題 4 セッションと午後の共通論題が行われた。共通論題の「量的緩和政策を振り返って」では、中央大学の堀内昭義座長のもと、京都大学の白川方明氏が「量的緩和政策とデフレを巡る若干の論点」、神戸大学の宮尾龍蔵氏が「量的緩和政策と時間軸効果」、東京大学の吉川洋氏が「量的緩和政策を振り返って」について報告を行った。2006 年 3 月の量的緩和政策解除を受け、5 年に及んだ量的緩和政策の意義と評価について討論を行った。白川氏は、量的緩和効果の主要な効果はゼロ金利継続の約束による効果の時間軸効果の側面にあり、金融システム安定の確保に寄与した一方、景気・物価への効果は二次的との見解を示した。その上で、短期市場における金利機能の低下等の弊害も指摘した。宮尾氏は、量的緩和政策の時間軸政策に焦点を当て、時間軸効果を金利予想の変化と緩和効果の二つを区別することが重要とし、景気効果には、実証研究の余地があるとした。吉川氏からは、緩和政策導入時の論調を概観し、緩和政策の効果の評価にはマクロ理論の再構築が重要との立場から議論を行った。座長、パネリストとフロアからの質疑応答により白熱した議論のうちに共通論題は終了した。

最後に開催校を代表して佐藤政則氏が閉会挨拶を行い、二日間の日程を滞りなく終えた。

2007年度秋季全国大会について

同志社大学　**藤原秀夫**

2007年日本金融学会秋季全国大会が9月8日（土）～9日（日）に、同志社大学の今出川キャンパス(京都市)で行われた。

大会参加者数は400名を超え、20にわたる自由論題セッション、1つの特別セッションおよび3つのパネルにおいて計69本の研究報告が行われた。さらに会長講演と招待講演および共通論題報告が設けられた。大会初日には盛況のうちに会員懇親会が開催された。

以下では、両日の大会内容を簡単に報告する。

特別講演では吉川洋東京大学教授が「デフレーションと金融政策」をテーマに講演した。19世紀のデフレを再考し、貨幣数量説のように貨幣供給量がインフレ率を決めるとは必ずしも言い切れず、実物的な要因がインフレ率を決めるモデル化が必要と主張された。

また、清水啓典一橋大学教授が「金融業の国際競争力」と題して会長講演を行った。日本の金融業が国際競争力の面で欧米諸国に遅れを取っている点がデータで示され、一層の金融市場改革が必要との問題提起がなされた。

金融史パネル「国際銀行とアジア」では、19世紀から20世紀初頭にかけての国際銀行の特色について、香港上海銀行などの個別事例に焦点を当てた討論が行われた。次に、中央銀行パネル「日・米・欧の金融政策」では、市場との対話の仕方やサブプライム問題への対応策に関する日米欧当局の差異と課題について、活発に討議された。さらに、「アジア通貨危機から10年：地域金融協力の進展と今後の行方」と題した国際金融パネルでは、域内金協力の具体的な方策を巡り議論が交わされた。

特別セッションでは、ケインズ経済学関連の3つの報告に基づいて活発な議論が交わされた。貨幣理論や資本理論の分野で、現代経済分析におけるケインズ経済学の有効性と意義を巡っての議論に焦点があてられた。

大会最後のセッションである共通論題は「市場型間接金融と金融システムの進化」をテーマとして議論が展開された。消費者利益の向上を最優先にした金融市場のインフラ面での整備改革が喫緊の課題であることが主張された。

また自由論題報告では、金融経済の理論分析や金融政策の効果および金融制度のあり方について多くの有益な研究成果が報告された。純粋理論分析から内外にわたる実証分析とその成果に基づく政策提言に至るまで、活発な実りある議論が繰り広げられた。

ここでなされた数多くの研究報告が、さらに理論・実証分析の面から精緻化され、日本経済を安定成長の軌道に乗せるという課題に、金融経済学の立場から寄与することを願ってやまない。

2008年度春季大会の記録

成城大学　村本　孜

2008年度春季大会は、2008年5月17日・18日に成城大学で開催した。2008年度は、成城大学社会イノベーション学部の完成年度に当たり、学部の行事として開催に取組んだ経緯がある。2007年にその後の世界金融危機の端緒となったサブプライム問題が発生し、世界全体での損失が膨大となるとの観測がある中での大会であったため、この問題に関わるテーマが中央銀行パネル、国際金融パネル、特別講演（金融庁長官）、自由論題で多く取り上げられた。また、理事会で議論されていた学会活性化パネルを開催したことも特徴であった。

プログラム委員会は、2008年1月26日に開催され、セッション数、報告数等が検討され最大6会場、パネル数(3)、共通論題などの骨格が決定され、自由論題報告の申し込みから採用の可否が検討され、プログラムが決定された。多くの報告希望を頂いたにも拘らず、会場の制約等から全部を採択できなかったことは残念であった。

（プログラム委員会）

浅井良夫（成城大学）、内田真人(成城大学)、勝悦子(明治大学) 小川英治(一橋大学)、金子隆(慶応義塾大学)、鴨池治(東北大学)、栗原裕(愛知大学)、佐々木百合(明治学院大学)、鹿野嘉昭(同志社大学）、首藤恵(早稲田大学)、地主敏樹（神戸大学)、高橋豊治（中央大学）、春井久志（関西学院大学）、晝間文彦(早稲田大学)、堀江康熙(九州大学)、本多佑三(大阪大学）、福光寛(成城大学)、村本孜(成城大学)、矢野順治(広島大学)

各パネルのテーマは以下の通りである。

・中央銀行パネル：サブプライム問題と中央銀行

・国際金融パネル：サブプライムローン問題：現状と展望

・学会活性化パネル：金融経済学の領域では、従来の money and banking に加えて money and finance も研究の関心事に なっている状況を踏まえ、理事会等での議論を多角的に論じ、学会のあり方を探る。

・共通論題：金融イノベーション　－決済システムの新展開－

自由論題セッションのテーマは以下の通りである。

間接金融、金融市場の実証(1)(2)、企業金融と株式市場、金融危機とアジア、アメリカの金融、証券化、家計の金融問題、金融の諸問題、中小企業の金融、アジアの金融、金融政策、時系列的分析、

特別報告等は、

・特別報告(会長講演)　グローバリゼーションと金融規制、国際金融、

・特別講演(金融庁長官佐藤隆文)：金融規制の質的向上―ベター・レギュレーションへの取組み

であった。

大会当日は好天に恵まれ、新装なった大学 3 号館の柿落としの行事となった。サブプライム問題の発生以後の金融システムに対する懸念もあってか、参加者は 500 名を超え、注目度の高さを窺わせるものであった。サブプライム問題というテーマの性格上、金融当局から金融庁の氷見野良三氏、日本銀行雨宮正佳氏等の参加も得たほか、特別講演として金融庁長官の佐藤隆文氏の報告も行なわれた。佐藤氏は会員である。中央銀行パネル、国際金融パネル、特別報告、特別講演などを通じてサブプライム問題について理解を深める内容となったが、その後の世界金融危機の端緒となる議論であった。

学会活性化パネルは、理事会などで何度か議論された学会活動の活性化をいかに展開するかがテーマであった。学会の aims and scope に関わる問題すなわち金融経済学の領域では、従来の money and banking に加えて money and finance も研究の関心事に なっている状況を踏まえ、学会の立ち位置を確認すること、学会員同士の議論の場の設定や学会誌論文に合致しない論稿の発表の場の設定の問題、学会通信・掲示板の設定の問題等多岐に亘るもので、歴代会長のうち花輪俊哉氏、千田純一氏も参加された。結論を得るというものではないテーマであったが、ホームページの活用の拡大などの方向性が示され、オンラインジャーナルへの途を開くものになった。

共通論題は「金融イノベーション」を取り上げた。サブプライム問題については他のパネルや自由論題セッションでも多く取り上げられたので、社会イノベーション学部の完成年度と関連させてイノベーション関連のテーマとなった。金融イノベーションというと、コンピュータ化やデリバティブズ、証券化、金融業務の機械化等に焦点が集まるが、金融システムの決済機能にも大きな変革が生じている。１つは電子マネーの問題であるし、もう１つは電子記録債権の問題である。後者は 2013 年 2 月に「でんさいネット」が運用開始となり、本格化したが、手形に替わる電子決済制度である。これに伴ない売掛債権の積極的な活用と印紙税の節約等の取引費用の節約などの効果が期待されるものである。この問題に詳しい大垣尚司立命館大学教授（非会員）、経済産業省でこの問題を検討された小宮義則氏の参加も得て最新の議論が可能となった。電子マネー等は貨幣の機能に関して新たな議論を生むものであるし、セキュリティを含め決済手段の新たな方向性も示すものである。決済システムの問題は学界的に余り議論されないテーマであるが、有益な議論ができたものといえよう。インターネットの高度化によって、ＳＮＳを通じた決済問題等も現われており、多くの問題が残されている課題である。

学会開催に合わせて本学経済研究所に所蔵する高垣文庫の展示を行なった。学会の会長を 25 年に亘って努められた高垣寅次郎博士の蔵書を受け入れたものであるが（洋書 8,500 冊、和書 7,000 冊、和洋雑誌、手書き原稿等）、イギリス地金論争期の関連文献（パンフレット等）の貴重な資料をはじめ、ジョン・ローの稀覯書、アッシニア紙幣等を展示した。

「保有していることを誇りにされたが、他の人には見せるのを躊躇われた」という博士の言葉もあるが、日本の貨幣経済論研究の初期を知る上で重要なコレクションであり、多くの研究者に利用して頂くことを祈念している。

2008年度秋季大会（広島大学）

広島大学　**矢野順治**

2008年度に広島大学において開催された秋季大会について振り返ってみたいと思います。

準備段階ではまず日程の決定と学会会場が大きな問題でした。他の学会の開催日はある程度調べたつもりでしたが、日程が未定の学会もあり悩みましたが、正式日程決定後ある大きな学会の開催日と重なってしまったことが分かり、多くの先生方にご迷惑をおかけしました。また我々のいる法学部・経済学部の小さな講義棟で開催するか、大きな講義室がたくさんあり余裕のある総合科学部で開催するかも悩ましいところでした。

次は準備組織作りですが、私と石田先生と千田先生の三人でほとんど全ての作業をやりました。やはり三人で準備するのは大変でした。学会直前の準備に関しては、千田キャンパス（広島市）の社会経済システム・ファイナンス専攻の 4 人の院生に、開始1月前くらいからは、ほぼ毎日と言ってもよいほど西条キャンパス（東広島市）の私の研究室に通いつめてもらいました。彼らの献身的なヘルプがなければ、学会開催は不可能だったと思います。

大会開催時は、一日目の朝一の特別セッションでパソコンが立ち上がらないというアクシデントがあり、どうなることかと思いましたが、無事に終わることができました。大会そのものに関しては何といっても、リーマン・ショックの真っただ中に開催されたということが一番大きなポイントでした。私は本部にはりついていましたので、個別のセッションでどういう議論が展開されたのかは分からないのですが、財務省大臣官房審議官の永長正士氏の特別講演では、講演終了後に沢山の先生方から資料を学会ホーム・ページにアップしてほしいというご要望をいただきました。幸い永長氏の快諾を得ることができすぐに資料をアップすることが出来ました。また、講演の後の質問の時間が短すぎたというお叱りを受けたりもしました。大会最後の共通論題セッションが長引いてしまい、東広島駅からの予定していた新幹線にギリギリのタイミングになってしまい（一本遅れると一時間駅で待っていただかなくてはなりません）、先生方のバスへの誘導しか頭になく閉会の言葉どころではなかったのも懐かしい思い出です。

大会終了後は学会への会計報告が一番大きな仕事ですが、学会開催は現状の予算規模では大会開催は非常に厳しかったというのが正直な感想でした。

日本金融学会 2009 年度秋季大会について

香川大学　**藤井宏史**

■大会の概要

2009 年度秋季大会は、秋晴れの 11 月 7・8 日の両日、香川大学幸町南キャンパスで開催された。6 つの会場で、51 の報告・講演が予定通り行われ、300 人を超える研究者や実務家、政策担当者の間で、金融問題に関して熱い議論が交わされた。具体的には金融史、金融政策、国際金融の分野でパネル討論が行われるとともに、金融機関やファイナンス、地域金融、各国金融事情など幅広い分野で、自由論題のセッションが行われた（セッション数は 10、報告数は 37）。また大会の通例に従い、1 日目の午前に会長講演、午後に特別講演の後、総会と懇親会が、2 日目の午後には共通論題が行われ、大会は無事終了した。

■プログラムの工夫

大会を通じた共通のテーマは共通論題で示されるが、大会がリーマンショックに端を発した世界的な金融危機の只中で開催されたこともあって、こうした世界的な金融危機が、金融政策や金融規制、国際金融制度や金融市場に関する従来の通説を実証的・理論的な観点からどう修正しうるかという観点で、パネルや講演・共通論題のテーマを共通化したことが本大会の最大の工夫である。実際、金融政策パネルでは「金融政策分析の最近の潮流と金融危機」、国際金融パネルでは「グローバル・インバランスと世界金融危機」、会長講演では、「バブルと金融危機－行動経済学的アプローチ」、特別講演では「世界金融危機後の証券市場について」、共通論題では「世界金融危機後の金融規制」という具合にテーマ設定がされた。

それ以外の工夫としては、パネルとして初めて金融政策パネルを設けたことである。このパネルは、金融政策分析を行う際の理論的フレームワークについて直接議論するパネルとして、この大会で初めて設けられたもので、当日は、近年のモデル分析の発展と今後の課題について活発な議論が展開された。

また特別講演の講演者の選定についても工夫を行った。従来の大会の特別講演者は比較的、政策当局サイドの方が多かったのに対し、この大会の特別講演では、金融危機後の金融規制のあり方などについて、民間サイド、中でもマーケット運営の中心人物の方に聞く機会にしたらどうかとの提案がプログラム委員会で了承され、東京証券取引所社長の斎藤惇氏にお願いすることとなった。依頼に際しては、プログラム委員の吉野直行先生（慶應義塾大学）に仲介の労をとっていただいた。

■共通論題の解題

共通論題は、米国、欧州・G20、日本等を軸に世界金融危機後の金融規制のあり方を議論するため、テーマを「世界金融危機後の金融規制」とした。主な論点は、銀行と証券の分

離、自己資本比率規制（バーゼルⅡ後、procyclicality）、ノンバンクを含めた規制体系のカバレッジ、マクロ・プルーデンス政策のあり方（財務省・FSA・中央銀行間の独立性と連携の問題）などであった。座長は、宮尾龍蔵氏（神戸大学）にお願いし、パネリストには、武田真彦氏（一橋大学）、中尾武彦氏（財務省）、黒田晃生氏（明治大学）、討論者としては地主敏樹氏（神戸大学）と池尾和人氏（慶應義塾大学）に依頼した。

最初に武田氏は、「国際金融危機の原因と金融規制改革のあり方」とのテーマで、今回金融危機が世界規模で大きなインパクトを与えたのはバブルの発生・破裂がアメリカで生じたことが原因であり、マクロ・プルーデンス政策の重要性と指摘された。続いて中尾氏は、「世界金融危機と国際社会の対応：G20 金融サミット等の成果と金融規制改革」とのテーマで、財務省・金融庁・中央銀行間の独立性の必要性と、危機予防・処理時の三者の連携の重要性を主張された。最後に黒田氏は、「日本のプルーデンス政策」とのテーマで、日本におけるプルーデンス政策の枠組みのレビューと課題を指摘された。これら報告に対し、討論者の地主氏からは、BIS 規制の弊害について、池尾氏からは、規制当局が政治から独立していない場合に起きる不作為の問題や、金融システムの中核金融機関に厳しい規制を課すことの重要性が指摘された。

■大会運営の裏話

2007 年 7 月 18 日、当時学会の総務担当理事であった金子邦彦先生（明治大学）より、私の携帯電話に学会開催の打診があった。4 年後までほぼ開催校が決まっているが唯一 2009 年度秋季大会の開催校が決まっていない、香川大学は 1978 年と 1992 年に秋季大会の開催実績があるのにそれ以後開催していないのでそろそろ引き受けてもらえないかとのこ

とであった。これまでも開催の打診は何度か受けていたが、周辺の有力大学が開催していないとか、学内の会員数が大幅に減っている等の理由でお断りをしてきたので、今回も同じ理由で断ることになるかと思いつつ会員に相談をしたところ、宿題は早く終わらせようとの意見でまとまり、開催を引き受けることになった。

ただ、そうは言っても会員数が少ない現実（当時の会員 4 名）は直視せざるを得ず、理事会に対して物心両面で支援をお願いしたところ、開催校担当理事として、福田慎一氏（東京大学）と宮尾龍蔵氏（神戸大学）にサポートしていただけることになった。特に宮尾氏には距離が近いこともあって、大会プログラムの作成はもとより、大会開催全般にご支援いただいた。

予算面では、学会本部からの大会補助金に加え、日本経済学会連合の学会会合補助金に申請していただくなどして、理事会・学会事務局あげて予算確保にご助力いただいた。また大会参加者には、高松市の観光コンベンション・ビューローから補助金交付を受けるために、県外参加者の市内宿泊施設への延べ宿泊日数把握のアンケートにご協力いただいた。

参加者数の確保も大きな課題であった。前回開催は瀬戸大橋開通（1988 年）の余韻が残る時期であったので、ある程度の参加者数が確保できたが、今回は何をアピールするかである。そこで、東京大学で開催された春季大会の総会では、四国は遠い島のように思われるが､飛行場から大学が近いので飛行機なら関東から 2 時間余りで会場に到着できること、開催時期は 11 月と遅いが台風の心配のない観光シーズンであること、大講義室 3 つを擁する講義棟の 6 会場で行うコンパクトな大会であること、そして最後に本場の讃岐うどんを用意してお待ちしているなどと、次期大会のアピールをした。加えて、JCB 中国四国高松支店の協力を得て、往復航空機と宿泊のセット申込みや Web による宿泊申込みの案内も行った。

こうした取り組みが功を奏したのかどうかはともかく、平均並みの大会参加者数である 300 名を確保することはできた。そればかりか、生協食堂で開いた 1 日目の懇親会は大盛況で、高松市内の有名うどん店「さか枝」の出張実演とセルフサービスで本場の讃岐うどんを堪能していただいた。また地元で人気の地酒「凱陣」に加えて、香川大学が県内酒造会社と提携して酒造販売している地酒「さぬきよいまい」、香川大学オリジナルワインを提供して、参加者には大いに喜ばれた。過日、数名の会員から大会運営全体に流れる「もてなしの心」に感謝するとのメールをいただいたことは、今となってはよい思い出である。

2010年秋季大会　9月25・26日　神戸大学

神戸大学　**地主敏樹**

リーマンショックから2年余、世界金融危機に関する報告が目立つ秋季大会が、9月25・26日に神戸大学で開催された。猛暑の夏も漸くに盛りが過ぎて、神戸の最高気温も30度を切るようになっていた。六甲台本館と出光佐三記念講堂を合わせた8会場を使って、22のセッションに分かれて61の報告と講演が提供された。参加した研究者、実務家および政策担当者は350人を超えた。金融史、中央銀行、国際金融の各部会パネルが第1日目午前から第2日目午前にかけて順に本館102教室で開催され、並行して地域金融・金融機関・金融政策・各国金融・ファイナンス・金融理論・金融規制などの自由論題報告のセッションが本館の大・中各教室で開催された。それぞれの日の終わりには、会長講演と会員総会、特別講演と共通論題パネルが、並行セッションのない形で、新装された出光佐三記念講堂に参加者を集めた。第1日目の夕刻には、恒例の懇親会が正門脇のアカデミア館1階で催され、多くの会員が参加して、標高の高い六甲台からの夜景を楽しんだ。神戸大学での開催は、阪神大震災のあった1995年秋以来であったので、復興が進んだ神戸の街を見てもらえたものと考えている。

世界金融危機は、経済学に様々な形で再検討を迫ることとなった。本大会でも、10余の自由論題報告が、金融政策・金融規制や各国金融システムなどの分野で、金融危機と関わるテーマを扱った。さらに、大会冒頭の歴史パネルも、1931年のポンド危機をテーマとしたし、大会最後の共通論題は当面のユーロ危機をテーマに選んだ。なお、二つの欧州通貨の危機の間には類似性が想像されようが、佐藤政則氏（麗澤大学）が座長を務めた歴史パネルでは、1931年当時のポンドは減価懸念に直面しても国際通貨であり続けていたので、現在のユーロ問題とは大きく異なっていることが、指摘された。

藤田誠一氏（神戸大学）と高屋定美氏（関西大学）が共同座長を務めた共通論題パネルでは、岩田一政・内閣府経済社会総合研究所所長（当時）が豊富な情報を提供して、複数の将来シナリオを提示した。浜矩子氏（同志社大学）はユーロシステムに内在する諸問題点を指摘し、実施されてきた危機対応策も批判した。星野郁氏（立命館大学）は、ユーロ発足当初の期待に反して欧州は世界金融危機の共犯者となってしまったし、域内成長ダイナミズムを欠いている上に、財政統合が遠いままなので、ユーロの将来は困難であろうと論じた。

また、金融危機を踏まえて、中央銀行パネルと特別講演が、中央銀行のあり方を検討するテーマとなった。竹田陽介氏（上智大学）と矢嶋康次氏（ニッセイ基礎研）が共同座長として問題提起した中央銀行パネルでは、伝統的な金融政策と隣接分野との関連テーマについて、気鋭の報告者が並んだ。青木浩介氏（東京大学）が資産価格を、平形尚久氏（日

本銀行）が金融機関を、工藤教孝（北海道大学）が財政政策を、それぞれに論じて、白塚重典氏（日本銀行）と岩本康志氏（東京大学）が討論者を務めた。会員の関心が高く、六甲台本館 102 教室がほぼ満席となるほどの盛況となった。特別講演では、白川方明・日本銀行総裁（当時）が、日本銀行法改革における金融学会の貢献に謝した後、中央銀行の独立性を高めた各国の制度改革を振り返った。そして、日本銀行の政策目的が「物価安定」に限定されていないのでバブルや金融危機への対応を含む点、「金融システムの安定化」が明示されていて金融機関に対する日銀考査がある点、危機時の「最後の貸し手」機能の明確な規定がある点で、金融危機前に世界標準となりつつあったインフレ目標制度よりも、優れていると主張した。

会長講演も、貨幣のみならず信用の重要性を説き、不均衡調整過程を重視して、マクロ理論モデルに関する再考を示す内容となった。新旧の文献を縦横に参照しながら、マクロ理論分析における貨幣と信用の取り扱いを再検討し、信用乗数を貨幣の供給サイドに用いたモデルは、不均衡調整過程において不整合性を生じやすいことが、強調された。マクロの貨幣的経済学の主モデルは DSGE（動学的確率一般均衡）モデルに移行しているが、解決されないままに残されている基本的問題の重要性が指摘されたのである。他方で、高屋定美氏（関西大学）が座長を務めた国際金融パネルでは、DSGE モデルの開放経済体系への諸拡張が、紹介・検討された。塩路悦郎氏（一橋大学）が政策評価を、田端克至氏（二松学舎大学）が国際資金フローを、藤原一平氏（日本銀行）が国際協調を、それぞれに論じ、須齋正幸氏（長崎大学）と北野重人氏（神戸大学）が討論者を務めた。中央銀行パネルと同様に、気鋭の研究者を集めた理論の最前線の報告に関心が集まり、盛況となった。

自由論題に関しては、各国金融が３セッション、それもアジア関係が２セッションあって、現実社会の関心の高まりに研究者がよく対応していることが明瞭であった。また、金融機関に関しても、「地域金融」、「信用金庫」および「金融機関」と、３つのセッションが設定された。次いで、２つのセッションが設定されたのは、「金融政策」と「国際金融」およびファイナンス（「金融市場」と「資金調達」）の３分野であった。これらの諸テーマにおける実証研究が盛んな一方で、「金融理論」や「金融規制」のセッションは１つずつしかなかった。また、「公的金融」のセッションも設定できなかった。やや残念であったが、前後の大会では、これらのテーマのセッションやパネルが設定されたりしているので、金融危機後の研究が報告できる段階に辿りつくのに、時間がかかっていただけなのかもしれない。次に神戸大学で大会を開催するころには、新たな金融規制システムも世界レベルで形成されているであろうし、ユーロ危機も乗り越えられて、中央銀行の新たなあり方も定まりつつあることを期待したい。

今回の大会開催においては、藤田誠一氏が大会実行委員長となり、筆者（地主敏樹）がプログラム委員会を担当した。プログラム委員会には、地域や学派のバランスを考慮して、筆者以外に合計 20 名の方々にご協力いただいた。また、大会の事前準備においては、藤原賢哉・金京拓司・三重野文晴（以上、神戸大学教員）および山本周吾・海野晋吾（ともに、

神戸大学大学院生（当時)）に尽力していただいた。当日の開催においては、神戸大学の多くの教員諸氏および大学院生諸君に、力を貸していただいた。金融学会から配られる開催資金が極めて限定的な中、これらの人々の助けなくしては、学会開催は果たせなかった。記して謝意を表したい。

2011 年度日本金融学会春季大会

明治大学　**渡辺良夫**

2011 年度日本金融学会春季大会は、5 月 28 日・29 日の両日にわたり、明治大学駿河台キャンパスのリバティタワーを会場に開催された。2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災とその後の相次ぐ余震や福島第一原発の放射能漏れの影響が心配されたが、幸いにも多数の参加者を得る盛況な春季大会となった。この大会の２日間のプログラム構成は、特別講演２，共通論題１，パネル３，特別セッション１、定例セッション１２であり、その特徴としては特別講演が両日にわたって行われたことと特別セッションを設けたことにある。以下では、これらのプログラムの中から、主なものについて紹介しておこう。

初日の 28 日昼には、白川方明・日本銀行総裁が「通貨、国債、中央銀行－信認の相互依存性－」と題する特別講演を行った。白川総裁は、民間金融機関、政府、中央銀行への信認の重要性と、その相互依存関係を指摘した。政府への信認は、金融危機のさいに民間金融機関への資本注入をつうじて影響する。中央銀行の信認に対しては、国債発行残高の増加が金利引き上げ反対論の強まりをつうじて影響する。財政構造の悪化により政府に対する信認が低下する恐れがある場合、中央銀行は財政悪化の進行に対し警鐘を鳴らさざるを得ないことを強調した。過去の高橋財政について、白川総裁は、日本銀行が一時的便法として、国債を市場のチェックを経由しないで、直接引き受けを行ったためインフレを招く結果となったと指摘した。

「金融史」パネルは、主として歴史的な観点から金融規制の問題が取り上げられ、金融危機とプルーデンス政策に関してスウェーデン、日本およびタイにおける金融当局の対応が議論された。また、午後の「中央銀行」パネルでは、いわゆる非伝統的な金融政策の前提となっているデフレ基調の問題が取り上げられ、物価指数、少子高齢化などの構造問題、家計や年代によって異なるインフレ率、内外の物価の連動性など多面的な論点から議論された。

特別セッション「グローバル・クライシスと金融政策」は、リーマン･ショック後の金融・経済危機が未だ癒されないまま欧州債務危機が発生し、グローバル・クライシスに発展したこともあり時宜にかなったテーマで熱のこもった報告と討議が行われた。まず野下保利氏（国士舘大学）は、現在の国際金融ガバナンスでは統一された安定化政策の遂行が困難であり、金融規制･監督体制の改革の必要性を強調した。服部正純氏（日本銀行）は、今般の金融危機の特徴とその対応策を取り上げ、プルーデンス政策の課題を明らかにした。浅田統一郎氏（中央大学）は、近年の日本経済を特徴付ける５つの事実を考慮したマクロ動学モデルに基づき、不適切なポリシー･ミックスのその原因があることを明らかにした。

翌 29 日の「国際金融」パネルは、「日本企業の海外戦略と為替戦略」というタイトルで、

円高期の日本企業のインボイス通貨選択と為替リスク管理や為替変動と国際生産ネットワークについて熱心な報告と質疑が行われた。

昼には特別講演Ⅱとして、B.フリードマン・ハーバード大学教授が “The Implementation of Monetary Policy: How Do Central Banks Set Interest Rates?” というタイトルで、中央銀行による短期金利の決定の問題について講演された。金融危機後の金融政策に対する関心が高まっている折りでもあり、きわめて時宜を得る内容であった。

29 日午後には、この学会の締めくくりでもある共通論題「アジアの成長と国際的金融規制」は、清水啓典氏（一橋大学）がアレンジして座長を務めた。杉浦哲郎氏（みずほ総合研究所）は、アジアに相応しい金融システムと金融規制のあり方について、最も重要なのは市場メカニズムの浸透であると論じた。淵田康之氏（野村資本市場研究所）は、国際金融規制のアジアへの適用について、自国の経済・金融構造の特性を踏まえた検討と対応が必要であると指摘した。ジョン・グリーンウッド氏（Invesco Asset Management Limited）は、アジア諸国の為替介入政策が金融市場の発達に与える功罪を論じた。佐藤隆文氏（一橋大学）は、市場型システミック・リスク顕在化と膨張の要因を明らかにし、副作用を抑制しつつ、金融システムに安定性を進めるより賢い規制･監督の重要性を主張した。

最後に、定例セッションは 28 日午前に「為替レート」、「金融機関･金融システム」、「コーポレートファイナンス＆ファイナンス」、同日午後に「経常収支」、「金融の実証」、「地域金融」、「各国の金融」、「ファイナンス」で２３の報告が行われ、29 日の午前には「金融理論」、「金融史」、「金融政策」、「国際金融」で１４の報告が行われた。これら自由論題報告も、充実した内容のものが多かったことを付記しておきたい。

2011 年度日本金融学会秋季大会

東日本大震災の影響・対策など喫緊の課題を議論

近畿大学　**山上秀文**（大会実行委員長）
近畿大学　**安孫子勇一**（プログラム委員長）

2011 年 9 月 18 日、19 日に、日本金融学会秋季大会が近畿大学（東大阪市）で開催された。本学初の大会開催では、天候に恵まれる中、連日 200 名を上回る研究者が参加、経済学部内 7 会場で 48 の報告・特別講演がつつがなく進行した。今回の大会では、特別セッション「東日本大震災と中小企業金融」と共通論題「東日本大震災後の復興のための金融・資本市場の課題」で金融面での震災対応を取り上げたほか、恒例の３パネル（国際金融、中央銀行、金融史）と自由論題でも活発な報告・討論が行われた。さらに、財務省の中尾財務官（当時）と元財務官の行天国際通貨研究所理事長を招いた特別講演では、錯綜する国際金融問題に関する参加者の理解を深めた。

大会では、自由論題やパネルを含めて、素晴らしい報告・討論が相次いだが、紙幅の関係で、震災対応関連と特別講演に絞って紹介したい。

（特別セッション）

特別セッション「東日本大震災と中小企業金融」では、座長の家森信善氏（名古屋大学、以下開催時の所属）が問題提起した後、三つの報告と討論が行われた。まず、植杉威一郎氏（一橋大学）が阪神・淡路大震災の教訓を得るべく大規模な企業財務データに基づく分析結果を報告した後、堀江康熙氏（関西外国語大学）が東日本大震災の被災地や被災金融機関を対象としたデータ分析（営業地盤への影響を含む）を報告した。さらに内田浩史氏（神戸大学）が「二重ローン」の問題を経済学的に論点整理したうえで、阪神・淡路大震災や中越地震を含む実証分析の結果を報告した。これらの報告に対し、花崎正晴氏（日本政策投資銀行）と藤野次雄氏（横浜市立大学）から有益なコメントが多数寄せられた。

（共通論題）

共通論題「東日本大震災後の復興のための金融・資本市場の課題」では、座長の小川英治氏（一橋大学）の司会で、四つの報告が行われた。まず、伊藤隆敏氏（東京大学）が震災復興のあるべき姿（財源問題を含む）を経済理論に基づいて論点整理し、①復興費用は現役世代による税負担、②電気料金への市場メカニズム導入、③持続可能な街づくり――の３原則を提案した。次いで、河合正弘氏（アジア開発銀行研究所）が国際機関の立場か

ら、震災などの災害に対する国際的な対応事例を理論的に整理し、財政支出や金融・資本市場の活用を含む国際協力の枠組みなどを提示した。その後、土居丈朗氏（慶應義塾大学）が今後一層の高齢化進展をにらんで、財政学の立場から震災復興のあり方を論じ、東北地方への道州制導入などを提案した。また、関雄太氏（野村資本市場研究所）が金融・資本市場参加者の立場から、復興段階でＰＦＩなどの民間資金の導入（海外からの資金を含む）が可能であることなどを論じた。

これらに対して、被災地に居住している鴨池治氏（東北福祉大学）と阪神・淡路大震災を研究した地主敏樹氏（神戸大学）が鋭くコメントした後、パネル・ディスカッションがなされた。金融・資本市場の活用を構想する上で、意義深い議論であった。

（特別講演）

座長の吉野直行氏（慶應義塾大学）の司会により「国際金融システムの現状と展望」と題する特別講演が行われた。まず、中尾武彦氏（財務官）が、予断を許さない国際金融情勢（ユーロの安定性を含む）の現状を詳しく説明した後、国際的な対応策の現状と課題、日本の政策当局の考え方、国際金融理論へのインプリケーションなどを講演した。次いで、行天豊雄氏（国際通貨研究所理事長、元財務官）が同じ論題で講演し、第二次大戦後の国際金融の大きな変化について歴史的な視点（経済成長パターンの変化、金融と情報のグローバリゼーション、世界経済の重心移動の三つの構造変化）を踏まえてリーマンショック後の国際金融情勢を論じ、特にアジアの中での中国への重心移動に、日本は今後いかに向き合い自らの進路を定めるかが大切――と指摘した。二つの講演は、国際金融の現状と潮流に対する参加者の理解を深めるとともに、大きな感銘を与えた。

大会は、日本金融学会関係者（会長を始め理事会、プログラム委員・座長、事務局など）のご厚意や、講演者・報告者・討論者などに恵まれたほか、開催校である近畿大学の支援を得て、本学の実行委員会の教員６人や学生の協働により無事執り行うことができた。また、懇親会で「近大マグロ」を提供できたことも参加者に喜んで頂いた。末筆ながら、厚く御礼申し上げたい。

2012年度日本金融学会春季大会

立正大学　林　康史

2012年の春季大会を開催しませんかという事務局からの打診を受けたおり、軽い冗談くらいに考えていたのだが、学会創設の推進役だった石橋湛山ゆかりの立正大学で、これまで学会を開催したことがないとわかり、「これも何かの縁だ」と半ば義務感もあって、お引き受けすることにした。その後、奇しくも2012年が立正大学の開校140周年だと知るに及んで、気に当たるということはあるのだと改めて思った。

立正大会（2012年春季大会）の具体的な内容に関しては、「金融ジャーナル」2012年7月号、「金融」2012年6月号をご覧いただきたいが、金融庁長官の畑中龍太郎氏の特別講演を含め、自由論題、パネル等、合計54の報告・講演が行われた。

日本と韓国の金融学会が学術交流協定を結んだことを記念する「金融危機後の北東アジアにおける金融協力」、学会と立正大学の双方にゆかりのある石橋湛山に焦点を当てた「石橋湛山の人と哲学――金融学者として、立正大学学長として」の二つの特別セッションを設けた。共通論題は、金融法学会理事長の岩原紳作先生にも加わっていただき、「金融危機後の金融規制の新潮流」をテーマとした。自由論題の報告として、コモディティ等、従来はなかったセッションも行うことができた。

近時、サブプライム・ローンを発端とする世界金融危機、欧州財政危機など、単にグローバル化といった現象を超えて、金融論が取り扱う分野の重要性が増していることを感じさせる。そうした昨今の金融を取り巻く環境もあろう、立正大会の報告・講演は、金融分野が全人類・汎地球規模で重要になったことを再認識させ、また、理論と市場の現場との往来への関心が特に高かったと思わせるものだった。

実行委員長として多少の義務は果たせたのではないかと自負しているが、自ら誇れることは、極端なスケルトンスタッフで非常に効率よく運営できたことである。学内からはプログラム委員長を出せず、一橋大学の三隅隆司先生に随分ご負担をかけることになった。前年の秋季大会の開催校だった近畿大学の安孫子勇一先生には、運営の基本方針から具体的な対策まで丁寧にご指導いただいた。プログラム委員の先生方のなかにも無理をお願いした方も多いし、事務局の黒野幸春氏にもお世話になった。そうした皆様のご支援があって、大会が開催できた。

実際の運営は、慶田昌之先生と院生（経済学研究科）の歌代哲也君と私の３人で当たったが、お二人の実務能力には舌を巻いた。しかし、如何せん仕事を分担する人数が少なく、てんてこ舞いの日々が続き、二進も三進も行かなくなって、大学院で私の行動ファイナンスの授業を履修していた、社会人の院生（心理学研究科）の阿部真美子さんにアルバイトをお願いしたが、これが功を奏した。学生向けのマニュアル作成から実際の立ち居振る舞

いの指導まで、私たち３人では手が届かなかったところまでお手伝いいただき、大いに助けられた（マニュアルは素晴らしい出来で、基本、学内限りの資料なのだが、今後、立正大学で作成したものとは知らずにお世話になる開催校は多いに違いないと思う）。大会当日スタッフを務めたアルバイトのゼミ生諸君らも学会の趣旨を理解し存分に動いてくれた。多くの学外の先生からお褒めの言葉をいただくほどに評判が良かった。

うまく運営できたとすれば、畢竟、サポーターやスタッフが素晴らしかったという点に尽きる。そうした人材を集めることができた人脈と運によるところ大である。このメンバーなら、どんな学会でも開催できるという妙な自信までついた。開催してよかったと思う。皆さんに感謝したい。

2012 年度 日本金融学会秋季大会

アジア経済のダイナミズムが日本の金融に与える影響などを議論

北九州市立大学　**前田　淳**

2012（平成 24）年度の秋季大会は、9 月 15 日・16 日の両日、北九州市立大学で開催された。9 つの会場で、計 54 の報告・特別講演が行われ、延べ 400 名ほどが参加した。大会実行委員長は、北九州市立大学の迎 由理男 氏、プログラム委員長は九州大学の川波 洋一氏である。

今回の大会では、特別講演と共通論題を中心として、アジア経済と日本の金融のかかわりの検討という問題意識が色濃く反映したプログラムとなった。また、2011 年度の春季大会以降開かれている震災復興パネルを初めとして、金融史、中央銀行、国際金融の各パネルでは、日銀による国債の直接引受、中央銀行の市場とのコミュニケーション、人民元の国際化などについて報告が行われ、白熱した議論が展開された。

日韓交流特別セッションは、福田 慎一 氏（東京大学）を座長として、「金融市場の安定化に向けて」のテーマの下、韓国金融学会から、Korea University の Jinill Kim 氏、など四名が来日して報告した。ゼロ金利制約下の金融政策などについて、最先端の研究成果が示された。日本からは討論者として、加藤 涼 氏（日本銀行）などが、綿密な検討と質問を投げかけた。

特別講演は、座長の藤原秀夫会長の司会により「中国の台頭と日本」と題して、野村資本市場研究所の関 志雄 氏にご登壇いただいた。その中で関氏は、中国の改革開放以来の成長の軌跡をたどり、高成長に伴って生じている様々な構造的な問題を説明した。とりわけ、農村と都市の所得格差が、個人消費に大きく影響している、などの興味深い相関関係が示された。さらに関氏は、日中両国の比較優位を最大限に発揮させるために自由貿易協定（FTA）を締結することで、多くの付加価値の高い雇用が日本国内で創出されることになる、と強調した。

共通論題では、「アジアの成長と日本の金融―アジアを取り巻く金融環境の変化と成長のためのアジア金融システム」をテーマとして、座長の吉野 直行 氏（慶應義塾大学）の司会・進行の下、四名による報告が行われた。このテーマの背景は、ユーロ危機により、欧州の一部の金融機関が業務展開を消極化する中、わが国の金融機関が、アジアで果たす役割が大きくなっていることなどである。最初に、国際協力銀行（JBIC）・副総裁の渡辺 博史 氏からは、「アジアにおける JBIC の役割とインフラ・ファイナンス」の論題で、アジアで巨額のインフラ投資が予想されていることが示され、その資金需要に対して JBIC が果たしうる役割が詳細に説明された。次に、財務省国際局地域協力課長の中村 修 氏が、「アジ

アにおける金融協力」を論題にして報告した。財務省と日銀が、日本国債を担保とした資金調達スキームによって邦銀をバックアップする取組みなどが紹介された。第三報告の山田 能伸 氏（ドイツ証券）は、「アジアにおける日本の金融機関の成長機会」の論題で、邦銀がシンジケートローンやプロジェクトファイナンスなどに躍進している様子を豊富なデータとファクト・ファインディングとともに明らかにした。第四報告の山口 昌樹 氏（山形大学）は、「アジアにおける外国銀行の展開―タイと中国を中心に」の論題で、タイと中国などで外国銀行が、ホールセールのみならず自動車の割賦金融などリテール業務を展開している様子を示した。

本大会が開催された頃は、アジア諸国のバブル崩壊と景気減速が喧伝され、その影響で日米の景気回復にも長期停滞論が高まっていた。しかし同時に、高い成長のポテンシャルを予想して、日本の金融機関がアジアで積極的に業務を展開する傾向も続いていた。そうした時期に、アジアの成長と日本の金融の関係についての問題意識を濃厚に打ち出した大会となったことが、大きな特徴であった。

一橋大学での学会開催の思い出

一橋大学　小西　大

2005 年に刊行された『日本金融学会 60 年の歩み』を紐解いてみると、一橋大学ではほぼ十年ごとに金融学会が開催されてきたことが分かる。私自身は、2003 年春季大会と 2013 年春季大会の本学開催に際し、準備委員会メンバーとして大会準備・運営に携わることになった。以下では、『60 年の歩み』、大会プログラム等を参考に、戦後、一橋大学で開催された 7 回の全国大会を振り返ることとしたい。

1957 年度春季大会（6 月 2 日・3 日、一橋大学一橋講堂）では、共通論題として「わが国発券制度の問題点」が取り上げられ、田辺博通氏（大蔵省）、呉文二氏（日本銀行）、飯田善雄氏（三井銀行）、岡崎保氏（九州大学）による報告・討論が行われた。また、9 件の自由論題報告が行われた。

1962 年度春季大会（6 月 6 日・7 日、一橋大学一橋講堂・如水会館）では、共通論題として「経済成長と適性通貨供給」が取り上げられ、浅野義光氏（経済企画庁）、石田定夫氏（日本銀行）、矢尾次郎氏（神戸大学）、塩谷九十九氏（名古屋大学）による報告・討論が行われた。また、8 件の自由論題報告が行われた。

1973 年度春季大会（5 月 23 日・24 日、一橋大学一橋講堂）では、共通論題として「金融政策の新傾向」が取り上げられ、西川元彦氏（日本銀行）、井上薫氏（三菱銀行）、川口慎二氏による報告・討論が行われた。また、7 件の自由論題報告が行われた。

1983 年度春季大会（5 月 7 日・8 日、一橋大学如水会館）は 40 周年記念大会として開催され、共通論題として「金融政策の再評価」が取り上げられ、江口英一氏（日本銀行）、竹内宏氏（日本長期信用銀行）、後藤新一氏（三井銀行）、香西泰氏（東京工業大学）、島野卓彌氏（学習院大学）による報告・討論が行われた。また、14 件の自由論題報告が行われた。さらに、前川晴雄日本銀行総裁を招き、「日本銀行の使命－第 2 世紀を迎えて－」をテーマに 40 周年記念講演が行われた。

1992 年度春季大会（6 月 6 日・7 日、一橋大学国立キャンパス）では、共通論題として「銀行の公共性と信用秩序」が取り上げられ、小谷雅貴氏（日本銀行）、後藤新一氏（三井銀行）、吉田暁氏（武蔵大学）、池尾和人氏（京都大学）による報告・討論が行われた。また、25 件の自由論題報告が行われた。

2003 年度春季大会（5 月 31 日・6 月 1 日、一橋大学記念講堂）は 60 周年記念大会として開催され、共通論題として「デフレと金融市場」が取り上げられ、王雅范氏（中国国家外国為替管理局（中国 SARS の影響により紙上参加））、斉藤惇氏（産業再生機構）、伊藤隆敏氏（東京大学）、水谷研治氏（中京大学）による報告・討論が行われた。また、中央銀行パネルと国際金融パネルで 6 件、自由論題で 44 件の報告が行われた。さらに、福井俊彦日

本銀行総裁からは「金融政策運営の課題」、バーナンキ米国連邦準備理事会理事からは「Some Thoughts on Macroeconomic Policy in Japan」をテーマに特別講演が行われた。

2013 年度春季大会（5 月 25 日・26 日、一橋大学国立キャンパス）は、70 周年記念大会として開催された。共通論題では、「グローバル金融とガバナンス」をテーマに、伊藤隆敏氏（東京大学）、天谷知子氏（東京大学）、八田進二氏（青山学院大学）が報告、深尾光洋氏（慶應義塾大学）、翁百合氏（日本総合研究所）が討論を行った。金融危機の国際的波及及び危機を制御するガバナンスの欠如という現実の経済問題を踏まえたテーマに対する学会員の関心は高く、フロアからの質疑応答も含め活発な議論が行われた。また、ジャン・ティロール教授（トゥールーズ第一大学）と黒田東彦日本銀行総裁を招いて特別講演を行った。ティロール教授には「What Future for the Eurozone Governance?」という共通論題とも密接に関連した演題で講演していただいた。黒田日本銀行総裁には「量的・質的金融緩和と金融システム ー活力ある金融システムの実現に向けてー」という演題で講演していただいた。量的・質的緩和を通じた物価上昇の達成を目標に掲げて同年 3 月に総裁就任した直後であったこともあり、黒田総裁の講演は各種メディアにも注目され、非常に盛況であった。以上に加えて、本大会では 2 つのパネル（金融史パネル、中央銀行パネル）と 1 つの特別セッション（日韓交流セッション）、39 件の自由論題報告が行われた。これらのうち 18 件が英語で執筆された論文の報告であり、研究成果を海外に向けて発信する学会員の増加傾向が見受けられた。

一橋大学で開催された過去の大会を振り返ると、金融学会が産官学の交流の場として機能してきたことが分かる。とりわけ記念大会となった 1983 年、2003 年、2013 年春季大会では、いずれも日本銀行総裁に各時点で最もタイムリーな演題でご講演いただき、有意義な議論を交わすことができた。金融学会の発展が、学会員のみならず、金融に関わる様々な諸先達の努力・協力の賜であることを改めて感じた次第である。

最後に、大会開催にご協力いただいた大勢の方々に感謝申し上げ、擱筆することとする。

名古屋大学での全国大会開催

名古屋大学　**金井雄一**（大会準備委員長）
名古屋大学　**家森信善**（大会準備副委員長）
愛知大学　**栗原　裕**（プログラム委員長）

2013 年度秋季大会は 9 月 21 日、22 日の両日、名古屋大学東山キャンパスで開催された。大会準備委員長は金井雄一（名古屋大学）、副委員長は家森信善（名古屋大学）、プログラム委員長は栗原裕（愛知大学）が担当した。共通論題報告、自由論題報告に加えて、震災復興金融パネル、国際金融パネル、特別セッション「アベノミクス」が設けられ、さらに特別講演、会長講演も行なわれた。多数の研究者や実務家が 5 つの会場で活発な討論を繰り広げた。

第 1 日の震災復興金融パネルは 2012 年度春季大会からの継続で、「震災時の中小企業金融」について、鴨池治氏（東北福祉大）が座長、小野有人（みずほ総合研究所）、西山慎一（東北大学）、荒波辰也（東日本大震災事業者再生支援機構）の諸氏が報告者、増島雄樹（日本経済研究センター）、地主敏樹（神戸大学）両氏が討論者を務め、復興の進捗状況とともに、二重ローンなどの諸問題について議論がなされた。なお、この震災復興金融部会の成果は、日本金融学会の学会誌『金融経済研究』の特別号として 2014 年 1 月に刊行された。

もう 1 つの国際金融パネルでは、座長を藤田誠一氏（神戸大学）が務め、「国際資金フローと世界金融危機」について議論した。藤田・松林洋一（神戸大学）・北野重人（神戸大学）の諸氏に加えて、中空麻奈（BNA パリバ証券）、加藤涼（日本銀行）両氏の報告があり、近年の世界経済における問題に対して学界と実務界双方から多面的な接近が試みられた。

特別講演と会長講演は第 1 日の午後に実施された。まず、特別講演においては内藤純一氏（全国信用協同組合連合会理事長）が、「信用組合の課題と全国信用協同組合連合会（全信組連）の今後の役割」と題して、現状と問題点を解説された。続く会長講演では、藤原秀夫会長が「市場の均衡および不均衡における信用創造と貨幣供給 ― 閉鎖経済と開放経済 ― 」について自身の研究を紹介し、市場均衡と信用創造の関係について、市場（貨幣市場・証券市場）の相違、調整過程を明示したモデルを展開した。

第 2 日には、特別セッションと共通論題が行なわれた。アベノミクスを検討するために設けられた特別セッションでは、水谷研治氏（東京福祉大学）が座長を務め、本多佑三（関西大学）、小幡績（慶應義義塾大学）、矢嶋康次（ニッセイ基礎研究所）、GongPil Choi（The Korea Institute of Finance）の諸氏が報告、地主敏樹氏（神戸大学）が討論者となった。さらに権純珍氏（日本経済大学）がセッションのサポート役を務めた。会場を含めた議論では、座長を交え活発な議論が展開された。

プログラムの最後になった共通論題では、「1932 年日銀引受国債発行はどのようにして始

まり、終わったのか？」とのテーマを掲げ、座長・靏見誠良氏（法政大学）の運営の下、永廣顕（甲南大学）、佐藤政則（麗澤大学）、伊藤正直（大妻女子大学）の諸氏が報告し、春井久志（関西学院大学）、須藤功（明治大学）、浅井良夫（成城大学）の諸氏がコメントを行なった。

大会では上記の他にも 35 本の自由論題報告が行なわれ、各々の専門テーマに関心を抱く会員が集まり、熱心な討議を展開した。

名古屋大学での開催は 1987 年以来、26 年ぶりのことであり、不慣れなことも多く、至らぬ点も多かったが、天候にも恵まれ、予想以上の会員に参加していただけた。プログラム委員会の立上げから当日の最終プログラムが終了するまでの間、協力を惜しまれなかった関係各位ならびに会員諸兄に、この場を借りて心から感謝申し上げたい。

共通論題

準備スタッフ（大会終了後）

第Ⅲ部
部会活動の記録

【部会一覧】

北海道部会	関東部会
中部部会	関西部会
西日本部会	歴史部会
国際金融部会	中央銀行部会
震災復興金融部会	

日本金融学会 70 年史

北海道部会報告

北海学園大学　小林真之

北海道部会は年 2 回程度を目処に部会を開催している。北海道部会は以前には大学関係者および日銀札幌支店および道内民間銀行実務家も参加した研究会として運営されてきたが、1998 年以降には部会参加者は大学関係者だけに限定されているのが現状である。地域社会の活性化が叫ばれ、また銀行界の状況も比較的安定してきている昨今であるので、銀行実務家をふくめた部会運営を再開できないかと思案しているところである。

北海道部会の運営上で問題となるのは部会会員数が少ないこと、および北海道という地域的に広い範囲を包摂していることである。部会は基本的に札幌周辺の大学会議室で開催されているが、遠距離からの会員（釧路、旭川など）の交通費負担が参加のネックとなっている。これらの会員の方たちが参加しやすいように、交通費補助を検討する必要があると思われる。

また北海道部会は他の地域部会と比較して会員数が最も少なく、こうした事情は部会報告者を確保することを難しくしている。最近の部会プログラムをみればわかるように、北海道部会では他の部会会員に報告を依頼して、報告者を確保しているのが現状である。他部会会員に報告してもらうことは、他部会の研究者との人的交流につながり、多様な研究テーマに関する報告に接することが出来るという意味で、部会関係者にとり良い刺激となっていると思われ、今後とも継続していくことが望ましいだろう。

だが遠距離の他部会会員に報告を依頼するには少額ではあるが交通費・宿泊費の補助をしなければならず、ここでも財政的な問題がでてくるだろう。現在金融学会には「部会活性化費」が予算に計上されているが、この使途は金融学会以外の会員を部会に招聘する目的に限定されており、遣い勝手が悪い。この予算を金融学会の他部会に属する会員を招聘する目的にも拡大されることが望まれる。

中部部会の活動状況

名古屋大学　**金井雄一**

中部部会は10名前後からなる幹事会によって運営されている。幹事会では、中部部会が「研究報告会」と呼んでいる部会の開催場所やプログラムの決定、経費支出に関する相談、決算の確認などが行なわれる。責任者として部会長が置かれているが、2001年度までその職を務めておられた千田純一先生が日本金融学会の第9代会長に就任（02年5月）された後は、02年度から鐘ヶ江毅先生、04年度から根津永二先生、06年度から奥野博幸先生、08年度から荒井好和先生、10年度から金井雄一が務めている。幹事はこの間に何人か交代されたが、現時点では荒井好和、内田滋、小林毅、栗原裕、沈徹、前田真一郎、三井哲、家森信善、横山和輝の諸先生と金井である。

部会の会場は主に幹事の勤務校を候補にして決められていく。以前の運営慣習の影響が残っていたために中京大学に特に負担をかける時期があったが、現在は概ねローテンションになっている。ちなみに最近は、名城大（10年9月）、中京大（11年3月）、名古屋市立大（11年8月）、中京大（12年3月）、愛知淑徳大（12年8月）、名古屋大（13年3月）といった状況である。また、2008年度までは6月、11月、3月と3回の研究報告会を開催するのが定例になっていたが、近年における大学教員の繁忙化等の状況変化に抗しきれず、2009年度から、春・秋の全国大会の合間を縫って夏と年度末に開催する2回制に移行した。しかし、部会活動自体は決して収縮していない。昨今は諸々の学会で部会活動が沈滞しているという話を聞くことが多いが、中部部会は毎回30名前後の参加者が熱心に討議を行なっている。

この部会の特徴の一つは、実務界からの参加が少なくないことである。実務家から出される、大学の研究者とは異なる視点からの議論は、金融研究が悪い意味でのアカデミズムに陥ることを防いでくれていると言えよう。このような特徴はもちろん日本金融学会全体について言えることであるが、中部部会が特にその特徴を顕著に持つことができているのは、60年史（『日本金融学会60年の歩み』）に千田純一先生が記しておられるように、1990年代に中部地区の銀行・証券会社等々との交流関係拡充に尽力された故・沈晩燮先生のおかげである。我々は、この良き伝統を維持すべく、実務家の方々には単に参加いただくだけでなく、報告者・討論者を積極的に務めていただくようにしている。一部を挙げておくと、北川彰男氏（木村証券）「株式市場における不思議な出来事への挑戦 ― 株価の暴落はなぜ発生したのか？」（08年11月）、奥田真之氏（十六銀行）「最近における東海地域の企業動向の変化について ― 企業金融を中心として」（09年3月）、山田功氏（中日信用金庫）「信用金庫業務運営の現状 ― リスク管理を中心に」（10年3月）、川津昌作氏（川津商事）「日本の都市構造と金融の問題」（11年8月）などの報告が行なわれている。

中部地方の場合、首都圏や関西地域に比べて会員数が少ないため、専門家が十分に揃っていないという分野がかなりあるのは否定し難く、それが中部部会の弱みであるのは確かだが、その弱みを逆に生かすべく、報告者については遠隔地在住者にも広く門戸を開き、討論者も中部地方以外になるのを厭わず、可能な限り適任者を招聘するように努めている。幸い学会本部から運営費の支援を頂いていることもあり、この 10 年を振り返ると、日本銀行、日本政策投資銀行、三菱東京ＵＦＪ銀行など東京の金融機関に勤務されている方々および東京、大阪、広島などの大学に在籍の方々を、約 20 名お招きしている。

部会における研究報告の内容に関して一定の傾向を指摘することは難しいが、報告者としては大学院生を含む若手、中堅、古参が大きな偏りなく登場するし、報告テーマについても理論、実証、歴史等が、あるいは地域金融、日本および外国の金融、国際金融等が、比較的バランス良く取り上げられている。毎回 3 本程度の報告を用意する必要があるので、まれに報告者不足に見舞われる場合も生じるが、その際には大家に御出馬願うことになる。たとえば水谷研治先生には、「銀行の役割と地域銀行の必要性」（06 年 3 月）、「経済政策の目標と効果」（13 年 3 月）などの報告を行なっていただいた。

なお、他の部会もおそらく同様であろうが、中部部会でも研究報告会終了後に毎回懇親会が開催される。会場担当校のお世話によって文字どおり懇親を深める機会が提供されるわけであるが、会場風景を見ていると懇親のみに留まらず、いわゆるアフターセッションの場としても機能しているように感じられる。それゆえ、ぜひ維持したい慣習である。

関西部会

神戸大学　**藤原賢哉**

関西部会の設立は、地域部会の中では最も古く、1943 年 12 月に第 1 回会合が開催されたとの記録が残っている（『日本金融学会の 60 年』）。しかし、残念ながら、毎年の開催状況については詳細な記録が残っておらず、金融学会のホームページが立ち上がる以前の報告タイトルや報告者等については不明な点が多い。そこで、以下では主に、私が関西部会の幹事を担当していた時（2006 年~2012 年）の関西部会の概要と課題について書き記すことにしたい。

関西部会の運営に関しては、京阪神の複数の大学関係者が共同で幹事となり、報告者や開催場所に関して決定を行っている。私が部会の幹事を担当していた頃は、田中敦（関西学院大学）、宇恵勝也（関西大学）、鹿野嘉昭（同志社大学）の各氏が幹事であり、現在は、高屋定美（関西大学）、植田宏文（同志社大学）、岡村秀夫（関西学院大学）の各氏が部会運営に携わっている。また、開催通知等の事務的な作業については、従来は、神戸大学経済経営研究所の研究助成室が、はがきの郵送等により通知と出欠等の管理を行っていたが、メールが普及した現在では、部会メーリングリストや学会 HP を通じて事務的作業を行っている。

開催の頻度は、年 1 回の場合が多いが、2008 年から 2011 年に関しては、年に 2 回開催している（土曜日開催。但しそのうちの 1 回は神戸大学金融研究会と共催）。また、予算等については、当初は本部からの部会経費として年間 10 万円が支給されていたが、学会予算の逼迫に伴い、現在は 5 万円となっている。おもな支出項目は、会場使用費、学生アルバイト代、部会当日の茶菓子代である。このうち、会場使用費に関しては、上述のとおり、各大学の教室等を利用することが多いので、今のところ、大きな負担とはなっていないが、将来的には、大学の教室に関しても各大学が使用料を徴収する傾向にあり、今後、予算面で問題となるかもしれない。また、10 年以上前においては、部会終了後、簡単な懇親会（サンドイッチ等）を開催していた時もあったが、現在は、公式には行われていない。

次に、報告テーマと報告者についてであるが（この１０年間の報告テーマ・報告者は下記の表の通りである）、テーマ的には、金融のミクロ・マクロ分野のみならず、会計、保険、財政等の周辺分野やカレント・トピックス（サブプライムローン問題、大阪証券取引所のこれから）も含み、大学研究者のみならず実務家による報告も少なくない。テーマや報告者が多様である背景には、日本のバブル経済の崩壊、世界金融危機、ゼロ金利政策など、日本を取り巻く金融環境がこの 10 数年で大きく変わったことと無関係ではないであろう。また、別の見方をすれば、20 年前ぐらいに比べると、金融論の学問としての分野が細分化され、包括的なテーマに関する報告が少なくなってきているとも言える。

次に、部会報告の水準に関しては、従来は、アイデアの段階を少しまとめた感じの報告もあったと記憶しているが、最近は、英語でのドラフト原稿が既に出来上がっている段階で発表されることが多く、関西部会で報告された論文が、その後に、金融経済研究や英文ジャーナルに掲載されるケースも見受けられる。この傾向は、大変望ましいが、一方で、報告者がややシニア世代に集中している（院生等の若手研究者の報告が少なくなっている）点は気がかりである。

最後に、関西部会が抱えている課題等について言及しておくことにしたい。上記では、関西部会の特徴としてテーマや報告者の多様性を指摘したが、その一方で、各会の参加者数がそれほど多くはなく、また、参加者の範囲が限定されるという問題がある。この背景には、１）金融論のテーマの細分化、２）同様の研究会等の開催、３）大学教員の多忙等（社会人向けの授業・審査、入試・広報等の行事、会議等の増大）の要因が考えられるが、１と２）についてはアカデミックな事柄で致し方ないとしても、３）は、大学を取り巻く環境の変化（厳しさ）を反映したものであり、研究活動とは直接には関係のない理由で部会活動が影響を受けているとすれば、深刻に捉える必要がある。

また、上で少し言及したが、近年の部会では、若手研究者（とくに大学院生）による報告が減少しており、部会の活性化・議論の活発化という点で少し問題であると思われる。過去においては、院生等は部会でまず報告し、そしてある程度「鍛えられてから」全国大会で発表するという流れがあったように感じているが、現在は、直接、全国大会に発表の申し込みをするケースが圧倒的に多く、若手院生の「修練の場」としての位置づけは弱まってきている。個人的な事柄で恐縮ではあるが、筆者などは、大学院生時代に関西部会で発表の機会を得たことで、他大学の先生方から有益なアドバイスを頂き、また、同世代の同じテーマを持つ研究者と知り合いになり、その後、研究面で多くの刺激を受けた。しかし、多様な研究会が存在している現在では、部会にこのような機能を求めることは一種のノスタルジーなのかもしれない。

但し、上記の問題についても、テーマや開催用日・会場等を工夫することで、ある程度改善は可能であると思われる。例えば、地域金融をテーマとし、大阪（関西学院大学梅田キャンパス）を会場として開催した時には、関西以外（中四国）の大学関係者の出席も少なからずあった。また、近年の経済経営系の学部では社会人大学院（MBA コース）を設けるところも増えてきており、（無条件ではないにせよ）MBA 学生およびその OB（修士号取得者）に部会への参加を認めることも部会の活性化に役に立つと思われる。

日本金融学会 70 周年史地域部会記録（2004 年～2013 年）

西日本部会

九州大学　川波洋一

西日本部会がカバーする地域については明確な地理的限定ができる訳ではないが、九州・沖縄、山口、広島、島根、岡山、愛媛、高知の各県所在の大学に所属しておられる会員の方々に案内状をお送りしてきた。2009 年度に部会案内の完全電子メール化を実施し、2014 年 1 月現在、学会ホームページのアドレス帳を用いて部会案内をお送りしている会員数は 141 名である。

また、部会の報告をしていただく会員の所属や、部会の開催をお引き受けいただく機関（殆どが大学）も、この地域に分散している。

西日本部会では、日本金融学会の創立 61 周年に当たる 2004 年から 70 周年に当たる 2013 年まで 10 年間に、計 25 回の部会大会を行ってきた。その間の、総報告本数は、86 本となっている。2014 年 3 月開催予定の 2013 年度第 2 回例会の分は、開催数としては上記の数に含めるが、報告数はプログラムが未確定であるために計算していない。

すなわち、開催回数は、2004 年度 3 回、2005 年度 3 回、2006 年度 3 回、2007 年度 3 回、2008 年度 3 回、2009 年度 2 回、2010 年度 2 回、2011 年度 2 回、2012 年度 2 回、2013 年度 2 回となっている。報告本数は、2004 年の第 1～3 回例会は各 4 本、計 12 本、2005 年度の第 1～2 回例会は 3 本、第 3 回例会は 2 本、2006 年度の第 1 回例会は 3 本、第 2 回例会 4 本、第 3 回例会は 2 本、2007 年度の第 1 回例会は 3 本、第 2 回例会は 5 本、第 3 回例会は 2 本、2008 年度の第 1 回例会は 2 本、第 2 回例会は 5 本、第 3 回例会は 2 本、2009 年度第 1 回例会は 2 本、第 2 回例会は 7 本、2010 年度第 1 回～2 回例会は各 3 本、2011 年度第 1 回例会は 4 本、第 2 回例会は 3 本、2012 年度第 1 回例会は 7 本、第 2 回例会は 4 本、2013 年度第 1 回例会は 5 本となっている。2008 年までの 5 年間における報告本数は 48 本、2009 年度から 2013 年度（第 2 回例会は現在準備中）までの報告本数は 38 本となっている。2004 年度から 2008 年度までの 5 年間は毎年 3 回例会を開催していたが、2009 年度からは毎年 2 回の開催となっている。2009 年度以降、毎年の開催回数が 2 回に減っている分、1 例会ごとの報告本数は増えている。2004 年から 2008 年度までの 5 年間における 1 例会の平均報告本数は 3.2 本であるのに対して、2009 年度から 2013 年度にかけての 1 例会当たり平均報告本数は 4.2 本となっている。これは、2009 年あたりから、他の学会部会との日程上の調整等が難しくなり、年 3 回の例会開催が物理的に困難な状況になっていることを反映している。

西日本部会において取り上げられているテーマは、金融理論、銀行業の歴史、地域金融、

国際金融、各国金融（アメリカ、アジア、ヨーロッパ、中央アジア、北アフリカ等)、金融危機等、広範な領域にわたっている。やや細かなトピックとしては、金融制度改革、証券化、電子マネー、東日本大震災と金融、ストック・オプション、グローバル・インバランス、外国為替、国際通貨、マイクロファイナンス、金融政策、銀行合同史、信用情報機関とビッグデータ、EU 金融ネットワーク等々、多様な論点が取り上げられている。全体として、理論や歴史、地域金融や金融業、各国金融分析について当部会の多様な関心を窺わせる報告内容となっている。

中でも、現実的な経済・金融問題の生起を反映して、世界金融危機とそれを取り巻く世界経済・国際金融の状況、東日本大震災や地域金融への影響、中国や ASEAN を中心とする金融改革、といったテーマに主要な関心が寄せられていることが一つの特徴である。ただし、この数年先進資本主義国において政策的・理論的に大いに論じられているいわゆる「量的金融緩和政策」については、当部会において本格的に取り上げた研究報告はまだなされていない。

報告者の年齢層も、大学院生、大学の若手研究者、シニアクラスの研究者と、比較的バランスのとれた構成となっている。ただし、西日本地域の会員の構成の特徴の一つでもあるが、実務界からの報告者の数は多くなく、殆どが大学教員あるいは大学院生によるものである。そのなかで、2007 年に地元地方銀行頭取によるご報告をいただけたのは、貴重なことであった。

部会の開催地域については、可能な限り、西日本の広範な地域にわたるように企画してきた。現実には、開催地としては福岡が最も多く、そのほか北九州、佐賀、大分、熊本、鹿児島といった都市所在の大学に開催をお願いしてきた。

また、特にこの 10 年間において見られた特徴の一つとして、海外からの留学者の研究とその研究発表の機会が目立つようになったことがある。当西日本部会においても、中国、タイ、スロバキア、カザフスタン、アメリカといった国々の留学生が、英語や日本語で研究発表の機会を持ったことは、近年の目立った特徴と言わなければならない。彼らは、地域部会での研究発表を踏まえて、全国大会へチャレンジする機会をとらえようとしており、その意味で、日本人大学院生と対等に競争しながら、研究能力を向上させようとしている。

西日本部会としては、今後も、報告者（年齢と所属大学)、報告テーマ、開催地域の多様性を図りながら、部会運営を行っていくことが肝要であると考えている。

歴史部会

日本大学　岸田　真

本稿（項）では，齊藤壽彦氏の執筆による『日本金融学会 60 年の歩み』の「歴史部会史」で取り上げられた 2003 年度までの部会活動史をふまえ, 2004 年度から 2013 年度までの直近 10 年間における歴史部会の運営および活動状況について執筆する。

１．運営体制

直近 10 年間における幹事は，佐藤政則氏（麗澤大学：2001 年春季～2005 年春季），矢後和彦氏（首都大学東京・現早稲田大学：2005 年春季～2008 年春季），邉英治氏（横浜国立大学：2008 年春季～2011 年春季），岸田真（日本大学：2011 年春季～）が務めている。

開催場所については，佐藤氏および陳玉雄氏（麗澤大学）の協力のもと，主に麗澤大学東京研究センター研究会室（新宿）を使用し，同施設の利用が困難な場合には幹事所属校の会議室等で開催されている。活動にあたっては学会からの部会活動費の交付を受けており，遠方からの報告者に対する旅費の補助および大学院生等の会員の報告に対する資料代補助など，部会の活性化の一助として有効に活用している。

２．活動状況

表1　歴史部会の開催状況

年度	開催数	報告数	延べ出席人数
2004	4	8	140
2005	4	8	89*
2006	4	8	76
2007	4	8	57
2008	4	8	63
2009	4	8	94
2010	2	4	55
2011	3	6	39
2012	3	5	67
2013	3	6	24**
計	35	69	591

*4回開催中2回分の出席人数
**3回開催中2回分の出席人数

直近 10 年間における歴史部会の開催状況を表 1 に示した。歴史部会はおおむね年 3 回から 4 回開催しており，１回の部会において 2 報告を行うのが通例となっている。毎回の出席者はおおむね 15～20 名である。

報告者の内訳をみると，大学院生（研究生等を含む）が 23 報告と，全体の約 30% を占めており，本部会が若手研究者の研究発表と討論の場としての役割を果たしているといえよう。また，大学の研究者のみならず，日本銀行および各金融機関の行員および OB による報告・出席が多いのも歴史部会の特色の一つといえる。

次に，歴史部会における報告論題を年代・地域別に分類したものが表 2 および表 3 である。時代別にみると，19 世紀以前を対象とする報告は約 2 割であり，8 割が 20 世紀～現代

表2　歴史部会報告の時代別内訳

時代区分	報告数
19世紀以前	13
20世紀（WW2前）	19
現代（WW2後）	27
計	69

注：複数期間にまたがる場合は開始期を基準とした。

表3　歴史部会報告の地域別内訳

地域区分	報告数
日本	38
アジア	11
欧米	15
その他地域・国際機関	5
計	69

を対象としている。このうち第2次大戦後の研究は約半分であり，研究の中心が戦後にシフトしつつあることがうかがえる。

地域別にみると，日本を対象とした研究と海外を対象とした研究の比率は55:45とほぼ均衡しており，近年では，IMFやBISなど，国際金融機関の活動に関する研究が増えている。

３．むすび

以上が直近10年間における歴史部会の活動状況であるが，日本金融学会における歴史部会の歴史は古く，これまで歴史研究と金融論の理論・実証研究の橋渡しの場としての役割を果たしてきた。2013年度秋季大会（名古屋大学）の共通論題として「1932年日銀引受国債発行はどのようにして始まり、終わったのか？」が開かれたように，現代における金融市場・金融政策等の問題を考える上で歴史的観点はますます重要となっている。今後も，日本金融学会の各学問領域の境界を超えた長い時間軸での議論を行う場として，歴史部会を活性化させてゆきたい。

国際金融部会

一橋大学　小川英治

2004 年度～2013 年度における国際金融部会の主な活動としては、全国大会における国際金融パネルと部会における研究報告会と共催による国際会議が開催された。

全国大会における国際金融パネルは、2013 年度春季大会を除いて、19 回行われた。「国際金融パネル」のテーマと報告者・討論者は以下のとおりである。【】内はメインテーマ。

① 2004 年度春季【人民元をめぐる諸問題】座長：村瀬哲司（京都大学）、報告者：大西義久（金融情報システムセンター）・白井早百合（慶應義塾大学）・劉昌黎（東北財経大学）、討論者：寿崎雅夫（専修大学）・柯隆（富士通総合研究所）

② 2004 年度秋季【アメリカ経常収支赤字と国際通貨システムの安定性】座長：藤田誠一（神戸大学）、報告者：小川英治（一橋大学）・小野亮（みずほ総合研究所）、討論者：田中素香（中央大学）・東條吉朗（経済産業省）

③ 2005 年度春季【望ましいアジア通貨制度のあり方について】座長：佐々木百合（明治学院大学）、報告者：伊藤隆敏（東京大学）・河合正弘（東京大学）・ 吉冨勝（経済産業研究所）、討論者：吉野直行（慶應義塾大学）

④ 2005 年度秋季【金融業多国籍化の新段階】座長：岩田健治（九州大学）、報告者：川本明人（広島修道大学）・伊鹿倉正司（東北学院大学）・高安健一（日本総合研究所）、討論者：内田真人（日本銀行）・家森信善（名古屋大学）

⑤ 2006 年度春季【欧州通貨統合と新規加盟国】座長：Mariusz Krawczyk（龍谷大学）、報告者：Eduard Hochreiter（オーストリア中央銀行・ウィーン大学）・浜矩子（同志社大学）、討論者：星野郁（立命館大学）

⑥ 2006 年度秋季【IMF 改革と今後の課題】座長：勝悦子（明治大学）、報告者：有吉章（IMF）・ 渡辺賢一郎（日本銀行）・渋谷浩（小樽商科大学）

⑦ 2007 年度春季【東アジア金融市場】座長：矢野順治（広島大学）、報告者：猪口真大（京都産業大学）・小松正昭（広島大学）・清水順子（明海大学）、討論者：吉野直行（慶應義塾大学）・福田慎一（東京大学）

⑧ 2007 年度秋季【アジア通貨危機から 10 年：地域金融協力の進展と今後の行方】座長：小川英治（一橋大学）、報告者：伊藤隆敏（東京大学）・河合正弘（アジア開発銀行・東京大学）・浅川雅嗣（財務省）

⑨ 2008 年度春季【サブプライムローン問題：現状と展望】座長：佐々木百合（明治学院大学）、報告者：五十嵐敬喜（三菱 UFJ ﾘｻｰﾁ＆ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ）・氷見野良三（金融庁）・植田和男（東京大学）

⑩ 2008 年度秋季【ドルとユーロ：基軸通貨の将来】座長：藤田誠一（神戸大学）、報告者：岩田健治（九州大学）・福永一樹（国際通貨研究所）・ 畑瀬真理子（日本銀行）

⑪ 2009 年度春季【世界金融危機】座長：小川英治（一橋大学）、報告者：伊藤隆敏（東京大学）・河合正弘（アジア開発銀行）・渡辺博史（日本政策金融公庫）

⑫ 2009 年度秋季【グローバル・インバランスと世界金融危機】座長：藤田誠一（神戸大学）、報告者：田中素香（中央大学）・岩壷健太郎（神戸大学）・白井早百合（慶應義塾大学）、討論者：竹中正治（龍谷大学）・清水聡（日本総合研究所）

⑬ 2010 年度春季【アジア共通通貨の可能性】座長：栗原裕（愛知大学）、報告者：浅川雅嗣（財務省）・清水谷諭（世界平和研究所）・高橋亘（日本銀行）、討論者：小川英治（一橋大学）・村瀬哲司（龍谷大学）

⑭ 2010 年度秋季【国際金融理論の新潮流―開放型ニューケインジアンモデルの可能性】座長：高屋定美（関西大学）、報告者：藤原一平（日本銀行）・塩路悦朗（一橋大学）・田端克至（二松学舎大学）、討論者：須齋正幸（長崎大学）・北野重人（神戸大学）

⑮ 2011 年度春季【日本企業の海外戦略と為替戦略】座長：佐藤清隆（横浜国立大学）、報告者：清水順子（専修大学）・木村福成（慶應義塾大学）・村岡直人（本田技研工業株式会社）、討論者: 伊藤隆敏（東京大学）・森川正之（経済産業研究所）

⑯ 2011 年度秋季【為替予測の実際】座長：林康史（立正大学）、報告者：岩壷健太郎（神戸大学）・田中泰輔（野村證券）・高島修（シティバンク銀行）

⑰ 2012 年度春季【欧州財政危機の要因とその世界的波及】座長：清水順子（学習院大学）、報告者：嘉治佐保子（慶應義塾大学）・鯉渕賢（中央大学）・西沢利郎（国際協力銀行）、討論者: 田中素香（中央大学）・土居丈朗（慶應義塾大学）

⑱ 2012 年度秋季【日中金融協力と国際システム】座長：勝悦子（明治大学）、報告者：栗原毅（財務省）・露口洋介（信金中央金庫）・鳥谷一生（京都女子大学）、討論者：上川孝夫（横浜国立大学）

⑲ 2013 年度秋季【国際資金フローと世界金融危機】座長：藤田誠一（神戸大学）、報告：松林洋一（神戸大学）・藤田誠一（神戸大学）・北野重人（神戸大学）・中空麻奈（BNP パリバ証券）・ 加藤涼（日本銀行）

部会における研究報告会は、年度の前半には関西で、後半には関東で総計 15 回開催され、毎回 2 人あるいは 3 人の報告者が研究論文を発表し、参加者とのディスカッションが行われた。なお、関西では、神戸大学、関西学院大学、大阪市立大学、関西大学、龍谷大学、近畿大学、同志社大学、大阪経済大学において持ち回りで開催され、関東では一橋大学及び 2012 年度以降明治学院大学で開催された。

国際会議は、他の機関等と共催して、開催された。2007 年 3 月 25 日＠一橋大学に EUIJ 東京と共催で国際シンポジウムが開催され、海外の報告者は、Miklos Szanyi (Hungarian Academy of Sciences)、Gyoergy Szell (University of Osnabrueck)、Gunther Schnabl (Leipzig University)、Agnès Bénassy-Quéré (CEPII) であった。2007 年 9 月 11 日＠一橋

大学に EUIJ 東京と共催で国際シンポジウムが開催され、海外の報告者は、Agnes Belaisch (IMF, Office in Europe）、Roberto Artoni (Bocconi University）、Francesco Drudi (ECB) であった。2007 年 11 月 23 日＠神戸大学に日本 EU 学会と EU インスティテュート関西と共催で国際ワークショップ【EU 拡大とその経済効果】が開催され、海外の報告者は、Michael Reiterer（University of Innsbruck）、Julia Spies (University of Hohenheim）、Ansgar Belke (University of Duisburg-Essen)、Jarko Fidrmuc (University of Munich and CES-Ifo) であった。2008 年 7 月 19 日＠一橋大学に EUIJ 東京と Bocconi University と共催で国際コンファレンスが開催され、海外の報告者は、Carlo Altomonte (Bocconi University)、Francesco Passarelli (Bocconi University)、Carlo Secchi (Bocconi University) であった。2009 年 2 月 23 日＠一橋大学に EUIJ 東京と共催で国際コンファレンスが開催され、海外の報告者は、Jens Hölscher (University of Brighton)、Jarko Fidrmuc (Ludwig-Maximilians University）、Agnès Bénassy-Quéré (CEPII) であった。2009 年 12 月 12 日＠慶應義塾大学に EUSI in Tokyo と共催で国際コンファレンス【The Financial Crisis: Learning from Europe, Learning from Japan】が開催され、海外の報告者は、Carlo Altomonte (Bocconni University）、Helmut Wagner (University of Hagen）、Iain Begg (London School of Economics) であった。2010 年 12 月 11 日＠一橋大学と 2011 年 12 月 10 日＠慶應義塾大学に EU Studies Institute (EUSI) in Tokyo と共催で国際コンファレンス【Who will provide the next Financial Model? Asia's Financial Muscle and Europe's Financial Maturity】が開催され、海外の報告者は、Iain Begg (London School of Economics)、Francecso Drudi (ECB)、Alicia Garcia-Herrero (BBVA Hong Kong)、Carlo Altomonte (Bocconi University)、Helmut Wagner (University of Hagen)、Paola Subacchi (Chatham House)であった。

中央銀行研究部会（2003~2013 年）

Central Banking Study Group, 2003-2013

関西学院大学　春井久志

本部会が日本金融学会 3 番目の専門部会として 1998 年に設立された背景と経緯については『日本金融学会創立 60 年史』（2005 年、40～41 ページ）に譲り、その後の 10 年間の本部会の歩みとその背景について、以下簡単に記述する。ただ一つ付記するとすれば、部会が正式に承認されるまでの理事会における各理事の間にはセントラル・バンキング研究の意義に関して「かなりの温度差」があり、中央銀行部会設立の意義を高く評価する理事は少数者であったことである。世界経済を震撼させた「サブプライム問題」に端を発する 2008 年 9 月のリーマン･ブラザーズ社の経営破綻とその後の国際的な金融危機を乗り越えるにあたって主要国中央銀行の果たした極めて重要な役割を認識したうえで、1990 年代半ばにおけるこうした温度差を顧みると、昔日の感を禁じえない。

創立 60 周年記念大会以降に開催された 21 回の全国大会のうち、16 回において「中央銀行パネル」が開催された。また、同期間において、合わせて 28 回の中央銀行部会研究会が開催され、ここで合計 57 本の報告が行われた。こうした活動を通じて、中央銀行研究部会は、セントラル・バンキング研究の振興に多少なりとも寄与できたものと言えよう。

この間、日本銀行は「ゼロ金利政策」（1999-2000 年）や「量的緩和政策」（2001-2006 年）など、世界の中央銀行に先駆けて「非伝統的な金融政策」を採用してきた。日本銀行は、セントラル・バンキングの未踏の領域において一種の「実験室」的な役割を果たし、2008 年の「リーマン･ショック」以降の世界金融･経済危機やその後の「ユーロ危機」への対応を余儀なくされた主要な中央銀行政策に対して先鞭をつけることなった。

2012 年の総選挙により第 2 次安倍晋三政権が誕生し、脱デフレ政策として「アベノミクス」が提唱された。2013 年 3 月の白川日本銀行前総裁から黒田新総裁への交代に伴い、4 月には「異次元緩和」もしくは「量的・質的緩和策」がその「三本の矢」の一本として公表された。新政権誕生後から日本の株高と円安が進行し、消費主導の景気回復の兆しも観察されるようになり、10 月には 2014 年 4 月からの消費増税の実施が決断された。消費増税後の「駆け込み需要」の反落による景気の悪化懸念に対して、政府は補正予算を、また日本銀行は、さらなる緩和政策の出動をそれぞれ計画している。これに対して、景気回復が比較的堅調とされるアメリカでは、連邦準備制度理事会（FRB）が 2014 年 1 月からの「緩和縮小策（tapering）」を決断し、ほぼ同時期に B・バーナンキ現議長から J・イェレン新議長へ交代した。デフレ脱却を最優先課題とする日本と、物価の安定と雇用の最大化を”dual mandate”とするアメリカでは、これまで並行してきた「非伝統的金融政策」の方向が逆転する様相を呈しつつある。

「量的緩和策の限界や副作用」や非伝統的な金融政策からの「出口戦略」をめぐる論議が今後活発化し、日本金融学会における議論や報告が一層盛んに展開されるものと予想される。

2003 年秋以降 2013 年秋までの大会における「中央銀行パネル」の主題は、金融危機や金融システムの安定性、量的緩和政策からの出口戦略、新日本銀行法の評価、中央銀行の独立性とガバナンス、EU の拡大、サブプライム問題、日本の長期的デフレ問題、マクロ・プルーデンス政策など、日本や世界経済における主要な変化を直接反映していることが明らかである。以下、その中央銀行パネルの主題を歴史的に提示してみよう。

2003 年秋（滋賀大学）:「中央銀行と金融システムの安定性」
2004 年春（神奈川大学）:「最近の金融政策と市場機能」
同　秋（愛知大学）:「拡大 EU と金融政策」
2005 年春（日本大学）:「中央銀行、金融システム、金融政策をめぐる金融教育の現状」
同　秋（大阪大学）:「日本銀行量的緩和政策からの出口戦略――ソフトランディング・シナリオを目指して――　」
2006 年春（早稲田大学）:「金融危機以降の金融政策を振り返る」
同　秋（小樽商科大学）:「わが国の金融システム安定化の社会的コスト」
2007 年春（麗澤大学）:「新日本銀行法制定から 10 年」
同　秋（同志社大学）:「日・米・欧の金融政策」
2008 年春（成城大学）:「サブプライム問題と中央銀行」
同　秋（広島大学）:「新しい日本銀行の独立性とガバナンス」
2009 年春（東京大学）:「世界金融・経済危機と中央銀行」
同　秋（香川大学）:（不開催）
2010 年春（中央大学）:（不開催）
同　秋（神戸大学）:「中央銀行の近未来像への理論的視座」
2011 年春（明治大学）:「物価と中央銀行――日本の長期デフレと金融政策」
同　秋（近畿大学）:（不開催）
2012 年春（大正大学）:「マクロ・プルーデンスと中央銀行――マクロ・プルーデンスの考え方、政策への取り組み、課題と展望を中心に――」
同　秋（北九州市立大学）:（不開催）
2013 年春（一橋大学）:「デフレ脱却と中央銀行――非伝統的金融政策の効果と限界――」
同　秋（名古屋大学）:（不開催）
＜開催予定＞
2014 年春（慶応義塾大学）:「異次元金融緩和の導入から 1 年：中間評価」

震災復興金融部会―設立と活動

東北福祉大学　**鴨池　治**

平成２３年３月１１日午後 14 時 46 分、宮城県牡鹿半島の東南東沖を震源地とするマグニチュード 9.0 の大地震が発生した。その後も、岩手県沖から千葉県沖にいたる各地で大地震が発生し被害をもたらすと共に、最大遡上高 40.5mにも及ぶ大津波が東北地方の太平洋沿岸部を襲い、壊滅的な被害をもたらした。被害地は、北海道、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県に及ぶが、その中で特に甚大な被害を受けたのは、岩手県、宮城県及び福島県である。特に福島県では、東京電力福島第一原子力発電所が被災し、全電気供給能力を失うと共に、放射性物質が漏洩し、浜通りを始めとする県内多くの地域で住民が避難を余儀なくされ、かなり広い領域でセシウム等の放射能汚染がみられている。

近い将来、首都直下型地震、東南海、南海、南海トラフ地震等の巨大な地震の発生が予測されている。今回あるいは以前の災害からの復興のプロセスやその際生じた問題点を整理しまた震災復興の在り方を研究することは焦眉の急であり、様々な学会で取り組まれるようになった。

特に、震災からの復興にあたり、金融の重要な問題の存在があることが明らかになってきた。国や地方自治体の復旧・復興のための資金調達、被災地企業の復興に向けた政策金融や公的信用保証、あるいは地域金融機関の復興支援融資、二重ローンの問題、地震保険等自然災害リスクへの対応等はこうした問題の例である。

日銀法改正のように金融についての重要問題が発生した場合には、日本金融学会の有志が研究会を立ち上げ、政策提言を行ったり研究にも繋げたりしてきた。そうした先例にならい、震災復興に貢献するために、その金融面に関するテーマを体系的・継続的に研究する研究会（部会）を開設したいとの考えの下に、まず有志による研究会を開くことが、清水啓典（一橋大学)、地主敏樹（神戸大学)、鴨池治（東北福祉大学）より提案され、２０１１年７月２４日、東北福祉大学ステーションキャンパスにおいて、七十七銀行地域振興部長大川口信一氏、仙台銀行企画部長芳賀隆之氏、東邦銀行融資管理部長矢吹 光一氏の３氏をお呼びし、地震後の実情と銀行の対応等を講演していただいた。

近畿大学で開催された２０１１年度秋季大会において、「東日本大震災と中小企業金融」、**「東日本大震災後の復興のための金融・資本市場の課題」**というテーマによる２つのパネルディスカッションが行われ、問題に対して関心の強いことが示された。

同時に、藤原会長等の呼びかけにより、大震災からの復興に関わる金融問題を深く研究するため、学会に震災復興金融部会を立ち上げることが、理事会および総会で承認された、学会としては、９番目の部会である。鴨池が代表幹事として任に当たることとなり、部会員の募集が開始された。部会はその後継続的に開催され、また部会企画の全国大会におけ

るパネルディスカッションは３回実施されている。こうした部会の研究会や学会におけるパネルディスカッションが進むにつれ、学会としての成果を１冊にまとめ、さらなる研究の足がかりにする案が浮上し、２０１２年春季大会（立正大学）の理事会、総会において、機関誌金融経済研究の震災復興金融特別号の刊行が承認を受けることとなった。編集委員として、北坂、今、地主および鴨池が任に当たることとなった。執筆者は、これまで学会等で報告をしていただいた方から数名、会員からの公募により数名を選ぶこととなった。また、執筆者には、部会において報告し、参加者のコメント等を踏まえて執筆することにより、質の確保を図ることとした。出版社は、大震災の被害を受けた仙台の東北大学出版会に見積書の提出を依頼し、ここに決定した。最終的に９名が執筆し、２０１４年１月３１日に刊行された。

以下、部会報告と、全国大会におけるパネルディスカッションについて、報告する。

１．部会

第１回研究会：2011 年 10 月 15 日（土）、於　明治大学駿河台キャンパス

相澤朋子氏（東北文化学園大学）「東日本大震災の経済的影響と課題」

西山慎一氏（東北大学）「東日本大震災の復興金融に関する政策提言」

第２回研究会：2011 年 12 月 22 日（木）、於　同志社大学東京オフィス

内田浩史氏（神戸大学）「阪神大震災と中小企業金融について」

西山慎一氏（東北大学）「二重債務問題克服に向けた政策提言」

平田英明氏（法政大学）「復興に向けた金融面からの政策提言～民間資金の呼び込み、二重ローン対策、原発問題」

第３回研究会：2012 年 10 月 27 日（土）、於　青山学院大学青山キャンパス

齊藤壽彦氏（千葉商科大学）「東日本大震災発生後１年間における金融上の対策―金融機関の被災中小企業向け貸出を中心として―」

相澤朋子氏（青山学院大学）「東北地方における地域金融機関の現状と課題」

西山慎一氏（東北大学）「被災地における企業活動状況と復興状況：『震災復興企業実態調査』の調査報告」

第４回研究会：2013 年 3 月 23 日（土）、於　東北大学片平キャンパス

品田誠司氏（仙台市役所）「災害後の起業活動―なぜ、大災害の発生が起業家の増加を引き起こすのか」

増島雄樹氏（日本経済研究センター）「東北被災地域向け貸出の課題と改善余地」

第５回研究会：2013 年 7 月 13 日（土）、於　青山学院大学青山キャンパス

浅井義裕氏（明治大学）「東日本大震災後の家計の保険需要とロスコントロール」

相澤朋子氏（青山学院大学）「地域金融機関と地域の経済成長」

福田一雄氏（千葉銀行）「東日本大震災における金融機能」

第６回研究会：2013 年 8 月 31 日、於　東北福祉大学ステーションキャンパス

鴨池治（東北福祉大学）「防災工事と災害復旧費用の負担配分と防災工事のタイミングにつ

いて」
田村輝之氏・亀坂安紀子氏（上智大学・青山学院大学）「東日本大震災前後の外国人投資家と国内投資家の行動」
吉田浩氏（東北大学）「東日本大震災、被災地・首都圏比較調査からわかること」
２．全国大会におけるパネルディスカッション
2012 年度春季大会　於　立正大学
テーマ：震災後の復興に向けた経済的課題
座長　西山慎一氏（東北大学）
(1)「東日本大震災からの復興と課題」報告者：鴨池治（東北福祉大学）
(2)「震災後の東北経済」報告者：福田一雄氏（千葉銀行）
(3)「震災復興に向けた資金供給の課題」報告者：平田英明氏（法政大学）
討論者：植杉威一郎氏（一橋大学）、地主敏樹氏（神戸大学）
2012 年度秋季大会　於　北九州市立大学
テーマ：震災復興に向けた金融・財政面ならびに制度面における課題
座長　鴨池治（東北福祉大学）
(1)「被災地における中小企業金融の現状と課題―『震災復興企業実態調査』の調査結果を踏まえて」報告者：西山慎一氏（東北大学）
(2)「震災後の東北地方における金融面の現状と課題」報告者：明瀬光司氏（東北財務局）
(3)「震災復興と財政」報告者：佐藤主光氏（一橋大学）
討論者：相澤朋子氏（青山学院大学）、小野有人氏（みずほ総合研究所）
2013 年度秋季大会　於　名古屋大学
テーマ：震災時の中小企業金融
座長　鴨池治（東北福祉大学）
(1)「Trading Partners and Firm Location Choice: Evidence from the Great East-Japan Earthquake 」報告者：小野有人氏（みずほ総合研究所）
(2)「東日本大震災と企業の二重債務問題」報告者：西山慎一氏（東北大学）
(3)「支援現場から見た復興金融」報告者：荒波辰也氏（東日本大震災事業者再生支援機構）
討論者：増島雄樹氏（日本経済研究センター）、地主敏樹氏（神戸大学）

第Ⅳ部

学会本部の諸委員会活動の記録

機関紙『金融経済研究』の発展

―完全レフェリー制から年２回定期刊行へ―

関西大学　本多佑三

以下では、すべて敬称を省略するが、ご容赦願いたい。

１．『金融経済研究』の発展

１．１　2005 年 6 月から 2010 年 3 月まで

村本孜の後任である筒井義郎編集委員長の下で、日本金融学会機関紙『金融経済研究』は完全なレフェリー制の雑誌となった。その後、2005 年 6 月から 2010 年 3 月まで、本多佑三が編集委員長の任を担当した。本報告は、この 2005 年 6 月から 2010 年 3 月までの期間の記録を収めるものである。

１．２　年２回の定期刊行へ

東洋経済新報社で長年培ってきた出版に関する豊富な知識等を有する、事務局の黒野幸春の助言もあって、『金融経済研究』は 2007 年（第 24 号）から、4 月と 10 月の年２回、定期的に刊行されることとなった。この制度はその後定着し、現在に至っている。

１．３　表紙の改訂

2008 年 10 月（第 27 号）より『金融経済研究』の装丁は一新され、現在の表紙となった。この件に関しても、主として事務局の黒野幸春および東洋経済新報社出版局の矢作智子に、ご尽力いただいた。

１．４　ショートペーパー・セクションの創設

投稿論文の増加させることにより、機関誌の内容の充実化を目指した。編集委員の宮尾龍蔵の提案により、2009 年 4 月（第 28 号）より、ショートペーパー・セクションを創設した。

２．論文等の寄稿者

『金融経済研究』は、第 22 号（2005 年 6 月）から第 29 号（2009 年 10 月）までの期間において、下記の方々から論文を寄稿していただいた。

a.　招待論文

須田美矢子、清水啓典、岩田一政、西村吉正、筒井義郎、清水克俊・家森信善

b. 投稿論文

熊本尚雄・熊本方雄、福本幸男、上山仁恵・下野恵子、Tetsushi Homma and Toshiyuki Souma、徳永潤二、福田慎一・粕谷宗久・赤司健太郎、Hideki Murase、佐々木隆文、木成勇介、二宮健史郎、関田静香、石橋尚平、猪口真大、晝間文彦・池田新介、五百旗頭真吾、永野護、三好祐輔、播磨谷浩三・奥山英司、藤井隆雄、豊福健太、鯉渕賢、吉見太洋、内田聡、坂井功治・鶴光太郎・細野薫、山根智沙子・筒井義郎、冨村圭、工藤和久、大野正智、上坂豪、木成勇介・筒井義郎、坂和秀晃・渡辺直樹

c. パネル・ディスカッション

小川英治・伊藤隆敏・河合正弘・浅川雅嗣

スペースの関係上、いちいちお名前は掲載しないが、これら以外にも、多くの方々から書評の寄稿をいただいた。

３． 編集体制

当該期間中、編集委員の任にあたってくださった方々は、次の通りである。

秋葉弘哉、小川英治、佐藤政則、福重元嗣、藤原賢哉、宮尾龍蔵、宮越龍義、家森信善、吉田賢一、齊藤壽彦、櫻川昌哉、本多佑三（委員長）

お名前の掲載は省略させていただくが、編集委員以外でも、多くの方々が、編集専門委員として、あるいはレフェリーとして、機関誌編集に貢献してくださった。以上、論文等寄稿者、書評寄稿者、レフェリー、編集委員、編集専門委員の皆様方に、ご協力いただいたことに対し、この場を借りて改めてお礼申し上げたい。

４． さらなる発展に向けて

学会の記録をとどめるといったところから出発した日本金融学会の機関誌は、今日まで、年 2 回定期刊行、完全レフリー制の立派な機関誌『金融経済研究』へと順調に発展してきた。これもこれまでの多くの会員の努力の賜物である。機関紙の発展は、学会員の良質な投稿論文にひとえに依存している。学会員が良質の論文を書き、多くの良質な論文が本機関紙に掲載されることによってはじめて、学会誌および学会の発展がある。今後ともより多くの学会員が良質の論文を投稿し、学会誌が大きく飛躍することを切に願うものである。

機関紙『金融経済研究』の継承

慶應義塾大学　櫻川昌哉

前任の本多佑三編集委員長の下で、日本金融学会機関紙『金融経済研究』は、年 2 回の定期刊行が確立した。私の在任中（2010 年 4 月から現在、2014 年 4 月時点）の役割は、さらに前任の筒井義郎編集委員長の下で確立した完全なレフェリー制と合わせて、この２つの制度を定着させることであった。

完全レフェリー制の確立はともかく、年 2 回の定期刊行の実施については、若干の説明が必要である。在任中に、第 30 号（2010 年 4 月）、第 31 号（2010 年 10 月）、第 32 号（2011 年 4 月）、第 33 号（2011 年 10 月）、第 34 号（2012 年 4 月）、第 35 号（2012 年 4 月）の 6 巻を通常号として、東洋経済新報社から刊行している。しかしながら、予算など諸般の理由から、刊行のかたちは若干の変化をともなう。2012 年の 10 月号については、金融危機をテーマに「なぜ金融危機は起きるのか―金融経済研究のフロンティアー」のタイトルで特別号（2013 年 1 月）として東洋経済新報社から刊行した。2013 年の 10 月号については、「東日本大震災復興の金融問題」タイトルで特別号（2014 年 1 月）として刊行した。

通常号は、通常 1 巻あたり 4 編の投稿論文と書評（5－7 編）からなる。図は、この 4 年間（2010 年 1 月から現在 2014 年 1 月）における投稿と掲載の動きを表している。新規投稿論文数は 2012 年までは安定しているが、2013 年に激減している。一方で、掲載論文総数は近年に至って増加傾向をたどっている。

過去 4 年間の合計で、新規投稿論文総数は 56 編に対して、掲載論文総数（掲載予定を含む）は 25 編である。単純に掲載率を計算すると、46.4%となる。しかし、この二つの数字は分子と分母が対応していない。つまり、2010 年に掲載が決定した論文の多くが、2009 年以前に投稿されているからである。過大評価を是正するために、2010 年以降に投稿された論文のうち掲載された論文を「純掲載決定論文数」と定義し直すと 16 編となり、新たに計算された掲載率は 28.6%となる。なお、この数字は、現在改定中の論文が反映されていないので、多少の過小評価となることに注意が必要である。なお括弧内は、2007 年 5 月から開始された「理事推薦投稿論文制度」にしたがって投稿された論文の数字である。数字の推移は、この制度が定着しつつあることを示唆している。

	新規投稿論文数	掲載論文数	純掲載論文数
2010	16(1)	12(1)	3
2011	16(6)	1	1
2012	18(4)	7(4)	7(4)
2013	6	5(2)	5(2)
計	56(11)	25(7)	16(6)

雑誌の質的向上を読者の拡大を目指して、いくつかの改革をもおこなっている。地域部会の活性化と会員の雑誌投稿の促進をむすびつけるかたちで、「地域部会推薦論文制度」を導入した。地域部会において報告された論文の中から優秀と認められる論文に対し、金融経済研究への推薦をおこなうという内容のもので、地域部会からの投稿促進を意図した改革といえる。

執筆要領の変更も行っている。投稿論文の要約の字数に関する記載を変更した。日本語要約を 400 字程度から 200 字程度へ、英文要約を 150 ワード程度から 80 ワード程度へと時数の縮小をおこなった。著者が必要にして十分な要約を書くことを促すことを意図してなされた変更である。

最後に、当該期間中、編集委員の任にあたってくださった方々は、以下の通りである。
永廣　顕、小川英治、北坂真一、竹田陽介、福重元嗣、福田慎一、宮越龍義、村瀬英彰、矢後和彦、家森信善、吉田賢一、櫻川昌哉（委員長）

英文電子ジャーナルの創刊

慶應義塾大学　金子　隆

2013 年 8 月に日本金融学会の英文電子ジャーナル Japanese Journal of Monetary and Financial Economics（以下 JJMFE）が創刊された。本稿では、創刊に至るまでの経緯と創刊の趣旨などをやや詳しく紹介し、記録にとどめておきたい。

学会の査読付き機関誌である『金融経済研究』が、会員による質の高い研究成果を発表する場としてこれまできわめて重要な役割を果たしてきたこと、そして今後もその役割が期待されていることは、あらためて強調するまでもない。一方で、同誌は日本語の論文が中心であること、紙媒体のため刊行までに時間がかかることなどから、海外への機動的な情報発信という点で限界があることも、会員の間で認識されてきた。

2012 年 7 月 31 日、70 周年記念事業に向けての常任理事による勉強会が同志社大学東京オフィスで開催された際、こうした認識を踏まえ、藤原秀夫会長より「英文誌の創刊を検討してみてはどうか」という提案がなされた。それを受けて協議した結果、英文電子ジャーナルに特化するのであれば、『金融経済研究』との競合も避けられるので、70 周年記念事業の 1 つとして取り組む意義があるという合意に至った。その上で、創刊に向けて準備を開始すること、吉野直行氏（慶應義塾大学）を編集委員長候補とすること、小川英治氏（一橋大学）・栗原裕氏（愛知大学）・高橋豊治氏（中央大学）・地主敏樹氏（神戸大学）・金子隆（慶應義塾大学）の 5 名を準備委員とすることなどが了承された。

その後、メールでのやりとりを経て、同年 9 月 10 日に慶應義塾大学三田キャンパスで準備委員会が開催され、英文電子ジャーナルの具体的な構想が練られた。そして、ジャーナルの名称や編集委員会の構成（編集長、副編集長、編集委員）も含め、理事会に提出する案が詰められた。同年 9 月 14 日に北九州市立大学で開催された理事会および翌日の会員総会で、編集幹事候補の栗原裕氏より「電子ジャーナルによる英文誌発刊の提案」がなされ、正式に承認された。そのとき示された「提案理由」を以下に再掲しておく。

- 日本の経済・金融に関する学術的研究は、成果に比して発信が見劣りしている。質の高い知的財産を有する日本金融学会から、国内外、特に海外へ研究の成果を発信したい。
- 日本の金融に関する情報、経験を海外により多く発信すべきである。
- 英文誌を電子ジャーナルで発刊することは世界的な潮流であるが、日本は、アジア諸国の中でも遅れている。
- 電子ジャーナルの利用は発信力に加え発刊までの時間にメリットがある。
- 2013 年に 70 周年を迎える本学会の記念事業となる。学術水準の向上に一層寄与できる。

あわせて、ジャーナルの名称を Japanese e-Journal of Monetary and Financial Economics とすること（注：2013 年度春季大会で「e-」を削除する修正案が承認された）、

年 2 回の刊行とすること、会員以外の投稿も受け付けることなどが承認された。

総会での承認を受けて、吉野直行編集長のもと、栗原裕編集幹事を実質的な事務局長として、創刊号に向けての本格的な準備が開始された。具体的には、学会ホームページ等を通しての投稿論文の募集、招待論文執筆者の選定と依頼、分野バランスを考慮した編集委員の補充、投稿システムや査読体制の確立などである。2012 年 12 月 10 日には編集長・副編集長の計 6 名による会合が開かれ、これらの点について建設的な意見が交わされた。

2013 年 5 月 24 日に一橋大学で開催された理事会では、金子隆副編集長から創刊号に向けての進捗状況が報告された。あわせて、JJMFE の主たる目的は日本から世界に向けての研究成果の発信であること、電子版のみの刊行を考えていること、年 2 回の刊行を目指していること、刊行後に内外の論文検索サイトへの登録を申請することなどが再確認された。また、掲載論文の質を維持しジャーナルの評価を高めていく上で投稿数の確保は不可欠という判断から、会員への投稿働きかけの要請が理事に対してなされた。

こうしたステップを経て、2013年8月に記念すべき創刊号が学会ホームページに掲載され、メーリングリスト等を通して会員ほかに広く周知された。創刊号の執筆者は以下の通りである（論文題名省略）。Inaugural Introduction: Naoyuki Yoshino (Keio University). Invited Articles: Yuzo Honda (Kansai University), Yoshihiro Kuroki (Chiba University), and Minoru Tachibana (Osaka Prefecture University). Akira Ariyoshi (Hitotsubashi University). Yoshiro Tsutsui (Osaka University) and Kenjiro Hirayama (Kwansei University). Nobuyoshi Yamori (Nagoya University), Kazumine Kondo (Aichi Gakuin University), Kei Tomimura (Aichi University), Yuko Shindo (Yamaguchi Prefectural University), and Kenya Takaku (Nagoya University). Articles: Yukitami Tsuji (Keio University).

また、創刊時の Editorial Board メンバーは以下の通りである。Editor in Chief: Naoyuki Yoshino (Keio University). Editors: Toshiki Jinushi (Kobe University), Takashi Kaneko (Keio University), Yutaka Kurihara (Aichi University), Eiji Ogawa (Hitotsubashi University), and Toyoharu Takahashi (Chuo University). Co-Editors: Kenji Iwata (Kyushu University), Kenneth N. Kuttner (Williams College), Shin-Ichi Nishiyama (Tohoku University), Hidenobu Okuda (Hitotsubashi University), Takashi Senda (Hiroshima University), and Hirofumi Ueda (Doshisha University).

間もなく第 2 号が刊行される予定であるが、今後、投稿数の確保と厳正な審査を通して質の維持が図られ、JJMFE の評価が国際的に高まっていくことを、創刊に携わった一人として切に期待する。最後に、この場を借りて、初代編集幹事の栗原裕氏に最大限の謝意を表したい。同氏の献身的な働きがなければ、JJMFE は創刊まで漕ぎ着けることはなかったと思われる。

ホームページ委員会

愛知大学　**栗原　裕**

学会ホームページは 1996 年 10 月 6 日、村本孜常任理事（当時）などの尽力により公開された。そして、ホームページ委員会の設立日は、理事会で「ホームページ委員会規程」が承認された 2000 年 5 月 26 日であった。

初代の委員長は金子隆常任理事であった。設立時に委員会は、ホームページの企画・運営を行う「ホームページ委員会」とホームページの維持・管理を行う「作業部会」から構成されていた。『日本金融学会 60 年の歩み』によると、以下の取り組みが順次行われた。

① 学会誌『金融経済研究』に掲載されていた「大会報告」をホームページに掲載。
② 部会のページを新設、開催案内、報告者希望の情報を掲載。
③ 学会の入会申込書、大会の報告申込書のダウンロードを可能化。
④ 学会の「アドレス帳」を新設、部会などの開催情報、報告募集を登録者に通知するとともに、会員間の情報交換を実施。

2004 年 5 月からは、小川英治常任理事を委員長、岩田健治理事を副委員長とする新体制が始まり、「ホームページ委員会」と「作業部会」の 2 つが「ホームページ委員会」に統合され、機動的な運営が可能になった。会員のアドレス帳への登録が進み、ホームページ全体を整理、英文ホームページを新設した。日本語の新ページとして「Links」、「事務局だより」を新設した。「事務局だより」により、理事会・総会での決定事項などを会員が確認できるようになった。

2008 年 5 月からは、家森信善常任理事が委員長、栗原裕理事が副委員長に就任した。学会誌『金融経済研究』ページのリニューアルなどを行うとともに、ホームページの作成ならびに修正・訂正を、仙台市障害者バーチャル工房事業「せんだい庵」に業務委託し、委員の負担は著しく軽減されることになった。震災復興金融部会の新設に伴い新ページを作成、「常任理事会からのお知らせ」も掲載した。震災にあたっては、藤原秀夫会長からのメッセージも迅速に掲載した。

2012 年 5 月には、栗原裕常任理事が委員長、髙屋定美理事が副委員長になった。新ページとして「国際交流」、学会英文新雑誌（JJMFE）発刊に伴う新ページ、検索機能、RSS、全国大会の「自動申し込み」システムの稼働などを開始した。なお、目下（2014 年 1 月）、ホームページ全面リニューアルの作業が進行中で、新ページでは、スマートフォン、タブレットなどからの閲覧も可能になる。

開設以来、ホームページへの訪問者は延べ 29 万人近くに及ぶ。アドレス帳への登録も 840 人まで増加した（2013 年 12 月末現在）。この間、歴代委員長、副委員長、長年に亘りホームページ更新の作業を担ってきた福島章雄会員をはじめとした各委員、歴代会長や役員の

方々の献身的な貢献とご協力があったことを記しておきたい。

歴代委員（＊は委員長）
＜2001 年春＞
委員会
内田滋（長崎大学）、＊金子隆（慶應義塾大学）、釜江廣志（一橋大学）　地主敏樹（神戸大学）、村本孜（成城大学）
作業部会
＊釜江廣志（一橋大学）、楠美将彦（高千穂商科大学）、高橋豊治（高千穂商科大学）　福島章雄（成城大学）、宮村健一郎（東洋大学）
＜2002 年 6 月～2004 年 5 月＞
委員会
内田滋（長崎大学）、＊金子隆（慶應義塾大学）、鴨池治（東北大学）、地主敏樹（神戸大学）、藤井宏史（香川大学）
作業部会
楠美将彦（高千穂大学）、＊高橋豊治（高千穂大学）、福島章雄（成城大学）
＜2004 年 5 月～2006 年 5 月＞
岩田健治（九州大学）、＊小川英治（一橋大学）、栗原裕（愛知大学）、高橋豊治（中央大学）、田中敦（関西学院大学）、福島章雄（成城大学）
＜2006 年 5 月～2006 年 9 月＞
岩田健治（九州大学）、＊小川英治（一橋大学）、栗原裕（愛知大学）、高橋豊治（中央大学）、田中敦（関西学院大学）、福島章雄（成城大学）
＜2006 年 9 月～2008 年 5 月＞
岩田健治（九州大学）、＊小川英治（一橋大学）、奥山英司（中央大学）、栗原裕（愛知大学）、田中敦（関西学院大学）、福島章雄（成城大学）
＜2008 年 5 月～2008 年 10 月＞
植田宏文（同志社大学）、奥山英司（中央大学）、栗原裕（愛知大学）、田中敦（関西学院大学）、福島章雄（成城大学）、＊家森信善（名古屋大学）
＜2008 年 11 月～2009 年 11 月＞
植田宏文（同志社大学）、奥山英司（中央大学）、栗原裕（愛知大学）、福島章雄（成城大学）、兵藤隆（山口大学）、＊家森信善（名古屋大学）
＜2009 年 11 月～2010 年 9 月＞
植田宏文（同志社大学）、奥山英司（中央大学）、栗原裕（愛知大学）、兵藤隆（山口大学）、＊家森信善（名古屋大学）
＜2010 年 9 月～2012 年 5 月＞

植田宏文（同志社大学）、奥山英司（中央大学）、栗原裕（愛知大学）、髙屋定美（関西大学）、兵藤隆（山口大学）、＊家森信善（名古屋大学）

＜2012 年 5 月～2012 年 9 月＞

植田宏文（同志社大学）、大野早苗（武蔵大学）、奥山英司（中央大学）、＊栗原裕（愛知大学）、髙屋定美（関西大学）、兵藤隆（山口大学）

＜2012 年 9 月～2013 年 5 月＞

浅井義裕（明治大学）、大野早苗（武蔵大学）、＊栗原裕（愛知大学）、髙屋定美（関西大学）、兵藤隆（山口大学）

＜2013 年 5 月～2013 年 9 月＞

浅井義裕（明治大学）、大野早苗（武蔵大学）、＊栗原裕（愛知大学）、髙屋定美（関西大学）、中川利香（東洋大学）

＜2013 年 9 月～＞

浅井義裕（明治大学）、井田大輔（岡山商科大学）、大野早苗（武蔵大学）、＊栗原裕（愛知大学）、髙屋定美（関西大学）、中川利香（東洋大学）

リニューアル前の表紙（2014 年 1 月現在）

日韓学術交流について

広島大学　**矢野順治**

まず、2011 年 12 月 23 日に正式に締結されました日韓学術交流協定の経緯について説明させていただきます。

藤原会長が就任されてまもなく、両学会交流の協定締結のための非公式な情報収集が始まりました。その結果、両学会双方が、学術交流の強い意欲をもっていることがわかりました。その後、両学会の役員を中心に、検討が進められ、最終的に、2011 年 11 月 17 日に、藤原会長、矢野の二人がソウルを訪問し、韓国金融学会の会長および役員の先生方と話し合いの機会を持たせていただきました。その後も、さらに交渉を続け、2011 年 12 月 23 日に一橋大学大学院商学研究科 丸の内産学連携センターにおいて調停式が行われました。

出席者は以下の先生方です。（敬称略）

（日本側）藤原秀夫会長　小川英治（常任理事）川浪洋一（常任理事）北岡考義（常任理事）地主敏樹（常任理事）福田慎一（常任理事）藤田誠一（常任理事）矢野順治（常任理事）

（韓国側）Kim Dae Sik（会長）　Kim Kyung Soo（副会長）
Chun Sun Eae（代表幹事）　Lee Min Hwan　（理事）

調停式後の懇親会には、一橋大学の清水啓典教授（常任理事）も外国出張から直接かけつけて下さり、お互いの交流を深めることができました。交流協定締結後も以下のように、両国間で活発な学術交流が行われてきております。

【日本側からの韓国金融学会全国大会参加】

2012 年度韓国金融学会学術大会

播磨谷浩三　（立命館大学）　千田隆（広島大学）吉野直行（慶応大学）

2013 年度韓国金融学会学術大会

長田健（西武文理大学）北野重人（神戸大学）　高橋豊治（中央大学）

【韓国側からの日本金融学会全国大会参加】

2012 年度日本金融学会春季大会（立正大学）

Dong Hwan Kim（Korea Institute of Finance）

2012 年度日本金融学会秋季大会（北九州市立大学）

Jinill Kim（Korea University）Tae Yoon Kim（Keimyung University）

Chiho Kim（Hana Institute of Finance）Sang Bin Lee （Hanyang University）

2013 年度日本金融学会春季大会（一橋大学）

Hail Park（Bank ofKorea）Sang Hoon Kangon（Pusan National University）

Youngse Kim （Sungkyunkwan University）

2013 年度日本金融学会秋季大会（名古屋大学）

Choi GongPis (Korean Institute of Finance)

中国金融学会との学術交流

熊本学園大学　**坂本　正**

1998 年 4 月 16 日に締結された日本金融学会と中国金融学会との学術交流協定に基づいて中国金融学会から、1998 年 10 月 25 日、大阪市大での秋季大会に趙　海寛　中国金融学会副会長（中国人民銀行金融研究所名誉所長）が中国の中央銀行について記念講演をされた。2000 年 11 月 4 日、九州大学での秋季大会で二つの学会報告がなされ、詹　向阳　中国金融学会副会長（中国工商銀行都市金融研究所所長）が招待された。日本金融学会からは 2001 年 5 月 16 日、坂本　正　常任理事が北京で日本の金融制度改革について中国金融学会・中国城市（都市）金融学会で講演をしたが、その後この形式での交流は諸般の事情から継続されなかった。

2012 年の末から藤原会長の下中国金融学会との学術交流の在り方の検討が開始された。2013 年の春の理事会で交流再開に取り組むことが正式に確認され、秋の理事会で坂本　正理事を特命理事として中国金融学会との交流再開の協議に入ることが決定された。交流再開とはいえ交流協定は継続しているので、この協議は今後の継続確認の協議である。

それを受けて、2013 年 12 月 13 日（金）、中国人民銀行総行一号楼で中国金融学会との交流継続の確認のための協議を行った。中国金融学会からは、紀　志宏(中国金融学会秘書長・中国人民銀行研究国局長)　李　民（中国金融学会副秘書長）、王　紅波（中国人民銀行国際司区域金融合作処副処長）、事務局からは熊　慶麗、高　峰。日本金融学会からは、坂本　正（日本金融学会特命理事）、川波　洋一（日本金融学会常任理事）西村　友作（対外経済貿易大学副教授）が参加。中国は丁度忙しい時期であったが、午前 9 時半から 11 時までに日中学術交流についてこれまでの交流の実績と今後の在り方について積極的な意見交換を行い、これまでの交流を更に推進する方向で相互に努力するという共通の意思確認をした。

川波常任理事が冒頭でこの協議で日中学術交流を継続するための意義について説明し、紀秘書長と坂本特命理事と間で協議に入った。

まず、1998 年に締結した日本金融学会と中国金融学会の学術交流は協定に基づき資料交換と相互に代表を送って講演あるいは研究発表を行う形で進められたが、中国側から 2 回、日本側から 1 回代表を送った後、諸般の事情からこの形での交流は中断されてきた経緯について坂本が説明をした。

これについて中国金融学会からは、紀秘書長が日本金融学会との交流の意義は大きいと認識している。今後も更に交流を推進する必要がある、との立場を表明された。そして実際に、中国金融学会の中心部門である中国城市（都市）金融学会（中国工商銀行）と日本金融学会の参加メンバーからなる金融研究グループ（熊本学園大学金融研究グループ）と

の学術交流が正式の学術交流（中国工商銀行都市金融研究所と熊本学園大学との学術交流協定に基づく国際シンポジュウムの開催）として継続され実績を積んできたことを聞いている。これは中国城市金融学会を舞台にした具体的な中日金融学会の学術交流の一環と高く評価している。したがって中国金融学会としてはこれまでも中日学術交流は中断しているのではなく、継続していると認識している、との見解を示された。その上で両学会は、98 年締結の学術交流に謳われた研究交流のほかに今後も文献資料交換や雑誌交換を含む情報交換を積極的に進め、相互の金融事情の紹介や研究について更に学術交流を継続して進めていくことで基本合意をした。

それを受けて、詳細は今後詰めることになるが、当面研究者の交流については中国金融学会傘下の様々な学会との交流の在り方も提示され、両学会の規模や組織形態、財政事情等の違いに配慮しつつ、両学会が最もやりやすく負担にならない方法で進めていくことが望ましいとの意思確認もおこなった。

紀秘書長が重要な会議のため退席の後も、李　民副秘書長を交えて坂本、川波の三者で更に具体的な協議を進めた。とりわけ李副秘書長からは、中国の実情が日本において正確に理解されていない部分もある一方で、日本における議論や金融政策の効果についての報道が不正確な部分があり日本の研究者からの正確な情報が必要との要望が出された。このような面からも、シンポジュウムや学会への参加など学術交流を経て正確な相互理解と研究の推進に向けた努力が必要との共通認識に達した。特に当面は、必要なときにテーマに応じて相手の学会から招待することで相互理解と研究を進める形をとることで成果があげられるのではないか、といった意見交換をした。

その後、中国人民銀行並びに中国工商銀行に近接する民族飯店において、中国城市金融学会との懇談会が開催され、中国側から詹　向阳（中国工商銀行金融研究所所長）、樊　志剛（同副所長）趙　志勇（同所員）、葛　楠（同行国際業務部）。日本側から坂本、川波、西村が参加して中国における金融改革の現状と同国の今後の商業銀行の課題と動向について意見交換を行った。

14 日—15 日には上海で今回の協議の設定に尽力いただいた蔡　剣波・中国銀聯常務副総裁（銀聯国際社長）と意見交換を行い、坂本が参加した。そこで、李　民中国金融学会副秘書長と連絡をとり、今後の交流を促進することを再度確認した。

理事会での協議方針通りに中国金融学会との学術交流の継続が確認されたことで、今後は双方の実情や要請に応じて具体的な交流が進められることになろう。

第Ⅴ部
資料編

①　対象期間中の学会（全国大会）のプログラム

2004 年度春季大会（神奈川大学）

第 1 日　5 月 15 日（土）

1．自由論題　＜10:00～12:00＞

A 会場（822 講堂）セッション：銀行経営

座長　成城大学　村本　孜氏

(1) 貸出のレントと邦銀の海外業務

報告者　財務総合政策研究所　島袋伊津子氏

横浜国立大学　井上　徹氏

討論者　青山学院大学　宮原勝一氏

(2) クレジット・デリバティブ等を活用した金融機関の信用リスク管理高度化

報告者　広島大学　樋渡淳二氏

討論者　駒澤大学　代田　純氏

(3) 経営健全化計画の有効性：公的資金被注入行のパフォーマンス

報告者　青山学院大学　清水克俊氏

討論者　名古屋大学　家森信善氏

B 会場（823 講堂）セッション：金融理論（1）

座長　長崎大学　内田　滋氏

(1) フリードマンの貨幣仮説批判について

報告者　徳山大学　吉野正和氏

討論者　明治大学　金子邦彦氏

(2) 金融排除と社会厚生

報告者　中京大学　村上敬進氏

討論者　龍谷大学　谷　直樹氏

(3) 市場型間接金融を活用した金融機関の環境配慮行動

報告者　日本経済新聞社　藤井良広氏

討論者　財団法人トラスト 60　山本利明氏

C 会場（833 講堂）セッション：企業金融（1）

座長　大阪大学　筒井義郎氏

(1) Are SMEs Real Victims of Asian Financial Crisis; Evidence from the 1999 Thailand Industrial Survey Data

報告者　一橋大学大学院　チャクリット・プンパイサンチャイ氏

討論者　三菱総合研究所　永野　護氏

(2) 過少投資問題 ― リアルアプションアプローチを用いた考察 ―

報告者　松山大学　井上修一氏

討論者　甲南大学　大塚晴之氏

(3) 生産性とコーポレート・ガバナンス ― 企業規模間での比較分析 ―

報告者　京都大学大学院　宮崎浩伸氏

討論者　早稲田大学　広田真一氏

D 会場（834 講堂）

セッション：各国の金融

座長　神戸大学　藤田誠一氏

(1) 韓国における IMF 管理体制下の金融構造調整

報告者　鹿児島国際大学大学院　韓　尚均氏

討論者　アイザワ証券　中西正行氏

(2) 米国金融機関のリテール金融業 ― その戦略と成功の秘訣 ―

報告者　野村證券金融経済研究所　前田真一郎氏

討論者　熊本学園大学　岡本悳也氏

(3) 米国の金融持株会社 ― 市場と法 ―

報告者　明治学院大学　白石　渉氏

討論者　茨城大学　内田　聡氏

E 会場（835 講堂）セッション：金融機関

座長　横浜市立大学　藤野次雄氏

(1) わが国信託銀行の貸出行動における特性 ― 銀行勘定貸しと貸出金との関連についての検証 ―

報告者　札幌学院大学　播磨谷浩三氏

討論者　東京国際大学　上林敬宗氏

(2) 米国の地域コミュニティ金融 ― 円滑化策とそれが機能するための諸条件 ―

報告者　金融庁金融研究研修センター　松田　岳氏

討論者　成城大学　福光　寛氏

(3) 地域金融機関と企業の取引銀行数

報告者　九州大学　堀江康熙氏

討論者　近畿大学　安孫子勇一氏

2. 昼食　＜12:00～13:00＞

3. パネル　＜13:00～15:40＞

A 会場　中央銀行パネル　「最近の金融政策と市場の機能」

座長　武蔵大学　吉田　暁氏

(1) デフレ下の金融政策

報告者　明治大学　原　正彦氏

(2) 量的緩和下の短期金融市場

報告者　東短リサーチ　加藤　出氏

(3) 金融調整と市場の機能

報告者　日本銀行　中曽　宏氏

(1)、(2)、(3)共通

討論者　慶應大学　田村　茂氏

東洋大学　中北　徹氏

4. 自由論題　＜13:00～15:40＞

B 会場　セッション：国際金融

座長　一橋大学　小川英治氏

(1) Robin Hood in a Financially Open Economy: Does Globalization Escalate Social Conflict?

報告者　名古屋市立大学　村瀬英彰氏

討論者　東京大学　武田史子氏

(2) 望まれる「通貨政策」の更なる活用 ― 実証分析していただきたい「通貨」―

報告者　フジマキ・ジャパン　藤巻健史氏

討論者　UFJ 銀行　宿輪純一氏

(3) Feldstein - Horioka 指標を用いた国際資本移動と経済成長の実証分析

報告者　九州国際大学　上坂　豪氏

討論者　神戸大学　三重野文晴氏

(4) “ Institutional Dollarization” of Asian Currencies

報告者　野村證券金融経済研究所　中井浩之氏

討論者　一橋大学　小川英治氏

C 会場　セッション：企業金融（2）

座長　神戸大学　地主敏樹氏

(1) The Choice of Outside Equity: Public versus Private Placement

報告者　京都大学　小林磨美氏

討論者　関西大学　中川竜一氏

(2) 商社金融の評価

報告者　経済産業研究所　植杉威一郎氏

討論者　名古屋大学　家森信善氏

(3) エージェンシー理論によるフィリピン企業の資本構造の検討：企業属性を考慮した製造業企業の負債比率推計

報告者　一橋大学　奥田英信氏

一橋大学大学院　齋藤　純氏
討論者　早稲田大学　蟻川靖浩氏
(4) コミットメントライン型銀行借入 vs.市場性負債：アナウンスメント効果の比較
報告者　慶應義塾大学　金子　隆氏
慶應義塾大学大学院　渡邊智彦氏
討論者　一橋大学　小西　大氏
D 会場　セッション：生命保険
座長　九州大学　堀江康熙氏
(1) 近年の生保一般貸付の決定要因を巡る一考察
報告者　ニッセイアセットマネジメント　高橋智彦氏
討論者　同志社大学　川北英隆氏
(2) 生命保険企業の広告戦略 ― 理論・実証分析 ―
報告者　鳴門教育大学　青葉暢子氏
討論者　専修大学　小藤康夫氏
(3) 保険と金融 ― 直接金融・間接金融との対比 ―
報告者　東京海上火災保険　吉澤卓哉氏
討論者　九州大学　岩田健治氏
(4) 生命保険会社破綻と家計・保険契約者の選択
報告者　日本経済研究センター　白石小百合氏
広島大学　松浦克己氏
討論者　住友生命総合研究所　茶野　努氏
E 会場　セッション：証券市場
座長　早稲田大学　首藤　惠氏
(1) 取引方法とアンダープライシング
報告者　一橋大学　小西　大氏
一橋大学大学院　鈴木健嗣氏
日本銀行　乗政喜彦氏
討論者　関西学院大学　岡村秀夫氏
(2) 近年の地方債発行市場の変化と地方債の信用力
報告者　農林中金総合研究所　丹羽由夏氏
討論者　横浜国立大学　米沢康博氏
(3) Competition in Japanese Securities Industry
報告者　龍谷大学　亀坂安紀子氏
大阪大学　筒井義郎氏
討論者　慶應義塾大学　辻　幸民氏
(4) 証券化の進展と金融システム・金融政策

報告者　横浜国立大学　高橋正彦氏
討論者　早稲田大学　久保田　隆氏

5. 記念講演　＜16:00～17:00＞
F 会場（1042 講堂）
中央銀行の情報発信と金融政策
講演者　日本銀行審議委員　須田美矢子氏

6. 会員総会　＜17: 00～17:30＞
F 会場（1042 講堂）

7. 懇親会　＜18:00～20:00＞
会場：神奈川大学横浜キャンパス

第 2 日　5 月 16 日（日）

1. パネル　＜9:30～12: 00＞
A 会場　国際金融パネル「人民元をめぐる諸問題」
座長　京都大学　村瀬哲司氏
(1) 「中国人民元の切り上げ論」について
報告者　金融情報システムセンター　大西義久氏
(2) 中国人民元に関する一考察
報告者　慶應義塾大学　白井早百合氏
(3) 人民元切り上げの趨勢と中国の対応策
報告者　東北財経大学　劉　昌黎氏
(1)、(2)、(3)共通
討論者　専修大学　寿崎雅夫氏
富士通総合研究所　柯　隆氏

2. 自由論題＜10:00～12:00＞
B 会場　セッション：金融理論（2）
座長　早稲田大学　晝間文彦氏
(1) 金融不安要因を考慮した貨幣乗数の推定
報告者　創価大学　小林孝次氏
討論者　横浜国立大学　塩路悦朗氏
(2) 新しい金融の流れ ― 循環型金融と資金循環 ―
報告者　安田女子大学　戸井佳奈子氏
討論者　早稲田大学　晝間文彦氏

(3) 自己資本比率規制：理論と現実

報告者　一橋大学　清水啓典氏

討論者　文京学院大学　菊池英博氏

C 会場　セッション：金融政策

座長　慶應義塾大学　金子　隆氏

(1) 1990 年代後半におけるイングランド銀行の金融調節 ― プルーデンス政策との関連での評価 ―

報告者　松山大学　松浦一悦氏

討論者　専修大学　小林襄治氏

(2) P スターモデルによるデフレの要因分析

報告者　愛知大学　小林慎哉氏

討論者　法政大学　林　直嗣氏

(3) インフレ率変更の費用は何によって規定されているのか

報告者　広島大学　千田　隆氏

討論者　神戸大学　宮尾龍蔵氏

D 会場　セッション：金融史

座長　千葉商科大学　齋藤壽彦氏

(1) 万延の改鋳における新旧金貨引替え・引替元金・御手当被下金

報告者　青山学院大学大学院　須賀博樹氏

討論者　同志社大学　鹿野嘉昭氏

(2) 金融政策は昭和恐慌においても重要だったか

報告者　東京大学大学院　寺井　晃氏

討論者　麗澤大学　佐藤政則氏

(3) 金融危機と破綻銀行処理政策　－昭和金融恐慌への対応－

報告者　甲南大学　永廣　顕氏

討論者　名古屋市立大学　横山和輝氏

E 会場　セッション：金融市場と構造

座長　東北大学　鴨池　治氏

(1) Asymmetric adjustment of the equilibrium relationship between the nominal interest rate and expected inflation rate

報告者　同志社大学大学院　牧　大樹氏

討論者　日本銀行　白塚重典氏

(2) 日本の消費行動とその構造変化 ― sup-predictive test による検証

報告者　神戸大学大学院　小塚匡文氏

討論者　日本銀行　藤木　裕氏

(3) Response of Depositors to the Reinstatement of Caps on Deposit Insurance

Protection

報告者　一橋大学　小西　大氏

報告者　日本経済研究センター　笛田郁子氏

討論者　学習院大学　細野　薫氏

3. 昼食　＜12:00～13:00＞

4. 共通論題　「市場型間接金融の展望 」＜13:00～16:30＞

F 会場

座長　中央大学　花輪俊哉氏

埼玉大学　伊藤　修氏

報告者　野村資本市場研究所　淵田康之氏

報告者　日本銀行　内田真人氏

報告者　成城大学　村本　孜氏

2004 年度秋季大会（愛知大学）

第 1 日　9 月 11 日（土）

1. 会長講　＜9:00～9:25＞
A 会場（コンベンションホール）
「銀行の健全性とは何か」
日本金融学会会長　清水啓典氏

2. パネル　＜9:30～12:00＞
A 会場（コンベンションホール）中央銀行パネル「拡大 EU と金融政策」
座長　関西学院大学　春井久志氏

(1) ECB の金融政策と安定成長協定改革
報告者　関西大学　髙屋定美氏

(2) 供給ショックとしての EU 統合・拡大
報告者　日本銀行　大橋千夏子氏

(3) The Euro and Enlargement
報告者　駐日欧州委員会代表部　Cornelis KEIJZER 氏

（1）、(2)、(3) 共通
討論者　早稲田大学　立脇和夫氏
日本経済新聞社　藤井良広氏

3. 自由論題　＜9:30～11:30＞
B 会場（K202 教室）セッション：金融市場
座長　大阪大学　筒井義郎氏

(1) Japanese Yen Swap Spreads and Interest Rates
報告者　新潟大学　伊藤隆康氏
討論者　近畿大学　安孫子勇一氏

(2) 覆面介入はなぜ行われるのか？－ポートフォリオ･バランス･チャネルによる考察と実証
報告者　一橋大学　清水順子氏
討論者　追手門学院大学　松本直樹氏

(3) 銀行部門内の資金滞留と経済成長
報告者　慶應義塾大学大学院　佐藤祐己氏
討論者　東京大学　福田慎一氏

C 会場（K901 教室）セッション：国際金融 I
座長　大阪市立大学　片岡　尹氏

(1) 中国国有商業銀行の不良債権問題についての一考察

報告者　滋賀大学大学院　尹　文植氏
討論者　大阪学院大学　片山貞雄氏

(2) エマージング・マーケット経済からの外国資本流出－対外債務持続可能性の視点から－
報告者　大東文化大学　横溝えりか氏
討論者　明治大学　高浜光信氏

(3) 「一物一価の法則」の成立を阻害する地理的要因に関する一考察―「距離」と「国境」の影響―
報告者　早稲田大学大学院　葛目知秀氏
討論者　九州大学　岩田健治氏

D 会場（K902 教室）セッション：各国の金融
座長　慶応義塾大学　金子　隆氏

(1) 中国株式市場における個人投資家の行動
報告者　龍谷大学大学院　兪　暁彦氏
討論者　中京大学　村上敬進氏

(2) 中国における銀行の競争度
報告者　法政大学大学院　袁　媛氏
討論者　一橋大学　小西　大氏

(3) 多変数 VAR モデルによる中国の物価低迷の分析
報告者　早稲田大学　張　艶氏
討論者　法政大学　林　直嗣氏

E 会場（K903 教室）セッション：金融政策 I
座長　広島大学　矢野順治氏

(1) Operating guide for monetary policy in the euro area: LA-VAR approach
報告者　神戸大学大学院　稲垣一之氏
討論者　東洋大学　川野祐司氏

(2) 相対価格調整と金融政策ルール―修正型 Taylor ルールによる評価―
報告者　一橋大学大学院　工藤　健氏
討論者　広島大学　千田　隆氏

(3) 地方における景況の遅行とその原因
報告者　中京大学　村上敬進氏
討論者　名古屋市立大学　外谷英樹氏

F 会場（K1001 教室）セッション：金融機関 I
座長　滋賀大学　有馬敏則氏

(1) 供給サイドからの中小企業金融分析
報告者　横浜市立大学　随　清遠氏
討論者　名古屋大学　家森信善氏

(2) 地方銀行の増資行動に関する実証分析

報告者　長崎大学　阿萬弘行氏
京都大学大学院　宮崎浩伸氏
討論者　広島大学　松浦克己氏

(3) わが国都市銀行のデュレーション調整

報告者　立命館大学　井澤裕司氏
討論者　近畿大学　安孫子勇一氏

4. 特別パネル「郵貯の民営化と財政投融資」　＜10:50～12:10＞
H 会場（K201 教室）

座長　成城大学　村本　孜氏
報告者　慶應義塾大学　吉野直行氏
報告者　慶應義塾大学　土居丈朗氏
討論者　中央大学　根本忠宣氏

5. 昼食　＜12:10～13:00＞

6. 記念講演　＜13:00～14:30＞
A 会場　（コンベンションホール）
「わが国金融行政の現状と課題」

講演者　金融・経済財政政策担当大臣　竹中平蔵氏

7. 共通論題「地域金融の多様性と普遍性－新しい地域金融のモデルを求めて－」　＜14:40～17:20＞
A 会場　（コンベンションホール）

座長　一橋大学　清水啓典氏
名古屋大学　家森信善氏

報告者　東北大学　鴨池　治氏
東海財務局　内藤純一氏
大阪大学　筒井義郎氏
長崎大学　内田　滋氏

8. 会員総会　＜17:20～17:50＞
A 会場　（コンベンションホール）

9. 懇親会　＜18:10～20:10＞
会場：メルパルク名古屋

第 2 日　9 月 12 日（日）

1. 自由論題　＜9:30～10:50＞

C 会場（K901 教室）セッション：国際金融Ⅱ

座長　一橋大学　小川英治氏

(1) A Political Economy of Legal Investor Protection and Financial Development Trap

報告者　名古屋市立大学　村瀬英彰氏

討論者　一橋大学　小川英治氏

(2) Optimal Exchange Rate System in Two Countries with the Rest of the World

報告者　慶應義塾大学　吉野直行氏

慶應義塾大学大学院　阿曾沼多聞氏

討論者　明治学院大学　佐々木百合氏

D 会場（K902 教室）セッション：銀行経営

座長　長崎大学　内田　滋氏

(1) 最後の貸し手と預金保険の銀行破綻処理時の役割

報告者　関西学院大学大学院　大塚茂晃氏

討論者　名古屋大学　家森信善氏

(2) 銀行決済サービスへの価格差別の適用試論

報告者　滋賀大学大学院　吉田浩平氏

討論者　長崎大学　内田　滋氏

E 会場（K903 教室）セッション：銀行経営

座長　九州大学　川波洋一氏

(1) 1990 年代のシティコープの動向―事業再構築に向けた新戦略の狙い―

報告者　立命館大学大学院　井本　亨氏

討論者　UFJ 銀行　坂　雄二郎氏

(2) 東三河における銀行業の発展

報告者　岡崎女子短期大学　飛田紀男氏

討論者　日本大学　岡田和喜氏

F 会場（K1001 教室）セッション：公的金融

座長　東北大学　鴨池　治氏

(1) 東アジアの債券市場と情報の経済学―信用評価機関の格付け行動に関する実証分析―

報告者　三菱総合研究所　永野　護氏

討論者　慶應義塾大学　吉野直行氏

(2) 財政投融資制度改革と公的債務管理―資金循環の変化が公的債務の維持可能性に及ぼす影響の実証分析―

報告者　財務省　中田真佐男氏

討論者　東北大学　佃　良彦氏

G 会場（K1005 教室）セッション：金融理論 I

座長　中京大学　千田純一氏

(1) 先物プレミアムパズルに関するリスクプレミアムの非対称性

報告者　早稲田大学大学院　佐藤綾野氏

内閣府　能瀬憲二氏

討論者　駒澤大学　飯田泰之氏

(2) 金融政策の効果の地域間相違に関する実証分析

報告者　上智大学大学院　大越利之氏

討論者　愛知大学　打田委千弘氏

2. 特別講演　＜11:00～12:00＞

A 会場（コンベンションホール）

「トヨタの財務戦略」

講演者　トヨタ自動車株式会社取締役副社長　荒木隆司氏

司会　愛知学院大学　根津永二氏

3. 昼食　＜12:00～13:00＞

4. パネル　＜13:00～15:40＞

A 会場（コンベンションホール）国際金融パネル「アメリカ経常収支赤字と国際通貨システムの安定性」

座長　神戸大学　藤田誠一氏

(1) Regional Monetary Cooperation in East Asia against Asymmetric Response to the Dollar Depreciation

報告者　一橋大学　小川英治氏

(2) 米国為替政策の行方

報告者　みずほ総合研究所　小野　亮氏

(1)、(2)共通

討論者　中央大学　田中素香氏

経済産業省　東條吉朗氏

3. 自由論題　＜13:00～15:40＞

C 会場（K901 教室）セッション：金融理論Ⅱ

座長　慶應義塾大学　櫻川昌哉氏

(1) 構造 VAR モデルに基づく為替レートの動学分析－日米間の「マネタリーショック」 の影響とその構造変化―

報告者　神戸大学大学院　福本幸男氏

討論者　同志社大学　北坂真一氏

(2) 家計の資産選択における実物資産の位置づけ

報告者　名古屋市立大学大学院　上山仁恵氏

名古屋市立大学　下野恵子氏

討論者　慶應義塾大学　金子　隆氏

(3) Bank Net Worth and Economic Fluctuations

報告者　神戸大学大学院　三宅敦史氏

神戸大学　中村　保氏

討論者　同志社大学　植田宏文氏

(4) 貨幣需要と貨幣供給－モデル分析の変遷－

報告者　徳山大学　古谷京一氏

討論者　信州大学　青木達彦氏

D 会場（K902 教室）セッション：ファイナンス

座長　一橋大学　釜江廣志氏

(1) Behavioural Biases of Japanese Institutional Investors: Fund Management and Corporate Governance

報告者　早稲田大学　首藤　惠氏

大和総研　俊野雅司氏

討論者　長崎大学　須齋正幸氏

(2) 日経 225 先物の日中取引頻度－大阪証券取引所とシンガポール取引所の関連性－

報告者　長崎大学　森保　洋氏

長崎大学　須齋正幸氏

討論者　一橋大学　釜江廣志氏

(3) Nonlinear adjustment in the term structure of interest rates: A cointegration analysis in the nonlinear STAR framework

報告者　同志社大学大学院　牧　大樹氏

討論者　明治大学　北岡孝義氏

(4) ユニバーサルバンク制度における参入規制―証券仲介業の導入によせて―

報告者　金融庁金融研究研修センター　山村延郎氏

討論者　小樽商科大学　大矢繁夫氏

E 会場（K903 教室）セッション：金融機関Ⅱ

座長　早稲田大学　晝間文彦氏

(1) メインバンクの企業救済行動の統計分析

報告者　綜通株式会社　緑川清春氏

討論者　早稲田大学　広田真一氏

(2) 銀行の自社株買い消却について－わが国の実証分析－

報告者　日本大学　畠田　敬氏

討論者　岡山商科大学　岩坪加紋氏

(3) The Effects of Foreign Bank Entry on the Thai Banking Market: Estimation Analysis over the Period of 1990-2002

報告者　一橋大学　奥田英信氏

一橋大学大学院　Suvadee Rungsomboon 氏

討論者　立命館大学　堀　敬一氏

(4) 金融機関の過剰参入定理

報告者　札幌大学　岩堀洋士氏

札幌大学　飯田隆雄氏

討論者　広島大学　岡村　誠氏

F 会場（K1001 教室）セッション：金融政策Ⅱ

座長　愛知学院大学　根津永二氏

(1) Has Inflation Targeting Improved Social Welfare in the U.K.?

報告者　一橋大学大学院　岡野衛士氏

討論者　神戸大学　宮尾龍蔵氏

(2) Japan's Great Stagnation：An Interpretation by Several VAR Models

報告者　駒澤大学　飯田泰之氏

大和総研　原田　泰氏

討論者　早稲田大学大学院　佐藤綾野氏

(3) バランスシート効果の非線形性と金融政策の有効性

報告者　東京大学大学院　平野智裕氏

討論者　同志社大学　北坂真一氏

G 会場（K1005 教室）セッション：企業金融

座長　神戸大学　地主敏樹氏

(1) 企業の最適資金調達選択―低信用企業による社債発行の可能性―

報告者　一橋大学大学院　石川雅也氏

討論者　横浜市立大学　随　清遠氏

(2) 韓国「財閥」の所有構造と経営パフォーマンス

報告者　慶應義塾大学　飯島高雄氏

討論者　神戸大学　三重野文晴氏

(3) 企業統合の交渉理論分析－部門間競争と人的資本投資－

報告者　福岡大学　赤羽根靖雅氏

討論者　九州大学　堀　宣昭氏

(4) 日本企業のガバナンス構造と経営効率性－実証分析

報告者　慶應義塾大学　岡部光明氏

慶應義塾大学　藤井　恵氏
討論者　同志社大学　鹿野嘉昭氏

2005 年度春季大会（日本大学）

第 1 日　5 月 28 日(土)

1. 会長講演　＜9:00～9:25＞
A 会場
ゼロ金利と日本国の健全性
日本金融学会会長　清水啓典氏
2. 自由論題　＜9:30～12:00＞
A 会場　セッション：金融理論
座長 東北大学　鴨池　治氏
(1) 決済メカニズムにおけるインセンティブ効率的リスク負担について
報告者　一橋大学　山崎　昭氏
討論者　慶應義塾大学　前多康男氏
(2) カードの貨幣・信用論的分析と若干の実証　― 英独仏を中心に ―
報告者　熊本学園大学　岡本悳也氏
大阪市立大学　高濱和博氏
討論者　名城大学　前田真一郎氏
(3) 有効需要と貨幣の理論　― 一つの新古典派的解釈 ―
報告者　東京大学　大瀧雅之氏
討論者　一橋大学　浅子和美氏
B 会場　セッション：金融機関
座長　明治大学　金子邦彦氏
(1) 電子マネー分類から見る次世代通貨への適合性
報告者　日本大学大学院　大嶋一慶氏
討論者　日本銀行　中山靖司氏
(2) 中小・地域金融機関の貸出行動に関する分析
報告者　財務総合政策研究所　大関由美子氏
討論者　慶應義塾大学　吉野直行氏
(3) 預金保険料率に関する一考察　― 可変保険料率をわが国で導入した影響を考える ―
報告者　関西学院大学大学院　大塚茂晃氏
討論者　一橋大学　小西　大氏
C 会場　セッション：金融政策
座長　早稲田大学　畫間文彦氏
(1) 金融政策における情報開示の効果
報告者　日本大学　小巻泰之氏

討論者　愛知大学　打田委千弘氏

(2) Inflation Targeting during the Lost Decade in Japan

報告者　千葉経済大学　岡野衛士氏

討論者　上智大学　竹田陽介氏

(3) デフレ予想の形成と日銀の経済政策

報告者　東海大学　石森良和氏

討論者　中央大学　黒木祥弘氏

D 会場　セッション：その他

座長　一橋大学　釜江廣志氏

(1) 企業再生下の財産評定を巡る諸問題　― 会社更生手続きの現状と今後の展望 ―

報告者　中央大学大学院　木原一行氏

討論者　上智大学　山崎福寿氏

(2) 金融改革プログラムと関連法制整備

報告者　横浜国立大学　高橋正彦氏

討論者　早稲田大学　久保田　隆氏

(3)「財政資金」と金融調節：― 国庫金の管理と中央銀行の独立性 ―

報告者　東洋大学　中北　徹氏

東短リサーチ　加藤　出氏

討論者　水口　毅氏

E 会場　セッション：企業金融

座長　法政大学　林　直嗣氏

(1) Multiple Banking Relationships Are Beneficial? Evidence from the Japanese Small and Medium Sized Firms

報告者　一橋大学　式見雅代氏

討論者　日本銀行　粕谷宗久氏

(2) グローバル化、情報化と日本型金融システム―メインバンク関係の変容を中心として―

報告者　同志社大学　鹿野嘉昭氏

同志社大学大学院　福澤　満氏

討論者　早稲田大学　広田真一氏

(3) Trade credit and the Meltzer effect: Evidence from Japanese general trading companies

報告者　福島大学　大野正智氏

討論者　日本大学　小巻泰之氏

3. 昼食　＜12:00～13:30＞

4. 特別講演　＜13:30～14:30＞

A 会場

講演者　日本銀行副総裁　岩田一政氏

5. パネル＜14:30～17:00＞

A 会場　中央銀行パネル：　中央銀行、金融システム、金融政策をめぐる金融教育の現状

座長　中央大学　黒田　巌氏

(1) 日本銀行から見た現状

報告者　日本銀行　湯本崇雄氏

(2) 現状とあるべき姿

報告者　一橋大学　小西　大氏

(3) 民間当事者の立場をふまえて

報告者　静岡県立大学　小谷野俊夫氏

(1)(2)(3)共通

討論者　関西学院大学　久保田哲夫氏

討論者　愛知大学　栗原　裕氏

6. 自由論題　＜14:30～17:00＞

B 会場　セッション：各国の金融

座長　成城大学　村本　孜氏

(1) 米国の金融再編とリレーションシップバンキング

報告者　茨城大学　内田　聡氏

討論者　中京大学　由里宗之氏

(2) リレーションシップバンキングにおける担保・保証の役割― 「1998 Survey of Small Business Finances」を素材として ―

報告者　みずほ総合研究所　小野有人氏

討論者　九州大学　堀江康熙氏

(3) 米国銀行業における規制と適正自己資本の歴史的流れ― 1980 年から 1994 年を中心として ―

報告者　千葉商科大学大学院　藤野君江氏

討論者　明海大学　高月昭年氏

C 会場　セッション：各国の金融

座長　北海道大学　濱田康行氏

(1) 東南アジアの金融発展：開発金融パラダイムの変化と多様性

報告者　一橋大学　奥田英信氏

神戸大学　三重野文晴氏

討論者　東京大学　河合正弘氏

(2) マレーシアにおけるイスラーム金融の現状と課題

報告者　アジア経済研究所　中川利香氏

討論者　早稲田大学　首藤　惠氏

(3) 米国金融機関の多国籍展開　―個人金融業務に関する事例研究

報告者　千葉商科大学大学院　長島芳枝氏

討論者　明治大学　勝　悦子氏

D 会場　セッション：国際金融

座長　一橋大学　小川英治氏

(1) A Deviation Measurement for Coordinated Exchange Rate Policies in East Asia

報告者　一橋大学　清水順子氏

一橋大学　小川英治氏

討論者　中央大学　田中素香氏

(2) ベルギーの金融・為替政策と欧州通貨統合　―スネーク制度を中心に

報告者　横浜国立大学大学院　亀卦川芽以氏

討論者　立命館大学　星野　郁氏

(3) 資本収支と自己実現的通貨危機モデル　―アジア通貨危機の実証分析―

報告者　法政大学大学院　伴　豊氏

討論者　一橋大学　小川英治氏

7. 総会　＜17:10～17:40＞

8. 懇親会　＜17:50～19:30＞

第 2 日　5 月 29 日（日）

1. パネル　＜9:30～12:00＞

A 会場　国際金融パネル：望ましいアジア通貨制度のあり方について

座長　明治学院大学　佐々木百合氏

パネリスト　東京大学　伊藤隆敏氏

東京大学　河合正弘氏

経済産業研究所　吉冨　勝氏

討論者　慶應義塾大学　吉野直行氏

2. 自由論題　＜9:30～12:00＞

B 会場　セッション:金融機関

座長　千葉商科大学　齋藤壽彦氏

(1) 金利ディリバティブ取引の歴史的展開　― アメリカのマネー・センター・バンクを中心に

報告者　松山大学　掛下達郎氏

討論者　中京大学　入江恭平氏

(3) 小口金融における実店舗の役割～英国とドイツ

報告者　立教大学　日向野幹也氏

討論者　成城大学　村本　孜氏

C 会場　セッション：企業金融

座長　九州大学　川波洋一氏

(1) Security Mispricing and Investor Activism: A Coordination Problem

報告者　名古屋市立大学　村瀬英彰氏

討論者　一橋大学　三隅隆司氏

(2) 主力行の債権放棄比率：誰が多く負担するのか？

報告者　東京大学　鯉渕　賢氏

東京大学　福田慎一氏

討論者　東京経済大学　安田行宏氏

(3) 事業の証券化と間接金融

報告者　長崎大学　深浦厚之氏

討論者　松山大学　掛下達郎氏

D 会場　セッション：地域金融

座長　慶應義塾大学　金子　隆氏

(1) スイッチング・コストの計測　― リレーションシップ・バンキングのダークサイド ―

報告者　財務総合政策研究所　島袋伊津子氏

討論者　中央大学　根本忠宣氏

(2) 地域銀行の経営と貸出行動

報告者　九州大学　堀江康熙氏

討論者　東京国際大学　上林敬宗氏

(3) NPO、コミュニティビジネスと地域金融

報告者　信金中央金庫総合研究所　澤山　弘氏

討論者　日本経済新聞社　藤井良広氏

E 会場　セッション：銀行経営

座長　関西学院大学　春井久志氏

(1) 新しい監督・規制時代の金融機関経営のあり方

報告者　広島大学　樋渡淳二氏

討論者　近畿大学　安孫子勇一氏

(2) 長期金利上昇が金融機関に及ぼす影響

報告者　スタンダード＆プアーズ　根本直子氏

討論者　文教大学　渡辺　孝氏

(3) 銀行の CSR

報告者　東京女学館大学　太田和男氏

討論者　武蔵大学　岡　正生氏

3. 昼食　＜12:00～13:00＞

4. 共通論題　＜13:00～16:00＞：新 BIS 規制をめぐる諸問題

A 会場

座長　日本大学　中島善太氏

パネリスト　金融庁　白川俊介氏

日本銀行　小山高史氏

慶應義塾大学　池尾和人氏

一橋大学　清水啓典氏

2005 年度秋季大会（大阪大学）

第 1 日　10 月 8 日（土）

1. 自由論題　＜9:30～11:30＞

A 会場　セッション：金融政策

座長　広島大学　矢野順治氏

(1) 耐久消費財支出の金利反応度－Cross-Euler Equation アプローチによる検証－

報告者　神戸大学　小塚匡文氏

討論者　日本銀行　白塚重典氏

(2) 開放経済下における金融財政政策、為替介入および期待の効果：IS-LM モデルの拡張

報告者　九州産業大学　山野　勲氏

討論者　関西大学　宇恵勝也氏

(3) 銀行の競争度と金融政策の効果

報告者　日本学術振興会　郡司大志氏

法政大学大学院　三浦一輝氏

報告者　法政大学大学院　袁　媛氏

討論者　関西大学　中川竜一氏

B 会場　セッション：国際金融制度

座長　近畿大学　山上秀文氏

(1) 本邦為替政策の政治経済学

報告者　横浜商科大学　加野　忠氏

討論者　早稲田大学　北村歳治氏

(2) 変動相場制への移行とニューヨーク為替市場の構造変化－なぜニューヨーク為替市場は拡大したのか－

報告者　九州大学大学院　高山晃郎氏

討論者　広島修道大学　川本明人氏

(3) アジア債券市場育成と決済システム構築の考え方

報告者　UFJ 銀行　宿輪純一氏

討論者　近畿大学　山上秀文氏

C 会場　セッション：ファイナンス

座長　同志社大学　野間敏克氏

(1) 日本円金利スワップスプレッドに関する分析－決定要因と金融政策の影響

報告者　新潟大学　伊藤隆康氏

討論者　近畿大学　安孫子勇一氏

(2) Dynamic Asset Allocation when Returns Follow a Stochastic Volatility,

Jump-Diffusion Process

報告者　神戸大学大学院　王　金波氏

討論者　京都大学　田中敬一氏

(3) 先物市場における日中の価格形成－決定論的構造の可能性－

報告者　名古屋商科大学　足立光生氏

討論者　名古屋市立大学　村瀬英彰氏

D 会場　セッション：各国の金融

座長　一橋大学　奥田英信氏

(1) 1990 年代初頭のシティコープの経営危機と再生

報告者　埼玉大学大学院　西尾夏雄氏

討論者　茨城大学　内田　聡氏

(2) 中国の国有工業企業の企業金融（1978－2003）－固定資産投資を中心に－

報告者　筑波大学大学院　洪　恩東氏

討論者　徳島大学　矢野　剛氏

2. 会長講演　＜11:30～12:30＞

F 会場　　不動産価格と金融市場

座長　金融学会前会長／中京大学　千田純一氏

講演者　日本金融学会会長　清水啓典氏

3. 昼食　＜12:30～14:00＞

4. パネル　＜14:00～16:20＞

F 会場　　中央銀行パネル：日本銀行の量的緩和政策からの出口戦略－ソフトランディング・シナリオを目指して－

座長　関西学院大学　春井久志氏

報告者　前日本銀行審議委員／大和総研　田谷禎三氏

神戸大学　宮尾龍蔵氏

三菱総合研究所　後藤康雄氏

日本経済新聞社　藤井良広氏

5. 自由論題　＜14:00～16:00＞

A 会場　セッション：金融市場

座長　青森公立大学　今　喜典氏

(1) Do Depositors Respond to Bank Risks as Expected？ Evidence from Japanese Financial Institutions in the Banking Crisis

報告者　内閣府経済社会総合研究所　堀　雅博氏

内閣府経済社会総合研究所　伊藤靖晃氏

内閣府経済社会総合研究所　村田啓子氏

討論者　中央大学　原田喜美枝氏

(2) 金融変数と実体変数に構造変化は存在したのかーデータ生成過程の検証ー

報告者　東洋大学　竹澤康子氏

広島大学　松浦克己氏

討論者　大阪大学　大屋幸輔氏

(3) 日次データを用いた金融政策変数の DGP と構造変化

報告者　日本大学　小巻泰之氏

愛知大学　打田委千弘氏

討論者　同志社大学　北坂真一氏

B 会場　セッション：東アジアの国際金融システム

座長　東京大学　福田慎一氏

(1) A Comparative Study on Determinants of Monetary Policy Framework in Five Asian Developing Countries after the Financial Crisis

報告者　Nagoya University　Waranya Atchariyachanvanich 氏

討論者　日本銀行　代田豊一郎氏

(2) 貿易契約通貨の決定メカニズムー東アジアにおける「円の国際化」の視点からー

報告者　福島大学　大野正智氏

東京大学　福田慎一氏

討論者　大阪国際大学　塩谷雅弘氏

(3) On Determinants of the Yen Weight in the Implicit Basket System in East Asia

報告者　東京大学　伊藤隆敏氏

敬愛大学　織井啓介氏

討論者　一橋大学　小川英治氏

C 会場　セッション：銀行行動

座長　東北大学　鴨池　治氏

(1) 日本の銀行による利益調整に関する実証分析

報告者　神戸大学大学院　植田玉青氏

討論者　名古屋大学　家森信善氏

(2) 銀行の法人融資業務への IT 投資効果の定量評価ーリアルオプションとバランススコアカードによる仮想事例の構築ー

報告者　埼玉大学大学院　青木克人氏

討論者　日本銀行　熊倉修一氏

(3) 銀行取付と流動性危機の理論的考察

報告者　一橋大学　比佐章一氏

討論者　近畿大学　小林磨美氏

D 会場　セッション：企業金融

座長　愛知大学　栗原　裕氏

(1) 金融部門の深化と経済発展－多国データを用いた実証分析－

報告者　慶應義塾大学　岡部光明氏

日本銀行　光安孝将氏

討論者　中央大学　堀内昭義氏

(2) M&A と株式所有構造に関する実証分析

報告者　京都大学大学院　宮崎浩伸氏

討論者　神戸大学　畠田　敬氏

(3) 倒産処理法制改革が倒産処理当事者の行動に及ぼした影響：債権放棄に関するイベント・スタディによる実証分析

報告者　東京大学大学院　秋吉史夫氏

信州大学　広瀬純夫氏

討論者　神戸大学　藤原賢哉氏

E 会場　セッション：最近の金融問題

座長　広島大学　千田　隆氏

(1) 破綻に至った地域金融機関の信用リスク管理について－京都みやこ信用金庫の融資体制の問題点－

報告者　滋賀大学大学院　石川清英氏

討論者　横浜市立大学　藤野次雄氏

(2) 「寡占化・硬直化・脆弱化した日本の金融システム」－金融庁行政を全面的に転換すべし－

報告者　文京学院大学　菊池英博氏

討論者　拓殖大学　武田哲夫氏

(3) 自治体主導 CLO の特徴と課題

報告者　神奈川大学　数阪孝志氏

北九州市立大学　木村温人氏

討論者　西南学院大学　西田顕生氏

6. 特別講演　＜16:30～17:30＞

F 会場　世界の新しい経常収支不均衡と人民元の関係

座長　一橋大学　小川英治氏

講演者　経済産業研究所　吉冨　勝氏

7. 総会　＜17:30～18:00＞

F 会場

8. 懇親会　＜18:20～＞

会場：銀杏会館

第 2 日　10 月 9 日（日）

1. パネル　＜9:30～11:30＞

F 会場　国際金融パネル：金融業多国籍化の新段階

座長　九州大学　岩田健治氏

(1) グローバル化のもとでの金融業の国際展開と欧米メガバンク

報告者　広島修道大学　川本明人氏

(2) 中南米・中東欧における欧米銀行のリテール金融業の展開

報告者　東北学院大学　伊鹿倉正司氏

(3) アジアにおける邦銀の経営課題

報告者　日本総合研究所　高安健一氏

(1)、(2)、(3)共通

討論者　日本銀行　内田真人氏

名古屋大学　家森信善氏

2. 自由論題　＜9:30～11:30＞

A 会場　セッション：金融史

座長　横浜市立大学　酒井良清氏

(1) 機関銀行と日本の工業化

報告者　中央大学　堀内昭義氏

日本政策投資銀行　花崎正晴氏

討論者　大阪大学　筒井義郎氏

(2) 昭和恐慌期の財政政策と金融政策

報告者　大和総研　原田　泰氏

新潟産業大学　佐藤綾野氏

財務省財務総合政策研究所　中澤正彦氏

討論者　駒澤大学　飯田泰之氏

(3) 1930 年代のイタリアにおける産業・金融再生

報告者　名古屋大学　伊藤カンナ氏

討論者　首都大学東京　矢後和彦氏

B 会場　セッション：国際金融実証

座長　東北大学　宮越龍義氏

(1) 為替相場制度の選択とビジネスサイクルー北米通貨統合(NAMU)の実現可能性－

報告者　大阪経済大学　福本幸男氏

討論者　東洋大学　川崎健太郎氏

(2) Testing for Volatility Spillover between the Euro and the Japanese Yen

報告者　神戸大学大学院　稲垣一之氏

討論者　一橋大学　岩壺健太郎氏

(3) Why is Managed Floating Adopted as a De Facto Exchange Rate Regime?

報告者　早稲田大学　秋葉弘哉氏

早稲田大学大学院　飯田幸裕氏

早稲田大学大学院　北村能寛氏

討論者　神戸大学　藤田誠一氏

C 会場　セッション：企業金融

座長　和歌山大学　内田浩史氏

(1) The Debt Maturity Structure of Japanese SMEs

報告者　一橋大学　式見雅代氏

討論者　大阪大学　渡部和孝氏

(2) Institutional, Structural and Systematic Factors Influencing Debt-Financing Decisions in Japanese Companies

報告者　広島修道大学大学院　Tom Kuczynski 氏

討論者　京都学園大学　宮川重義氏

D 会場　セッション：戦前・戦後の金融史

座長　大阪大学　堂目卓生氏

(1) 戦後アメリカ BA 市場とその国際金融市場としての限界

報告者　金沢大学大学院　金岡克文氏

討論者　福岡大学　神野光指郎氏

(2) ケインズ－落日の肖像

報告者　佐賀大学　米倉　茂氏

討論者　早稲田大学　柴沼　武氏

3. 昼食　＜11:30～13:00＞

4. 共通論題　＜13:00～16:00＞：新しい時代に向けた公的金融制度

F 会場

座長　中央大学　堀内昭義氏

(1) 公的金融検証の論点

報告者　（株）日本総合研究所　翁　百合氏

(2) 郵政三事業民営化の必要性について

報告者　慶應義塾大学／日本経済研究センター　深尾光洋氏

(3) 政府系金融機関の民業補完

報告者　慶應義塾大学　吉野直行氏

(4) 政策金融の現状等について

報告者　財務省　中原　広氏

2006 年度春季大会（早稲田大学）

第 1 日　4 月 29 日（土）

1. 国際金融パネル　＜9:30～11:30＞
E 会場（国際会議場・井深大記念ホール）
欧州通貨統合と新規加盟国

座長　龍谷大学　Mariusz　Krawczyk 氏
報告者　オーストリア中央銀行・ウィーン大学　Eduard Hochreiter 氏
同志社大学　浜　矩子氏
討論者　立命館大学　星野　郁氏

2. 自由論題　＜9:30～11：30＞
A 会場（19 号館 3 階 312 教室）セッション：金融政策

座長　関西学院大学　春井久志氏
(1) 日本銀行による国庫納付と政府からの独立性
報告者　国立国会図書館　深澤映司氏
討論者　中央大学　黒木祥弘氏
(2) 金融政策、金融システムショックと銀行貸出
報告者　早稲田大学大学院　大熊正哲氏
早稲田大学大学院　長内　智氏
討論者　大阪大学　本多佑三氏
(3) 中央銀行のアカウンタビリティ
報告者　拓殖大学　武田哲夫氏
討論者　静岡県立大学　小谷野俊夫氏
B 会場（19 号館 3 階 309 教室）セッション：　金融史・金融法

座長　麗澤大学　佐藤政則氏
(1) 近世におけるインフォーマルな金融制度の進化 －頼母子(無尽)講に基づく流動性需要の増大への対応　秋田藩久保田の町銀貸付を中心に－
報告者　早稲田大学大学院　和島隆典氏
討論者　東京大学　岡崎哲二氏
(2) バーゼルⅡ実施と Hague 条約批准・UNIDROIT 条約成立の課題
報告者　早稲田大学　久保田　隆氏
討論者　名城大学　田澤元章氏
(3) 証券化の進展と金融法制
報告者　横浜国立大学　高橋正彦氏

討論者　早稲田大学　久保田　隆氏

C 会場（19 号館 2 階 202 教室）セッション：国際金融制度

座長　神戸大学　宮尾龍蔵氏

(1) 二カ国モデルを用いた国際通貨システムの WELFARE 分析

報告者　二松学舎大学　田端克至氏

討論者　一橋大学　岩壷健太郎氏

(2) 最近の IMF の『改革』と課題－必要とされる経済プログラムとブレトンウッズ機関の本質的な見直し－

報告者　愛媛大学　大田英明氏

討論者　慶應義塾大学　白井早由里氏

(3) The Influences of ADB Bond Issues and the US Bonds on Asian Sovereign Bonds

報告者　京都産業大学　猪口真大氏

討論者　広島大学　矢野順治氏

D 会場（19 号館 2 階 203 教室）セッション：企業金融（Ⅰ）

座長　立教大学　日向野幹也氏

(1) The Role of Collateral and Personal Guarantees in Relationship Lending: Evidence from Japan's Small Business Loan Market

報告者　経済産業研究所　植杉威一郎氏

みずほ総合研究所　小野有人氏

討論者　中央大学　堀内昭義氏

(2) コーポレートガバナンスと常務会の報酬、企業業績の関係

報告者　大阪大学大学院　渡辺直樹氏

大阪大学大学院　坂和秀晃氏

討論者　早稲田大学　久保克行氏

(3) The Impact of "Stock Therapy" on Large and Small Clients: Experiences from Two Large Bank Failures in Japan

報告者　東京大学　福田慎一氏

東京大学　鯉渕　賢氏

討論者　名古屋大学　家森信善氏

3. 会長講演　＜11:40～12:40＞

E 会場

「インフレーションの終焉」

講演者　日本金融学会会長　清水啓典氏

4. 昼食　＜12:40～14:00＞

5. 中央銀行パネル　＜14:00～16:10＞

E 会場

金融危機以降の金融政策を振り返る

座長　武蔵大学　吉田　暁氏

(1) 金融危機時以降の金融調節

報告者　中央大学　黒田　巌氏

(2) 量的緩和政策の評価と解除をめぐって

報告者　桃山学院大学　木村二郎氏

(3) 金融政策は分配問題に責任はないのか？

報告者　お茶の水女子大学　篠塚英子氏

6. 自由論題　＜14:00～16:00＞

A 会場　セッション：金融機関

座長　横浜市立大学　藤野次雄氏

(1) Effectiveness of Credit Guarantees in the Japanese Loan Market

報告者　経済産業研究所　植杉威一郎氏

一橋大学大学院　坂井功治氏

報告者　カリフォルニア州立大学（ロングビーチ）　ガイ・ヤマシロ氏

討論者　慶應義塾大学　吉野直行氏

(2) 担保と銀行のモニタリング

報告者　東北大学大学院　石田裕貴氏

討論者　一橋大学　三隅隆司氏

B 会場　セッション：　アジアの金融問題

座長　小樽商科大学　大矢繁夫氏

(1) アジア諸国の為替レートの適正水準について

報告者　日本総合研究所　清水　聡氏

討論者　一橋大学　小川英治氏

(2) アジア金融市場の統合はどこまで進んだか

報告者　日本経済研究センター　河越正明氏

四国電力　宮本拓也氏

日本経済研究センター　鶴田知己氏

討論者　筑波大学　藤井英次氏

(3) 中国のマクロ経済変数の DGP と構造変化

報告者　福岡女子大学　張　艶氏

討論者　慶應義塾大学　金子　隆氏

C 会場　セッション：企業金融（Ⅱ）

座長　大阪大学　本多佑三氏

(1) 財閥系企業における過剰投資問題の検証－フィリピン上場企業の投資の負債感応度－

報告者　一橋大学大学院　齋藤　純氏

討論者　早稲田大学　蟻川靖浩氏

(2) 政策金融ファイナンスの国際比較と日本の選択に関する一考察

報告者　日本大学　亀谷祥治氏

討論者　千葉商科大学　齋藤壽彦氏

(3) Direct and Indirect Finance and Income Inequality

報告者　神戸大学大学院　三宅敦史氏

神戸大学　中村　保氏

討論者　和歌山大学　内田浩史氏

D 会場　セッション：地域金融

座長　長崎大学　内田　滋氏

(1) ドイツ・リテール金融業務における自己資本比率規制とリレーションシップ・バンキングの意義

報告者　拓殖大学　山村延郎氏

慶應義塾大学大学院　三田村　智氏

討論者　駒沢大学　齋藤　正氏

(2) Has the Credit Crunch Occurred in Japan in 1990s?

報告者　京都大学　石川大輔氏

大阪大学　筒井義郎氏

討論者　広島大学　松浦克己氏

(3) 信用金庫の金融自由化後の銀行同質化と今後のあり方

報告者　武蔵大学大学院　鈴木三郎氏

討論者　中京大学　由里宗之氏

7. 特別講演　＜16:15～17:15＞

E 会場

「金融行政の現状と今後の課題」

講演者　金融庁長官　五味廣文氏

8. 総　会　＜17:15～18:15＞

E 会場

9. 懇親会　＜18:30～＞

会場：大隈会館「楠亭」

第 2 日 4 月 30 日(日)

1. 地域金融パネル　＜9:30～11:30＞

E 会場

顧客の期待する地域金融の機能と地域金融機関の対応

座長　名古屋大学　家森信善氏

座長　北九州市立大学　木村温人氏

(1) 大阪市の中小企業金融の現状と企業の意識

報告者　大阪市立大学　清田　匡氏

(2) 東海および関西企業の金融意識と期待する金融サービス

報告者　名古屋大学　家森信善氏

(3) 北九州地域の企業金融の現状と企業の意識

報告者　西南学院大学　西田顕生氏

報告者　北九州市立大学　木村温人氏

討論者(1)、(2)、(3)共通

神奈川大学　数阪孝志氏

金融庁　川上尚貴氏

第二地方銀行協会　千葉真司氏

信金中央金庫総合研究所　山田健嗣氏

2. 自由論題　＜9:30～11:30＞

A 会場　セッション：ファイナンス

座長　大阪大学　筒井義郎氏

(1) Behavioural Biases of Institutional Investors under Pressure from Customers: Japan and Germany vs the US

報告者　早稲田大学　首藤　惠氏

討論者　同志社大学　川北英隆氏

(2) 企業再生と株価：監視人を誰が監視するか？

報告者　名古屋市立大学　井上光太郎氏

神戸大学　加藤英明氏

討論者　横浜市立大学　丸山　宏氏

(3) 株式投資の主観的満足度：実験的アプローチ

報告者　立命館大学　井澤裕司氏

日興フィナンシャル・インテリジェンス　立石隆英氏

討論者　イボットソンアソシエイツ　山口勝業氏

C 会場　セッション：金融機関経営

座長　中央大学　高橋豊治氏

(1) 銀行の役割と地域性の重視－メガバンク・グループの一員としての地域銀行－

報告者　中京大学　水谷研治氏

討論者　愛知大学　奥野博幸氏

(2) 銀行と商業のワンウェイ規制について

報告者　みずほ総合研究所　梅田　彰氏

討論者　東京大学　柳川範之氏

D 会場　セッション：国際金融の実証

座長　東北大学　宮越龍義氏

(1) 日米欧の資本移動と資産価格の連動性

報告者　武蔵大学　大野早苗氏

討論者　一橋大学　岩壷健太郎氏

(2) アジア通貨危機前後でのインドネシア上場企業の資金調達行動の変化：金融改革は企業行動に影響を与えたか？

報告者　一橋大学　奥田英信氏

一橋大学大学院　竹　康至氏

討論者　早稲田大学　蟻川靖浩氏

(3) 韓国・タイの資本 フロー要因分析－順序プロビット・モデルによる月次データ分析－

報告者　野村資本市場研究所・一橋大学大学院　浦出隆行氏

討論者　近畿大学　山上秀文氏

3. 昼食　＜11:30-13:00＞

4. 共通論題　＜13:00-16:00＞

E 会場

M&A と企業価値

座長　早稲田大学　宮島英昭氏

(1) 近年の M&A の増加をいかに理解するか

報告者　早稲田大学　蟻川靖浩氏

早稲田大学　宮島英昭氏

(2) M&A と制度設計

報告者　東京大学　柳川範之氏

(3) 企業法制の基本概念と M&A

報告者　早稲田大学　上村達男氏

(4) 敵対的買収とその防衛策

報告者　日興シティグループ証券　藤田　勉氏

5. 閉会挨拶＜16:00＞

大会実行委員長　早稲田大学アジア太平洋研究科　西村吉正氏

2006 年度秋季大会（小樽商科大学）

第 1 日　9 月 9 日（土）

1. 自由論題　＜9:30～11:30＞
A 会場（4 号館 1 階 160 教室）
セッション：国際金融　（Ⅰ）

座長　神戸大学　藤田誠一氏

(1) ユーロ決済システムの改革と EU 各国の対応および「単一ユーロ決済地域」計画

報告者　東北大学大学院　太田瑞希子氏
討論者　九州大学　岩田健治氏

(2) グリーンスパンードル危機を封印した男：Greenback backs Greenspan'back

報告者　佐賀大学　米倉　茂氏
討論者　熊本学園大学　岡本眞也氏

(3) 「債券」と「株式」のセットでさらに発展するアジア金融・証券市場－戦略的アジア金融システム政策－

報告者　三菱東京 UFJ 銀行　宿輪純一氏
討論者　近畿大学　山上秀文氏

B 会場（3 号館 1 階 104 教室）
セッション：金融史

座長　麗澤大学　佐藤政則氏

(1) 4 カ国占領とフランクフルト金融市場の復活

報告者　北星学園大学　山口博教氏
討論者　慶應義塾大学　赤川元章氏

(2) 日本の少数株主保護法制と所有構造の進化－戦前における少数株主保護の不在と株式分散－

報告者　早稲田大学　宮島英昭氏
早稲田大学　尾身裕介氏
討論者　名古屋市立大学　横山和輝氏

C 会場（3 号館 1 階 105 教室）
セッション：金融機関　（Ⅰ）

座長　早稲田大学　晝間文彦氏

(1) 預金契約と銀行の事前審査：金融仲介機能の考察

報告者　東北大学大学院　石田裕貴氏
討論者　鹿児島大学　永田邦和氏

(2) Financial Institutions and Economic Growth

報告者　広島大学大学院　山根智沙子氏
討論者　弘前大学　山本康裕氏

(3) 信用金庫・信用組合の債務超過に関する分析－資産と資本と債務超過の関係を考察する－

報告者　関西学院大学大学院　大塚茂晃氏
討論者　横浜市立大学　藤野次雄氏

D 会場（3 号館 2 階 211 教室）
セッション：各国金融（Ⅰ）

座長　一橋大学　小川英治氏

(1) 家計の形態別消費支出データを用いたライフサイクル・恒常所得仮説の検証

報告者　青山学院大学大学院　後藤智弘氏
討論者　小樽商科大学　渋谷　浩氏

(2) 世界各国に見る CPI レベル＝インフレーションに関する分析と総合－20～21C.両世紀に跨るマクロ的変遷状況と日銀金利政策の独自性－

報告者　イオンド大学　清水　徹氏
討論者　福島学院大学　下平尾　勲氏

E 会場（3 号館 2 階 213 教室）
セッション：企業金融・ファイナンス　（Ⅰ）

座長　一橋大学　釜江廣志氏

(1) 日本の株式市場の予測可能性

報告者　一橋大学大学院　青野幸平氏
討論者　北星学園大学　皆木健男氏

(2) 完全子会社化の実証分析

報告者　長崎大学　阿萬弘行氏
討論者　早稲田大学　蟻川靖浩氏

(3) 転換社債発行のアナウンスメント効果－転換価格修正条項の意味－

報告者　横浜国立大学大学院　土村宜明氏
オウル大学　山田聖子氏
討論者　長崎大学　須齋正幸氏

2. 会長講演　＜11:40～12:40＞
A 会場（4 号館 1 階 160 教室）
「日本の金融市場：変貌と課題」

講演者　日本金融学会会長　清水啓典氏

3. 昼食　＜12:40～13:40＞

4. 中央銀行パネル　＜13:40～16:00＞
B 会場（3 号館 1 階 104 教室）
わが国の金融システム安定化の社会的コスト

座長　関西学院大学　春井久志氏

(1) わが国の金融システム安定化の社会的コスト

報告者　ドイツ證券シニアエコノミスト　安達誠司氏

(2) 金融システムの安定化と銀行の信用の毀損

報告者　桃山学院大学　中野瑞彦氏

(3) 強固な金融システム確立に向けた諸課題

報告者　日本総合研究所　足立　茂氏

(4) 預金保険の視点から見た金融危機のコスト分析

報告者　預金保険機構理事長　永田俊一氏

(5) 過剰債務の解消課程と再分配効果

報告者　慶應義塾大学　池尾和人氏

5. 自由論題　＜13:40～15:40＞
A 会場（4 号館 1 階 160 教室）
セッション：国際金融　（Ⅱ）

座長　東京大学　福田慎一氏

(1) Volatility Impulse Response Function of Exchange Rate to Foreign Exchange Intervention Shock

報告者　神戸大学大学院　星河武志氏
討論者　筑波大学　永易　淳氏

(2) 1980 年代後半期の為替調整における公的介入の即効的な効果－観測介入と口先介入の比較－

報告者　日本大学　小巻泰之氏
討論者　一橋大学　小川英治氏

(3) Enhancing Portfolio Capital Flows in Asia

報告者　慶應義塾大学　吉野直行氏
金融庁　飯島高雄氏
討論者　東京大学　福田慎一氏

C 会場（3 号館 1 階 105 教室）
セッション：金融機関　（Ⅱ）

座長　長崎大学　内田　滋氏

(1) わが国銀行部門のオーバーバンキング問題について

報告者　三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング　杉山敏啓氏
討論者　早稲田大学　蟻川靖浩氏

(2) SME financing and the choice of lending technology

報告者　和歌山大学　内田浩史氏
インディアナ大学　Gregory F. Udell 氏
名古屋大学　家森信善氏
討論者　みずほ総合研究所　小野有人氏

(3) 邦銀のイノベーションと銀行経営の陰－住友銀行に見るイノベーターの栄光と挫折－

報告者　信州大学　鈴木智弘氏
討論者　東北大学　鴨池　治氏

D 会場（3 号館 2 階 211 教室）
セッション：中国の金融

座長　福島学院大学　下平尾　勲氏

(1) The Bank Lending　Channel in China

報告者　東京国際大学　郡司大志氏
法政大学大学院　袁　媛氏
討論者　大阪大学　本多佑三氏

(2) Labyrinth of Chinese financial system

報告者　国際金融情報センター　中井浩之氏
討論者　早稲田大学　首藤　惠氏

(3) 中国における家計貯蓄の動向－地域的特徴と貯蓄動機

報告者　玉川大学　古島義雄氏
討論者　一橋大学　奥田英信氏

E 会場（3 号館 2 階 213 教室）
セッション：金融政策　（Ⅰ）

座長　大東文化大学　高山洋一氏

(1) User cost of interest-bearing money and its importance in money demand function

報告者　神戸大学大学院　稲垣一之氏
討論者　東京経済大学　熊本方雄氏

(2) 銀行部門の自己資本比率の変動は景気循環に影響を与えたのか？－日本における県別パネルデータを用いた分析

報告者　京都大学　石川大輔氏
討論者　神戸大学　宮尾龍蔵氏

6. 特別講演　＜16:10～17:10＞
A 会場（4 号館 1 階 160 教室）
「バブル崩壊以降の破綻処理政策の彷徨－事前行政と事後行政－」

講演者　早稲田大学大学院アジア太平洋研究科長　西村吉正氏

7. 総　会　＜17:20-18:00＞
A 会場（4 号館 1 階 160 教室）

8. 懇親会　＜18:00＞
会場：小樽商科大学・大学会館 1 階「食堂ホール」

第 2 日　9 月 10 日（日）

1. 国際金融パネル　＜9:30～11:30＞
A 会場（4 号館 1 階 160 教室）
IMF 改革と今後の課題

座長　明治大学　勝　悦子氏

(1) IMF の中期戦略　―グローバライゼーションへの対応

報告者　国際通貨基金アジア太平洋地域事務所長　有吉　章氏

(2) エマージング諸国の台頭とＩＭＦの役割

報告者　日本銀行金融研究所　渡辺賢一郎氏

(3) 国際金融市場の発展と IMF の役割

報告者　小樽商科大学　渋谷　浩氏

2. 自由論題　＜9:30-11:30＞
B 会場（3 号館 1 階 104 教室）
セッション：地域金融

座長　北海道大学　濱田康行氏

(1) 地銀の預貸利鞘と市場構造

報告者　神戸大学大学院　石橋尚平氏
討論者　札幌学院大学　播磨谷浩三氏

(2) 信用金庫合併の実際と今後の課題～彦根信用金庫と近江八幡信用金庫の合併を中心として～

報告者　滋賀大学大学院　元持敏雄氏
討論者　株式会社 ABM　石川清英氏

(3) 政府系金融機関融資は「借りにくい地域」へ適切に配分されているか？～金融機関別・都道府県別データによる実証分析

報告者　財務省　中田真佐男氏
財務省　安達茂弘氏

討論者　中央大学　根本忠宣氏

C 会場（3 号館 1 階 105 教室）

セッション：企業金融・ファイナンス　（Ⅱ）

座長　慶應義塾大学　金子　隆氏

(1) Control Transfer, Cash Holdings, and the Ownership Structure of the Target Firm

報告者　近畿大学　小林磨美氏

討論者　神戸大学　畠田　敬氏

(2) スモールローンの信用リスクの計測について

報告者　金融工学研究所　宮本道子氏

討論者　中央大学　高橋豊治氏

(3) CRD データベースからみた日本の中小企業金融の姿

報告者　同志社大学　鹿野嘉昭氏

討論者　成城大学　村本　孜氏

D 会場（3 号館 2 階 211 教室）

セッション：各国金融　（Ⅱ）

座長　滋賀大学　有馬敏則氏

(1) グローバル金融市場における住宅金融の変容と課題

報告者　日本銀行　内田真人氏

討論者　九州大学　岩田健治氏

(2) 地域密着を可能にする仕組みとは～米銀数の 30%を占める S コーポ銀の分析から～

報告者　茨城大学　内田　聡氏

討論者　神奈川大学　数阪孝志氏

(3) イギリスの金融市場改革と Secondary Banking Crisis

報告者　千葉商科大学　清水正昭氏

討論者　成城大学　福光　寛氏

E 会場（3 号館 2 階 213 教室）

セッション：金融政策　（Ⅱ）

座長　明治大学　金子邦彦氏

(1) 日銀の国債オペレーションによるイールドカーブへの影響

報告者　駒沢大学大学院　勝田佳裕氏

討論者　独協大学　斉藤美彦氏

(2) The Effects of Monetary Policy in Japan:An Empirical Study by FAVAR Approach

報告者　広島大学大学院　任　維彤氏

討論者　岩手県立大学　Tee Kian Heng 氏

(3) 銀行貸出を通じた金融政策ショックの国際的な伝播：豪州とニュージーランドの場合

報告者　龍谷大学　鈴木智也氏

討論者　秋田経済法科大学　宮崎浩伸氏

3. 昼食　＜11:30～12:30＞

4. 共通論題　＜12:30～15:30＞

A 会場（4 号館 1 階 160 教室）

新たなステージの地域金融

座長　東北大学　鴨池　治氏

九州大学　川波洋一氏

(1) 全国版地銀 CLO（沖縄方式）推進から見た地方金融機関の経営

報告者　九州大学　小西龍治氏

(2) リレーションシップバンキングの機能強化の現状と次なる展開

報告者　アビームコンサルティング　多胡秀人氏

(3) リレーションシップバンキング機能は強化されたか？　－関西地域企業アンケートに基づく分析－

報告者　名古屋大学　家森信善氏

(4)「金融危機」は地域金融をどう変えたか

報告者　立教大学　山口義行氏

2007 年度春季大会（麗澤大学）

第 1 日　5 月 12 日（土）

1. 国際金融パネル　＜9:30～11:30＞
F 会場（1503 教室）
東アジア金融市場

座長　広島大学　矢野順治氏

(1) 東アジア諸国におけるソブリン債の国際的相関と ADB の債券発行の影響

報告者　京都産業大学　猪口真大氏

(2) 金融自由化、金融市場の発展、金融危機―インドネシアのケース―

報告者　広島大学　小松正昭氏

(3) On Asian Monetary Unit

報告者　明海大学　清水順子氏

コメンテーター　慶應義塾大学　吉野直行氏

コメンテーター　東京大学　福田慎一氏

2. 自由論題　＜9:30～11:30＞
A 会場（1501 教室）セッション：金融機関

座長　中央大学　高橋豊治氏

(1) A Theoretical and Empirical Examination of the Credit View：From the Viewpoint of Bank Lending Behavior

報告者　甲南大学　古川　顕氏

甲南大学特別研究員　王　凌氏

討論者　関西学院大学　田中　敦氏

(2) 証券業の再編と効率性の検証

報告者　札幌学院大学　播磨谷浩三氏

中央大学　奥山英司氏

討論者　日本総合研究所　新美一正氏

(3) Market Competition Before and After Bank Merger Wave in East Asia : A Comparative Study of Korea and Japan

報告者　韓国預金保険公社　Lee Min Hwan 氏

三菱総合研究所　永野　護氏

討論者　和歌山大学　内田浩史氏

B 会場（1502 教室）セッション：各国の金融 I

座長　麗澤大学　中島真志氏

(1) トルコにおける経営者の交代とガバナンス構造

報告者　一橋大学大学院　比佐優子氏

討論者　流通経済大学　長瀬　毅氏

(2) 中米諸国の通貨･為替制度選択に係る考察―エルサルバドルとグアテマラの事例比較―

報告者　国際通貨研究所　松井謙一郎氏

討論者　同志社女子大学　田口奉童氏

C 会場（1601 教室）セッション：金融政策

座長　同志社大学　鹿野嘉昭氏

(1) Term Structure of Interest Rates in Japan under Zero Interest Rate and Quantitative Easing Policies

報告者　神戸大学大学院　英　邦広氏

討論者　新潟大学　伊藤隆康氏

(2) ゼロ金利制約下におけるリフレーション政策論議―日銀は何を行い何を行わなかったか

報告者　専修大学　田中隆之氏

討論者　一橋大学　渡辺　努氏

D 会場（1602 教室）セッション：国際金融 I

座長　愛知大学　栗原　裕氏

(1) 流動性効果が国際証券ポートフォリオのパフォーマンスに与える影響

報告者　武蔵大学　大野早苗氏

討論者　日本大学　小巻泰之氏

(2) 国際金融の新潮流とバーゼル・プロセス

報告者　新光証券　吉國眞一氏

討論者　日本銀行　高橋　亘氏

(3) エマージング・マーケット諸国による対外資本取引への関与―パネルデータ分析―

報告者　九州国際大学　上坂　豪氏

討論者　近畿大学　森川浩一郎氏

E 会場（1505 教室）セッション：金融史

座長　千葉商科大学　齊藤壽彦氏

(1) 日英中央銀行の関係および協力の考察：1897-1921 年

報告者　日本大学　Simon James Bytheway 氏

討論者　千葉商科大学　齊藤壽彦氏

(2) 金融危機下における銀行ポートフォリオ選択：戦前日本のケース

報告者　名古屋学院大学　澤田　充氏

討論者　名古屋大学　家森信善氏

(3) 第 2 次大戦前の日本における財政の維持可能性

報告者　神戸大学　鎮目雅人氏

討論者　名古屋市立大学　横山和輝氏

3. 会長講演　＜11:50～12:40＞

F 会場（1503 教室）

ミルトン・フリードマン：業績と日本への教訓

講演者　日本金融学会会長　清水啓典氏

4. 昼食＜12:40～13:40＞

5. 中央銀行パネル　＜13:40～15:40＞

F 会場（1503 教室）

新日本銀行法制定から 10 年

座長　関西学院大学　春井久志氏

(1)「日銀法の改正」と金融政策

報告者　慶應義塾大学　吉野直行氏

(2) 最近の業務・組織運営―透明性確保の観点から

報告者　日本銀行　高橋　亘氏

(3) 金融市場から見た中央銀行の独立性：Fed と日銀の比較

報告者　東短リサーチ　加藤　出氏

(4) 日銀法の問題点

報告者　中京大学　鐘ヶ江　毅氏

6. 自由論題　＜13:40～15:40＞

A 会場（1501 教室）セッション：ファイナンス

座長　早稲田大学　晝間文彦氏

(1) The Return Predictability of Disposition Investor’s Unrealized Gain

報告者　一橋大学大学院　高橋秀朋氏

討論者　青山学院大学　亀坂安紀子氏

(2) 無形資産価値評価モデルについて

報告者　大和証券投資信託委託　山口智弘氏

討論者　首都大学東京　田中敬一氏

(3) アナザー・ライブドア・ショック？

報告者　東京国際大学　郡司大志氏

法政大学大学院　三浦一輝氏

討論者　大阪大学　筒井義郎氏

B 会場（1502 教室）セッション：企業金融・金融市場

座長　慶應義塾大学　金子　隆氏

(1) 外国人投資家の株式所有と企業価値の因果関係―分散不均一性による同時方程式の識別―

報告者　一橋大学　岩壷健太郎氏

一橋大学大学院　外木好美氏

討論者　早稲田大学　米沢康博氏

(2) 所有構造と投資の横並び行動の関係

報告者　高千穂大学　比佐章一氏

討論者　日本政策投資銀行　花崎正晴氏

(3) CRD データベースからみた日本の中小企業の収益性

報告者　同志社大学　鹿野嘉昭氏

討論者　青森公立大学　今　喜典氏

C 会場（1601 教室）セッション：公的金融・金融機関

座長　立教大学　日向野幹也氏

(1) Risk Management by Japanese Banks: Overview and Recent Developments

報告者　埼玉大学　渡部　訓氏

討論者　東京国際大学　上林敬宗氏

(2) バーゼルⅡの交渉経緯と我が国の果たした役割について

報告者　金融庁　氷見野良三氏

討論者　東京大学　古城佳子氏

(3) 公的信用保証制度の所得移転機能に関する考察

報告者　国立国会図書館　深澤映司氏

討論者　財務省　中田真佐男氏

D 会場（1602 教室）セッション：国際金融Ⅱ

座長　一橋大学　小川英治氏

(1) アジアの国際シンジケート・ローン市場―ミクロ・データによるシンジケート構造の分析―

報告者　山形大学　山口昌樹氏

討論者　三菱総合研究所　永野　護氏

(2) 高齢化する東アジア―政策課題と金融市場

報告者　九州大学　木原隆司氏

討論者　一橋大学　小川英治氏

6. 特別講演　＜16:00-17:00＞

F 会場（1503 教室）

日本銀行副総裁　武藤敏郎氏

7. 総　会　＜17:10～17:50＞

F 会場（1503 教室）

8. 懇親会　＜18:10～20:10＞
会場：れいたくキャンパスプラザ レストランまんりょう

第 2 日　5 月 13 日(日)

1. 自由論題　＜9:30～11:30＞
A 会場（1501 教室）セッション：金融史・金融法
座長　成城大学　浅井良夫氏
(1) 戦後揺籃期における金融当局検査の考察―旧銀行法における銀行検査の位置づけと GHQ/SCAP との関係―
報告者　いすゞ自動車　大江清一氏
討論者　千葉商科大学　齊藤壽彦氏
(2) 損害保険の大衆化と積立保険－積立保険がもたらした損害保険経営の質的転換－
報告者　山梨大学　長谷川直哉氏
討論者　東京海上日動　吉沢卓哉氏
(3) 証券化立法の法と経済学的分析
報告者　横浜国立大学　高橋正彦氏
討論者　早稲田大学　久保田　隆氏
B 会場（1502 教室）セッション：地域金融
座長　成城大学　村本　孜氏
(1) 地域間経済格差と金融・財政の役割
報告者　九州大学　堀江康熙氏
討論者　中央大学　根本忠宣氏
(2) 地銀の早期事業再生に向けた取組の初期評価
報告者　神戸大学大学院　石橋尚平氏
討論者　岡山商科大学　岩坪加紋氏
(3) 沖縄県における相対的な高金利―全国との対比による実証分析
報告者　近畿大学　安孫子勇一氏
討論者　日本銀行　内田真人氏
C 会場（1601 教室）セッション：各国の金融Ⅱ
座長　早稲田大学　首藤　惠氏
(1) 中国の国有工業企業の短期資金―資金調達と運用を中心に
報告者　筑波大学大学院　洪　恩東氏
討論者　国際金融情報センター　中井浩之氏
(2) The Effects of Foreign Entry on the Banking Market: Empirical Analysis of China

1996-2004

報告者　法政大学大学院　袁　媛氏

討論者　一橋大学　奥田英信氏

(3) Islamic Banking in Malaysia: Prospect and Challenges

報告者　明治大学大学院　Zulkapli Mohamed 氏

討論者　アジア経済研究所　中川利香氏

D 会場（1602 教室）セッション：国際金融Ⅲ

座長　神戸大学　藤田誠一氏

(1) 経済発展期の ASEAN と国際通貨システム

報告者　秋田経済法科大学　西尾圭一郎氏

討論者　阪南大学　神沢正典氏

(2) Optimal Monetary and Fiscal Policy Mix in a Currency Union with Nontradable Goods

報告者　千葉経済大学　岡野衛士氏

討論者　和歌山大学　北野重人氏

(3) 国際的な最後の貸し手機能と IMF

報告者　立教大学　野口嘉彦氏

討論者　拓殖大学　武田哲夫氏

2. 昼食　＜11:30～13:00＞

3. 共通論題　＜13:00～16:00＞

F 会場（1503 教室）量的金融緩和政策を振り返って

座長　中央大学　堀内昭義氏

報告者　京都大学　白川方明氏

神戸大学　宮尾龍蔵氏

東京大学　吉川　洋氏

2007 年度秋季大会（同志社大学）

第 1 日　9 月 8 日（土）

1.　金融史パネル　＜9:15～1135＞
A 会場（明徳館 2F：M21 番教室）
国際銀行とアジア

座長　法政大学　西村閑也氏

(1) 香港上海銀行　1865－1913 年

報告者　法政大学　西村閑也氏

(2) 東洋銀行　1842－1884 年

報告者　東北大学　鈴木俊夫氏

(3) 第一次世界大戦前香港上海銀行ハンブルグ支店

報告者　大阪経済大学　蕭　文嫻氏

(4) インターナショナル・バンキング・コーポレーション 1902－1937

報告者　東北大学　菅原　歩氏

討論者　東京経済大学　石井寛治氏
静岡大学　居城　弘氏

2. 自由論題　＜9:15～11:15＞
B 会場（至誠館 2F：S21 番教室）
セッション：金融政策

座長　神戸大学　地主敏樹氏

(1) Term Structure of Interest Rates under Discretion Policy

報告者　神戸大学大学院　英　邦広氏
討論者　同志社大学　北坂真一氏

(2) 1930 年代のスウェーデンの物価安定政策

報告者　明治大学　北岡孝義氏
討論者　神戸大学　宮尾龍蔵氏

(3) 金融政策の反応関数に関する時変係数構造 VAR モデル―非ガウス逐次ベイジアンフィルターによるアプローチ―

報告者　金融庁　矢野浩一氏
慶応義塾大学　吉野直行氏
討論者　日本銀行　粕谷宗久氏

C 会場（至誠館 2F：S23 番教室）
セッション：ファイナンス 1

座長　大阪大学　筒井義郎氏

(1) On the Differential in Risky Assets Share between the United States and Japan

報告者　大阪大学大学院　木成勇介氏

討論者　東京大学　福田慎一氏

(2) 日本の資産市場と C-CAPM

報告者　釧路公立大学　尾崎泰文氏

討論者　甲南大学　大塚晴之氏

D 会場（至誠館 2F：S24 番教室）

セッション：金融システム 1

座長　成城大学　村本　孜氏

(1) 私立大学と国立大学の経営比較と会計情報のパラドックス

報告者　専修大学　小藤康夫氏

討論者　名古屋大学　家森信善氏

(2) 環境融資における金利優遇の経済合理性

報告者　信金中央金庫総合研究所　澤山　弘氏

討論者　成城大学　福光　寛氏

(3) 地方自治体の制度融資に関する考察

報告者　国立国会図書館　深澤映司氏

討論者　同志社大学　鹿野嘉昭氏

E 会場（至誠館 1F：S2 番教室）

特別セッション：ケインズと現代　＜9:15～11:35＞

座長　明治大学　渡辺良夫氏

(1) デフレ不況とケインズ経済学

報告者　中央大学　浅田統一郎氏

討論者　立教大学　黒木龍三氏

(2) 使用者費用、金融準備、投機的動機

報告者　日本大学　宅和公志氏

討論者　国士舘大学　野下保利氏

(3) 貨幣錯覚、流通速度とケインジアン・モデル及びマネタリスト・モデル

報告者　同志社大学　藤原秀夫氏

討論者　明治大学　渡辺良夫氏

(4) マクロ経済学の批判的展望 －「飛翔せる鷲」（＝経済史家）の視座から

報告者　上智大学　平井俊顕氏

討論者　成城大学　明石茂生氏

F 会場（至誠館 1F：S4 番教室）

セッション：国際金融 1

座長　関西学院大学　春井久志氏

(1) The Structural Change of Balassa-Samuelson Effects in Japan in 1990s

報告者　神戸大学大学院　山本周吾氏

討論者　明海大学　清水順子氏

(2) アジア通貨単位（AMU）の経常・資本取引での使用の可能性を探る

報告者　国際通貨研究所　西村陽造氏

討論者　文京学院大学　絹川直良氏

(3) Liquidity Risk Aversion, Debt Maturity, and Current Account Surpluses : A Theory and Evidence from East Asia

報告者　東京大学　福田慎一氏

東京大学大学院　今　喜史氏

討論者　東京経済大学　熊本方雄氏

G 会場（至誠館 B1F : S 地 2 番教室）

セッション：金融機関 1

座長　滋賀大学　有馬敏則氏

(1) Market Discipline by CD Holders: Evidence from Japan with a Comparison to the U.S.

報告者　東海東京証券　小林礼実氏

討論者　神戸大学　藤原賢哉氏

(2) 金利上昇局面における預金者行動について

報告者　滋賀大学大学院　安井　進氏

討論者　愛知大学　奥野博幸氏

(3) 銀行系ベンチャーキャピタルと IPO が企業の設備投資行動に与える影響

報告者　一橋大学　比佐優子氏

討論者　学習院大学　辰巳憲一氏

H 会場（至誠館 B1F : S 地 3 番教室）

セッション：金融市場

座長　慶応義塾大学　金子　隆氏

(1) 量的緩和政策期になぜ銀行貸出は増えなかったのか？

報告者　一橋大学大学院　長田　健氏

討論者　明治学院大学　佐々木百合氏

(2) 銀行の統合は、貸出市場及び金融政策にいかなる影響を持ちうるか？

報告者　弘前大学　山本康裕氏

討論者　早稲田大学　畫間文彦氏

(3) 銀行間市場における情報カスケード：銀行の審査能力とゼロ金利政策の影響

報告者　同志社大学　丸茂俊彦氏

討論者　一橋大学　三隅隆司氏

3. 会長講演　＜11:45～12:45＞
A 会場（明徳館 2F：M21 番教室）
金融業の国際競争力
講演者　日本金融学会会長　清水啓典氏

4. 昼食　＜12:45～13:45＞

5. 中央銀行パネル　＜13:45～15:45＞
A 会場（明徳館 2F：M21 番教室）
日・米・欧の金融政策
座長　東京大学　福田慎一氏
(1) 日本の金融政策運営
報告者　神戸大学　宮尾龍蔵氏
(2) アメリカの金融政策運営
報告者　神戸大学　地主敏樹氏
(3) ユーロ圏の金融政策運営
報告者　三菱 UFJ 証券　矢口　満氏
討論者　東短リサーチ　加藤　出氏

6. 自由論題＜13:45～15:45＞
B 会場（至誠館 2F：S21 番教室）
セッション：ファイナンス 2
座長　東北大学　鴨池　治氏
(1) 日本の株式市場・債券市場における金融政策の影響
報告者　一橋大学大学院　青野幸平氏
討論者　明星大学　中田勇人氏
(2) ARCH 型分散変動モデルによる冬季気温リスク・スワップの検証
報告者　岩手県立大学　Tee Kian Heng 氏
京都大学／明治大学　刈屋武昭氏
討論者　大阪大学　福重元嗣氏
(3) 公社債流通市場における LIBOR スプレッドの傾向とその決定要因
報告者　中央大学　高橋豊治氏
討論者　新潟大学　伊藤隆康氏

C 会場（至誠館 2F：S23 番教室）
セッション：地域金融 1

座長　小樽商科大学　大矢繁夫氏

(1) 地方都市における郵便局と民間金融機関の店舗配置：鹿児島県のデータによる分析

報告者　鹿児島大学　永田邦和氏

鹿児島大学　石塚孔信氏

討論者　新潟大学　伊藤隆康氏

(2) 銀行部門と地域の経済発展：金融深化と収束仮説

報告者　広島大学大学院　山根智沙氏

大阪大学　筒井義郎氏

討論者　慶応義塾大学　岡部光明氏

(3) 地域経済のための金融

報告者　高崎経済大学　前田拓生氏

討論者　成城大学　村本　孜氏

E 会場（至誠館 1F：S2 番教室）

セッション：マクロ金融

座長　大阪大学　本多佑三氏

(1) Efficacy of Fiscal Policy in Japan : Keynesian and Non-Keynesian Effects on Aggregate Demand

報告者　神戸大学　柴本昌彦氏

大阪大学大学院　木成勇介氏

討論者　同志社大学　北坂真一氏

(2) International Relocation, Difference of Production Cost and Welfare : Analysis Based on the Two-Country Model

報告者　神戸大学　道和孝治郎氏

討論者　和歌山大学　北野重人氏

(3) わが国における投資行動と調整費用－業種別データによる検証－

報告者　岡山商科大学　小塚匡文氏

討論者　日本銀行　白塚重典氏

F 会場（至誠館 1F：S4 番教室）

セッション：国際金融 2

座長　名古屋大学　千田純一氏

(1) 資本市場の開放が産業構造類似性に与える影響：OECD パネルデータに基づく分析

報告者　一橋大学大学院　吉見太洋氏

討論者　横浜国立大学　佐藤清隆氏

(2) When the Collapse of Bretton Woods System Began? : Evidence from G7 Countries

報告者　大阪経済大学　福本幸男氏

討論者　一橋大学　小川英治氏

(3) What does cause volatility spillover? Evidence from the euro, the yen, and the Swiss franc spot rates

報告者　富山大学　北村能寛氏

討論者　明星大学　中田勇人氏

G 会場（至誠館 B1F：S 地 2 番教室）

セッション：金融機関 2

座長　名古屋大学　家森信善氏

(1) 一般化費用関数を用いた銀行業の非効率性分析－店舗規制の影響－

報告者　青森公立大学　國方　明氏

討論者　札幌学院大学　播磨谷浩三氏

(2) 規制緩和が金融機関のリスクに与えた影響

報告者　札幌学院大学　播磨谷浩三氏

中央大学　奥山英司氏

討論者　一橋大学　小西　大氏

(3) The disclosure regulation and accountability of financial institution

報告者　九州大学大学院　下田真也氏

討論者　横浜市立大学　酒井良清氏

H 会場（至誠館 B1F：S 地 3 番教室）

セッション：企業金融

座長　明治大学　金子邦彦氏

(1) シンジケートローンはなぜ拡大しているか

報告者　一橋大学大学院　山城　健氏

討論者　和歌山大学　内田浩史氏

(2) 近年における中小企業の経営財務面での動きをめぐって－CRD の分析結果から-

報告者　同志社大学　鹿野嘉昭氏

討論者　京都学園大学　波多野　進氏

7. 特別講演　＜16:00～17:00＞

A 会場（明徳館 2F：M21 番教室）

演題　デフレーションと金融改革

講演者　東京大学　吉川　洋氏

8. 総　会　＜17:10～18:00＞

A 会場（明徳館 2F：M21 番教室）

9. 懇親会＜18：30～20：30＞

会場：平安会館

第 2 日　9 月 9 日（日）

1. 国際金融パネル＜9:30～11:30＞
A 会場（明徳館 2F：M21 番教室）
アジア通貨危機から 10 年：地域金融協力の進展と今後の行方

座長　一橋大学　小川英治氏

(1) アジア通貨危機から 10 年：IMF と東アジアは何を学んだか？

報告者　東京大学　伊藤隆敏氏

(2) 東アジアの通貨・金融協調の展望

報告者　アジア開発銀行／東京大学　河合正弘氏

(3) 東アジアにおける金融協力の現状と今後

報告者　財務省　浅川雅嗣氏

2. 自由論題　＜9:30～11:30＞
B 会場（至誠館 2F：S21 番教室）
セッション：金融システム 2

座長　同志社大学　植田宏文氏

(1) 日銀の市場との対話－2007 年 1 月から 2 月の金融政策運営を分析して

報告者　新潟大学　伊藤隆康氏
討論者　愛知大学　栗原　裕氏

(2) 中央銀行の透明性を巡る議論～日銀のコミュニケーション戦略の評価に向けて～

報告者　みずほ総合研究所　鈴木将覚氏
討論者　京都大学　島本哲朗氏

(3) 戦前の日本の工業化と金融システムの機能

報告者　中央大学　堀内昭義氏
日本政策投資銀行　松下佳菜子氏
日本政策投資銀行　花崎正晴氏
討論者　東京大学　岡崎哲二氏

C 会場（至誠館 2F：S23 番教室）
セッション：金融理論

座長　熊本学園大学　坂本　正氏

(1)「収益力の資本化」による「企業そのものの擬制資本化」について―A. S. Dewing の所説を中心に―

報告者　九州大学大学院　宇土至心氏
討論者　北海学園大学　小林真之氏

(2) 電子マネーの普及が貨幣・日本銀行券の需要に及ぼす影響

報告者　九州大学大学院　中田真佐男氏

財務省　安達茂弘氏

討論者　一橋大学　北村行伸氏

(3) 忘却された貨幣論～貨幣・金融システムの虚構性と現実性～

報告者　熊本学園大学　岡本悳也氏

討論者　福岡大学　川合　研氏

D 会場（至誠館 2F：S24 番教室）

セッション：地域金融 2

座長　早稲田大学　晝間文彦氏

(1) 大阪府の信用金庫の再編と貸出市場における競争

報告者　神戸大学大学院　石橋尚平氏

討論者　近畿大学　安孫子勇一氏

(2) 信用金庫の地域貢献と存在意義の再考：戦前の信用組合による病院建設を事例として

報告者　滋賀大学大学院　元持敏雄氏

討論者　中京大学　由里宗之氏

(3) 労働金庫の協同組織・収益体質からみた経営の方向性―労働金庫にとっての「リレーションシップバンキング」とは何か―

報告者　愛知学泉大学　三村　聡氏

討論者　早稲田大学　晝間文彦氏

E 会場（至誠館 1F：S2 番教室）

セッション：行動ファイナンス

座長　一橋大学　釜江廣志氏

(1) ファンド・マネジャーのリスク態度の論理整合性と投資行動の特徴：アンケート調査に基づく検証

報告者　長崎大学　須齋正幸氏

長崎大学　森保　洋氏

討論者　北星学園大学　皆木健男氏

(2) Can We Exploit Behavioral Biases?

報告者　一橋大学　三隅隆司氏

ミシガン大学　Tyler Shumway 氏

一橋大学大学院　高橋秀朋氏

討論者　大阪大学　筒井義郎氏

(3) 上限金利規制の是非：行動経済学的アプローチ

報告者　大阪大学　筒井義郎氏

早稲田大学　晝間文彦氏

大阪大学　大竹文雄氏
大阪大学　池田新介氏
討論者　慶応義塾大学　吉野直行氏

F 会場（至誠館 1F：S4 番教室）
セッション：各国の金融
座長　大阪市立大学　片岡　尹氏

(1) 現代におけるイスラム金融
報告者　早稲田大学　北村歳治氏
討論者　アジア経済研究所　中川利香氏

(2) グローバル市場におけるイスラム金融システムの意義
報告者　国際協力銀行　吉田悦章氏
討論者　明治大学　勝　悦子氏

(3) An empirical analysis of Asian currency system after Reform of RMB's Exchange Rate regime
明治大学　勝　悦子氏
明治大学大学院　一木毅文氏
京都大学　村瀬哲司氏

G 会場（至誠館 B1F：S 地 2 番教室）
セッション：銀行理論
座長　中央大学　高橋豊治氏

(1) 銀行取り付け防止策としての支払停止条項の有効性：厚生分析
報告者　同志社大学大学院　小田勇一氏
討論者　横浜市立大学　酒井良清氏

(2) 銀行の事前審査のコスト－Stiglitz and Weiss(1981, AER)の再考察－
報告者　東北学院大学　石田裕貴氏
討論者　横浜市立大学　藤野次雄氏

(3) Bank Consolidation and Soft Information Acquisition in Small Bussiness Lending
報告者　一橋大学　小倉義明氏
和歌山大学　内田浩史氏
討論者　神戸大学　忽那憲治氏

H 会場（至誠館 B1F：S 地 3 番教室）
特別セッション：現代資本主義とファンド
座長　九州大学　川波洋一氏

(1) アメリカの投資信託と金融市場
報告者　名城大学　三谷　進氏

(2) 国際ファンド・フロー増大の諸要因と不安定性―資本収支の分析を中心に―

報告者　北九州市立大学　前田　淳氏

(3) プライベートファンドと国際資本市場

報告者　久留米大学　伊豆　久氏

討論者　和光大学　徳永潤二氏

國學院大学　紺井博則氏

3. 昼食　＜11:30～12:30＞

4. 共通論題　＜12:30～15:30＞

A 会場（明徳館 2F：M21 番教室）

市場型間接金融と金融システムの進化

座長　慶応義塾大学　池尾和人氏

(1) 銀行解体と日本型市場型間接金融への道

報告者　みずほ証券　高田　創氏

(2) 市場型間接金融と信託の展望

報告者　住友信託銀行　小足一寿氏

(3) 市場型間接金融と消費者利益

報告者　同志社大学　鹿野嘉昭氏

(4) 金融危機と金融システムの変化：さらなる証券化の可能性?

報告者　中央大学　堀内昭義氏

2008 年度春季大会（成城大学）

第 1 日　5 月 17 日（土）

1. 中央銀行パネル　＜9:30～11:45＞
F 会場（003 教室　3 号館地下 1 階）
サブプライム問題と中央銀行

座長　中央大学　黒田　巖氏

(1) サブプライム問題からみた中央銀行の課題

報告者　日本銀行　雨宮正佳氏

(2) サブプライム問題と証券化 - 実務の視点

報告者　九州大学　小西龍治氏

(3) 信用リスク情報のパフォーマンス評価

報告者　日本大学　黒沢義孝氏

2. 自由論題　＜9:30～11:45＞
A 会場（311 教室　3 号館 1 階）セッション：間接金融

座長　東北大学　鴨池　治氏

(1) 地域金融機関は地域の経済成長に必要か？－「失われた 10 年」の実証分析

報告者　早稲田大学大学院　大熊正哲氏
討論者　日本政策投資銀行　花崎正晴氏

(2)「失われた 10 年」の債権放棄：メインバンクの超過負担からのインプリケーション

報告者　千葉商科大学　鯉渕　賢氏
討論者　横浜市立大学　随　清遠氏

(3) 市場型間接金融に関する一考察

報告者　日本大学　亀谷祥治氏
討論者　千葉商科大学　齊藤壽彦氏

B 会場（大会議室　3 号館 3 階）セッション：金融市場の実証 (1)

座長　九州大学　堀江康熙氏

(1) 不確実なマクロ経済環境における銀行の貸出行動

報告者　中央大学大学院　北村仁代氏
討論者　大阪大学　小川一夫氏

(2) クレジット・スコアリングは万能か?

報告者　慶應大学大学院　蓮見　亮氏
法政大学　平田英明氏
討論者　みずほ総合研究所　小野有人氏

C 会場（312 教室　3 号館 1 階）セッション：企業金融と株式市場

座長　慶應義塾大学　金子　隆氏

(1) 企業の収益発表のイベント・スタディ - 銀行貸出依存度による市場の反応の違い -

報告者　一橋大学大学院　石川雅也氏

討論者　慶應義塾大学　金子　隆氏

(2) 日本企業の事業多角化と内部資本市場の役割

報告者　神奈川大学　土村宜明氏

日興ﾌｨﾅﾝｼｬﾙ・ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ　杉浦康之氏

討論者　専修大学　手嶋宣之氏

(3) 銀行の貸出と企業の設備投資：中国の上場企業における投資の負債感応度

報告者　法政大学大学院　袁　媛氏

東京大学　元橋一之氏

討論者　早稲田大学　蟻川靖浩氏

D 会場（321 教室　3 号館 2 階）セッション：金融危機とアジア

座長　早稲田大学　首藤　恵氏

(1) 金融危機後の東南アジアの投資環境－インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイの投資関数の推計－

報告者　一橋大学大学院　竹　康至氏

討論者　早稲田大学　蟻川靖浩氏

(2) 中国と主要国際株式市場間の連動性における新しい証拠－分散因果性アプローチに基づき

報告者　一橋大学大学院　陳　思翀氏

討論者　早稲田大学　米沢康博氏

(3) アジア主要国の株価に関する実証分析

報告者　福岡女子大学　張　艶氏

討論者　青山学院大学　亀坂安紀子氏

E 会場（322 教室　3 号館 2 階）セッション：アメリカの金融

座長　成城大学　内田真人氏

(1) アメリカにおける異業種の銀行業参入とインダストリアル・ローン・カンパニー

報告者　大阪市立大学大学院　高山浩二氏

討論者　名城大学　前田真一郎氏

(2) 米国金融システムの二面性～メインストリート金融の存在意義～

報告者　茨城大学　内田　聡氏

討論者　神奈川大学　数阪孝志氏

(3) 粘着価格・賃金モデルからみた日米のインフレ圧力

報告者　みずほ総合研究所　鈴木将覚氏

討論者　日本銀行　白塚重典氏

3. 特別報告　＜11:50～12:35＞
F 会場（003 教室　3 号館地下 1 階）
グローバリゼーションと金融規制

報告者　日本金融学会会長　清水啓典氏

4. 昼食　＜12:35～13:35＞

5. 学会活性化パネル＜13:35～15:50＞
F 会場（003 教室　3 号館地下 1 階）

座長　関西学院大学　春井久志氏
報告者　一橋大学　花輪俊哉氏
報告者　中部学院大学　千田純一氏
報告者　大阪大学　筒井義郎氏
報告者　成城大学　村本　孜氏

6. 自由論題　＜13:35～15:50＞
A 会場（311 教室　3 号館 1 階）セッション：証券化

座長　中央大学　高橋豊治氏

(1) 証券化商品市場の混乱を考える

報告者　野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ　中井浩之氏
討論者　中央大学　井村進哉氏

(2) 証券化の進展と有価証券概念

報告者　横浜国立大学　高橋正彦氏
討論者　早稲田大学　米沢康博氏

(3) データから見た日本の証券化市場の展開

報告者　長崎大学　深浦厚之氏
討論者　成城大学　福光　寛氏

B 会場（大会議室　3 号館 3 階）セッション:国際金融

座長　明治大学　勝　悦子氏

(1) バランスシート効果を考慮した通貨バスケットモデル

報告者　一橋大学大学院　中村周史氏
討論者　神戸大学　北野重人氏

(2) 労働移動・郷里送金の要素を考慮した中米地域のドル化・最適通貨圏の議論

報告者　国際通貨研究所　松井謙一郎氏
討論者　東洋大学　川崎健太郎氏

(3) 金融統合下での外生的ショックの国家間伝播：ニュージーランドの事例から

報告者　関西大学　鈴木智也氏
討論者　岡山大学　西垣鳴人氏

C 会場（312 教室　3 号館 1 階）セッション：家計の金融問題

座長　早稲田大学　晝間文彦氏

(1) 改正貸金業法下における消費者金融のあり方

報告者　愛知学泉大学　三村　聡氏
討論者　東洋大学　堀田真理氏

(2) 金融不安要因の定量化における一考察 - 企業及び家計の両観点より -

報告者　関西学院大学　澤田吉孝氏
討論者　京都学園大学　宮川重義氏

(3) 金融無貯蓄世帯の増加と特徴

報告者　九州大学　堀江康熙氏
討論者　東京国際大学　上林敬宗氏

D 会場（321 教室　3 号館 2 階）セッション：現代の諸問題

座長　愛知大学　栗原　裕氏

(1) 中央銀行による金融機関検査の意義－日本銀行考査の変遷と課題－

報告者　日本銀行　熊倉修一氏
討論者　一橋大学　三隅隆司氏

(2) 現代における金(Gold)の貨幣性－金生産、金生産コスト、金市場価格－

報告者　立命館大学　松本　朗氏
討論者　神戸大学　藤田誠一氏

(3) ファンド投資によるベンチャー企業の成長促進効果～中小企業基盤整備機構のベンチャーファンド事業データによる検証～

報告者　成城大学　内田真人氏
経済産業研究所　石井芳明氏
中小企業基盤整備機構　福島章雄氏
討論者　一橋大学　釜江廣志氏

E 会場（322 教室　3 号館 2 階）セッション：中小企業の金融

座長　同志社大学　鹿野嘉昭氏

(1) 政策金融改革のルールについて－中小企業金融を中心に－

報告者　岡山大学　西垣鳴人氏
討論者　長崎大学　内田　滋氏

(2) 創業期における政府系金融機関の役割

報告者　中央大学　根本忠宣氏
慶應義塾大学　渡辺和孝氏
国民生活金融公庫　深沼　光氏

討論者　大阪府立大学　加納正二氏

(3) 中堅・中小企業向けトランザクション型貸出の決定要因：企業属性に応じた適性に関する一考察

報告者　みずほ総合研究所　太田智之氏

みずほ総合研究所　小野有人氏

みずほ総合研究所　野田彰彦氏

討論者　同志社大学　鹿野嘉昭氏

7. 特別講演　＜16:00～17:00＞

F 会場（003 教室　3 号館地下 1 階）

金融規制の質的向上―ベター・レギュレーションへの取組み

講演者　金融庁長官　佐藤隆文氏

8. 総会　＜17:10～18:10＞

F 会場（003 教室　3 号館地下 1 階）

9. 懇親会　＜18:15～20:15＞

会場：学生ホール（3 号館 1 階中央部）

第 2 日　5 月 18 日（日）

1. 国際金融パネル　＜10:00～12:15＞

F 会場（003 教室　3 号館地下 1 階）

サブプライムローン問題：現状と展望

座長　明治学院大学　佐々木百合氏

(1) 米国の住宅バブルとサブプライム問題

報告者　三菱 UFJ ﾘｻｰﾁ&ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ　五十嵐敬喜氏

(2) サブプライム問題とバーゼルⅡ

報告者　金融庁　氷見野良三氏

(3) クレジット市場危機：その展開と金融理論へのインプリケーション

報告者　東京大学　植田和男氏

2. 自由論題　＜10:00～12:15＞

A 会場（311 教室　3 号館 1 階）セッション：金融市場の実証(2)

座長　広島大学　矢野順治氏

(1) The Firm - Specific Volatility of Stock Returns , Credibility of Management Forecasts , and Media Coverage: Evidence from Japanese Firms

報告者　長崎大学　阿萬弘行氏

討論者　早稲田大学　首藤　恵氏

(2) 役員報酬と企業業績の関係:銀行派遣役員の役割の視点から

報告者　大阪大学　坂和秀晃氏

大阪大学大学院　渡辺直樹氏

討論者　早稲田大学　広田真一氏

(3) 日本の大企業（東証一部上場企業）のキャッシュフローと資本コスト認識に関する長期時系列分析（1960 年代～1970 年代）－その経路とコストの検証－

報告者　千葉商科大学　武見浩充氏

討論者　中央大学　奥山英司氏

C 会場（312 教室　3 号館 1 階）セッション：アジアの金融

座長　一橋大学　小川英治氏

(1) Microfinance as a Strategy for Economic Development and the Pathway out of Poverty: The Provision of Financial Service for the Poorest of the Poor

報告者　佐賀大学大学院　N. P. Dammika Padmakanthi 氏

討論者　立命館大学　荒川宜三氏

(2) On the Problem of Indonesia's Financial Stability: Harnessing the Central Bank Independence

報告者　佐賀大学大学院　Syafriadi Adwan 氏

討論者　神戸大学　三重野文晴氏

D 会場（321 教室　3 号館 2 階）セッション：金融政策

座長　神戸大学　北野重人氏

(1) 低インフレ下における最適金融政策ルール－開放経済モデルへの拡張－

報告者　神戸大学大学院　井田大輔氏

討論者　日本銀行　須合智広氏

(2) 操作変数の線形性問題を考慮したインフレーション・ターゲティング政策－連続時間モデルによる分析－

報告者　東北大学大学院　荒井壮一氏

討論者　日本銀行　寺西勇生氏

(3) 金融の量的緩和政策は効果があったのか

報告者　大和総合研究所　原田　泰氏

内閣府　増島　稔氏

討論者　大阪大学　本多佑三氏

E 会場（322 教室　3 号館 2 階）セッション：時系列的分析

座長　成城大学　明石茂生氏

(1) 住宅金融政策の効果に関する VAR 分析

報告者　日本大学　廣野桂子氏

討論者　名古屋大学 家森信善氏

(2) 両大戦間期日本の長期金利指標：東京株式取引所における上場国債の価格データを用いた推計

報告者　神戸大学　鎮目雅人氏

討論者　日本大学　寺西重郎氏

(3) 日本における長短金利差の将来の経済状態に対する先行指標性についての構造変化を考慮した検証

報告者　宮崎産業経営大学　中尾田　宏氏

大阪大学　福田祐一氏

討論者　神戸大学　宮尾龍蔵氏

3. 昼食　＜12:15～13:15＞

4. 共通論題　＜13:15～16:00＞

F 会場（003 教室　3 号館地下 1 階）

金融イノベーション――決済システムの新展開――

座長　慶應義塾大学　池尾和人氏

(1) 電子マネー：金融機関の戦略上の位置づけ

報告者　三菱東京 UFJ 銀行　嶋田　大氏

(2) 電子マネー：リテール決済のイノベーション

報告者　麗澤大学　中島真志氏

(3) 電子記録債権と金融のイノベーション

報告者　立命館大学　大垣尚司氏

(4) 電子記録債権制度の活用について

報告者　経済産業省　小宮義則氏

2008 年度秋季大会（広島大学）

第 1 日　10 月 12 日（日）

1. 中央銀行パネル　＜9:30～11:45＞
G 会場（L102 号教室）
新しい日本銀行の独立性とガバナンス

座長　関西学院大学　春井久志氏

(1) 日銀の Sturm und Drang な 10 年

報告者　上智大学　藤井良広氏

(2) 改正日銀法の課題 ～目的関数の明確化が必要～

報告者　ドイツ証券　安達誠司氏

(3) 日本銀行の独立性、透明性、ガバナンス

報告者　大和総研　田谷禎三氏

2. 自由論題　＜9:30～11:45＞
A 会場（K103 号教室）
セッション：国際通貨システムの現状と課題

座長　東京大学　福田慎一氏

(1) 変容するグローバリズムと人民元問題

報告者　佐賀大学大学院　張　鎬氏
討論者　専修大学　計　聡氏

(2) The Adjustment Role of Labor Mobility for Asymmetric Shocks: Reconsideration of Mundell's OCA

報告者　一橋大学大学院　吉見太洋氏
討論者　同志社大学　五百旗頭真吾氏

(3) 貿易取引通貨の選択と為替戦略―日系企業のケーススタディ

報告者　専修大学　清水順子氏
東京大学　伊藤隆敏氏
明治学院大学　佐々木百合氏
横浜国立大学　佐藤清隆氏
千葉商科大学　鯉渕　賢氏
アジア経済研究所　早川和伸氏
一橋大学大学院　吉見太洋氏
討論者　近畿大学　山上秀文氏

B 会場（K109 号教室）
セッション：金融機関・コーポレートガバナンス

座長　神戸大学　藤原賢哉氏

(1) チェック・トランケーション―電子手形交換所―を巡るわが国の現状と分析の新たな枠組み

報告者　京都大学大学院　河野憲嗣氏

討論者　麗澤大学　中島真志氏

(2) わが国企業の取締役会改革は有効であったか―製造業データによる検証

報告者（財）電力中央研究所　尾身祐介氏

（財）電力中央研究所　後藤美香氏

専修大学　手嶋宣之氏

(3) 金融自由化とコーポレート・ガバナンス―社債発行によって銀行の機能は低下したか

報告者　日本政策投資銀行　花崎正晴氏

日本政策投資銀行　深澤ますみ氏

中央大学　堀内昭義氏

神戸大学　藤原賢哉氏

C 会場（K110 号教室）

セッション：金融制度改革の影響分析

座長　慶應義塾大学　吉野直行氏

(1) シンジケートローンのアレンジャー比率に関する分析

報告者　神戸大学大学院　小谷範人氏

討論者　慶應義塾大学　櫻川昌哉氏

(2) 日本の金融制度改革の方向性

報告者　安田女子大学　戸井佳奈子氏

討論者　早稲田大学　米澤康博氏

(3) 株式投資単位引き下げ効果に関する分析

報告者　中央大学　奥山英司氏

討論者　関西大学　髙屋定美氏

D 会場（K203 号教室）

セッション：アジアの金融

座長　明治大学　北岡孝義氏

(1) 東南アジア 3 か国の資金調達コストの推移

報告者　一橋大学大学院　竹　康至氏

討論者　明治大学　鈴木和志氏

(2) 地域データを用いた中国のインフレ分析

報告者　筑波大学　永易　淳氏

討論者　横浜市立大学　随　清遠氏

(3) Central Bank Operating Procedures in Thailand and Philippines

報告者　京都産業大学　猪口真大氏
討論者　大阪市立大学　久保彰宏氏

E 会場（K209 号室）
セッション：金融理論
座長　九州大学　岩田健治氏

(1) 貨幣需要における構成要素間の代替関係についての一考察
報告者　関西学院大学大学院　澤田吉孝氏
討論者　神戸大学　宮尾龍蔵氏

(2) 現代のイスラム金融批判と利子概念
報告者　早稲田大学　北村歳治氏
討論者　日本大学　宅和公志氏

(3) 「管理通貨制」の政策金利の独自の成立メカニズム
報告者　桜美林大学　前畑雪彦氏
討論者　武蔵大学名誉教授　吉田　暁氏

3. 会長講演　＜11:50～12:35＞
G 会場（0L102 号教室）
「地域金融の課題」
講演者　日本金融学会会長　筒井義郎氏

4. 昼食　＜12:35～13:35＞

5. 自由論題　　＜13:35～15:50＞
A 会場（K103 号教室）
セッション：金融政策・為替レートの理論・実証分析
座長　広島大学　小松正昭氏

(1) グローバル・ショックと日本経済―1990 年代の構造変化
報告者　大阪大学大学院　新開潤一氏
討論者　神戸大学　岩壷健太郎氏

(2) 独占的競争における金融政策の国際的波及効果―非対称な企業を用いた三国モデルによる分析
報告者　同志社大学大学院　上ノ山賢一氏
討論者　京都学園大学　道和孝治郎氏

(3) Volume or Order Flow?：Which Contains More Information in Really Traded Yen/Dollar Foreign Exchange Market?
報告者　長崎大学　須齋正幸氏
討論者　北星学園大学　皆木健男氏

B 会場（K109 号教室）

セッション：金融機関

座長　立教大学　日向野幹也氏

(1) 外国資本の導入と銀行業の生産性―中国の銀行業に関する実証分析

報告者　関東学院大学　松田琢磨氏

東京大学　袁　媛氏

討論者　札幌学院大学　播磨谷浩三氏

(2) Banking Panics, Bank Failures, and the Lender of Last Resort: The Showa Depression of 1930 - 1932

報告者　大阪経済大学　秋吉史夫氏

討論者　名古屋市立大学　横山和輝氏

(3) Silent Bank Runs: Discipline or Contagion?

報告者　名古屋大学　清水克俊氏

討論者　一橋大学　小西　大氏

C 会場（K110 号教室）

セッション：ファイナンス I

座長　早稲田大学　晝間文彦氏

(1) 不動産投資信託証券と株式との分散投資効果

報告者　岩手県立大学　Tee Kian Heng 氏

討論者　長崎大学　須齋正幸氏

(2) 金利リスクの測定方法の展開―イールド・カーブ変動パターンの測定

報告者　中央大学　高橋豊治氏

討論者　明治大学　北岡孝義氏

(3) 資産分布格差で読み解く、日米家計のリスク性金融資産比率の相違

報告者　（財）国際通貨研究所　竹中正治氏

討論者　神戸大学　岩壷健太郎氏

D 会場（K203 号教室）

セッション：金融政策 I

座長　関西学院大学　春井久志氏

(1) The Effect of the Quantitative Monetary Easing Policy and Yield Spread

報告者　神戸大学大学院　英　邦広氏

討論者　新潟大学　伊藤隆康氏

(2) 日銀のインフレ参照政策に関する考察

報告者　クレディ・スイス証券　白川浩道氏

討論者　近畿大学　安孫子勇一氏

(3) The Effectiveness of Monetary Easing Policy on Bank Lending in Japan during 1999-2005

報告者　東北大学大学院　GUIZANI Brahim 氏
討論者　慶應義塾大学　吉野直行氏

E 会場（K209 号教室）
セッション：内外の地域金融機関の経営環境と課題
座長　愛知大学　栗原　裕氏

(1) JA のリテールにおける顧客生涯価値モデル―関係性マーケティングに基づく実証的アプローチ
報告者　広島大学大学院　村上真理氏
討論者　安田女子大学　戸井佳奈子氏

(2) 地域銀行の営業広域化戦略
報告者　信金中金総合研究所　品田雄志氏
討論者　神奈川大学　数阪孝志氏

(3) 日韓の地域金融と産業連携に関する比較研究―韓国の大邱・慶北地域、東海および関西地域の企業アンケート調査をもとに
報告者　名古屋大学　家森信善氏
名古屋大学　平川　均氏
韓国・慶北大学　崔　龍浩氏
韓国・大邱銀行　陳　炳龍氏
韓国・大邱銀行　夫　起徳氏
名古屋大学大学院　朴　晩奉氏
県立広島大学　伊東和久氏

F 会場（K210 号教室）
セッション：マクロ金融分析
座長　神戸大学　宮尾龍蔵氏

(1) 預金構成の変化が銀行の現金・準備預金保有行動に与える影響
報告者　一橋大学大学院　内野泰助氏
討論者　大阪大学　小川一夫氏

(2) マクロ経済、担保価値、銀行のモラルハザード
報告者　東北学院大学　石田裕貴氏
討論者　関西大学　中川竜一氏

(3) 日本の貨幣乗数はなぜ低下し続けたのか
報告者　一橋大学大学院　長田　健氏
討論者　大阪大学　本多佑三氏

6. 特別講演　＜16:00～17:00＞
G 会場（L102 号教室）
「国際金融市場の現状と課題」

講演者　財務省大臣官房審議官（国際局担当）　永長正士氏

7. 総会　＜17:10～18:10＞
G 会場(L102 号教室)

8. 懇親会　＜18:15～＞
会場：西第 2 福利会館

第 2 日　10 月 13 日（月）

1. 国際金融パネル　＜10:00～12:15＞
G 会場（L102 号教室）
ドルとユーロ：基軸通貨の将来
座長　神戸大学　藤田誠一氏
(1) 複数基軸通貨体制と国際通貨論の課題
報告者　九州大学　岩田健治氏
(2) 国際通貨としてのユーロの現状と展望
報告者　国際通貨研究所　福永一樹氏
(3) ドル・ユーロとドル・ポンド —— 国際通貨の unit of account 機能の観点から ——
報告者　日本銀行　畑瀬真理子氏

2. 自由論題　＜10:00～12:15＞
A 会場（K103 号教室）
セッション：グローバリゼーションと国際金融
座長　広島大学　石田三樹氏
(1) ドル体制に関する一考察
報告者　龍谷大学非常勤講師　前田直哉氏
討論者　横浜国立大学　上川孝夫氏
(2) 米国経常収支赤字の維持可能性
報告者　福山大学　尾田温俊氏
討論者　大阪経済大学　福本幸男氏
(3) グローバル経済・市場の根本的変化―デカップリング論を超えて
報告者　愛媛大学　大田英明氏
討論者　九州大学　川波洋一氏
B 会場（K109 号教室）
セッション：金融機関業務

座長　千葉商科大学　齊藤壽彦氏

(1) アメリカのマネー・センター・バンクの業務展開―ローン・セールとディリバティブ

報告者　松山大学　掛下達郎氏

討論者　桃山学院大学　中野瑞彦氏

(2) Organizational Structure and Risk Taking: Evidence from the Life Insurance Industry in Japan

報告者　城西大学　浅井義裕氏

東京経済大学　柳瀬典由氏

Washington State University　Lai Gene C.氏

討論者　専修大学　小藤康夫氏

(3) 担保が中小企業のパフォーマンスに与える影響

報告者　一橋大学　植杉威一郎氏

みずほ総合研究所　小野有人氏

一橋大学大学院　坂井功治氏

討論者　日本政策投資銀行　花崎正晴氏

C 会場（K110 号教室）

セッション：ファイナンスⅡ

座長　中央大学　高橋豊治氏

(1) 企業属性の変化と配当政策

報告者　広島大学　鈴木喜久氏

広島経済大学　得津康義氏

討論者　早稲田大学　谷川寧彦氏

(2) Liquidity, Volume and Informational Efficiency: Evidence from High-Frequency FX Data

報告者　神戸大学　岩壷健太郎氏

富山大学　北村能寛氏

討論者　長崎大学　須齋正幸氏

(3) 1980-90 年代バブル生成・崩壊期の都道府県別地価のパネル分析―地域経済の「自立性」と地価バブル

報告者　明治大学　北岡孝義氏

明治大学大学院　森永愼一氏

討論者　日本大学　廣野桂子氏

D 会場（K203 号教室）

セッション：金融政策Ⅱ

座長　関西学院大学　田中　敦氏

(1) 名目金利の持続性とコスト・チャネル―物価パズル再考

報告者　神戸大学大学院　井田大輔氏
討論者　大阪大学　福重元嗣氏

(2) 銀行業の再編・統合と金融政策

報告者　弘前大学　山本康裕氏
討論者　神戸大学　北野重人氏

(3) 賃金方程式における労働需給の指標について

報告者　広島大学　千田　隆氏
討論者　同志社大学　北坂真一氏

E 会場（K209 号教室）

セッション：各国の金融

座長　大阪市立大学　片岡　尹氏

(1) 農工間資金移動の分析による中国の転換点の発生傾向の検証

報告者　広島大学大学院　奥田麻衣氏
広島大学　石田三樹氏
広島大学　越智泰樹氏
名古屋大学　藤川清史氏

(2) アメリカにおけるクレジット・ユニオンの経営側面―組合員利益をめざした金融活動

報告者　大阪市立大学大学院　森中由貴氏
討論者　駒澤大学　齋藤　正氏

(3) スロヴァキアと欧州通貨統合

報告者　西武文理大学　松澤祐介氏
討論者　大阪市立大学　山下英次氏

F 会場（K210 号教室）

セッション：Special Session on East Asian Currencies

座長　一橋大学　小川英治氏

(1) On Asian Monetary Union

報告者　広島大学大学院　TRAN THI VAN ANH 氏
討論者　東洋大学　川﨑健太郎氏

(2) Dynamic Effects of Changes in Exchange Rate System：From the Fixed Exchange Rate Regime to the Basket-peg or Floating Regime

報告者　慶應義塾大学　吉野直行氏
慶應義塾大学　嘉治佐保子氏
Boston University　阿曽沼多聞氏
東京大学　福田慎一氏

(3) Monetary Integration in East Asia: Why Does It Take So Long?

報告者　龍谷大学　Krawczyk Mariusz K 氏

討論者　一橋大学　小川英治氏

3. 昼食　＜12:15～13:15＞

4. 共通論題　＜13:15～15:15＞

G 会場（L102 号教室）

国際金融市場の変貌とアジア経済

座長　広島大学　小松正昭氏

(1) アジアにおける新しい開発金融システムの形成と外国資本･投資家の役割

パネリスト　一橋大学　奥田英信氏

(2) アジア債券市場育成イニシアティブへの取り組み

パネリスト　日本政策金融公庫国際協力銀行　西沢利郎氏

(3) 新興市場経済をめぐる国際資本移動の変容

パネリスト　アジア経済研究所　国宗浩三氏

(4) アジアの産業成長と海外資金、金融危機 －マクロの観点とミクロの観点の不整合について－

パネリスト　神戸大学　三重野文晴氏

2009 年度春季大会（東京大学）

第 1 日　5 月 16 日（土）

1. 中央銀行パネル
G 会場　＜9:30～11:45＞
世界金融・経済危機と中央銀行

座長　東洋大学　中北　徹氏
報告者　日本銀行　中曽　宏氏
報告者　三菱東京 UFJ 銀行　内田和人氏
報告者　神戸大学　地主敏樹氏

2. 自由論題　＜9:30～11:45＞
A 会場　セッション：国際金融(1)

座長　明治大学　勝　悦子氏

(1) 中国の住宅市場ブームに対する海外資本流入の影響

報告者　武蔵大学　大野早苗氏
討論者　一橋大学　小川英治氏

(2) Empirical Analysis of the Forward Premium: Evidence from the Asia-Pacific Region

報告者　筑波大学　永易　淳氏
討論者　神戸大学　岩壷健太郎氏

(3) アジア債券市場育成政策の政策形成論理 ―通貨のミスマッチ対策を後回しにした論理

報告者　東京大学大学院　布田功治氏
東京大学大学院　西川　輝氏
日本銀行　竹内　淳氏

B 会場　セッション：企業金融

座長　東北福祉大学　鴨池　治氏

(1) The Effect of Bank Relationships and Ownership Structure on Financing Choices: Evidence from Japan

報告者　一橋大学大学院　石川雅也氏
一橋大学大学院　高橋秀朋氏
討論者　東京理科大学　鈴木健嗣氏

(2) 退職給付会計数値と投資家による企業評価

報告者　九州大学大学院　山本御稔氏
討論者　長崎大学　阿萬弘行氏

(3) 日本のメインバンク関係――その現状と機能

報告者　早稲田大学　広田真一氏

討論者　日本政策投資銀行　花崎正晴氏

C 会場　セッション：金融史(1)

座長　首都大学東京　矢後和彦氏

(1) 円借款とインドの政治経済

報告者　布目稔生氏

討論者　国際通貨研究所　松井謙一郎氏

(2) 沖縄返還時の円・ドル通貨交換――米国側資料からみた回収ドル取扱いをめぐる日米交渉の動き

報告者　武蔵大学大学院　鈴木三郎氏

討論者　東京大学　伊藤正直氏

(3) 新ブレトンウッズ構想

報告者　佐賀大学　米倉　茂氏

討論者　北九州市立大学　前田　淳氏

D 会場　セッション：途上国の金融

座長　神戸大学　三重野文晴氏

(1) イスラム銀行に関する金融論的考察―アブダビ・イスラム銀行のバランスシート分析

報告者　一橋大学大学院　上山　一氏

討論者　アジア経済研究所　中川利香氏

(2) 競争とマイクロファイナンス機関パフォーマンス

報告者　神戸大学大学院　甲斐久子氏

討論者　札幌学院大学　播磨谷浩三氏

(3) マイクロクレジットとグループ貸付

報告者　早稲田大学大学院　松田慎一氏

早稲田大学　藪下史郎氏

討論者　一橋大学　奥田英信氏

E 会場　セッション：日本の地域金融(1)

座長　名古屋大学　家森信善氏

(1) 日本労働金庫の誕生

報告者　愛知学泉大学　三村　聡氏

討論者　駒澤大学　齋藤　正氏

(2) 地方預貸率低下要因とその是正策

報告者　東洋大学　益田安良氏

討論者　同志社大学　野間敏克氏

(3) 高齢社会の進行と地域金融機関経営

報告者　九州大学　堀江康熙氏

討論者　近畿大学　安孫子勇一氏

F 会場　セッション：マクロ経済学と金融

座長　慶応義塾大学　櫻川昌哉氏

(1) The Estimation of the New Keynesian Phillips Curve in Japan and its Implication for the Inflation Responses to a Monetary Policy Shock

報告者　神戸大学　柴本昌彦氏

討論者　日本銀行　武藤一郎氏

(2) 中央銀行による insolvent bank 救済の効果と限界

報告者　同志社大学大学院　小田勇一氏

討論者　神奈川大学　酒井良清氏

(3) Financial Development and Financial Amplification

報告者　金融庁　平野智裕氏

討論者　神戸大学　中村　保氏

3. 招待講演　＜11:50～12:30＞

G 会場

アメリカの金融危機――大恐慌と比較して

司会　日本金融学会会長　筒井義郎氏

講演者　東京大学　貝塚啓明氏

4. 昼食　＜12:30～13:30＞

5. 金融史パネル　＜13:30～15:45＞

G 会場

危機と革新の金融史――1920 年代、30 年代の日本

座長　千葉商科大学　齊藤壽彦氏

(1) 経済環境とマクロ経済政策

報告者　日本銀行　鎮目雅人氏

(2) 銀行経営の変容

報告者　麗澤大学　佐藤政則氏

(3) プルーデンス監督の形成――大蔵省銀行検査を中心に

報告者　横浜国立大学　邉　英治氏

コメンテーター　国士舘大学　野下保利氏

コメンテーター　首都大学東京　矢後和彦氏

コメンテーター　法政大学　靏見誠良氏

6. 自由論題　＜13:30～15:45＞

A 会場　セッション：金融監督・規制(1)

座長　関西学院大学　春井久志氏

(1) VAT における金融サービス課税

報告者　みずほ総合研究所　鈴木将覚氏

討論者　東京大学　貝塚啓明氏

(2) 金融商品取引法上の有価証券概念の再検討

報告者　横浜国立大学　高橋正彦氏

討論者　早稲田大学　久保田　隆氏

B 会場　セッション：国際金融(2)

座長　明治学院大学　佐々木百合氏

(1) Original Sin and Monetary Policy

報告者　一橋大学大学院　中村周史氏

討論者　神戸大学　松林洋一氏

(2) 最適通貨圏の理論に金融危機リスクを導入する――最近の中東欧の通貨・金融危機リスクを踏まえたゲーム理論のアプローチ

報告者　国際通貨研究所　西村陽造氏

討論者　龍谷大学　村瀬哲司氏

(3) External Adjustments and Coordinated Exchange Rate Policy in Asia

報告者　神戸大学　岩壷健太郎氏

一橋大学　小川英治氏

討論者　神戸市外国語大学　江阪太郎氏

C 会場　セッション：為替制度・銀行の効率性

座長　武蔵大学　大野早苗氏

(1) インボイス通貨の決定要因とアジア共通通貨バスケットの課題

報告者　東京大学　伊藤隆敏氏

千葉商科大学　鯉渕　賢氏

横浜国立大学　佐藤清隆氏

専修大学　清水順子氏

討論者　福島大学　大野正智氏

(2) エルサルバドルとエクアドルの公式ドル化政策採用の背景――政策のロックイン効果と国内の政治対立の視点からの考察

報告者　国際通貨研究所　松井謙一郎氏

討論者　日本銀行　畑瀬真理子氏

(3) ロシアにおける国内および外国銀行の効率性分析

報告者　旭川大学　大野成樹氏

討論者　札幌学院大学　播磨谷浩三氏

D 会場　セッション：金融政策

座長　神戸大学　宮尾龍蔵氏

(1) Optimal Monetary Policy and Inflation Persistence in an Open Economy

報告者　神戸大学大学院　井田大輔氏

討論者　関西大学　敦賀貴之氏

(2) 量的緩和政策期間における銀行貸出経路

報告者　大阪大学大学院　井上　仁氏

討論者　学習院大学　細野　薫氏

(3) 新日銀法下の金融政策をどう見るか

報告者　中央大学　建部正義氏

討論者　上智大学　藤井良広氏

E 会場　セッション：日本の地域金融(2)

座長　九州大学　堀江康熙氏

(1) 日本における県別銀行貸出市場分断仮説の再検証―― 県別貸出金利の誘導形を用いたパネル共和分検定による実証分析

報告者　京都大学　石川大輔氏

討論者　大阪府立大学　加納正二氏

(2) 企業・銀行間のスイッチングコストの計測――関西地域における信用金庫のデータを用いて

報告者　神戸大学大学院　中岡孝剛氏

討論者　沖縄国際大学　島袋伊津子氏

(3) 地域力再生機構による第三セクター再生支援を巡る考察

報告者　国立国会図書館　深澤映司氏

討論者　みずほ総合研究所　鈴木将覚氏

F 会場　セッション：金融市場の実証分析

座長　大阪大学　福重元嗣氏

(1) Capital Ratios and Cross-Section of Stock Returns in Banking Industry

報告者　一橋大学大学院　陳　思翀氏

討論者　関西学院大学　田中　敦氏

(2) 公的資金注入と銀行貸出――国際行と国内行の非対称性

報告者　一橋大学大学院　長田　健氏

討論者　近畿大学　安孫子勇一氏

(3) 不完全データを使った日本の銀行産業における合併・統合の効果― 2002-2005 年度

報告者　秋田県立大学　宮本道子氏

統計数理研究所　安藤雅和氏

統計数理研究所　逸見昌之氏

討論者　中央大学　奥山英司氏

7. 特別講演　＜16:00～17:00＞
G 会場
金融システムの安定性とマーケット・コンフィデンス

司会　東京大学　植田和男氏
講演者　日本銀行副総裁　西村清彦氏

8. 総　会＜17:10～17:50＞
G 会場

9. 懇親会＜18:10～20:10＞
会場：東京大学山上会館１階

第 2 日　5 月 17 日（日）

1. 国際金融パネル　＜10:00～12:15＞
G 会場
世界金融危機

座長　一橋大学　小川英治氏

(1) 金融危機の発生・拡大と政策の失敗――1997～98 年日本と 2007～08 年アメリカの比較

報告者　東京大学　伊藤隆敏氏

(2) 世界金融危機と国際金融・通貨システム改革

報告者　アジア開発銀行研究所　河合正弘氏

(3) Global Financial Crisis: Difference in the Market Deterioration Mechanism and its Impact in Capital Flow

報告者　日本政策金融公庫　渡辺博史氏

2. 自由論題　＜10:00～12:15＞
B 会場　セッション：金融監督・規制(2)

座長　立教大学　日向野幹也氏

(1) 金融システム安定のための国際協力の起源とその後の発展―バーゼル銀行監督委員会創設と「バーゼル・コンコルダット」採択を巡る動き

報告者　日本銀行　渡部　訓氏
討論者　首都大学東京　矢後和彦氏

(2) 大蔵省検査及び日銀考査の不良債権への影響

報告者　久留米大学　塚崎公義氏
討論者　東京国際大学　上林敬宗氏

(3) EU における銀行監督当局カレッジと監督強化の枠組み

報告者　宮城学院女子大学　太田瑞希子氏

討論者　関西学院大学　春井久志氏

C 会場　セッション：中国の金融

座長　東京大学　伊藤正直氏

(1) 人民元ボラティリティが中国対日輸出に与える影響

報告者　対外経済貿易大学　西村友作氏

討論者　専修大学　清水順子氏

(2) 中国銀行貸出市場における市場分断仮説の検証

報告者　早稲田大学大学院　大熊正哲氏

討論者　名古屋大学　家森信善氏

(3) 中国上場企業の投資行動――非金融業における政府支配の影響分析

報告者　一橋大学大学院　ハスビリギ氏

一橋大学大学院　竹　康至氏

討論者　専修大学　李　建平氏

D 会場　セッション：東アジア金融実証分析

座長　広島大学　矢野順治氏

(1) 発途上国における国外居住者送金の波及効果――VAR モデルによるフィリピン国外居住者送金の影響分析

報告者　一橋大学大学院　竹　康至氏

討論者　東洋大学　川崎健太郎氏

(2) ベトナムにおける金融政策の効果波及経路の分析

報告者　広島修道大学　グェン・ドゥック・ラップ氏

討論者　アジア経済研究所　中川利香氏

(3) 東アジアにおける資産価格の変動とマクロ経済の動向

報告者　大阪国際大学　塩谷雅弘氏

討論者　京都産業大学　猪口真大氏

E 会場　セッション：証券市場の価格形成と資金調達

座長　早稲田大学　宇野　淳氏

(1) 投資家の予測形成とマクロ経済指標の関連性――QUICK 債券月次調査による分析

報告者　日本経済研究センター　蓮見　亮氏

法政大学　平田英明氏

討論者　神戸大学　芦谷政浩氏

(2) 新規株式公開市場における Wave とアンダーライター・プライシングの決定要因

報告者　跡見学園女子大学　比佐優子氏

一橋大学　比佐章一氏

討論者　学習院大学　辰巳憲一氏

(3) 企業の資本構成とイスラム金融――実証分析による理論的整理

報告者　名古屋市立大学　永野　護氏

討論者　学習院大学　細野　薫氏

F 会場　セッション：金融史(2)

座長　麗澤大学　佐藤政則氏

(1) プレ・デフレ期における基本分類別卸売物価の変化

報告者　東海大学　石森良和氏

討論者　大和総研　原田　泰氏

(2) 大正期における行内検査の考察

報告者　いすゞ自動車　大江清一氏

討論者　成城大学　浅井良夫氏

(3) 昭和恐慌期前後の金融政策はどのように行われたのか

報告者　大和総研　原田　泰氏

高崎経済大学　佐藤綾野氏

日本銀行　鎮目雅人氏

3. 昼　食　＜12:15～13:15＞

4. 共通論題　＜13:15～16:00＞　東京大学金融教育研究センター（CARF）との共催

G 会場

クレジット市場と金融危機

座長　東京大学　植田和男氏

パネリスト　立命館大学　大垣尚司氏

パネリスト　モルガン・スタンレー証券　大橋英敏氏

パネリスト　PIMCO　小関広洋氏

パネリスト　みずほ証券　高田　創氏

パネリスト　三菱 UFJ 証券　幡鎌俊行氏

2009 年度秋季大会（香川大学）

第 1 日　11 月 7 日（土）

1. 金融史パネル　＜9:30～11:45＞
C 会場（第 31 講義室）
1960 年代の国際通貨・金融システム：国際金融史の視点から
座長　首都大学東京　矢後和彦氏
(1) 1960 年代における G10 と国際的準備システム改革
報告者　グラスゴー大学　Catherine Schenk 氏
(2) 英系国際銀行と初期のユーロダラー市場
報告者　東北大学　菅原　歩氏
(3) 国際通貨・金融システムにおける日本と中国：BIS の視点から
報告者　国際決済銀行　Piet Clement 氏
2. 自由論題　＜9:30～11:45＞
A 会場（第 11 講義室）　セッション：金融機関 I
座長　東京大学　福田慎一氏
(1) ビッグバンは保険市場を競争的・効率的にしたか
報告者　武蔵大学　茶野　努氏
討論者　名古屋大学　家森信善氏
(2) Russell モデルに基づく銀行業の効率性について
報告者　青森公立大学　國方　明氏
討論者　札幌学院大学　播磨谷浩三氏
(3) 日本における銀行業の競争度：再考
報告者　大東文化大学　郡司大志氏
法政大学大学院　三浦一輝氏
討論者　神戸大学　内田浩史氏
B 会場（第 21 講義室）セッション：　金融政策と貨幣集計量・資産価格
座長　上智大学　竹田陽介氏
(1) GDP ギャップ安定化に向けた金融政策：バブルに対するフォワード・ルッキングな政策
報告者　青山学院大学大学院　舟島義人氏
青山学院大学　宮原勝一氏
討論者　甲南大学　中島清貴氏
(2) Regional (very narrow) Money-Output Relationship: Panel Cointegration and Structural Breaks
報告者　筑波大学　永易　淳氏

討論者　神戸大学　宮尾龍蔵氏

(3) Individual Stock Returns and Monetary Policy: Evidence from Japanese Data

報告者　神戸大学　柴本昌彦氏

討論者　大阪大学　小川一夫氏

D 会場（第 22 講義室）セッション：金融経済の実証

座長　明治大学　北岡孝義氏

(1) 日本の財政の持続可能性についての検証

報告者　神戸大学　藤井隆雄氏

討論者　学習院大学　細野　薫氏

(2) 電子マネーの普及と今後の小額決済サービス： マクロ・ミクロデータによる実証分析

報告者　九州大学　中田真佐男氏

討論者　一橋大学　北村行伸氏

(3) わが国におけるサービス消費支出と異時点間代替弾力性

報告者　岡山商科大学　小塚匡文氏

討論者　日本銀行　中川　忍氏

E 会場（第 32 講義室）セッション： 国際金融 I

座長　関西大学　高屋定美氏

(1) 市場別価格設定行動と通貨バスケット政策

報告者　一橋大学大学院　中村周史氏

討論者　関西大学　敦賀貴之氏

(2) Analysis on β and σ Convergences of East Asian Currencies

報告者　一橋大学大学院　吉見太洋氏

討論者　富山大学　北村能寛氏

(3) 中東欧「危機」の構造と政策対応

報告者　西武文理大学　松澤祐介氏

討論者　龍谷大学　Krawczyk Mariusz Konrad 氏

F 会場（第 23 講義室）セッション：アジアの金融

座長　広島大学　矢野順治氏

(1) 新興国における公的債務管理のあり方：公的債務管理ガイドラインからの考察

報告者　東洋大学　中川利香氏

討論者　広島大学　小松正昭氏

(2) ベトナム上場企業の資金調達構造の決定要因

報告者　一橋大学　奥田英信氏

一橋大学大学院　Lai Thi Phuong Nhung 氏

討論者　早稲田大学　首藤　惠氏

(3) インドネシア経済：世界金融危機の波及と政策対応

報告者　日本政策金融公庫国際協力銀行　増田　篤氏
日本政策金融公庫国際協力銀行　大重　斉氏
討論者　慶應義塾大学　吉野直行氏

3. 会長講演　＜11:50～12:35＞
C 会場（第 31 講義室）
バブルと金融危機：行動経済学的アプローチ
講演者　日本金融学会会長　筒井義郎氏

4. 昼食　＜12:35～13:35＞
場所：大学会館

5. 金融政策パネル　＜13:35～15:50＞
C 会場（第 31 講義室）
金融政策分析の最近の潮流と金融危機
座長　神戸大学　宮尾龍蔵氏

(1) 政策運営の視点から評価したニューケインジアンモデルの意義と限界：世界的な信用拡張とその後の金融危機を踏まえて
報告者　日本銀行　木村　武氏

(2) 金融危機がもたらしたマクロ経済学上の課題
報告者　経済産業研究所　小林慶一郎氏

(3) 「第三の道」：金融政策分析の回顧と展望
報告者　上智大学　竹田陽介氏

6. 自由論題　＜13:35～15:50＞
A 会場（第 11 講義室）セッション：金融機関Ⅱ
座長　麗澤大学　中島真志氏

(1) 自己資本比率規制における規制基準についての一考察：地銀における国際統一基準と国内基準の並存の問題点について
報告者　農林中金総合研究所・中央大学大学院　矢島　格氏
討論者　鹿児島大学　永田邦和氏

(2) How Does the Stability of Loan Relations Depend on its Duration?: Evidence from Firm- and Bank-Level Data
報告者　日本政策投資銀行　宮川大介氏
討論者　札幌学院大学　播磨谷浩三氏

B 会場（第 21 講義室）セッション：ファイナンス
座長　中央大学　高橋豊治氏

(1) 経営者の意思決定と配当政策：自社株買いと現金配当の選択
報告者　中央三井アセット信託銀行　大森孝造氏

神奈川大学　土村宜明氏
横浜国立大学　倉澤資成氏
討論者　慶應義塾大学　金子　隆氏

(2) 負債構成と資本構成：銀行負債の再交渉に着目して

報告者　慶應義塾大学大学院　富田信太郎氏
慶應義塾大学大学院　池田直史氏
慶應義塾大学　辻　幸民氏
討論者　専修大学　手嶋宣之氏

D 会場（第 22 講義室）セッション：金融経済の理論

座長　関西大学　宇惠勝也氏

(1) 生産性の戦略的補完性と銀行の貸出行動： 間接金融から直接金融への移行を内生的に説明するモデル

報告者　一橋大学　保原伸弘氏
討論者　神戸大学　藤原賢哉氏

(2) 自己資本比率規制による資産価格の変化と最適なリスク・ウェイト

報告者　一橋大学大学院　山城　健氏
討論者　東京経済大学　安田行宏氏

(3) Note on Modelling of Suicide under a Borrowing Constraint within a Framework of Real Options Models

報告者　関西大学　鈴木智也氏
討論者　立命館大学　堀　敬一氏

E 会場（第 32 講義室）セッション：国際金融Ⅱ

座長　一橋大学　小川英治氏

(1) 日本の貿易収支構造の変化

報告者　神戸大学大学院　山本周吾氏
討論者　東洋大学　川﨑健太郎氏

(2) Hamburger Prices and Globalization

報告者　大阪経済大学　福本幸男氏
討論者　明星大学　中田勇人氏

F 会場（第 23 講義室）セッション：国際金融の現状

座長　九州大学　岩田健治氏

(1) 新しいマネーセンター「中東」を巡るマネーフローとその影響

報告者　三菱東京 UFJ 銀行　宿輪純一氏
討論者　中央大学　根本忠宣氏

(2) マレーシアのイスラム投資信託とシャリーア適格株式

報告者　東京外国語大学　福島康博氏

討論者　東洋大学　中川利香氏

(3) IMF 改革の現状と課題　：本当に変わったのか？

報告者　愛媛大学　大田英明氏

討論者　京都大学　岩本武和氏

7. 特別講演　＜16:00～17:00＞

C 会場（第 31 講義室）

世界金融危機後の証券市場について

司会　慶應義塾大学　吉野直行氏

講演者　東京証券取引所グループ社長　斉藤　惇氏

8. 総　会　＜17:10～17:50＞

C 会場（第 31 講義室）

9　懇親会　＜18:10～20:10＞

会場：大学会館

第 2 日　11 月 8 日（日）

1. 国際金融パネル　＜9:30～11:45＞

C 会場（第 31 講義室）

グローバル・インバランスと世界金融危機

座長　神戸大学　藤田誠一氏

(1) グローバル・インバランスの再検討

報告者　中央大学　田中素香氏

(2) 円キャリー・トレード、グローバル・インバランス、世界金融危機

報告者　神戸大学　岩壷健太郎氏

(3) 世界経済危機とグローバル・マネーの変動：国際経済秩序へのインプリケーション

報告者　慶應義塾大学　白井さゆり氏

討論者　龍谷大学　竹中正治氏

討論者　日本総合研究所　清水　聡氏

2. 自由論題　＜9:30～11:45＞

A 会場（第 11 講義室）セッション：日本の地域金融

座長　名古屋大学　家森信善氏

(1) 地域銀行のコーポレート・ガバナンスに関する分析

報告者　早稲田大学大学院　森　祐司氏

討論者　日本政策投資銀行　花崎正晴氏

(2) 景気拡大期における全国信用金庫の利鞘分析

報告者　大阪産業大学　石橋尚平氏
討論者　信州大学　青木達彦氏

(3) 地域金融の振興と地方銀行の役割などについての研究

報告者　玉川大学　高千穂安長氏
討論者　愛知大学　奥野博幸氏

B 会場（第 21 講義室）セッション： ファイナンスと資産選択

座長　東北福祉大学　鴨池　治氏

(1) 家計の資産選択行動における学歴効果の再考

報告者　一橋大学　北村行伸氏
一橋大学大学院　内野泰助氏
討論者　成城大学　村本　孜氏

(2) Are Chinese Stock Investors Watching Tokyo?: An Analysis with Intraday High-Frequency Data

報告者　関西学院大学　平山健二郎氏
大阪大学　筒井義郎氏
討論者　上智大学　川西　諭氏

D 会場（第 22 講義室）セッション：中国の金融

座長　横浜市立大学　随　清遠氏

(1) 中国企業の海外直接投資のパターンと決定要因について

報告者　秋田県立大学　宮本道子氏
秋田県立大学大学院　魯　欣氏
秋田県立大学　嶋崎善章氏
討論者　専修大学　計　聡氏

(2) 中国の保険業における規模の経済性と競争度

報告者　東京大学　袁　媛氏
関東学院大学　松田琢磨氏
千葉商科大学　鯉渕　賢氏

E 会場（第 32 講義室）セッション：アメリカの金融

座長　岡山大学　西垣鳴人氏

(1) 米国における ABL の市場動向と、その底流にある考え方：借手企業の事業継続を重視する濃密な関係性の構築

報告者　日本政策金融公庫　海上泰生氏
討論者　中央大学　根本忠宣氏

(2) Global Financial Crisis and US Interest Rate Swap Spreads

報告者　新潟大学　伊藤隆康氏
討論者　近畿大学　安孫子勇一氏

(3) シャドーバンキングの発展とヘッジファンド

報告者　埼玉大学　関村正悟氏

討論者　国士舘大学　野下保利氏

3. 昼　食　＜11:45～12:45＞

場所：大学会館

4. 共通論題　＜12:45～15:15＞

C 会場（第 31 講義室）

世界金融危機後の金融規制

座長　神戸大学　宮尾龍蔵氏

(1) 国際金融危機の原因と金融規制改革のあり方

報告者　一橋大学　武田真彦氏

(2) 世界金融危機と国際社会の対応：G20 金融サミット等の成果と金融規制改革

報告者　財務省国際局長　中尾武彦氏

(3) 日本のプルーデンス政策

報告者　明治大学　黒田晁生氏

討論者　神戸大学　地主敏樹氏

討論者　慶應義塾大学　池尾和人氏

2010 年度春季大会（中央大学）

第 1 日　5 月 15 日（土）

1. 金融史パネル　＜10:00～12:15＞
A 会場
テーマ：「制度化・同質化の金融史」

座長　麗澤大学　佐藤政則氏

(1) 無尽・頼母子講から普通銀行へ

報告者　近畿大学　岩間剛城氏

(2) 普通銀行・貯蓄銀行の同質化――貯蓄銀行法施行以前における新潟県を事例に

報告者　東京大学大学院生　早川大介氏

(3) 中国におけるインフォーマル金融の制度化

報告者　麗澤大学　陳　玉雄氏
討論者　千葉商科大学　齊藤壽彦氏
討論者　東京大学　伊藤正直氏

2. 自由論題　＜10:00～12:15＞
B 会場　セッション：地域金融 1

座長　東京大学　福田慎一氏

(1) 信用金庫の営業地盤と経営効率性

報告者　九州大学　堀江康熙氏
討論者　近畿大学　安孫子勇一氏

(2) 信用金庫の資金供給が地域経済に及ぼす影響――地域経済力と定量分析

報告者　立命館大学大学院生　吉原清嗣氏
討論者　日本政策投資銀行　花崎正晴氏

(3) 信用金庫の経営安全性と Z スコア

報告者　高崎経済大学　岩本光一郎氏
早稲田大学　森　映雄氏
討論者　専修大学　計　聡氏

C 会場　セッション：金融政策の実証分析

座長　上智大学　竹田陽介氏

(1) 最適金融政策における予防的政策の効果

報告者　東北大学大学院生　荒井壮一氏
討論者　日本銀行　寺西勇生氏

(2) Monetary Policy and Firm Investment

報告者　中央大学大学院生　増田公一氏

討論者　同志社大学　北坂真一氏

(3) On a Comparison of Alternative Specifications of Highly Interest-Elastic Money Demand under a Liquidity Trap in Japan

報告者　甲南大学　中島清貴氏
一橋大学　齊藤　誠氏
討論者　神戸大学　柴本昌彦氏

D 会場　セッション：国際金融 1

座長　中央大学　田中素香氏

(1) グローバル・インバランス問題の解消策――カギとなる中国における内需拡大と金融改革

報告者　佐賀大学大学院生　苗　金芳氏
討論者　大分大学　鳥谷一生氏

(2) Global Financial Crisis and Financial Stability of the New Member States of the EU— Comparison of Central and Eastern Europe with three Baltic States

報告者　九州大学大学院生　バニンコバ エバ氏
討論者　東北学院大学　伊鹿倉正司氏

(3) Financial Crisis and the Choice of Currency Regime in NEW EU Member Countries

報告者　専修大学　清水順子氏
討論者　武蔵大学　大野早苗氏

E 会場　セッション：金融機関 1

座長　神戸大学　藤原賢哉氏

(1) 地域銀行における格付取得の状況について――情報開示の観点からの考察

報告者　農林中金総合研究所　矢島　格氏
討論者　摂南大学　岩坪加紋氏

(2) Banker’s Overconfidence and Irrational Lending Behavior

報告者　中央大学大学院生　北村仁代氏
討論者　一橋大学　三隅隆司氏

(3) Economic Impacts of Herd Behavior in the Japanese Loan Market

報告者　関西大学　中川竜一氏
東京大学　大岩秀和氏
東京大学　武田史子氏
討論者　法政大学　胥　鵬氏

F 会場　セッション：各国の金融

座長　一橋大学　小川英治氏

(1) 金融危機と情報伝達メカニズム――米中株式市場の夜間ボラティリティ・スピルオーバーによる検証

報告者　対外経済貿易大学大学院生　西村友作氏
北京大学大学院生　孫　便霞氏
対外経済貿易大学　門　明氏
討論者　関西学院大学　平山健二郎氏

(2) ロシアにおける為替レートと株価の相互関係に関する分析
報告者　旭川大学　大野成樹氏
討論者　東洋大学　中川利香氏

(3) 日本の GDP と GNI 及び所得収支について
報告者　福島大学　大野正智氏
討論者　大東文化大学　古屋　核氏

3. 昼食　＜12:15～13:30＞

4. 中央銀行パネル　＜13:30～15:45＞
A 会場
テーマ：金融危機下における非伝統的金融政策
座長　慶應義塾大学　池尾和人氏

(1) 非伝統的金融政策――アカデミックな観点からの概念整理
パネリスト　東京大学　福田慎一氏

(2) 非伝統的金融政策の効果と今後の課題
パネリスト　日本銀行　中曽　宏氏

(3) 異例の金融政策の下での金融市場の動向
パネリスト　東短リサーチ　加藤　出氏

5. 自由論題　＜13:30～15:45＞
B 会場　セッション：企業金融
座長　慶應義塾大学　金子　隆氏

(1) 投資の調整費用
報告者　弘前大学　嶋　恵一氏
討論者　日本政策投資銀行　田中賢治氏

(2) 外国人投資家の株式所有と企業価値 ――パネル構造 VAR による分析
報告者　内閣府　外木好美氏
神戸大学　岩壷健太郎氏
討論者　専修大学　手嶋宣之氏

(3) ストック・オプション導入の決定要因
報告者　東京経済大学　安田行宏氏
東京経済大学　金　鉉玉氏

東京経済大学大学院生　長谷川信久氏
討論者　慶應義塾大学　辻　幸民氏

C 会場　セッション：国際金融 2

座長　九州大学　岩田健治氏

(1) 海外投資としてみる「外貨準備」――徐々に近づく基軸通貨の交代

報告者　三菱東京 UFJ 銀行　宿輪純一氏
討論者　中央大学　根本忠宣氏

(2) 米国の対外純負債の持続可能性を再考する

報告者　龍谷大学　竹中正治氏
討論者　中央大学　田中素香氏

(3) 国際的な政策協調問題と IMF の役割

報告者　尚美学園大学　野口嘉彦氏
討論者　静岡県立大学　小谷野俊夫氏

D 会場　セッション：金融市場と企業戦略

座長　一橋大学　三隅隆司氏

(1) 配当性向の変化とその要因に関する研究

報告者　九州大学大学院生　篠﨑伸也氏
討論者　北九州市立大学　後藤尚久氏

(2) An Empirical Analysis of the Effect of Media Coverage on Stock Price Crashes: Evidence from Japan

報告者　甲南大学　阿萬弘行氏
討論者　中央大学　奥山英司氏

(3) 公社債流通市場における価格形成の特徴と債券運用への活用

報告者　中央大学　高橋豊治氏
討論者　早稲田大学　米澤康博氏

E 会場　セッション：アジア経済

座長　広島大学　矢野順治氏

(1) 韓国・タイの資本フロー分析――市場予測、政治リスク指標、流動性指標による月次データ分析

報告者　野村證券株式会社　浦出隆行氏
討論者　近畿大学　山上秀文氏

(2) Nonperforming Loans and Public Asset Management Companies in Malaysia and Thailand

報告者　京都産業大学　猪口真大氏
討論者　大東文化大学　郡司大志氏

(3) The Impact of Connected Lending on Bank Risk and Performance: Evidence from

Indonesia

報告者　一橋大学　小西　大氏

アジア経済研究所　濱田美紀氏

討論者　広島大学　小松正昭氏

6. 特別講演　＜16:00～17:00＞

A 会場

金融行政の課題と取組み

講演者　金融庁長官　三國谷勝範氏

7. 会員総会　＜17:00～17:50＞

Ａ会場

8. 懇親会　＜18:00～＞

1 号館 1406 号室

第 2 日　5 月 16 日（日）

1. 国際金融パネル　＜10:00～12:15＞

A 会場

テーマ：アジア共通通貨の可能性

座長　愛知大学　栗原　裕氏

(1) 東アジアにおける金融協力と、アジア共通通貨への道のり

パネリスト　財務省　浅川雅嗣氏

(2) 2030 年代を見据えた国際経済・金融体制の展望――アジア共通通貨導入とその工程表

パネリスト　世界平和研究所　清水谷　諭氏

(3) アジアの金融統合に向けて

パネリスト　日本銀行　高橋　亘氏

討論者　一橋大学　小川英治氏

討論者　龍谷大学　村瀬哲司氏

2. 自由論題　＜10:00～12:15＞

B 会場　セッション：地域金融 2

座長　横浜市立大学　随　清遠氏

(1) 中小企業の取引金融機関数――中部・北陸地区における実証分析

報告者　東洋大学大学院生　石川英文氏

討論者　九州大学　堀江康熙氏

(2) 営業地盤を考慮した地域銀技術効率性と多角化戦略――Non Discretionary DEA モデ

ル

報告者　青森公立大学大学院生　山本　俊氏

討論者　札幌学院大学　播磨谷浩三氏

(3) The Roles of Relationship Lending and Utilization of Soft Information on Bank and Performance in Competitive Local Markets

報告者　神戸大学大学院生　中岡孝剛氏

神戸大学　與三野禎倫氏

討論者　名古屋大学　家森信善氏

C 会場　セッション：金融機関 2

座長　北海学園大学　小林真之氏

(1) 企業価値と確定拠出年金制度

報告者　九州大学大学院生　山本御稔氏

討論者　大和総研　森　祐司氏

(2) 世界金融危機におけるシステミックリスクの検証：CDS を用いた実証分析

報告者　武蔵大学　大野早苗氏

討論者　早稲田大学　米澤康博氏

(3) 金融規制強化と証券化市場

報告者　横浜国立大学　高橋正彦氏

討論者　立教大学　北原　徹氏

D 会場　セッション：マネーと物価

座長　関西学院大学　田中　敦氏

(1) 国債「市中消化」と財政投融資がマネーストックに与える影響

報告者　中央大学大学院生　近廣昌志氏

討論者　獨協大学　斉藤美彦氏

(2) 産業別の企業物価は相互に関連しているか

報告者　東海大学　石森良和氏

討論者　京都産業大学　寺井　晃氏

(3) Regional Inflation (Price) Behaviors: Heterogeneity and Convergence

報告　筑波大学　永易　淳氏

討論者　一橋大学　塩路悦朗氏

E 会場　セッション：英語報告

座長　一橋大学　奥田英信氏

(1) Exchange Rate Movements and Foreign Direct Investment (Fdi): Evidence From Japanese Investment in Asia, 1987-2008

報告者　大阪大学大学院生　石　宗英氏

大阪大学　高木信二氏

討論者　東洋大学　川﨑健太郎氏

(2) What Drives the Time-Series and Cross-Sectional Variations in Bank Capital Ratios

報告者　一橋大学大学院生　陳　思翀氏

討論者　東京経済大学　安田行宏氏

(3) Negative Impacts of Capital Injection Policies on the Capital Crunch

報告者　日本学術振興会特別研究員 PD（一橋大学）　長田　健氏

討論者　千葉商科大学　鯉渕　賢氏

3. 昼食　＜12:15～13:15＞

4. 共通論題　＜13:15～16:15＞

A 会場

テーマ：世界危機後の企業金融の変貌 ～日本の金融システムの再構築に向けて～

座長　名古屋大学　家森信善氏

(1) 中小企業金融における企業と銀行間関係

パネリスト　一橋大学　植杉威一郎氏

(2) 日本の大企業の資金調達――過去・現在・未来

パネリスト　早稲田大学　広田真一氏

(3) 金融規制・監督の変化と企業金融

パネリスト　日本銀行　小野有人氏

(4) 危機後の金融システムの展望と金融機関の課題

パネリスト　日本政策投資銀行　花崎正晴氏

2010 年度秋季大会（神戸大学）

第 1 日　9 月 25 日（土）

1. 歴史パネル　＜10:00～12:15＞
A 会場　102 教室
テーマ：「1931 年ポンド危機」

座長　麗澤大学　佐藤政則氏

(1) 1931 年のポンド危機と金本位停止

報告者　名古屋大学　金井雄一氏

(2) ロンドン外国為替市場から見た 1931 年「ポンド危機」――為替レートの反応の観察

報告者　一橋大学大学院　高橋秀直氏

(3) 日本への波及と日本の対応――開放小国の視点から

報告者　日本銀行　鎮目雅人氏

討論者　日本大学　岸田　真氏

討論者　首都大学東京　矢後和彦氏

2. 自由論題　＜10:00～12:15＞
B 会場　206 教室
セッション：金融政策 1

座長　関西学院大学　田中　敦氏

(1) ゼロ金利政策と量的緩和政策のアナウンスメント効果の検証

報告者　同志社大学　英　邦広氏

討論者　上智大学　竹田陽介氏

(2) Tomorrow Next データを用いた金融政策の分析

報告者　立命館大学　青野幸平氏

討論者　関西大学　本多佑三氏

(3) 時間軸政策と経済成長――日本のケース

報告者　岡山商科大学　小塚匡文氏

討論者　日本銀行　小田信之氏

C 会場　306 教室
セッション：信用金庫の分析

座長　近畿大学　安孫子勇一氏

(1) 信用金庫の店舗広域化と費用効率性――全国信用金庫のデータを用いた実証分析

報告者　神戸大学大学院　中岡孝剛氏

討論者　立命館大学　播磨谷浩三氏

(2) 地域経済と信用金庫貸出金とのパネル分析

報告者　立命館大学大学院　吉原清嗣氏

討論者　同志社大学　野間敏克氏

(3) 市場分断と信用金庫の効率性――合併は効率性向上に寄与したか

報告者　武蔵大学　茶野　努氏

武蔵大学　渡辺禄朗氏

武蔵大学　鈴木三郎氏

討論者　関西外国語大学　堀江康熙氏

D 会場　230 教室

セッション：アジアの金融 1

座長　広島大学　矢野順治氏

(1) 経済開発に果たす国際プロジェクトファイナンスの役割

報告者　近畿大学　山上秀文氏

討論者　慶應義塾大学　吉野直行氏

(2) バランスシート・アプローチによるインドネシア財政の確率的債務持続可能性分析

報告者　日本政策金融公庫国際協力銀行　増田　篤氏

日本政策金融公庫国際協力銀行　横堀直子氏

日本政策金融公庫国際協力銀行　大重　斉氏

討論者　東洋大学　川﨑健太郎氏

(3) Bank Diversification and Monetary Policy: Evidence from Asia

報告者　大東文化大学　郡司大志氏

東京大学　袁　媛氏

討論者　大阪国際大学　塩谷雅弘氏

E 会場　232 教室

セッション：国際金融 1

座長　明治学院大学　佐々木百合氏

(1) 金融リンケージと日本の景気循環――FCI による分析

報告者　大阪大学　新開潤一氏

討論者　同志社大学　五百旗頭真吾氏

(2) International Transmission of Business Cycles: Evidence from Dynamic Correlations

報告者　神戸大学　岩壷健太郎氏

神戸大学大学院　池田太郎氏

オーストリア国立銀行　Jarko Fidrmuc 氏

討論者　武蔵大学　大野早苗氏

(3) 金融危機と為替レートと証券市場の統合

報告者　九州産業大学　吉田裕司氏

討論者　神戸市外国語大学　江阪太郎氏

F 会場　320 教室

セッション：金融市場

座長　慶應義塾大学　金子　隆氏

(1) 上限金利規制の引き下げが貸金市場に及ぼす影響について

報告者　佐賀大学　三好祐輔氏

佐賀大学　都築治彦氏

討論者　神戸大学　松井建二氏

(2) Distress in Money Market under Global Financial Crisis：Analysis of Co-movement and Transmission

報告者　新潟大学　伊藤隆康氏

討論者　愛知大学　栗原　裕氏

(3) 2 つの金融危機とわが国の企業破綻

報告者　統計数理研究所　赤司健太郎氏

東京大学　福田慎一氏

日本銀行　粕谷宗久氏

討論者　横浜市立大学　随　清遠氏

G 会場　332 教室

セッション：金融システム・規制

座長　大阪市立大学　清田　匡氏

(1) 決済スキームの発展と資金決済システム

報告者　全国銀行協会　吉田康志氏

討論者　東京三菱 UFJ 銀行　宿輪純一氏

(2) FDICIA 体制の終焉と米国における新金融規制

報告者　埼玉大学　西尾夏雄氏

討論者　名城大学　前田真一郎氏

(3) The Optimal Basel Capital Requirement to Cope with Pro-cyclicality: A Theoretical Approach

報告者　慶應義塾大学　吉野直行氏

金融庁　平野智裕氏

討論者　青森公立大学　今　喜典氏

3. 昼食　＜12:25～13:30＞

4. 中央銀行パネル　＜13:30～15:45＞

A 会場　102 教室

テーマ：「中央銀行の近未来像への理論的視座」

座長　上智大学　竹田陽介氏

ニッセイ基礎研究所　矢嶋康次氏

(1) 資産価格

報告者　ロンドン大学　青木浩介氏

(2) 銀行のかかえる信用リスク

報告者　日本銀行　平形尚久氏

(3) 財政政策と金融政策の関係

報告者　北海道大学　工藤教孝氏

討論者　日本銀行　白塚重典氏

討論者　東京大学　岩本康志氏

5. 自由論題　＜13:30～15:45＞

B 会場　206 教室　セッション：地域金融

座長　首都大学東京　矢後和彦氏

(1) The Structure of Banking in Regional Market：Evidence from Micro Data of Kyoto City

報告者　大阪産業大学　石橋尚平氏

京都大学大学院　王　凌氏

討論者　立命館大学　小倉義明氏

(2) 地域金融機関の健全性と企業の技術戦略

報告者　経済産業研究所　後藤康雄氏

討論者　神戸市外国語大学　田中　悟氏

(3) 預貸率の決定要因と地域経済への影響――ダイナミック・パネル推定によるアプローチ

報告者　日本政策投資銀行・埼玉大学大学院　寺崎友芳氏

討論者　大阪経済大学　秋吉史夫氏

C 会場　306 教室

セッション：企業の資金調達行動と金融市場

座長　一橋大学　三隅隆司氏

(1) 日本企業の株式・負債選択と最適資本構成

報告者　広島大学　式見雅代氏

討論者　一橋大学　小西　大氏

(2) IPO 前後の需要構造の変化――株価観察不能性に着目して

報告者　慶應義塾大学大学院　池田直史氏

討論者　神戸大学　鈴木健嗣氏

(3) 負債の再交渉が資本構成に与える影響――トレードオフモデルに基づく分析

報告者　慶應義塾大学大学院　富田信太郎氏
討論者　早稲田大学　米澤康博氏

D 会場　230 教室
セッション：金融経済の理論と実証
座長　香川大学　藤井宏史氏

(1) On the Price Dynamics in a Double Auction Market with Security and Money: Simulation Study
報告者　青山学院大学院　廣田通義氏
討論者　大阪産業大学　小川一仁氏

(2) 年金制度の経年的効果について
報告者　神戸大学　藤井隆雄氏
神戸大学大学院　林　史明氏
神戸大学　入谷　純氏
討論者　関西学院大学　田畑　顕氏

(3) Convergence of Japanese Local CPIs with Structural Breaks
報告者　駿河台大学　池野秀弘氏
討論者　流通科学大学　森澤龍也氏

E 会場　232 教室
セッション：国際金融 2
座長　愛知大学　栗原　裕氏

(1) 経常収支反転の 2 形態
報告者　同志社大学　五百旗頭真吾氏
討論者　長崎大学　工藤　健氏

(2) 資源国の海外資本流入に関する検証
報告者　武蔵大学　大野早苗氏
武蔵大学　東郷　賢氏
討論者　一橋大学　奥田英信氏

(3) アジア通貨危機後の為替レート制度
報告者　神戸大学　金京拓司氏
討論者　中央大学　田中素香氏

F 会場　320 教室
セッション：金融機関
座長　関西大学　宇恵勝也氏

(1) Why Does Relationship Lenders Use Small Business Credit Scoring? Evidence from the Firm-Bank Matched Data in Japan
報告者　法政大学　平田英明氏

日本銀行　小野有人氏
日本経済研究センター　蓮見　亮氏
討論者　関西大学　中川竜一氏

(2) 銀行の証券業参入に対する市場評価の検証

報告者　日本大学　澤田　充氏
東京経済大学　安田行宏氏
討論者　信州大学　広瀬純夫氏

(3) 生損保相互参入の効果に関する効率性の観点からの検証

報告者　立命館大学　播磨谷浩三氏
東京経済大学　柳瀬典由氏
討論者　武蔵大学　茶野　努氏

G 会場　332 教室
セッション：金融理論

座長　同志社大学　植田宏文氏

(1) 自己資本比率規制とクレジット・サイクル

報告者　同志社大学大学院　中井教雄氏
討論者　早稲田大学　藪下史郎氏

(2) Central Banking and Deflationary Depression：A Japanese Perspective

報告者　中央大学　浅田統一郎氏
討論者　追手門学院大学　松本直樹氏

6. 会長講演　＜16:00～17:00＞　出光佐三記念六甲台講堂

座長　明治大学　北岡孝義氏
「マクロ的枠組みの下での貨幣と銀行信用の基本問題について」
講演者　同志社大学　藤原秀夫氏

7. 会員総会　＜17:00～17:40＞　出光佐三記念六甲台講堂

8. 懇親会　＜18:00～＞　アカデミア館 1 階　カフェテリア

第 2 日　9 月 26 日(日)

1. 国際金融パネル　＜9:30～11:45＞
A 会場　102 教室
テーマ：「国際金融理論の新潮流――開放型ニューケインジアンモデルの可能性」

座長　関西大学　高屋定美氏

(1) 金融政策の国際協調――「新しい開放マクロ経済学」からの展望

報告者　日本銀行　藤原一平氏

(2) 開放経済ニューケインジアンモデルを用いた政策効果の評価――可能性と限界

報告者　一橋大学　塩路悦郎氏

(3) アジアの景気循環と銀行部門――国際資金フローの役割を踏まえて

報告者　二松学舎大学　田端克至氏

討論者　長崎大学　須齋正幸氏

討論者　神戸大学　北野重人氏

2. 自由論題　＜9:30～11:45＞

B 会場　206 教室

セッション：金融政策 2

座長　広島大学　千田　隆氏

(1) 金融政策ラグ、ゼロ金利制約、およびインフレーション・ターゲティング

報告者　内閣府　西山慎一氏

討論者　ロンドン大学　青木浩介氏

(2) New Keynesian Dynamic IS Curve and Weak Identification Robust Test in GMM Estimation

報告者　神戸大学大学院　海野晋悟氏

討論者　千葉経済大学　岡野衛士氏

(3) インフレ・ターゲティングがインフレ期待の安定化に結びついたか

報告者　上海対外貿易学院大学　劉　東華氏

討論者　同志社大学　英　邦広氏

C 会場　306 教室

セッション：アジアの金融 2

座長　神戸大学　三重野文晴氏

(1) 中国とインドの経済成長と世界各国間の所得格差――1950 年から 2030 年

報告者　大阪経済大学　福本幸男氏

討論者　大阪大学　福重元嗣氏

(2) バハレーンにおけるイスラーム銀行の経営効率性

報告者　日本貿易振興機構アジア経済研究所　齋藤　純氏

討論者　東洋大学　中川利香氏

(3) ベトナム上場企業の投資活動の実証分析

報告者　一橋大学　奥田英信氏

一橋大学大学院　Lai Thi Phuong Nhung 氏

討論者　神戸大学　内田浩史氏

E 会場　232 教室

セッション：資産価格

座長　明治大学　北岡孝義氏

(1) 日本の資産市場における C-CAPM の有効性について――操作変数とウェイト行列が推定に与える影響

報告者　釧路公立大学　尾崎泰文氏

討論者　岡山商科大学　小塚匡文氏

(2) 原資産価格のブル・ベアを考慮したオプション価格付け

報告者　日本大学　三井秀俊氏

東洋大学　里吉清隆氏

討論者　早稲田大学　竹内明香氏

(3) 関西圏住宅地の価格形成要因分析――市単位の比較をケースとして

報告者　滋賀大学　得田雅章氏

討論者　日本大学　廣野桂子氏

G 会場　332 教室

セッション：各国の金融

座長　九州大学　岩田健治氏

(1) 中国における商業銀行の不良資産証券化をめぐる法制度に関して

報告者　滋賀大学大学院　張　露露氏

討論者　名城大学　大庭清司氏

(2) サブプライム危機前後におけるアメリカ大手金融機関の収益構造

報告者　松山大学　掛下達郎氏

討論者　日本証券経済研究所　若園智明氏

(3) 世界金融危機とドイツの金融システム

報告者　静岡大学　居城　弘氏

討論者　奈良産業大学　岩見昭三氏

3. 昼食　＜11:45～12:50＞

4. 特別講演　＜12:50～13:50＞　出光佐三記念六甲台講堂

座長　一橋大学　清水啓典氏

演題：「中央銀行の果たす役割―バブル、金融危機、デフレの経験を踏まえて」

講演者　日本銀行総裁　白川方明氏

5. 共通論題 ＜14:00～17:00＞　出光佐三記念六甲台講堂

テーマ：「危機下のユーロ」

座長　神戸大学　藤田誠一氏

関西大学　高屋定美氏

(1) 危機下のユーロ―通貨同盟から財政同盟への道は開かれているか

報告者　内閣府経済社会総合研究所所長　岩田一政氏

(2) 統合欧州の通貨と金融―不可能は可能か

報告者　同志社大学　浜　矩子氏

(3) ユーロの現状と行方

報告者　立命館大学　星野　郁氏

6. 閉会挨拶

大会実行委員長　神戸大学　藤田誠一氏

2011 年度春季大会（明治大学）

第 1 日　5 月 28 日（土）

1. 金融史パネル　＜10:00～12:15＞　英語報告
A 会場　1093 教室
テーマ：Exploring the Bank Supervision and Prudential Policy: Historical Experiences in Sweden, Japan and Thailand

Purpose of the panel session　Chair　Meiji University　Isao Suto

(1) Drivers of Organizational Change: Banking Supervision in Sweden between 1868 - 1991

Presenter　Linköping University　Mikael Wendschlag

(2) The Origin of Prudential Supervision in Japanese Banking, 1857-1936

Presenter　Yokohama National University　Eiji Hotori

(3) Why did the Prudential Policy in Thailand during 1985-1997 Lead to the Financial Destabilization?

Presenter　Tokai University　Koji Fuda

Discussant　Tokyo Metropolitan University　Kazuhiko Yago

2. 特別セッション　＜10:00～12:15＞
B 会場 1094 教室
テーマ「グローバル・クライシスと金融政策」

座長　中央大学　浅田統一郎氏

(1) グローバル・クライシスと国際金融ガバナンス――FSF（金融安定化フォーラム）改組の意味するもの

報告者　国士舘大学　野下保利氏

討論者　二松學舎大学　渡辺和則氏

(2) 金融規制――今次金融危機を受けた新しい視点を中心に

報告者　日本銀行　服部正純氏

討論者　新潟大学　伊藤隆康氏

(3) 国債累積と財政金融政策のマクロ動学――不適切なポリシー・ミックスについて

報告者　中央大学　浅田統一郎氏

討論者　日本銀行　高橋　亘氏

3. 自由論題　＜10:00～12:15＞
C 会場　1096 教室
セッション：為替レート

座長　広島大学　矢野順治氏

(1) Market Share and Exchange Rate Pass-through: Competition among Exporters of the Same Nationality

報告者　九州産業大学　吉田裕司氏

討論者　同志社大学　五百旗頭真吾氏

(2) Revisiting the J-Curve for Japan

報告者　成蹊大学　大野正智氏

早稲田大学　朴　相俊氏

討論者　関西大学　高屋定美氏

D 会場 1105 教室

セッション：金融機関・金融システム

座長　中央大学　黒田　巌氏

(1)Could Prefectural Banks Modeled on the Bank of North Dakota Aid Regional Economic Growth in Japan?

報告者　麻布大学　Patrick Collins 氏

討論者　日本大学　宅和公志氏

(2) 自己資本比率が銀行の超過準備預金保有に与えた影響

報告者　一橋大学　長田　健氏

討論者　慶應義塾大学　金子　隆氏

(3) 中央銀行の決済システム・ガバナンス

報告者　明治大学　折谷吉治氏

討論者　文京学院大学　絹川直良氏

E 会場 1106 教室

セッション：コーポレートファイナンス＆ファイナンス

座長　上智大学　竹田陽介氏

(1) 株式分割バブルとライブドア・ショック

報告者　大阪大学大学院　高阪勇毅氏

討論者　大東文化大学　郡司大志氏

(2) Bank-Dependence and Financial Constraints on Investment: Evidence from the Corporate Bond Market Paralysis in Japan

報告者　一橋大学大学院　内野泰助氏

討論者　学習院大学　細野　薫氏

(3) IPO 企業の調達資金の使途に関する研究

報告者　一橋大学　小西　大氏

一橋大学大学院　中嶋　幹氏

討論者　神戸大学　鈴木健嗣氏

4.　昼食 ＜12:15～13:30＞

5.　中央銀行パネル ＜13:30～15:45＞

F 会場　1013 教室

セッション：「物価と中央銀行――日本の長期デフレと金融政策」

座長　一橋大学　塩路悦朗氏

(1) 長期デフレ――bad luck, bad practice, or bad policy?

報告者　日本銀行　関根敏隆氏

(2) 家計別消費者物価指数と金融政策

報告者　一橋大学　北村行伸氏

(3) アグレッシブな金融政策の副作用

報告者　BNP パリバ　河野龍太郎氏

6. 自由論題　＜13:30～15:45＞

A 会場 1093 教室

セッション：経常収支

座長　神戸大学　藤田誠一氏

(1) The Japanese Current Account:Why It Still Remains High

報告者　東京大学大学院　山田潤司氏

日本大学　宮澤健介氏

討論者　神戸大学　松林洋一氏

(2) アジア通貨危機と貿易収支の反転――金融システムの不安定化による“Investment Drought”の影響

報告者　(財)関西社会経済研究所　山本周吾氏

討論者　東京経済大学　熊本方雄氏

(3) 米国の経常収支不均衡の趨勢的シフトとその要因

報告者　龍谷大学　竹中正治氏

討論者　神戸大学　岩壷健太郎氏

B 会場　1094 教室

セッション：金融の実証

座長　東京大学　福田慎一氏

(1) ミクロデータを用いた小額決済手段の選択要因に関する実証分析

報告者　九州大学　中田真佐男氏

討論者　日本銀行　粕谷宗久氏

(2) ダイナミック・ファクター・モデルによる国内金融市場統合の分析

報告者　筑波大学　永易　淳氏

討論者　東京大学　加納　隆氏

(3) Breakdown of Interbank Market: The Japanese Banking Crisis of 1997-98

報告者　大阪経済大学　秋吉史夫氏

討論者　一橋大学　小西　大氏

C 会場　1096 教室

セッション：地域金融

座長　近畿大学　安孫子勇一氏

(1) 地域銀行の営業地盤と収益性の分析

報告者　関西外国語大学　堀江康熙氏

討論者　同志社大学　野間敏克氏

(2) Lending Technologies and Soft Information Management: Evidence from Japanese Regional Banks

報告者　神戸大学大学院　中岡孝剛氏

神戸大学　與三野禎倫氏

討論者　立命館大学　小倉義明氏

(3) 窮境下にある企業に対する企業銀行間関係――愛知、長野両県の各 30 社の倒産企業の分析を通して

報告者　信州大学　青木達彦氏

学校法人未来学舎　片瀬拓弥氏

討論者　大阪大学　筒井義郎氏

D 会場 1105 教室

セッション：各国の金融

座長　九州大学　川波洋一氏

(1) GCC 諸国におけるイスラム銀行業の費用効率性

報告者　国際協力機構　上山　一氏

討論者　アジア経済研究所　齋藤　純氏

(2) リレーションシップバンキングの結果メインストリートの銀行破綻が増大したのか？

報告者　茨城大学　内田　聡氏

討論者　神奈川大学　数阪孝志氏

(3) インドの資本自由化と規制――金融市場における有効性

報告者　愛媛大学　大田英明氏

討論者　一橋大学　奥田英信氏

E 会場 1106 教室

セッション：ファイナンス

座長　一橋大学　三隅隆司氏

(1) 金融危機と日中ボラティリティ――日米中株式市場の比較分析

報告者　対外経済貿易大学　西村友作氏

大阪大学　筒井義郎氏
関西学院大学　平山健二郎氏
討論者　神戸大学　岩壷健太郎氏

(2) 日本の銀行部門におけるポートフォリオ選択行動について――GARCH モデルを用いた実証分析

報告者　財務省財務総合政策研究所　石川大輔氏
討論者　立命館大学　播磨谷浩三氏

(3) 消費者金融会社による銀行提携と経営破綻――株式市場のイベント・スタディと倒産確率モデルによる評価

報告者　武蔵大学　茶野　努氏
武蔵大学大学院　芳野哲也氏
討論者　東京経済大学　安田行宏氏

7. 特別講演 I　＜16:00～17:00＞
F 会場　1013 教室

座長　日本金融学会会長　藤原秀夫氏
講演者　日本銀行総裁　白川方明氏

演題：「通貨、国債、中央銀行」

8. 会員総会　＜17:10～17:50＞　F 会場　1013 教室

9. 懇親会　＜18:00～20:00＞　リバティタワー23 階 岸本辰雄ホール

第 2 日　5 月 29 日(日)

10. 国際金融パネル　＜9:30～11:45＞
A 会場　1093 教室
テーマ：「日本企業の海外戦略と為替戦略」

座長　横浜国立大学　佐藤清隆氏

(1) 日本企業のインボイス通貨選択と為替リスク管理

報告者　専修大学　清水順子氏

(2) 為替変動と国際的生産ネットワーク

報告者　慶應義塾大学　木村福成氏

(3) ホンダの海外展開の考え方と為替変動への対応

報告者　本田技研工業株式会社　村岡直人氏
討論者　東京大学　伊藤隆敏氏
討論者　経済産業研究所　森川正之氏

11. 自由論題　＜9:30～11:45＞

B 会場　1094 教室

セッション：金融理論

座長　名古屋大学　家森信善氏

(1) Keynes「確率」の特殊性に関する考察

報告者　東京学芸大学　高藪　学氏

討論者　信州大学　青木達彦氏

(2) Financial Institution, Asset Bubbles and Economic Performance

報告者　東京大学　平野智裕氏

東京大学　柳川範之氏

討論者　横浜国立大学　秋山太郎氏

(3) Economic Boom and Bust Originating from Expectation Errors in the Credit Market

報告者　明治大学　福田　慎氏

明治大学　溜川健一氏

討論者　広島大学　矢野順治氏

C 会場　1096 教室

セッション：金融史

座長　麗澤大学　佐藤政則氏

(1) ペイオフ発動の歴史的意義

報告者　横浜国立大学　高橋正彦氏

討論者　早稲田大学　西村吉正氏

(2) 価値評価基準としての収益力の普及と定着――1930-40 年代の米国財務論との関連において

報告者　九州大学　宇土至心氏

討論者　国士舘大学　野下保利氏

(3) Who Was the Chief Executive of the Federal Reserve Bank, Chairman of the Board of Directors or Governor before the Great Depression?

報告者　明治大学　須藤　功氏

討論者　北海学園大学　小林真之氏

D 会場　1105 教室

セッション：金融政策

座長　神戸大学　地主敏樹氏

(1) Optimal Monetary Policy and Nominal Exchange Rate Volatility under Local Currency Pricing

報告者　千葉経済大学　岡野衛士氏

討論者　東京大学　加納　隆氏

(2) Tobin's Q Channel and Monetary Policy under Imperfect Exchange Rate Pass-Through

報告者　岡山商科大学　井田大輔氏

討論者　一橋大学　塩路悦朗氏

(3) The Expectation of Monetary Policy and Long Term Interest Rates in Australia

報告者　新潟大学　伊藤隆康氏

討論者　愛知大学　栗原　裕氏

E 会場　1106 教室

セッション：国際通貨

座長　一橋大学　小川英治氏

(1) 国際通貨ドルに対する信認と政策問題

報告者　ノースアジア大学　前田直哉氏

松山大学　西尾圭一郎氏

討論者　名古屋大学　金井雄一氏

(2) GCC 通貨統合と最適通貨圏論

報告者　國學院大學大学院　木村秀史氏

討論者　立命館大学　西村陽造氏

12. 昼食　＜11:45～12:50＞

特別講演Ⅱ　＜12:50～13:50＞　F 会場　1013 教室

座長　一橋大学　清水啓典氏

講演者　ハーバード大学教授　Benjamin M.Friedman 氏

演題：The Implementation of Monetary Policy: How Do Central Banks Set Interest Rates?

14. 共通論題　＜14:00～17:00＞　　F 会場　1013 教室

テーマ：アジアの成長と国際的金融規制

座長　一橋大学　清水啓典氏

(1) アジアの経済成長を支える金融規制とは？

報告者　みずほ総合研究所　杉浦哲朗氏

(2) Domestic Financial Market Development in Asia and the Role of Sterilization

報告者　Invesco Asset Management Limited　John Greenwood 氏

(3) 国際的金融規制のアジアへの適用について

報告者　野村資本市場研究所　淵田康之氏

(4) グローバル金融危機と規制の再設計

報告者　一橋大学　佐藤隆文氏

15. 閉会挨拶

大会実行委員長　明治大学　渡辺良夫氏

2011 年度秋季大会（近畿大学）

第 1 日　9 月 18 日（日）

1. 特別セッション　＜9:30～11:45＞
A 会場　101 教室
テーマ：東日本大震災と中小企業金融

座長　名古屋大学　家森信善氏

(1) 被災地企業の経営環境と金融機関との関係

報告者　一橋大学　植杉威一郎氏

(2) 東日本大震災が地域金融に及ぼす影響

報告者　関西外国語大学　堀江康熙氏
兵庫県立大学　川向　肇氏

(3) 経済学的視点から見た二重ローン問題

報告者　神戸大学　内田浩史氏
討論者　日本政策投資銀行　花崎正晴氏
横浜市立大学　藤野次雄氏

2. 自由論題　＜9:30～11:45＞
E 会場　402 教室
セッション：金融史

座長　麗澤大学　佐藤政則氏

(1) 対中円借款 30 年の歩み―環境円借款への変容

報告者　布目稔生氏
討論者　近畿大学　西澤信善氏

(2) 1970 年代シンガポールにおける対外開放政策の展開と IMF コンサルテーション

報告者　首都大学東京大学院　坂東義徳氏
討論者　法政大学　鷲見誠良氏

(3) 1970 年代における都銀と信金の競争激化とリレーションシップバンキング

報告者　中央大学大学院　新井大輔氏
討論者　立命館大学　小倉義明氏

F 会場　403 教室
セッション：金融市場等の実証分析

座長　東京大学　福田慎一氏

(1) 国際的なコモディティ先物市場の構造変化

報告者　武蔵大学　茶野　努氏
討論者　一橋大学　三隅隆司氏

(2) エマージング市場の海外資本流入の影響―為替政策と資本規制の観点からの考察

報告者　武蔵大学　大野早苗氏

専修大学　清水順子氏

討論者　日本総合研究所　清水　聡氏

C 会場　203 教室

セッション：国際金融 I

座長　九州大学　岩田健治氏

(1) 小国開放経済における為替リスクとその影響

報告者　杏林大学　中村周史氏

討論者　関西大学　高屋定美氏

(2) 産業別株式ポートフォリオの国際統合度

報告者　明星大学　中田勇人氏

討論者　立命館大学　青野幸平氏

D 会場　204 教室

セッション：アジアの金融

座長　愛知大学　栗原　裕氏

(1) 政府支配はベトナム上場企業の経営にどう影響を与えているか―3SLS による資本構造と収益性の同時推計

報告者　一橋大学　奥田英信氏

一橋大学大学院　ライ・ティーン・フン・ニュン氏

討論者　名古屋市立大学　永野　護氏

(2) フィリピン商業銀行の経営効率性分析

報告者　日本貿易振興機構アジア経済研究所　齋藤　純氏

討論者　神戸大学　三重野文晴氏

(3) マレーシア為替・資本規制（1998 年）について―貿易への影響と ACU への応用

報告者　みずほコーポレート銀行　赤羽　裕氏

討論者　龍谷大学　村瀬哲司氏

3. 昼食　＜11:45～12:45＞

4. 特別講演　＜12:45～14:25＞

A 会場　101 教室

テーマ：国際金融システムの現状と展望

座長　慶應義塾大学　吉野直行氏

講演者　国際通貨研究所理事長（元財務官）　行天豊雄氏

講演者　財務官　中尾武彦氏

5. 国際金融パネル　＜14:35～16:50＞

B 会場　201 教室

テーマ：為替予測の実際

座長　立正大学　林　康史氏

(1) 為替予測の最先端研究

報告者　神戸大学　岩壷健太郎氏

(2) 為替予測実践の最前線

報告者　野村證券　田中泰輔氏

(3) 為替予測の実践的研究

報告者　シティバンク銀行　高島　修氏

6. 自由論題　＜14:35～16:50＞

C 会場　203 教室

セッション：流動性とリスク―制度と理論

座長　上智大学　竹田陽介氏

(1) 戦略的デフォルト strategic defaults について

報告者　成城大学　福光　寛氏

討論者　立命館大学　松本　朗氏

(2) ノンバンク債権の証券化とオリジネーター破綻

報告者　横浜国立大学　高橋正彦氏

討論者　桃山学院大学　松尾順介氏

(3) The Safer, the Riskier: A Model of Bank Leverage and Financial Instability

報告者　京都大学　敦賀貴之氏

日本銀行　加藤　涼氏

討論者　関西大学　宇惠勝也氏

D 会場　204 教室

セッション：金融政策

座長　関西学院大学　田中　敦氏

(1) Policy Responses under Inflation Targeting: A VAR Analysis with Sign Restrictions

報告者　大阪府立大学　立花　実氏

討論者　流通科学大学　小塚匡文氏

(2) 長期デフレ不況の理論モデル―ゼロ金利制約・テイラールール・産出ギャップ

報告者　早稲田大学　井上智洋氏

早稲田大学　品川俊介氏

中央大学　都築栄司氏

討論者　諏訪東京理科大学　中平千彦氏

E 会場　402 教室

セッション：地域金融

座長　東北福祉大学　鴨池　治氏

(1) Loan Portfolio Adjustments of Regional Financial Institutions to Regional Economic Conditions in the Japan's Post-Bubble Period: A Panel Cointegration Analysis

報告者　大阪産業大学　石橋尚平氏

討論者　財務省財務総合政策研究所　石川大輔氏

(2) 地域銀行による共同システムの導入効果

報告者　信州大学　山沖義和氏

討論者　慶應義塾大学　吉野直行氏

(3) Bank Deposit Interest Rate Pass-Through and Geographical Segmentation in Japanese Banking Markets: A Panel Cointegration Approach

報告者　経済産業研究所　内野泰助氏

討論者　九州大学　中田真佐男氏

7.　会員総会　＜17:00～17:50＞

A 会場　101 教室

8.　懇親会　＜18:00～20:00＞

11 月ホール地下 1 階生協ノーベンバー食堂

第 2 日　9 月 19 日（月・祝日）

9. 金融史パネル　＜9:30～11:45＞

E 会場　402 教室

テーマ：「近代移行期における貨幣と信用―決済の視点から」

座長　法政大学　靏見誠良氏

(1) 近世日本の貨幣・信用

報告者　松山大学　岩橋　勝氏

(2) 近代移行期日本の貨幣・信用

報告者　流通科学大学　加藤慶一郎氏

日本銀行　鎮目雅人氏

(3) 近代移行期中国の貨幣・信用

報告者　一橋大学　城山智子氏

討論者　住友史料館　安国良一氏

九州大学　今井亮一氏

10. 中央銀行パネル　＜9:30～11:45＞

A 会場　101 教室

テーマ：「グローバル経済下の金融政策」

座長　関西大学　本多佑三氏

(1) 米国連邦準備制度の危機対応

報告者　神戸大学　地主敏樹氏

(2) 経済・財政危機下での欧州中央銀行の金融政策―近年の非標準的金融政策を中心に

報告者　関西大学　高屋定美氏

(3) 金融危機後の日銀金融政策と短期金融市場

報告者　東短リサーチ　加藤　出氏

討論者　一橋大学　小川英治氏

神戸大学　高橋　亘氏

11. 自由論題　＜9:30～11:45＞

F 会場　403 教室

セッション：ファイナンス・行動ファイナンス

座長　一橋大学　三隅隆司氏

(1) 始値の効率性検証―9 ヵ国日次 10 株価指数の分析

報告者　学習院大学　辰巳憲一氏

学習院大学大学院　趙　潮氏

討論者　大阪大学　筒井義郎氏

(2) Borrowing Behavior and Attitudes towards Risk and Time: Experimental Approach

報告者　立命館大学　井澤裕司氏

近畿大学　マルデワ　グジェゴシュ氏

討論者　早稲田大学　晝間文彦氏

(3) 所得不確実性、危険回避および消費行動―日本の経験(1987-2009)

報告者　神戸大学大学院　田村英朗氏

討論者　流通科学大学　小塚匡文氏

C 会場　203 教室

セッション：国際金融Ⅱ

座長　神戸大学　藤田誠一氏

(1) Balance of Payments Stages in the World over Three Decades

報告者　成蹊大学　大野正智氏

討論者　神戸大学　松林洋一氏

(2) 短期金融市場育成とベンチマーク金利の役割―タイのケースを中心に

報告者　文京学院大学　絹川直良氏

討論者　神戸大学　三重野文晴氏

(3) 新興国の供給ショックと先進国の低インフレ―3 カ国 DSGE モデルによる考察

報告者　アジア開発銀行研究所　河合正弘氏

日本銀行　平形尚久氏

日本銀行　岩崎雄斗氏

討論者　千葉経済大学　岡野衛士氏

D 会場　204 教室

セッション：各国の金融

座長　明治大学　北岡孝義氏

(1) The Effect of Financial Development and FDI Spill-over on Regional Economic Growth in China: Analysis based on Provincial Panel Data

報告者　九州大学大学院　劉　哲怡氏

討論者　福岡女子大学　張　艶氏

(2) ユーロ圏ソブリンリスクの国際波及と危機対応融資―国債利回りのボラティリティ分析

報告者　アジア開発銀行研究所　増田　篤氏

国際協力銀行　大重　斉氏

討論者　一橋大学　有吉　章氏

(3) ベトナムにおける銀行制度と金利形成

報告者　新潟大学　伊藤隆康氏

討論者　一橋大学　奥田英信氏

G 会場　501 教室

セッション：中小企業の金融

座長　山口大学　兵藤　隆氏

(1) 企業の創出、規模と銀行間競争

報告者　広島大学　式見雅代氏

討論　立命館大学　小倉義明氏

(2) 中小企業金融における銀行と借り手の情報格差について―担保と貸出金利の相関性に関する検証

報告者　みずほコーポレート銀行　小林俊之氏

討論者　東洋大学　益田安良氏

(3) 東日本大震災が中小企業に与えた影響―全国中小企業景気動向調査結果より

報告者　信金中央金庫　品田雄志氏

討論者　日本政策金融公庫総合研究所　深沼　光氏

12. 昼食　＜11:45～12:45＞

13. 共通論題　＜12:45～16:00＞

A 会場：東日本大震災後の復興のための金融・資本市場の課題

共通論題の主旨

座長　一橋大学　小川英治氏

(1) 震災復興の３原則

東京大学　伊藤隆敏氏

(2) 大規模災害後の復興と財政リスク

アジア開発銀行研究所　河合正弘氏

(3) 震災復興期における経済財政政策

慶應義塾大学　土居丈朗氏

(4) 民間資金の活用

野村資本市場研究所　関　雄太氏

討論者　東北福祉大学　鴨池　治氏

神戸大学　地主敏樹氏

14. 閉会挨拶

大会実行委員長　近畿大学　山上秀文氏

2012 年度春季大会（立正大学）

第 1 日　5 月 19 日（土）

1. 震災復興パネル　＜10:00～12:15＞
A 会場　341 教室
テーマ：震災後の復興に向けた経済的課題

座長　東北大学　西山慎一氏

(1) 東日本大震災からの復興と課題

報告者　東北福祉大学　鴨池　治氏

(2) 震災後の東北経済

報告者　日本銀行　福田一雄氏

(3) 震災復興に向けた資金供給の課題

報告者　法政大学　平田英明氏
討論者　一橋大学　植杉威一郎氏
討論者　神戸大学　地主敏樹氏

2. 国際金融パネル　＜10:00 ～12:15＞
B 会場 335 教室
テーマ「欧州財政危機の要因とその世界的波及」

座長　学習院大学　清水順子氏

(1) 欧州財政危機の要因

報告者　慶應義塾大学　嘉治佐保子氏

(2) ユーロという実験――通貨同盟における域内インバランス、クロスボーダーバンキング、債務再編、構造改革、金融システムの安定性

報告者　中央大学　鯉渕　賢氏

(3) 欧州財政危機への処方箋がはらむリスク――危機の波及は防げるのか？

報告者　国際協力銀行　西沢利郎氏
討論者　中央大学　田中素香氏
討論者　慶應義塾大学　土居丈朗氏

3.　自由論題　＜10:00～12:15＞
C 会場　334 教室
セッション：コモディティ

座長　多摩大学　宇佐美　洋氏

(1) コモディティ市場は金融市場化したのか？――構造 VAR に基づく検証

報告者　武蔵大学　大野早苗氏
武蔵大学　茶野　努氏

討論者　同志社大学　北坂真一氏

(2) シミュレーションによる値幅制限緩和・撤廃効果の分析――デフォルト・ リスクの観点から

報告者　東京工業品取引所　小野里光博氏

東京工業品取引所　山岡博士氏

東京工業品取引所　荒木浩介氏

討論者　多摩大学　宇佐美　洋氏

(3) アフリカ産油国へ原油価格が与える影響――ナイジェリアを例に

報告者　神戸大学大学院　出町一恵氏

討論者　武蔵大学　大野早苗氏

D 会場 324 教室

セッション：ファイナンス

座長　愛知大学　栗原　裕氏

(1) 社債スプレッド変動要因と銀行の債券投資活動について――流動性の視点から２つの金融危機を比較して

報告者　青山学院大学　白須洋子氏

討論者　東京経済大学　安田行宏氏

(2) 格付けはスルーザサイクルといえるのか――シクリカルな要因が格付けに与える影響

報告者　一橋大学大学院　根本直子氏

討論者　慶應義塾大学　吉野直行氏

(3) CDS と債券価格・株価の関係――消費者金融会社に関するイベント・スタディ評価

報告者　武蔵大学　茶野　努氏

討論者　千葉商科大学　吉田　靖氏

E 会場 326 教室

セッション：金融財政政策の時系列分析

座長　上智大学　竹田陽介氏

(1) Taylor Rule or McCallum Rule for the Chinese Monetary Policy

報告者　一橋大学大学院　劉　佳氏

討論者　関西学院大学　田中　敦氏

(2) Effects of Public Investment on Sectoral Private Investment : A Factor Augmented VAR Approach

報告者　神戸大学　藤井隆雄氏

流通科学大学　小塚匡文氏

慶應義塾大学　平賀一希氏

討論者　大東文化大学　郡司大志氏

(3) Accounting for Relative Price Levels across Cities within Japan

報告者　駿河台大学　池野秀弘氏
討論者　愛知大学　打田委千弘氏

F 会場 322 教室
セッション：金融システムの安定化策
座長　近畿大学　安孫子勇一氏

(1) Mark-to-Funding による銀行貸出の時価評価への対応について
報告者　埼玉大学大学院　中沢浩志氏
討論者　日本大学　三井秀俊氏

(2) 預金保険制度の課題と展望
報告者　横浜国立大学　高橋正彦氏
討論者　獨協大学　斉藤美彦氏

(3) 規制対応の公募増資が抱えるインセンティブ問題
報告者　早稲田大学大学院　鶴沢　真氏
討論者　神戸大学　高橋　亘氏

G 会場 323 教室
セッション：金融制度とマネーフロー
座長　一橋大学　奥田英信氏

(1) エクアドルのドル化政策の現状と展望
報告者　在エクアドル日本国大使館　木下直俊氏
立正大学　林　康史氏
討論者　国際通貨研究所　松井謙一郎氏

(2) 株券電子化の与えた影響――決済リスクの削減と資金移動の観点から
報告者　証券保管振替機構　九内麻希氏
討論者　東京大学　神田秀樹氏

(3) On the Behavior of Money Flows on the Real Side and the Financial Side in Hokkaido Prefecture
報告者　小樽商科大学　神崎稔章氏
討論者　山形大学　山口昌樹氏

4. 昼食　＜12:15～13:30＞

5. 中央銀行パネル　＜13:30～15:45＞
A 会場　341 教室
テーマ：マクロプルーデンスと中央銀行――マクロプルーデンスの考え方、政策への取り組み、課題と展望を中心に
座長　成城大学　内田真人氏

(1) マクロプルーンスと中央銀行

報告者　日本銀行　宮野谷　篤氏

(2) マクロプルーンスと中央銀行－金融リスク管理の実務の視点から－

報告者　日本総合研究所　西口健二氏

(3) 証券化型金融のもとでのマクロプルーデンス：コンティンジェント転換証券と保険の役割

報告者　一橋大学　中村　恒氏

6. 特別セッションⅠ　＜13:30～15:45＞

〔立正大学 140 周年事業との共催〕

B 会場 335 教室

テーマ：石橋湛山の人と哲学――金融学者として、立正大学学長として

座長　立正大学　秦野　眞氏

(1) アメリカ人達が見た石橋湛山とケインズ主義

報告者　早稲田大学　池尾愛子氏

(2) 石橋湛山の自由主義

報告者　日本大学　寺西重郎氏

(3) 石橋湛山と現実主義――立正大学の視点から

報告者　立正大学　早川　誠氏

7. 自由論題　＜13:30～15:45＞

C 会場　334 教室

セッション：コーポレートファイナンス

座長　慶應義塾大学　金子　隆氏

(1) 労働債権の優先性と流動性不足

報告者　東京大学　田中茉莉子氏

討論者　専修大学　石原秀彦氏

(2) レバレッジ・ダイナミクスの分析――上場企業と非上場企業の比較

報告者　一橋大学大学院　吉田　隆氏

一橋大学　小西　大氏

討論者　慶應義塾大学　辻　幸民氏

(3) 負債構成の決定要因――情報の非対称性に着目した分析

報告者　慶應義塾大学　富田信太郎氏

討論者　東京理科大学　佐々木隆文氏

D 会場　324 教室

セッション：為替レートの実証分析

座長　神戸大学　岩壷健太郎氏

(1) The BOJ Interventions, Order Flow, and Financial Crisis

報告者　九州産業大学　吉田裕司氏

長崎大学　須齋正幸氏

討論者　早稲田大学　北村能寛氏

(2) Order flows, Fundamentals and Exchange rates

報告者　神戸大学　岩壷健太郎氏

Cass Business School　Ian W. Marsh 氏

討論者　筑波大学　永易　淳氏

E 会場 326 教室

セッション：日本の金融市場の諸問題

座長　東京大学　福田慎一氏

(1) Nondivergent Rational Bubbles in the Japanese Stock Market?

報告者　神戸大学大学院　渡辺寛之氏

討論者　近畿大学　星河武志氏

(2) 為替相場の変動と貿易収支――マーシャル=ラーナー条件の一般化と J-カーブ効果の統合

報告者　明治学院大学　岡部光明氏

討論者　愛知大学　栗原　裕氏

F 会場 322 教室

セッション：経済発展と金融

座長　日本総合研究所　清水　聡氏

(1) The Role of FDI in Local Financial Development in Post-Reform China: Evidence from Panel Data

報告者　早稲田大学　大熊正哲氏

早稲田大学大学院　高　瑞東氏

愛知学泉大学　岩本光一郎氏

重慶大学　劉　辛氏

討論者　早稲田大学　小倉義明氏

(2) 郷里送金の国内産業への波及効果――産業連関表を使ったメキシコの事例分析

報告者　国際通貨研究所　松井謙一郎氏

討論者　一橋大学　奥田英信氏

8. 特別講演 I　＜16:00～17:00＞

H 会場　石橋湛山記念講堂

座長　慶應義塾大学　吉野直行氏

講演者　金融庁長官　畑中龍太郎氏

演題：金融行政における諸課題

9. 会員総会　　＜17:10 ～18:10＞
H 会場　石橋湛山記念講堂

10. 懇親会　　＜18:30～20:30＞
会場　ゆうぽうと

第 2 日　5 月 20 日（日）

11. 特別セッションⅡ　　＜10:00～12:30＞
H 会場　石橋湛山記念講堂
テーマ：金融危機後の北東アジアにおける金融協力

座長　広島大学　矢野順治氏

(1) The Present Situation and Outlook of RMB Internationalization

報告者　華東師範大学　黄　澤民氏

(2) グローバル金融危機と経済パラダイム：韓国の経験を中心に

報告者　韓国金融研究院　金　東煥氏

(3) 金融危機後の北東アジアにおける金融協力

報告者　一橋大学　清水啓典氏

討論者　一橋大学　小川英治氏
討論者　神戸大学　金京拓司氏

12. 自由論題　　＜10:00～12:15＞
B 会場　335 教室
セッション：金融機関

座長　早稲田大学　晝間文彦氏

(1) 労働金庫におけるリレーションシップバンキング

報告者　岡山大学　三村　聡氏
討論者　横浜市立大学　藤野次雄氏

(2) 銀行合併が効率性を向上させるか？――地方銀行による実証的証拠

報告者　一橋大学大学院　郎　霊氏
討論者　立命館大学　播磨谷浩三氏

(3) 中国における邦銀の競争力

報告者　山形大学　山口昌樹氏
討論者　拓殖大学　山村延郎氏

C 会場　334 教室

セッション：国際金融

座長　神戸大学　藤田誠一氏

(1) Are Consistent Pegs Really More Prone to Currency Crises?：An Analysis Using Matching Estimators

報告者　神戸市外国語大学　江阪太郎氏

討論者　経済産業研究所　内野泰助氏

(2) Regional Inflation and Industrial Structure in Monetary Union

報告者　筑波大学　永易　淳氏

討論者　大阪経済大学　福本幸男氏

(3) Lessons from Past Crisis Experience and Its Lessons to Asia：Banking Behavior and Asset Bubble

報告者　慶應義塾大学　吉野直行氏

金融庁　中村友哉氏

金融庁金融研究センター　境　吉隆氏

討論者　神戸大学　高橋　亘氏

D 会場　324 教室

セッション：金融史

座長　麗澤大学　佐藤政則氏

(1) 17 世紀オランダにおける振替銀行設立とイマジマリー・マネー

報告者　名古屋大学大学院　橋本理博氏

討論者　日本銀行　鎮目雅人氏

(2) 先駆的銀行合同例の地銀間比較――第一合同銀行と藝備銀行との財務諸表の比較を中心として

報告者　岡山大学大学院　高橋義雄氏

討論者　北九州市立大学　迎　由理男氏

E 会場　326 教室

セッション：金融・ファイナンスの実証分析

座長　明治大学　北岡孝義氏

(1) Return and Volatility Spillovers between Japanese and Chinese Stock Markets: An Analysis of Overlapping Trading Hours with High-frequency Data

報告者　対外経済貿易大学　西村友作氏

大阪大学　筒井義郎氏

関西学院大学　平山健二郎氏

討論者　早稲田大学　宇野　淳氏

(2) What Determines CDS Premium?：Simultaneous Equation System Approach

報告者　日本政策投資銀行　宮川大介氏

日本大学　渡邉修士氏

討論者　一橋大学　沖本竜義氏

(3) 外国為替レートにおける季節性

報告者　立正大学大学院　歌代哲也氏

討論者　東京経済大学　熊本方雄氏

13. 昼食　　＜12:15 ～13:30＞

14. 共通論題　　＜13:30～16:30＞

H 会場　石橋湛山記念講堂

テーマ：金融危機後の金融規制の新潮流

座長　慶應義塾大学　池尾和人氏

(1) リーマン・ショック後の金融規制改革

報告者　日本銀行　山岡浩巳氏

(2) 米英における金融規制をめぐる最近の動向と議論――ドット・フランク法を中心に

報告者　東京大学　岩原紳作氏

(3) 自己資本規制のマクロ経済学的な根拠について

報告者　一橋大学　齊藤　誠氏

(4) 金融規制の奔流と金融機関経営行動

報告者　みずほ証券　藤井健司氏

15. 閉会挨拶

大会実行委員長　立正大学　林　康史氏

2012 年度秋季大会（北九州市立大学）

第 1 日　9 月 15 日（土）

1. 金融史パネル　＜10:00～12:15＞
A 会場　　D201 教室
テーマ：1932 年日銀引受国債発行はどのようにして始まったのか――大蔵省、日本銀行、シンジケート銀行からの考察

座長　法政大学　靏見誠良氏

(1) 日銀引受国債発行方式の形成過程――1932 年

報告者　甲南大学　永廣　顕氏

(2) 国債引受シンジケート銀行と売オペ――1931-37 年

報告者　麗澤大学　佐藤政則氏
討論者　慶應義塾大学　井手英策氏
討論者　東京経済大学　釜江廣志氏
討論者　日本大学　寺西重郎氏

2. 震災復興パネル　＜10:00～12:15＞
B 会場　D202 教室
テーマ：震災復興に向けた金融・財政面ならびに制度面における課題

座長　東北福祉大学　鴨池　治氏

(1) 被災地における中小企業金融の現状と課題――『震災復興企業実態調査』の調査結果を踏まえて

報告者　東北大学　西山慎一氏

(2) 震災後の東北地方における金融面の現状と課題

報告者　東北財務局　明瀬光司氏

(3) 震災復興と財政

報告者　一橋大学　佐藤主光氏
討論者　青山学院大学　相澤朋子氏
討論者　みずほ総合研究所　小野有人氏

3. 自由論題　＜10:00～12:15＞
C 会場　D301 教室
セッション：アジアの金融

座長　愛知大学　栗原　裕氏

(1) Capital Structure, Investment, and Growth of Listed Companies in Vietnam: An Estimation of the Influence of State Ownership by 3SLS

報告者　一橋大学大学院　Lai Thi Phuong Nhung 氏

討論者　広島修道大学　Nguyen Duc Lap 氏

(2) Concentration and Competition in the Banking Sector of Bangladesh: An Empirical Investigation

報告者　立命館アジア太平洋大学　鈴木　泰氏

チッタゴン大学　S. M. Sohrab Uddin 氏

討論者　アジア経済研究所　齋藤　純氏

(3) Islamic Rates of Return and Conventional Interest Rates in Malaysian Deposit Market

報告者　新潟大学　伊藤隆康氏

討論者　東洋大学　中川利香氏

D 会場　D302 教室

セッション：金融市場の実証分析

座長　一橋大学　三隅隆司氏

(1) ゼロ金利制約下におけるフィッシャー効果

報告者　創価大学　小林孝次氏

討論者　新潟大学　伊藤隆康氏

(2) 日本の商品先物市場におけるボラティリティの長期記憶性に関する分析

報告者　日本大学　三井秀俊氏

討論者　長崎大学　森保　洋氏

E 会場　D401 教室

セッション：内外のリテール・地域金融

座長　名古屋大学　家森信善氏

(1) イギリスにおける金融排除問題への取組みに関する考察――クレジットユニオン業界を中心として

報告者　成城大学　峯岸信哉氏

討論者　日本大学　長谷川　勉氏

(2) アメリカの地域開発における官民一体となった支援ネットワーク

報告者　大阪市立大学　森中由貴氏

討論者　駒澤大学　齋藤　正氏

(3) 米国の消費者信用とリテール金融

報告者　名城大学　前田真一郎氏

討論者　静岡大学　居城　弘氏

F 会場　D402 教室

セッション：金融政策

座長　神戸大学　小林照義氏

(1) 銀行業の寡占化は金融政策にいかなる影響をもたらすか？

報告者　弘前大学　山本康裕氏

討論者　中央大学　奥山英司氏

(2) Robust Control and Asymmetries in Central Bank Forecasting

報告者　久留米大学　池田太郎氏

討論者　日本銀行　武藤一郎氏

(3) The Balance Sheet Channel of Monetary Policy: Evidence from the Panel Data of Japanese Manufacturing Firms

報告者　中央大学　増田公一氏

討論者　関西大学　本多佑三氏

G 会場　　D403 教室

セッション：金融システム

座長　松山大学　掛下達郎氏

(1) 決済システム研究の新たな地平――存在論から認識論的分析へ

報告者　ソーシャル・サイエンス・ラボ　河野憲嗣氏

討論者　麗澤大学　中島真志氏

(2) Financial System as a Public Good in an Overlapping-generations Economy

報告者　慶應義塾大学　塩澤修平氏

討論者　神奈川大学　酒井良清氏

4. 昼食　＜12:15～13:30＞

5. 中央銀行パネル　＜13:30～15:45＞

A 会場　　D201 教室

テーマ：中央銀行の市場とのコミュニケーション

座長　神戸大学　地主敏樹氏

(1) 中央銀行の独立性は担保されるか――日本銀行の場合

報告者　上智大学　竹田陽介氏

ニッセイ基礎研究所　矢嶋康次氏

討論者　神戸大学　高橋　亘氏

(2) 欧州中央銀行の市場との対話――ECB のコミュニケーション政策は効果があったのか？

報告者　関西大学　高屋定美氏

討論者　三菱東京 UFJ 銀行　矢口　満氏

(3) 非伝統的金融政策下における FRB の市場とのコミュニケーション

報告者　大阪府立大学　立花　実氏

討論者　三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券　森山昌俊氏

6. 国際金融パネル　＜13:30～15:45＞

B 会場　D202 教室

テーマ：日中金融協力と国際システム

座長　明治大学　勝　悦子氏

(1) 人民元の国際化と日中金融協力

報告者　財務省国際局開発政策課長　栗原　毅氏

(2) 円・人民元直接交換市場とアジアの国際通貨決済システム

報告者　信金中央金庫　露口洋介氏

(3) 人民元「国際化」と香港金融市場

報告者　京都女子大学　鳥谷一生氏

討論者　横浜国立大学　上川孝夫氏

7. 自由論題　＜13:30～15:45＞

C 会場　　D301 教室

セッション：国際金融 1

座長　一橋大学　小川英治氏

(1) Global Retail Banking in Emerging Markets: Developments in Brazil & Beyond

報告者　九州大学大学院　Dustin j. Brewer 氏

討論者　東北学院大学　伊鹿倉正司氏

(2) 外資系銀行を含む東南アジア主要銀行の経営効率の変化

報告者　一橋大学　奥田英信氏

一橋大学大学院　竹　康至氏

討論者　日本総合研究所　清水　聡氏

(3) 日系現地法人の資金調達環境と具体的資金調達スキームの分類

報告者　日本政策金融公庫　海上泰生氏

討論者　中央大学　根本忠宣氏

D 会場　D302 教室

セッション：マクロプルーデンス政策

座長　香川大学　藤井宏史氏

(1) 自己資本比率規制の改正とグローバル経済への影響

報告者　広島修道大学　中井教雄氏

討論者　中京大学　英　邦広氏

(2) 小国開放経済におけるマクロプルーデンスと金融政策

報告者　名古屋大学　高久賢也氏

神戸大学　北野重人氏

討論者　九州大学　中村周史氏

E 会場　D401 教室

セッション：金融システムにおける公的部門の役割

座長　明治大学　渡辺良夫氏

(1) Analyses of Public Investment Shock in Japan: Factor Augmented Vector Autoregressive Approach

報告者　慶應義塾大学　平賀一希氏

神戸大学　藤井隆雄氏

流通科学大学　小塚匡文氏

討論者　滋賀大学　得田雅章氏

(2) 緊急信用保証制度の倒産防止効果――特別信用保証制度と比較して

報告者　同志社大学大学院　内木栄莉子氏

討論者　名古屋大学　家森信善氏

F 会場　D402 教室

セッション：株式市場の理論・実証分析

座長　慶應義塾大学　金子　隆氏

(1) 投資家の意見のばらつきが取引量とボラティリティーに与える影響

報告者　慶應義塾大学大学院　池田直史氏

討論者　大阪大学　太田　亘氏

(2) 資産の空売り規制と価格変動

報告者　岡山商科大学　小嶋寿史氏

討論者　関西大学　宇惠勝也氏

G 会場　D403 教室

セッション：家計の金融行動

座長　早稲田大学　晝間文彦氏

(1) 金融教育が家計の金融資産選択に及ぼす影響――投資家タイプ別にみた教育効果測定の試み

報告者　県立広島大学　村上恵子氏

京都産業大学　西村佳子氏

討論者　北星学園大学　皆木建男氏

(2) リスク認知と生活保障としての金融商品の需要形成プロセス――生活リスクへの対応は生命保険、損害保険、預貯金、有価証券で異なるか

報告者　生命保険文化センター　林　晋氏

討論者　鹿児島大学　永田邦和氏

(3) 相続による地域別家計金融資産への影響

報告者　野村資本市場研究所　宮本佐知子氏

討論者　早稲田大学　晝間文彦氏

8. 特別講演　＜16:00～17:00＞

H 会場　A101 教室

座長　日本金融学会会長、同志社大学　藤原秀夫氏

講演者　野村資本市場研究所　関　志雄氏

演題：中国の台頭と日本

9. 会員総会　＜17:10 ～18:10＞

H 会場　　A101 教室

10. 懇親会　＜18:30～20:30＞

会場　北九州市立大学　生協食堂

第 2 日　9 月 16 日（日）

11. 特別セッション　＜10:00～12:30＞

I 会場　C302 教室

日韓交流セッション：金融市場の安定化に向けて

座長　東京大学　福田慎一氏

(1) Estimating Monetary Policy Rules When Interest Rates Are Stuck at Zero

報告者　Korea University　Jinill Kim 氏

討論者　日本銀行　加藤　涼氏

(2) Bayesian Stock Market Instability Index

報告者　Keimyung University　Tae Yoon Kim 氏

Yonsei University　Kyung Ju Oh 氏

Hana Institute of Finance　Chiho Kim 氏

討論者　一橋大学　渡部敏明氏

(3) A Unified Model: Arbitrage-free Term Structure Movements of Flow Risks

報告者　Thomas Ho Company　Thomas S. Y. Ho 氏

Hanyang University　Sang Bin Lee 氏

討論者　東京大学　福田慎一氏

12. 自由論題　＜10:00～12:15＞

C 会場　D301 教室

セッション：国際金融 2

座長　名古屋大学　金井雄一氏

(1) アジアにおけるバスケット通貨の展望――企業財務の視点から

報告者　みずほコーポレート銀行　赤羽　裕氏

討論者　九州大学　岩田健治氏

(2) 国際資本移動の現代的特徴――米国金融市場と国際資本移動

報告者　名城大学　高山晃郎氏

討論者　広島修道大学　川本明人氏

D 会場　D302 教室

セッション：ファイナンス

座長　愛知学院大学　内田　滋氏

(1) Organizational Complexity and the Speed of Adjustment toward Target Leverage

報告者　一橋大学　小西　大氏

一橋大学大学院　中嶋　幹氏

討論者　東京経済大学　石川雅也氏

(2) 景気動向と個人デフォルトの関係――階層ベイズ・パネル・プロビット・モデルによる検証

報告者　三菱総合研究所　奥村拓史氏

神戸大学　松林洋一氏

討論者　日本銀行　磯貝　孝氏

E 会場　D401 教室

セッション：国際金融 3

座長　東京経済大学　釜江廣志氏

(1) Financial Market Imperfection in an Open Economy

報告者　岡山商科大学　井田大輔氏

討論者　愛知大学　栗原　裕氏

(2) EBS 外国為替直物市場における指値注文のライフタイム

報告者　長崎大学　須齋正幸氏

九州産業大学　吉田裕司氏

討論者　北星学園大学　皆木建男氏

F 会場　D402 教室

セッション：中国の金融制度

座長　大阪市立大学　清田　匡氏

(1) 中国農村金融改革における土地制度改革の役割

報告者　一橋大学大学院　張　焱氏

討論者　熊本学園大学　坂本　正氏

(2) 中国における第三者割当増資の実証分析

報告者　同志社大学大学院　兪　傑氏

同志社大学　新関三希代氏

討論者　青山学院大学　亀坂安紀子氏

G 会場　D403 教室

セッション：金融史

座長　麗澤大学　佐藤政則氏

(1) 太政官札、会計基立金と商法司

報告者　同志社大学　鹿野嘉昭氏

討論者　国士舘大学　野下保利氏

(2) 近代中国「銭荘」のビジネスモデルとその衰退

報告者　麗澤大学　陳　玉雄氏

討論者　早稲田大学　矢後和彦氏

13. 昼食　＜12:15～13:30＞

14. 共通論題　＜13:30～16:30＞

H 会場　　A101 教室

テーマ：アジアの成長と日本の金融―アジアを取り巻く金融環境の変化と成長のためのアジア金融システム

座長　慶應義塾大学　吉野直行氏

(1) アジアにおける JBIC の役割とインフラ・ファイナンス

報告者　国際協力銀行副総裁　渡辺博史氏

(2) アジアにおける金融協力

報告者　財務省国際局地域協力課長　中村　修氏

(3) アジアにおける日本の金融機関の成長機会

報告者　ドイツ証券マネージングディレクター　山田能伸氏

(4) アジアにおける外国銀行の展開――タイと中国を中心に

報告者　山形大学　山口昌樹氏

15. 閉会挨拶

大会実行委員長　北九州市立大学　迎　由理男氏

2013 年度春季大会（一橋大学）

第 1 日　5 月 25 日(土)

1. 金融史パネル　＜10:00～12:00＞
A 会場　31 教室
テーマ：国際通貨システムの規制と改革――1960-70 年代の OECD-WP3 を中心に――
座長　早稲田大学　矢後和彦氏
(1) Is It Possible to Regulate International Finance? Evidences from the Debate on the Eurodollar Market in Basel, Washington and Paris
報告者　Université de Genève　Carlo Edoardo Altamura 氏
(2) 国際通貨システムの転換と WP3――固定相場制からフロートへ――
報告者　横浜国立大学　西川　輝氏
(3) Coping with Globalization: France at the OECD WP3 and the Reform of the International Monetary System (1961-1979)
報告者　Université de Rouen 大学院　Floriane Galeazzi 氏
討論者　Université de Rouen　Olivier Feiertag 氏
2. 自由論題　＜10:00 ～12:00＞
B 会場 36 教室
セッション：銀行業の産業組織
座長　早稲田大学　小倉義明氏
(1) Market Evaluations and Strategic Factors: a Comparison from Asian Banks' M&A and Alliances
報告者　青山学院大学　白須洋子氏
討論者　Bank of Canada　南橋尚明氏
(2) Bank Diversification into the Insurance Business: Effects of Deregulation of Bank-sales Channel at Japanese Banks
報告者　一橋大学　小西　大氏
中央大学　奥山英司氏
東京経済大学　安田行宏氏
討論者　中央大学　鯉渕　賢氏
(3) シンジケートローンの組成とアレンジャーの決定要因について
報告者　大阪経済大学　秋吉史夫氏
Bank of Canada　南橋尚明氏
討論者　一橋大学　植杉威一郎氏
C 会場　38 教室

セッション：各国金融機関

座長　立命館大学　播磨谷浩三氏

(1) ロイズ銀行初期金融――「インサイダー・レンディング」を超えて――

報告者　立教大学大学院　陶山悠紀美氏

討論者　麗澤大学　陳　玉雄氏

(2) 中国における外資銀行の収益率の低下――金融規制緩和の必要性――

報告者　一橋大学大学院　郎　霊氏

討論者　名古屋大学　家森信善氏

(3) GCC 諸国に展開するイスラム銀行の規模の経済性と範囲の経済性

報告者　筑波大学　上山　一氏

討論者　立命館大学　播磨谷浩三氏

D 会場　24 教室

セッション：日本の金融システム

座長　立命館大学　青野幸平氏

(1) 信金・信組の収益力と不良資産処理

報告者　関西外国語大学　堀江康熙氏

討論者　福岡大学　有岡律子氏

(2) 労働金庫の財務分析

報告者　岡山大学　三村　聡氏

討論者　横浜市立大学　藤野次雄氏

(3) わが国の新興国株式投信におけるファンド設定者と投資家の行動分析

報告者　成蹊大学　俊野雅司氏

討論者　学習院大学　辰巳憲一氏

E 会場　26 教室

セッション：国際金融

座長　東洋大学　川﨑健太郎氏

(1) The AMU Deviation Indicators Based on the Purchasing Power Parity and Adjusted by the Balassa-Samuelson Effect

報告者　一橋大学　小川英治氏

一橋大学大学院　王　志乾氏

討論者　中央大学　田中素香氏

(2) シンガポールドルから考える通貨バスケットの特性

報告者　みずほコーポレート銀行　赤羽　裕氏

討論者　横浜国立大学　佐藤清隆氏

(3) How Does the Regional Monetary Unit Work as a Surveillance Tool in East Asia?

報告者　東洋大学　川﨑健太郎氏

討論者　学習院大学　清水順子氏

F 会場　28 教室

セッション：金融政策

座長　千葉経済大学　岡野衛士氏

(1) 米国における非伝統的金融政策の効果――VAR モデルによる検証――

報告者　関西学院大学　澤田吉孝氏

討論者　早稲田大学　原田　泰氏

(2) 2000 年代中期の日本の景気回復と量的緩和政策――Cointegrated VAR による検証――

報告者　沖縄国際大学　池宮城尚也氏

討論者　流通科学大学　小塚匡文氏

(3) ゼロ金利下で量的緩和政策は有効か？

報告者　早稲田大学　井上智洋氏

早稲田大学　品川俊介氏

中央大学　都築栄司氏

東京電機大学　上浦　基氏

討論者　中央大学　浅田統一郎氏

3. 昼食　＜12:00～13:20＞

4.　中央銀行パネル　＜13:20～15:20＞

A 会場　31 教室

テーマ：デフレ脱却と中央銀行――非伝統的金融政策の効果と限界――

座長　神戸大学　高橋　亘氏

(1) 先進国中央銀行の非伝統的金融政策――その手段、効果、問題点――

報告者　専修大学　田中隆之氏

(2) 伝統的金融政策の限界とインフレーション・ターゲティングの瓦解

報告者　東京大学　岩本康志氏

(3) デフレ脱却とマネタイゼーション

報告者　BNP パリバ証券　河野龍太郎氏

討論者　IMF アジア太平洋局　武田真彦氏

5. 特別セッション I　＜13:20～15:20＞

C 会場 38 教室

日韓交流セッション

座長　一橋大学　奥田英信氏

(1) Term Structure Dynamics with Macro Factors using High Frequency Data

報告者　Texas A&M University　Hwagyun Kim 氏

Bank of Korea　Hail Park 氏

討論者　一橋大学　高見澤秀幸氏

(2) The Impact of Sudden Change on Long Memory between Japanese and Korean Stock Market

報告者　Pusan National University　Sang Hoon Kang 氏

Pusan National University　Seong-Min Yoon 氏

討論者　武蔵大学　大野早苗氏

(3) Measuring Core Inflation under Price Divergence /フルペーパー

報告者　Bureau of Economic Analysis　Ryan Greenaway-McGrevy 氏

Sungkyunkwan University　Youngse Kim 氏

University of Texas at Dallas　Donggyu Sul 氏

討論者　駿河台大学　池野秀弘氏

6. 自由論題　＜13:20～15:20＞

B 会場　36 教室

セッション：金融規制・金融契約

座長　みずほ総合研究所　小野有人氏

(1) バーゼルⅢ（資本バッファー）の日本での運用に係る考察

報告者　財務省　鈴木善計氏

青山学院大学　白須洋子氏

京都大学　川北英隆氏

討論者　日本銀行　倉知善行氏

(2) Function of Collateral when Asset Class is Account Receivables and Inventory: A Comparative Analysis of Japanese and US Bank Inspection Manuals

報告者　関西外国語大学　金城亜紀氏

討論者　東京大学　天谷知子氏

D 会場　24 教室

セッション：地域金融

座長　名古屋大学　家森信善氏

(1) 地域金融機関における貸出金利の裁量性について

報告者　大阪産業大学　石橋尚平氏

討論者　立命館大学　播磨谷浩三氏

(2) 中小企業の借入金利等に関する一考察――金融機関の業態によって決定要因に差異はあるのか？――

報告者　日本政策金融公庫　森岡　功氏

討論者　近畿大学　安孫子勇一氏

(3) 「円滑化法」が中小企業金融に与える影響についての実証研究

報告者　一橋大学大学院　近藤隆則氏
討論者　神戸大学　内田浩史氏

E 会場 26 教室
セッション：企業金融
座長　慶應義塾大学　辻　幸民氏

(1) 信用格付のイベント・スタディによる研究
報告者　秋田県立大学　宮本道子氏
討論者　専修大学　手嶋宣之氏

(2) 外生的ショックにおける株価反応と現金保有――コミットメントラインとの比較――
報告者　三菱経済研究所　池田直史氏
慶應義塾大学　富田信太郎氏
討論者　流通科学大学　福田司文氏

(3) Structure of Bank Loan Debt: Evidence from Newly Listed Firms in Japan
報告者　長崎大学　式見雅代氏
討論者　早稲田大学　小倉義明氏

F 会場 28 教室
セッション：地域金融とリスクシェアリング
座長　一橋大学　中村　恒氏

(1) ソーシャルメディアと地域金融機関
報告者　茨城大学　内田　聡氏
討論者　神奈川大学　数阪孝志氏

(2) Bank Competition and Local Employment in Japan: A Causal Link
報告者　早稲田大学　大熊正哲氏
討論者　日本政策投資銀行　宮川大介氏

(3) Optimal Risk Sharing in the Presence of Moral Hazard under Market Risk and Jump Risk
報告者　一橋大学　三隅隆司氏
一橋大学　中村　恒氏
一橋大学　高岡浩一郎氏
討論者　青山学院大学　伏屋広隆氏

7. 特別講演 I　＜15:40～16:40＞
G 会場　兼松講堂
座長　一橋大学　北村行伸氏
講演者　IDEI, Université Toulouse 1　Jean Tirole 氏
演題：What Future for the Eurozone Governance?

8. 会員総会　＜16:50 ～17:30＞
G 会場　兼松講堂

9. 懇親会　＜18:00～20:00＞
会場　一橋大学 国立東キャンパス マーキュリータワー7 階

第 2 日　5 月 26 日(日)

10. 自由論題　＜9:30～11:30＞
B 会場　36 教室
セッション：マクロ経済分析
座長　専修大学　石原秀彦氏
(1) マクロ金融市場とリスク・プレミアム
報告者　早稲田大学　米澤康博氏
三井住友信託銀行　大森孝造氏
討論者　日本政策投資銀行　宮川大介氏
(2) Non-regular Workers and the Stagnant Economy
報告者　神戸大学大学院　海野晋悟氏
討論者　東北大学　西山慎一氏
(3) 公共投資と製造業の設備投資行動――FAVAR アプローチによる検証――
報告者　流通科学大学　小塚匡文氏
東海大学　平賀一希氏
福山大学　藤井隆雄氏
討論者　神戸大学　畠田　敬氏
C 会場　38 教室
セッション：ファイナンス関連分野――民法改正&地域物価――
座長　東京経済大学　安田行宏氏
(1) ファイナンスから見た民法改正
報告者　横浜国立大学　高橋正彦氏
討論者　近畿大学　安孫子勇一氏
(2) Pairwise Tests of Convergence of Japanese Local Price Levels
報告者　駿河台大学　池野秀弘氏
討論者　愛知大学　栗原　裕氏
D 会場　24 教室
セッション：アジアの金融
座長　京都大学　三重野文晴氏

(1) 景気循環と東アジアの経済統合

報告者　横浜国立大学大学院　章　沙娟氏

討論者　東洋大学　川﨑健太郎氏

(2) Exchange Rate Appreciation and Export Price Competitiveness: Industry-specific Real Effective Exchange Rates of Japan, Korea and China

報告者　横浜国立大学　佐藤清隆氏

学習院大学　清水順子氏

横浜国立大学　Nagendra Shrestha 氏

横浜国立大学大学院　章　沙娟氏

討論者　慶應義塾大学　吉野直行氏

(3) 中国の為替・資本規制運営の特徴と人民元の国際化

報告者　三菱東京 UFJ 銀行　國枝康雄氏

討論者　立命館大学　西村陽造氏

E 会場　26 教室

セッション：国際金融の新潮流

座長　東京大学　福田慎一氏

(1) Does Exchange Rate Volatility Deter Japan-China Trade? Evidence from the Pre- and Post-Exchange Rate Reform in China

報告者　対外経済貿易大学　西村友作氏

関西学院大学　平山健二郎氏

討論者　成蹊大学　大野正智氏

(2) ビッグマック価格は国際的な価格尺度になりえるか

報告者　大阪経済大学　福本幸男氏

討論者　神戸市外国語大学　江阪太郎氏

(3) Exchange Rate Risk Management of Japanese Firms: New Findings from Questionnaire Survey

報告者　学習院大学　清水順子氏

東京大学　伊藤隆敏氏

中央大学　鯉渕　賢氏

横浜国立大学　佐藤清隆氏

討論者　中央大学　中條誠一氏

F 会場　28 教室

セッション：ユーロ経済

座長　神戸大学　岩壷健太郎氏

(1) ユーロ圏 PIIGS 諸国の対外債務の持続可能性について

報告者　三井住友アセットマネジメント　西垣秀樹氏

討論者　東京経済大学　熊本方雄氏

(2) ユーロ危機と金融監督――「バンキング・ユニオン」という視点――

報告者　金沢大学　佐藤秀樹氏

討論者　九州大学　岩田健治氏

(3) ユーロ瓦解につながる金融活断層――ユーロ決済システム・ターゲット 2 の不均衡問題――

報告者　佐賀大学　米倉　茂氏

討論者　福山大学　尾田温俊氏

11. 昼食　＜11:30 ～12:50＞

12. 特別講演Ⅱ　＜12:50～13:50＞

G 会場　兼松講堂

座長　一橋大学　小川英治氏

講演者　日本銀行総裁　黒田東彦氏

13. 共通論題　　＜14:00～17:00＞

G 会場　兼松講堂

テーマ：グローバル金融とガバナンス

座長　一橋大学　小川英治氏

(1) ソブリンリスクとグローバルガバナンス

報告者　東京大学　伊藤隆敏氏

(2) 国際金融規制改革の有効性

報告者　東京大学　天谷知子氏

(3) 会計・監査・ガバナンスの一体改革での課題

報告者　青山学院大学　八田進二氏

討論者　慶應義塾大学　深尾光洋氏

討論者　日本総合研究所　翁　百合氏

14. 閉会挨拶

大会実行委員長　一橋大学　小川英治氏

2013 年度秋季大会（名古屋大学）

第 1 日　9 月 21 日(土)

1. 震災復興金融パネル　＜10:00～12:00＞
カンファレンスホール
テーマ：震災時の中小企業金融

座長　東北福祉大学　鴨池　治氏

(1) Trading Partners and Firm Location Choice: Evidence from the Great East-Japan Earthquake

報告者　みずほ総合研究所　小野有人氏

(2) 東日本大震災と企業の二重債務問題

報告者　東北大学　西山慎一氏

(3) 支援現場からみた復興金融

報告者　東日本大震災事業者再生支援機構　荒波辰也氏

討論者　日本経済研究センター　増島雄樹氏

討論者　神戸大学　地主敏樹氏

2. 自由論題　＜10:00～12:00＞
経済学部　第一講義室
セッション：　国際金融 1

座長　学習院大学　村瀬英彰氏

(1) 対外直接投資の収益性の課題――新興国での良質な案件生成が鍵

報告者　内閣府　加藤卓生氏

討論者　成蹊大学　永野　護氏

(2) Hot Money Flow, Money Supply, Credit and Residential Property Prices in China

報告者　武蔵大学　大野早苗氏

法政大学　胥　鵬氏

討論者　一橋大学　塩路悦朗氏

(3) Prudential Capital Controls: The Impact of Different Collateral Constraint Assumptions

報告者　京都大学　敦賀貴之氏

日本銀行　片桐　満氏

日本銀行　加藤　涼氏

討論者　神戸大学　北野重人氏

経済学部　第二講義室
セッション：国際金融 2

座長　関西大学　髙屋定美氏

(1) The Spillover Analysis of the African Stock Markets in the Crisis Period

報告者　滋賀大学　吉田裕司氏

甲南大学　杉本喜美子氏

大阪学院大学　松木　隆氏

討論者　筑波大学　永易　淳氏

(2) ドル化政策実施国における中央銀行の役割と機能

報告者　東海大学　木下直俊氏

立正大学　林　康史氏

討論者　立命館大学　大田英明氏

(3) 2000 年代の金融危機と外国為替相場の変動――日本円と韓国ウォン相場の非対称性を中心に

報告者　龍谷大学　竹中正治氏

国際通貨研究所　佐久間浩司氏

討論者　長崎大学　須齋正幸氏

法学部　第一講義室

セッション：企業金融

座長　近畿大学　安孫子勇一氏

(1) ファミリー企業と資本構成

報告者　一橋大学大学院　太宰北斗氏

討論者　京都産業大学　福田充男氏

(2) 資本構成の調整手段に関する研究――日本の上場企業のデータをもとに

報告者　日本政策投資銀行　岡本弦一郎氏

討論者　慶應義塾大学　辻　幸民氏

(3) 目標負債比率の決定要因と調整速度――負債比率の部分調整モデルを用いた分析

報告者　慶應義塾大学　富田信太郎氏

討論者　一橋大学　花崎正晴氏

法学部　第三講義室

セッション：パーソナル・ファイナンス

座長　名城大学　前田真一郎氏

(1) The Impact of Public Insurance on Private Insurance Demand: Is Private Insurance a Normal Good?

報告者　長崎大学　大倉真人氏

討論者　明治大学　浅井義裕氏

(2) 米国の高等教育資金形成制度の概要と日本への示唆

報告者　野村資本市場研究所　宮本佐知子氏

討論者　札幌大学　飯田隆雄氏

(3) 金融知識の情報源

報告者　大東文化大学　郡司大志氏

討論者　一橋大学　祝迫得夫氏

3. 昼食　＜12:00～13:00＞

4. 国際金融パネル ＜13:00～15:00＞

カンファレンスホール

テーマ：国際資金フローと世界金融危機

座長　神戸大学　藤田誠一氏

(1) 国際資金フロー・欧州金融機関・金融危機

報告者　神戸大学　松林洋一氏

神戸大学　藤田誠一氏

神戸大学　北野重人氏

(2) 金融危機とベイルアウト

報告者　BNP パリバ証券　中空麻奈氏

(3) 金融危機と信用外部性

報告者　日本銀行　加藤　涼氏

5. 自由論題　＜13:00～15:00＞

経済学部　第一講義室

セッション：金融政策 1

座長　神戸大学　小林照義氏

(1) Active Policy Rule versus Ineffective Monetary Policy: TVP-VAR Analysis of Chinese Monetary Policy from 1994 to 2012

報告者　一橋大学大学院　劉　佳氏

討論者　東京大学　小枝淳子氏

(2) A Regime-Switching SVAR Analysis of Zero Interest Rate Policy

報告者　東京大学　小枝淳子氏

一橋大学　林　文夫氏

討論者　関西大学　本多佑三氏

(3) The Effects of Commodity Price Shocks and Systematic Monetary Policy in Developed Countries

報告者　京都大学大学院　関根篤史氏

討論者　神戸大学　柴本昌彦氏

経済学部　第二講義室

セッション：地域金融

座長　中央大学　根本忠宣氏

(1) 地域金融機関の店舗展開が地元企業に与える影響――北海道における信用金庫の事例の検証

報告者　釧路公立大学　尾崎泰文氏

立命館大学　播磨谷浩三氏

討論者　早稲田大学　小倉義明氏

(2) 預金市場の競争度と市場規律

報告者　鹿児島大学　永田邦和氏

討論者　愛知学院大学　近藤万峰氏

(3) リレーションシップバンキングと中小企業融資の活性化――日本と中国の比較

報告者　神戸大学大学院　劉　亜静氏

討論者　みずほ総合研究所　小野有人氏

法学部　第一講義室

セッション：各国金融

座長　南山大学　荒井好和氏

(1) インドネシアにおけるインフラ金融と邦銀――ネットワーク分析による観察

報告者　山形大学　山口昌樹氏

討論者　松山大学　西尾圭一郎氏

(2) 中国における非主流金融の拡大と中小企業

報告者　麗澤大学　陳　玉雄氏

討論者　近畿大学　山上秀文氏

(3) カンボジア銀行業の効率性の決定要因――2 段階 DEA による効率性の計測

報告者　一橋大学　奥田英信氏

一橋大学大学院　相場大樹氏

討論者　立命館大学　播磨谷浩三氏

法学部　第三講義室

セッション：マクロ経済分析

座長　山口大学　兵藤　隆氏

(1) Long-run Analysis on Convergence of Japanese Local Price Levels: a Pairwise Approach

報告者　駿河台大学　池野秀弘氏

討論者　筑波大学　永易　淳氏

(2) Oil Consumption and Macroeconomic Activity in Japan

報告者　中京大学　英　邦広氏

討論者　広島大学　千田　隆氏

(3) Fiscal Policy under Staggered Loan Contract

報告者　東海大学　平賀一希氏

日本経済研究センター　高野哲彰氏

討論者　慶應義塾大学　寺西勇生氏

6. 特別講演　＜15:10～16:10＞

カンファレンスホール

座長　名古屋大学　金井雄一氏

講演者　全国信用協同組合連合会理事長　内藤純一氏

演題：信用組合の課題と全国信用協同組合連合会（全信組連）の今後の役割

7. 会長講演　＜16:15～17:15＞

カンファレンスホール

座長　名古屋大学　金井雄一氏

講演者　同志社大学　藤原秀夫氏

演題：市場の均衡および不均衡における信用創造と貨幣供給――閉鎖経済と開放経済――

8. 会員総会　＜17:20 ～18:00＞

カンファレンスホール

9. 懇親会　＜18:15～20:15＞

会場　南部食堂

第 2 日　9 月 22 日（日）

10. 特別セッション ＜9:30～11:30＞

カンファレンスホール

テーマ：アベノミクス

座長　東京福祉大学　水谷研治氏

(1) 異次元緩和の有効性

報告者　関西大学　本多佑三氏

(2) アベノミクスの３つの誤り

報告者　慶應義塾大学　小幡　績氏

(3) アベノミクスに対する市場の見方

報告者　ニッセイ基礎研究所　矢嶋康次氏

(4) Implications of the Japanese Corner Solution

報告者　The Korea Institute of Finance　GongPil Choi 氏

討論者　神戸大学　地主敏樹氏

11. 自由論題　＜9:30～11:30＞

経済学部　第一講義室

セッション：国際金融 3

座長　東京経済大学　熊本方雄氏

(1) 単位根及び共和分検定による東アジア諸国通貨の定常性分析

報告者　一橋大学大学院　王　志乾氏

討論者　東洋大学　川﨑健太郎氏

(2) Time Varying Pass-through: Will the Yen Depreciation Help Japan Hit the Inflation Target?

報告者　一橋大学　塩路悦朗氏

討論者　成蹊大学　大野正智氏

(3) 中国経済の拡大とアジア経済への波及――Global VAR モデルを用いた応用分析の一例

報告者　国際協力銀行　大重　斉氏

討論者　武蔵大学　大野早苗氏

経済学部　第二講義室

セッション：金融史

座長　名古屋市立大学　横山和輝氏

(1) トルーマン政権期の金融政策――財務省統制下における連邦準備の政策運営

報告者　慶應義塾大学大学院　土橋康人氏

討論者　松山大学　掛下達郎氏

(2) 準備通貨ポンドの凋落とスターリング協定

報告者　名古屋大学　金井雄一氏

討論者　早稲田大学　矢後和彦氏

法学部　第一講義室

セッション：金融政策 2

座長　広島大学　千田　隆氏

(1) Asymmetric Forecasting in Real-time Learning and the Taylor Rule

報告者　久留米大学　池田太郎氏

討論者　神戸大学　小林照義氏

(2) Nominal Idiosyncratic Shocks and Optimal Monetary Policy

報告者　神奈川大学　大滝英生氏

討論者　明星大学　盛本圭一氏

(3) The Non-negative Constraint on Nominal Interest Rate and the Effects of Monetary Policy

報告者　神戸大学大学院　蓮井康平氏
討論者　慶應義塾大学　寺西勇生氏

法学部　第三講義室
セッション：市場分析
座長　愛知学院大学　内田　滋氏

(1) An Investigation of Housing Affordability in the UK
報告者　筑波大学　永易　淳氏
University of Stirling　Alberto Montegnoli 氏
討論者　武蔵大学　大野早苗氏

(2) Market Liquidity and Bank-dominated Corporate Governance: Evidence from Japan
報告者　名古屋市立大学　坂和秀晃氏
釧路公立大学　生方雅人氏
立命館大学　渡辺直樹氏
討論者　関西学院大学　阿萬弘行氏

(3) 取引所の総合化――商品先物の視点から
報告者　ドットコモディティ　車田直昭氏
立正大学　林　康史氏
討論者　慶應義塾大学　池尾和人氏

12. 昼食　＜11:30～12:30＞

13. 共通論題　＜12:30～15:30＞
カンファレンスホール
テーマ：1932 年日銀引受国債発行はどのようにして始まり、終わったのか？
座長　法政大学　靏見誠良氏

(1) 静寂な始まりは何を意味したのか？――1932 年における国債発行方式の転換プロセス
報告者　甲南大学　永廣　顕氏

(2) 「国債消化力」はどのように認識され拡充されたのか？――国債引受シンジケート銀行と売りオペ
報告者　麗澤大学　佐藤政則氏

(3) 戦後財政金融のありかたをどのように規定したのか？――戦時国債と戦後ハイパー・インフレ
報告者　大妻女子大学　伊藤正直氏

討論者　関西学院大学　春井久志氏
明治大学　須藤　功氏
成城大学　浅井良夫氏

②　春秋の大会参加者数

西暦	開催日		開催校	大会参加者数（延べ人数）	懇親会参加者数
2005 年	5/28～29	春季	日本大学	—	219
	10/8～9	秋季	大阪大学	—	—
2006 年	4/29～30	春季	早稲田大学	—	—
	9/9～10	秋季	小樽商科大学	—	—
2007 年	5/12～13	春季	麗澤大学	434	167
	9/8～9	秋季	同志社大学	385	171
2008 年	5/17～18	春季	成城大学	514	187
	10/12～13	秋季	広島大学	279	—
2009 年	5/16～17	春季	東京大学	548	188
	11/7～8	秋季	香川大学	321	141
2010 年	5/15～16	春季	中央大学	412	147
	10/25～26	秋季	神戸大学	330	141
2011 年	5/28～29	春季	明治大学	518	212
	9/18～19	秋季	近畿大学	284	121
2012 年	5/19～20	春季	立正大学	約 600	—
	9/15～16	秋季	北九州市立大学	394	—
2013 年	5/25～26	春季	一橋大学	565	170
	9/21～22	秋季	名古屋大学	376	128

（注）　大会参加者数等は、各開催校の報告による。ただし、義務付けてはいないので、参考程度の情報である。

③　各大会のプログラム委員名簿

2004 年度春季大会（神奈川大学）プログラム委員会

伊藤　修（埼玉大学）
金子　隆（慶應義塾大学）
首藤　惠（早稲田大学）
地主敏樹（神戸大学）
春井久志（関西学院大学）
藤田誠一（神戸大学）
堀江康熙（九州大学）
小川英治（一橋大学）
鴨池　治（東北大学）
田中素香（中央大学）
筒井義郎（大阪大学）
晝間文彦（早稲田大学）
藤野次雄（横浜市立大学）
村本　孜（成城大学）

2004 年度秋季大会（愛知大学）プログラム委員会

鴨池　治（東北大学）
釜江廣志（一橋大学）
戸田壮一（神奈川大学）
根津永二（愛知学院大学）
有馬敏則（滋賀大学）
地主敏樹（神戸大学）
春井久志（関西学院大学）
川波洋一（九州大学）
矢野順治（広島大学）
沈　　徹（愛知大学）
小川英治（一橋大学）
櫻川昌哉（慶應義塾大学）
晝間文彦（早稲田大学）
家森信善（名古屋大学）
片岡　尹（大阪市立大学）
筒井義郎（大阪大学）
藤田誠一（神戸大学）
内田　滋（長崎大学）
奥野博幸（愛知大学）

2005 年度春季大会（日本大学）プログラム委員会

小川英治（一橋大学）
金子　隆（慶應義塾大学）
鴨池　治（東北大学）
斉藤壽彦（千葉商科大学）
宅和公志（日本大学）
長谷川勉（日本大学）
春井久志（関西学院大学）
晝間文彦（早稲田大学）
金子邦彦（明治大学）
釜江廣志（一橋大学）
川波洋一（九州大学）
佐々木百合（明治学院大学）
中島善太（日本大学）
濱田康行（北海道大学）
林　直嗣（法政大学）
村本　孜（成城大学）

2005 年度秋季大会（大阪大学）プログラム委員会

岩田健治（九州大学）
内田浩史（和歌山大学）

小川英治（一橋大学）　鴨池　治（東北大学）
地主敏樹（神戸大学）　千田　隆（広島大学）
筒井義郎（大阪大学）　春井久志（関西学院大学）
平山健二郎（関西学院大学）　福田慎一（東京大学）
堀　敬一（立命館大学）　本多佑三（大阪大学）
前多康男（慶應義塾大学）　家森信善（名古屋大学）

2006 年度春季大会（早稲田大学）プログラム委員会

秋葉弘哉（早稲田大学）　内田滋（長崎大学）
大矢繁夫（小樽商科大学）　小川英治（一橋大学）
Mariusz　Krawczyk（龍谷大学）　佐藤政則（麗澤大学）
首藤　恵（早稲田大学）　高橋豊治（中央大学）
谷川寧彦（早稲田大学）　春井久志（関西学院大学）
日向野幹也（立教大学）　藤野次雄（横浜市立大学）
本多佑三（大阪大学）　宮尾龍蔵（神戸大学）
宮越龍義（東北大学）　矢野順治（広島大学）

2006 年度秋季大会（小樽商科大学）プログラム委員会

秋葉弘哉（早稲田大学）　有馬敏則（滋賀大学）
内田　滋（長崎大学）　大矢繁夫（小樽商科大学）
小川英治（一橋大学）　勝　悦子（明治大学）
金子　隆（慶應義塾大学）　釜江廣志（一橋大学）
鴨池　治（東北大学）　川波洋一（九州大学）
佐藤政則（麗澤大学）　高山洋一（大東文化大学）
中浜　隆（小樽商科大学）　濱田康行（北海道大学）
春井久志（関西学院大学）　晝間文彦（早稲田大学）
藤田誠一（神戸大学）

2007 年度春季大会（麗澤大学）プログラム委員会

伊藤　修（埼玉大学）　岩田健治（九州大学）
小川英治（一橋大学）　金子　隆（慶應義塾大学）
佐久間裕秋（麗澤大学）　佐藤政則（麗澤大学）
鹿野嘉昭（同志社大学）　高橋豊治（中央大学）
中島真志（麗澤大学）　春井久志（関西学院大学）
日向野幹也（立教大学）　晝間文彦（早稲田大学）
藤田誠一（神戸大学）　宮越龍義（大阪大学）

村本　孜（成城大学）　矢野順治（広島大学）
家森信善（名古屋大学）

2007 年度秋季大会（同志社大学）プログラム委員会

有馬敏則（滋賀大学）　池尾和人（慶応義塾大学）
植田宏文（同志社大学）　大矢繁夫（小樽商科大学）
小川英治（一橋大学）　金子邦彦（明治大学）
釜江廣志（一橋大学）　鴨池　治（東北大学）
川波洋一（九州大学）　鹿野嘉昭（同志社大学）
地主敏樹（神戸大学）　高橋豊治（中央大学）
筒井義郎（大阪大学）　春井久志（関西学院大学）
藤原秀夫（同志社大学）　宮尾龍蔵　（神戸大学）
矢野順治（広島大学）　渡辺良夫（明治大学）

2008 年度春季大会（成城大学）プログラム委員会

浅井良夫（成城大学）　内田真人（成城大学）
小川英治（一橋大学）　勝　悦子（明治大学）
金子　隆（慶応義塾大学）　鴨池　治（東北大学）
栗原　裕（愛知大学）　佐々木百合（明治学院大学）
鹿野嘉昭（同志社大学）　首藤　恵（早稲田大学）
高橋豊治（中央大学）　地主敏樹（神戸大学）
春井久志（関西学院大学）　晝間文彦（早稲田大学）
福光　寛（成城大学）　本多佑三（大阪大学）
堀江康熙（九州大学）　村本　孜（成城大学）
矢後和彦（首都大学東京）　矢野順治（広島大学）

2008 年度秋季大会（広島大学）プログラム委員会

岩田健治（九州大学）　石田三樹（広島大学）
小川英治（一橋大学）　片岡　尹（大阪市立大学）
鴨池　治（東北大学）　北岡孝義（明治大学）
小松正昭（広島大学）　齋藤壽彦（千葉商科大学）
千田　隆（広島大学）　高橋豊治（中央大学）
春井久志（関西学院大学）　日向野幹也（立教大学）
晝間文彦（早稲田大学）　福田慎一（東京大学）
藤田誠一（神戸大学）　藤原賢哉（神戸大学）
宮尾龍蔵（神戸大学）　矢野順治（広島大学）

家森信善（名古屋大学）　　吉野直行（慶應義塾大学）

2009 年度春季大会（東京大学）プログラム委員会

伊藤正直（東京大学）　　植田和男（東京大学）
大野早苗（武蔵大学）　　小川英治（一橋大学）
勝　悦子（明治大学）　　鴨池　治（東北福祉大学）
櫻川昌哉（慶応義塾大学）　　佐々木百合（明治学院大学）
佐藤政則（麗澤大学）　　首藤　恵（早稲田大学）
春井久志（関西学院大学）　　日向野幹也（立教大学）
福重元嗣（大阪大学）　　福田慎一（東京大学）
堀江康熙（九州大学）　　三重野文晴（神戸大学）
宮尾龍蔵（神戸大学）　　矢後和彦（首都大学東京）
家森信善（名古屋大学）　　矢野順治（広島大学）

2009 年度秋季大会（香川大学）プログラム委員会

井上貴照（香川大学）　　岩田健治（九州大学）
宇惠勝也（関西大学）　　小川英治（一橋大学）
鴨池　治（東北福祉大学）　　北岡孝義（明治大学）
佐藤政則（麗澤大学）　　高橋豊治（中央大学）
髙屋定美（関西大学）　　竹田陽介（上智大学）
中島真志（麗澤大学）　　西垣鳴人（岡山大学）
福田慎一（東京大学）　　藤井宏史（香川大学）
藤田誠一（神戸大学）　　宮尾龍蔵（神戸大学）
矢野順治（広島大学）　　家森信善（名古屋大学）
吉野直行（慶應義塾大学）

2010 年度春季大会（中央大学）プログラム委員会

池尾和人（慶應義塾大学）　　岩田健治（九州大学）
小川英治（一橋大学）　　奥田英信（一橋大学）
奥山英司（中央大学）　　金子　隆（慶應義塾大学）
栗原　裕（愛知大学）　　黒木祥弘（中央大学）
小林真之（北海学園大学）　　随　清遠（横浜市立大学）
高橋豊治（中央大学）　　竹田陽介（上智大学）
田中　敦（関西学院大学）　　田中素香（中央大学）
中島真志（麗澤大学）　　根本忠宣（中央大学）
福田慎一（東京大学）　　藤原賢哉（神戸大学）

三隅隆司（一橋大学）　矢後和彦（首都大学東京）
矢野順治（広島大学）

2010 年度秋季大会（神戸大学）プログラム委員会

安孫子勇一（近畿大学）　岩田健治（九州大学）
宇恵勝也（関西大学）　植田宏文（同志社大学）
小川英治（一橋大学）　金子　隆（慶應義塾大学）
北岡孝義（明治大学）　清田　匡（大阪市立大学）
栗原　裕（愛知大学）　今　喜典（青森公立大学）
千田　隆（広島大学）　髙屋定美（関西大学）
竹田陽介（上智大学）　田中　敦（関西学院大学）
地主敏樹（神戸大学）　兵藤　隆（山口大学）
藤井宏史（香川大学）　藤原賢哉（神戸大学）
三重野文晴（神戸大学）　三隅隆司（一橋大学）
矢後和彦（首都大学東京）

2011 年度春季大会（明治大学）プログラム委員会

浅田統一郎（中央大学）　安孫子勇一（近畿大学）
伊藤隆康（新潟大学）　小川英治（一橋大学）
折谷吉治（明治大学）　勝　悦子（明治大学）
金子邦彦（明治大学）　川波洋一（九州大学）
北岡孝義（明治大学）　栗原　裕（愛知大学）
黒田　巌（中央大学）　佐藤清隆（横浜国立大学）
佐藤政則（麗澤大学）　清水啓典（一橋大学）
鈴木和志（明治大学）　高浜光信（明治大学）
竹田陽介（上智大学）　地主敏樹（神戸大学）
福田慎一（東京大学）　藤田誠一（神戸大学）
藤原秀夫（同志社大学）　邊　英治（横浜国立大学）
三隅隆司（一橋大学）　矢野順治（広島大学）
家森信善（名古屋大学）　渡辺良夫（明治大学）

2011 年度秋季大会（近畿大学）プログラム委員会

安孫子勇一（近畿大学）　伊藤隆康（新潟大学）
岩田健治（九州大学）　岩壷健太郎（神戸大学）
小川英治（一橋大学）　鴨池　治（東北福祉大学）
北岡孝義（明治大学）　栗原　裕（愛知大学）

小林磨美（近畿大学）　佐藤政則（麗澤大学）
相馬利行（近畿大学）　竹田陽介（上智大学）
田中　敦（関西学院大学）　地主敏樹（神戸大学）
林　康史（立正大学）　兵藤　隆（山口大学）
福田慎一（東京大学）　藤田誠一（神戸大学）
三隅隆司（一橋大学）　家森信善（名古屋大学）
吉野直行（慶應義塾大学）

2012 年度春季大会（立正大学）プログラム委員会

三隅隆司（一橋大学、委員長）　安孫子勇一（近畿大学）
伊藤隆康（新潟大学）　岩壷健太郎（神戸大学）
内田真人（成城大学）　小川英治（一橋大学）
奥田英信（一橋大学）　金子　隆（慶應義塾大学）
北岡孝義（明治大学）　栗原　裕（愛知大学）
佐藤政則（麗澤大学）　竹田陽介（上智大学）
田中　敦（関西学院大学）　地主敏樹（神戸大学）
林　康史（立正大学）　晝間文彦（早稲田大学）
福田慎一（東京大学）　藤田誠一（神戸大学）
前田　淳（北九州市立大学）　三重野文晴（神戸大学）
家森信善（名古屋大学）　吉野直行（慶應義塾大学）

2012 年度秋季大会（北九州市立大学）プログラム委員会

川波洋一（九州大学、委員長）　小川英治（一橋大学）
掛下達郎（松山大学）　金井雄一（名古屋大学）
金子　隆（慶應義塾大学）　清田匡（大阪市立大学）
栗原　裕（愛知大学）　佐藤政則（麗澤大学）
地主敏樹（神戸大学）　西山慎一（東北大学）
林　康史（立正大学）　晝間文彦（早稲田大学）
福田慎一（東京大学）　藤井宏史（香川大学）
藤田誠一（神戸大学）　三隅隆司（一橋大学）
前田　淳（北九州市立大学）　迎由理男（北九州市立大学）
矢野順治（広島大学）　家森信善（名古屋大学）
渡辺良夫（明治大学）

2013 年度春季大会（一橋大学）プログラム委員会

三隅隆司（一橋大学、委員長）　青野幸平（立命館大学）

石原秀彦（専修大学）
大野早苗（武蔵大学）
小川英治（一橋大学）
小倉義明（早稲田大学）
川﨑健太郎（東洋大学）
佐藤政則（麗澤大学）
竹田陽介（上智大学）
中村　恒（一橋大学）
春井久志（関西学院大学）
三重野文晴（京都大学）
家森信善（名古屋大学）
岩壷健太郎（神戸大学）
岡野衛士（千葉経済大学）
奥田英信（一橋大学）
小野有人（みずほ総合研究所）
栗原　裕（愛知大学）
高岡浩一郎（一橋大学）
辻　幸民（慶應義塾大学）
播磨谷浩三（立命館大学）
福田慎一（東京大学）
安田行宏（東京経済大学）

2013 年度秋季大会（名古屋大学）プログラム委員会

栗原　裕（愛知大学、委員長）
荒井好和（南山大学）
金井雄一（名古屋大学）
小林　毅（中京大学）
佐藤政則（麗澤大学）
髙屋定美（関西大学）
西山慎一（東北大学）
林　康史（立正大学）
藤田誠一（神戸大学）
村瀬英彰（学習院大学）
家森信善（名古屋大学）
安孫子勇一（近畿大学）
内田　滋（愛知学院大学）
北野重人（神戸大学）
櫻川昌哉（慶應義塾大学）
千田　隆（広島大学）
地主敏樹（神戸大学）
根本忠宣（中央大学）
兵藤　隆（山口大学）
前田真一郎（名城大学）
矢野順治（広島大学）
横山和輝（名古屋市立大学）

④　対象期間中の学会（部会）プログラム

北海道部会

日時：2004 年 4 月 17 日（土）
会場：小樽商科大学　札幌サテライトオフィス
報告
1）北林雅志氏（札幌学院大学）
「第 2 次世界大戦後の香港上海銀行―植民地銀行からグローバル銀行へ―」
2）青野正道氏（北海学園大学）
「HSBC のコア・コンピタンス―ローカル環境への適応とグローバル組織統合―」

日時：2004 年 8 月 28 日（土）
会場：小樽商科大学　札幌サテライトオフィス
報告
1）岡本悳也氏（熊本学園大学）
「金融仲介の高度化・大衆化――証券化を中心に――」

日時：2004 年 12 月 11 日（土）
会場：小樽商科大学　札幌サテライトホール
報告
1）播磨谷浩三氏（札幌学院大学）
「信用金庫の合併選択の背景とその効果の検証」
2）中浜　隆氏（小樽商科大学）
「アメリカにおける民間医療保険の規制について」

日時：2005 年 5 月 14 日（土）
会場：北海学園大学　研究棟
報告
1）小林真之氏（北海学園大学）
「大恐慌期における米金融検査と不良債権処理」

日時：2005 年 8 月 27 日（土）
会場：北海学園大学　研究棟（10 階会議室）
報告

1）高懸雄治氏（札幌学院大学）
「日本・メキシコ経済連携協定（EPA)について」
2）大矢繁夫氏（小樽商科大学）・岡本悳也　氏（熊本学園大学）
「信用と証券をめぐる諸論点」

日時：2005 年 12 月 3 日（土）
会場：北星学園大学　第 3 共同研究室（第 2 研究棟 2 階）
報告
1）及能正男氏（西南学院大学）
「わが国銀行不良債権処理の 13 年と今後の金融制度の展望」

日時：2006 年 7 月 15 日（土）
会場：札幌大学　6102 教室
報告
1）岩堀洋士氏（札幌大学）
「北海道内信用金庫業界の再編続くー北海信金と古平信金が合併ー」
2）森　伸宏氏（奈良教育大学）・岡村　誠氏（広島大学）・大川隆夫氏（立命館大学）
「垂直的構造をもつ金融産業の過少参入定理」

日時：2006 年 12 月 2 日（土）
会場：北海学園大学　研究棟（10 階会議室）
報告
1）中浜　隆氏（小樽商科大学）
「アメリカ民間医療保険の現状と課題」
2）本間照光氏（青山学院大学）
「保険研究の可能性ー中浜隆氏のアメリカ民間医療保険研究に寄せてー」

日時：2007 年 4 月 28 日（土）14:00～17:30
会場：北海学園大学　研究棟（10 階会議室）
報告
1）北林雅志氏（札幌学院大）
「英系国際銀行のパフォーマンス――総資産利益率と株価収益率を中心に――」
2）小林真之氏（北海学園大学）
「連邦預金保険制度の成立と銀行集中」

日時：2007 年 8 月 18 日（土）14:00～17:30

会場：北海学園大学　7 号館　演習室
報告
1）齋藤一郎氏（小樽商科大学）
「北海道経済の貯蓄投資バランスと金融システム」
2）播磨谷浩三氏（札幌学院大学）
「北海道におけるリレーションシップバンキング機能強化の検証」

日時：2007 年 11 月 17 日（土）14:00～17:30
会場：北海学園大学　4 号館 10 階会議室
報告
1）神崎稔章氏（北海道大学大学院）
「アメリカ金融市場における長短金利の逆転現象に関する一考察」
2）河村　一氏（釧路公立大学）
「カナダ金融経済の形成―中央銀行の成立過程から見た―」

日時：2008 年 6 月 21 日（土）14:00～17:00
会場：北海学園大学　4 号館 10 階会議室
報告
1）大野成樹氏（北海道大学スラブ研究センター）
「金融的発展と経済成長：ロシアの事例分析」

日時：2009 年 3 月 28 日（土）14:00～17:00
会場：北星学園大学　第 2 研究棟地下　第 3 会議室
報告
1）三好　元氏（札幌学院大学）
「日・英・米・独における政府系の中小企業金融機関の設立背景」
2）山口博教氏（北星学園大学）
「ドイツ銀行業界とユダヤ人資産の『アーリア化』についての研究動向」

日時：2009 年 7 月 18 日（土）14:00～17:00
会場：北海学園大学　4 号館 10 階会議室
報告
1）小林真之氏　（北海学園大学）
「1930 年代のアメリカ銀行恐慌――現代金融危機と関連させて――」

日時：2010 年 4 月 24 日（土）14:00～17:00

場所：北海学園大学　4 号館 10 階会議室
報告
1）吉川哲生氏（札幌学院大学）
「米国の為替政策の変遷」

日時：2010 年 9 月 18 日（土）14:00～17:00
場所：北海学園大学　4 号館 10 階会議室
報告
1）大野成樹氏（旭川大学）
「ロシアにおける金融制度の発展に関する分析」
2）中浜　隆氏（小樽商科大学）
「アメリカにおける医療保険の現況と改革」

日時：2010 年 12 月 4 日（土）14:00～18:00
場所：北星学園大学　第 2 研究棟地下　第 2 会議室
報告
1）山口博教氏（北星学園大学）
「ドイツにおける最近の経済事情と株式取引の『内部化』」
2）居城　弘氏（静岡大学）
「金融危機とドイツ銀行業の諸問題」

日時：2011 年 7 月 30 日（土）14:00～17:30
場所：北海学園大学研究棟　4 号館 10 階会議室
報告
1）小林真之氏（北海学園大学）
「合衆国における貯蓄金融機関」
2）三好　元氏（札幌学院大学）
「韓国の経済開発期における中小企業政策と中小企業銀行」

日時：2011 年 11 月 5 日（土）14:00～17:30
場所：北海学園大学研究棟　4 号館 10 階会議室
報告
1）中村宙正氏（証券経済学会会員）
「公債市場にかわる新たな財源確保の検討および代替投資市場の実用化に関する構想」
2）山口昌樹氏（山形大学）
「外国銀行の進出と信用供給の安定性―世界金融危機時のインドネシア―」

日時：2012 年 8 月 4 日（土）14:00～17:30
場所：北海学園大学研究棟　4 号館 10 階会議室
報告
1）王　洪偉氏（北海学園大学大学院）
「J-REIT と 2008 年金融危機」
2）玉山和夫氏（札幌学院大学）
「日本・米国・EU におけるバブル崩壊と銀行損失」

日時：2012 年 11 月 24 日（土）14:00～17:30
場所：北海学園大学研究棟　4 号館 10 階会議室
報告
1）浅田政広氏（旭川大学）
「道州制と貨幣金融問題―北海道中央銀行構想―」
2）播磨谷浩三氏（立命館大学）・尾崎泰文　氏（釧路公立大学）
「地域金融機関の店舗展開が地元企業に与える影響―北海道における信用金庫の事例の検証―」

日時：2013 年 3 月 30 日（土）14:00～17:30
場所：北海学園大学研究棟　4 号館 10 階会議室
報告
1）北林雅志氏（札幌学院大学）
「チャータード銀行ニューヨーク支店の活動について―1902 年～1919 年―」
2）斉藤美彦氏（独協大学）
「量的緩和政策の日英比較」

日時：2013 年 8 月 10 日（土）14:00～17:30
場所：北海学園大学研究棟　4 号館 10 階会議室
報告
1）神崎稔章氏（小樽商科大学）
「域際収支と地域金融」
2）紺井博則氏（國學院大學）
「2008 年世界金融危機の性格規定を巡って」

関東部会

日時： 2004 年 5 月 8 日（土）
会場：早稲田大学西早稲田キャンパス
報告
1）花崎正晴氏（日本政策投資銀行設備投資研究所）
「The Asian Crisis and Corporate Governance—Ownership Structure, Debt Financing, and Corporate Diversification—」
2）竹田陽介氏（上智大学）
「期待インフレ率の指標としての物価連動債に対する数量的評価：英米における経験から」（矢嶋康次氏との共著）

日時：2004 年 9 月 4 日（土）
会場：早稲田大学西早稲田キャンパス
報告
1）黄　巍氏（早稲田大学大学院）岩本光一郎　氏（早稲田大学大学院）・鈴木久美氏（早稲田大学大学院）
「Economic Growth, Stability and Financial Intermediation 」
討論者
2）飯田幸裕氏（早稲田大学大学院）
「Examination of Classifying Exchange Rate Ragimes 」
討論者：中田勇人氏（明星大学）
パネル討論「リレーションシップバンキングの現状と課題」
基調報告：堀内昭義氏（中央大学）・村本　孜氏（成城大学）・高橋洋一氏（財務省）
司会進行：森　映雄氏（早稲田大学）

日時：2005 年 5 月 14 日
会場：東洋大学白山キャンパス 5 号館（大学院棟）
共通テーマ：「金融構造の変化とコーポレートガバナンス」
報告
1）日向野幹也氏（立教大学）
「『資本』の法と経済学」
2）大楠泰治氏（クレディスイス・ファーストボストン）
「日本のコーポレートガバナンスの実情と問題点／投資銀行の観点から(仮)」
上記 2 報告に対するコメント：末村　篤　氏（日本経済新聞社・編集委員兼論説委員）

日時：2005 年 12 月 17 日（土）
会場：東洋大学 白山キャンパス 2 号館 16 階スカイホール
共通テーマ：「1990 年代以降における金融政策の再評価」
報告
1）川野祐司氏（東洋大学）
「分析のフレームワークとしての金融政策ストラテジー」
2）原田　泰氏（株式会社大和総研）
「金融政策のもたらした大停滞とその脱却」
3）加藤　出氏（株式会社東短リサーチ）
「量的緩和策が招いた流動性管理の麻痺」
上記 3 報告に対するコメント：香西　泰氏（日本経済研究センター）

日時：2006 年 6 月 24 日（土）13:30～16:45
会場：東洋大学 白山キャンパス 2 号館 16 階スカイホール
報告
1）松井謙一郎氏（国際通貨研究所）
「通貨制度選択における Bipolar View （二極解）の意義－ゲーム理論・情報の非対称性の視点からの再考察－」
2）西　孝氏（杏林大学）
「The Alternative Arrangements of Exchange Rate Regimes」
3）内田　聡氏（茨城大学）
「地域密着を可能にする仕組みとは－米銀数の 30%を占める S コーポ銀の分析から－」
4）郡司大志氏（東京国際大学）・墨　昌芳氏（法政大学大学院）
「金融制約と賃金格差」

日時：2006 年 12 月 16 日（土）13:30～
会場：東洋大学 5 号館 5202 教室
テーマ：「事業再生・ベンチャー育成の為の金融インフラストラクチャー」
報告
1）深沼　光氏（国民生活金融公庫総合研究所）
「事業再生・創業支援における公的金融の役割／再生型創業の実態から」
2）安嶋　明氏（日本みらいキャピタル株式会社）
「ファンドから見た事業再生の変革課題」
3）辰巳憲一氏（学習院大学）
「企業金融論からみた事業再生・ベンチャーファイナンスの課題」

日時：2007 年 7 月 28 日（土）15:00～18:00
会場：中央大学後楽園キャンパス　6 号館 6202 号室
テーマ：「銀行経営を考える」
報告
1）塚崎公義氏（久留米大学）
「不良債権処理先送りの合理性について」
2）長田　健氏（一橋大学大学院）
「量的緩和政策期になぜ銀行貸出は増えなかったのか？」
3）奥田英信氏（一橋大学）・竹　康至氏（一橋大学大学院）
「東南アジア 5 カ国における主要銀行の経営構造 DEA とクラスター分析による国際比較 」

日時：2008 年 3 月 15 日（土）15:30～18:00
会場：中央大学後楽園キャンパス
報告
1）北村仁代氏（中央大学大学院）
「Banks' Lending Behavior Under Uncertain Macroeconomic Environment」
2）宿輪純一氏（三菱東京 UFJ 銀行）
「『国際標準化』による日本金融の競争力強化と東アジア戦略 ―新しい戦略的金融政策として―」

日時：2008 年 6 月 14 日（土）15:00～17:20
会場：中央大学駿河台記念館　670 号室
統一テーマ『中小企業の生産性向上と地域活性化に向けて―中小企業白書 2008 年版を中心に―』
第 1 部　講演
「中小企業の生産性向上と地域活性化に向けて―中小企業白書 2008 年版を中心に―」
講演者：井上誠一郎氏（経済産業省中小企業庁事業環境部企画課調査室課長補佐）
第 2 部　パネルディスカッション
「中小企業白書の論点と中小企業政策」
パネリスト（50 音順）
井上誠一郎氏・植杉威一郎氏・岡室博之氏・根本忠宣氏・深沼　光氏

日時：2009 年 1 月 29 日（木）13:30～17:00
会場：中央大学多摩キャンパス　2 号館 4 階　研究所会議室 4
テーマ：「国際金融危機と現代経済学」
報告

1）塩沢由典氏（中央大学商学部・企業研究所研究員）
「金融危機の背景を探る／金融工学の理論とその問題点」
2）高田太久吉氏（中央大学商学部・企業研究所研究員）
「金融危機と Too-Big-To-Fail 問題」

日時：2009 年 4 月 30 日（木）13:30～17:00
会場：中央大学多摩キャンパス 2 号館 4 階　研究所会議室 4
テーマ：『国際金融危機の構造とドル問題』
1）建部正義氏（中央大学商学部）
「国際金融危機＝世界大恐慌の構図」
2）根本忠宣氏（中央大学商学部）
「ドル基軸通貨体制の持続可能性」

日時：9 月 19 日（土）13:30～17:45
会場：中央大学　駿河台記念館
報告
1）森　祐司氏（早稲田大学大学院）
「地域銀行のコーポレート・ガバナンス 」
2）吉田康志氏（全国銀行協会）
「ネットワーク産業としての決済システムとその運営 」
3）中村周史氏（日本学術振興会特別研究員）
「市場別価格設定行動と通貨バスケット政策 」
4）奥田英信氏（一橋大学）・竹　康至氏（一橋大学大学院）
「インドネシア上場企業の資本構造の決定要因：アジア危機後の経済改革と社会的・政治的要因の持つ影響力の変化」

日時：2011 年 1 月 22 日（土）13:00～15:30
場所：中央大学多摩キャンパス　2 号館 4 階　研究所会議室 3
テーマ：高齢化社会における資産運用と金融システム
1）北村仁代氏（中央大学大学院生）
「銀行の貸出行動が高齢者の資産運用に与える効果について」
2）後藤純一氏（慶應義塾大学）
「少子高齢化と外国人労働者」

日時：2011 年 11 月 5 日（土）15:00～18:00
場所：中央大学　駿河台記念館

報告
1）小藤康夫氏（専修大学）
「私立大学の正しい運用利回りを求めて」
2）永野　護氏（名古屋市立大学）
「Who Issues Debt Securities in Emerging Countries?」
3）廣田通義氏（青山学院大学大学院生）
「Price Dynamics in a Double Auction Market with Many Securities and Money」

科研費シンポジウム「世界金融危機の理論・実証・政策」
日時：2013 年 2 月 2 日（土）13:00～17:50
場所：法政大学理工学部　西館 2 階 W202 教室
プログラム
司会：宮越龍義氏（法政大学）・佃　良彦氏（東北大学）
1:00-1:40　福田慎一　氏（東京大学）
"Regional Liquidity Risk and Covered Interest Parity during the Global Financial Crisis:Evidence from Tokyo, London, and New York"
1:50-2:30　楡井　誠氏（一橋大学）
"Stochastic Herding in Financial Markets: Evidence From Institutional Investor Equity Portfolios"
2:40-3:20　筒井義郎氏（大阪大学）
"Disposition Effect and Loss Aversion:An Analysis Based on a Simulated Experimental Stock Market"
3:30-4:10　廣瀬康生氏（慶應義塾大学）
"Identifying News Shocks with Forecast Data"
4:20-5:00　宮越龍義氏（法政大学）
"Who are members in international club ?"
5:10-5:50　吉野直行氏（慶應義塾大学）
"Sustainability of government Debt — Fiscal Policy Rule"

日時：2014 年 3 月 22 日　（土）15:00～18:00
場所：中央大学 駿河台記念館
報告
1）岩木宏道氏（一橋大学大学院生）
「負債市場の不完全性が企業の資本構成、投資活動に及ぼす影響について－日本が直面した 2008 年の世界金融危機の事例を元にして－」
2）小倉義明氏（早稲田大学）

「Certification Role of Pre-IPO Bank Relationships: Evidence from Japanese IPO Underpricing」

中部部会

日時：2004 年 3 月 27 日（土）
会場：中京大学
報告
1）小林照義氏（中京大学）
"Optimal monetary policy and the role of hybrid inflation-price-level targets"
2）宇野洋輔氏（日本銀行）
「名古屋金利について」
パネル・ディスカッション
座長：鐘ヶ江毅氏（中京大学）
パネラー：根津永二氏（愛知学院大学）・栗原　裕氏（愛知大学）
テーマ：「最近における金融政策の評価」

日時：2004 年 6 月 26 日（土）
場所：南山大学
報告
1）村上敬進氏（中京大学）
「地域の景気変動と一国の景気変動」
2）家森信善氏（名古屋大学）・小林礼実氏（名古屋大学大学院）
“Wealth Effect of Public Fund Injections to Ailing Banks: Do Deferred Tax Assets and Auditing Firms Matter?”
3）横山和輝氏（名古屋市立大学）
「金融パニックの実証分析－1927 年昭和金融恐慌」
4）岡田義昭氏（愛知学院大学）
「東アジアにおける国際金融の新たな枠組みについて」

日時：2004 年 11 月 20 日（土）
場所：名城大学 天白キャンパス
報告
1）村瀬英彰氏（名古屋市立大学）
"Security Mispricing and Investor Activism: A Coordination Problem"
2）加納正二氏（摂南大学）
「リレーションシップ・バンキングにおけるホールドアップ問題」
3）北川彰男氏（木村証券）
「最近の株式市場動向」

日時：2005 年 3 月 26 日（土）
会場：中京大学八事キャンパス
報告
1）近藤万峰氏（愛知学院大学）
「わが国におけるデリバリーチャネル戦略の変化とその問題点」
2）打田委千弘氏（愛知大学）
「量的緩和政策と準備預金需要について」
講演
水谷研治氏（中京大学）
「公債の削減と持続的経済成長の条件」

日時：2005 年 6 月 25 日（土）14:00～
会場：南山大学
報告
1）村上敬進氏（中京大学）
「地域経済の成長と循環」
2）三谷　進氏（名城大学）
「アメリカ投資信託の現状と課題」
3）村瀬英彰氏（名古屋市立大学）
「投資家保護の政治経済学」

日時：2005 年 11 月 19 日（土）
会場：名城大学天白キャンパス
報告
1）小林礼実氏（名古屋大学大学院）
“An Empirical Test of Market Discipline at Banks by Certificates of Deposit Holder: Evidence from the Japanese CD Market”
2）北川彰男氏（木村証券）
「日米株価の検証と今後の市場動向」
3）田中敦夫氏（UFJ 銀行）
「銀行員から見た国際金融」
4）加納正二氏（大阪府立大学）
「わが国のリレーションシップバンキングは中小企業を成長させてきたのか？」

日時：2006 年 3 月 25 日（土）

会場：中京大学 11 号館（本館）4F　第 1 会議室
パネル・ディスカッション
座長：鐘ヶ江毅氏（中京大学）
パネラー：根津永二氏（愛知学院大学）・千田純一氏（中京大学）
テーマ：「量的緩和解除を巡ってー評価と展望」
報告
1）西　孝氏（三重中京大学）
「東海三県における政府系金融機関と民間金融機関貸出のシフト・シェア分析」
2）水谷研治氏（中京大学）
「銀行の役割と地域銀行の必要性」

日時：2006 年 6 月 24 日（土）
会場：南山大学　J 棟 1F　特別合同研究室（P ルーム）
報告
1）冨村　圭氏（名古屋大学大学院）
「企業統治における社外取締役の役割ー監督者としての社外取締役の独立性を中心にー」
2）石井　均氏（名古屋大学大学院）
「ボンド・ストック・スワップの価格理論」
3）前田真一郎氏（名城大学）
「現代の金融業とリテール金融」
4）藤井正志氏（愛知淑徳大学）
「トヨタの米国銀行免許取得について」
5）村瀬英彰氏（名古屋市立大学）
「イエスマン vs. カリスマ：株価プレッシャーとエージェンシー問題」

日時：2006 年 11 月 18 日（土）
会場：名城大学天白キャンパス 10 号館 3 階第二大会議室
報告
1）浅井義裕氏（城西大学）
「買収防衛策は企業価値を高めるのか?」
2）打田委千弘氏（愛知大学）
「地域金融機関の健全性と地域経済活動の関係について」
3）田中賢治氏（日本政策投資銀行）
「1990 年代不況下の設備投資と銀行貸出」
4）服部正純氏（日本銀行）
「金融システムの現状と評価：日本銀行金融システムレポートの内容を中心にして」

5）村瀬英彰氏（名古屋市立大学）
「Japan's Lost Decade as a Tragedy of Commons: Flight to Money and Economic Slump」

日時：2007 年 3 月 24 日（土）
会場：中京大学八事キャンパス 11 号館（本館）4 階第一会議室
報告
1）上山仁恵氏（日本福祉大学）
「家計の資産選択の効率性」
2）澤田　充氏（名古屋学院大学）
「金融危機下における銀行のポートフォリオ選択；戦前日本のケース」
3）横山和輝氏（名古屋市立大学）
「Too Big to Fail：the LLR Loans against the Panic of 1927」
4）家森信善氏（名古屋大学）・近藤万峰氏（愛知学院大学）
「地域密着型金融推進計画の展開とリレーションシップバンキングの現実―愛知県アンケート調査に基づく中小企業と銀行のリレーションシップの分析―」

日時：2007 年 6 月 23 日（土）14:00～17:30
会場：椙山女学園大学　星が丘キャンパス
報告
1）岩崎祐子氏（四日市大学）
「ベトナム証券市場の現状と課題」
2）清水克俊氏（名古屋大学）
「流動性需要と量的緩和政策」
3）家森信善氏（名古屋大学）・打田委千弘氏（愛知大学）
「信用金庫の経営と地域経済活動の関係について」

日時：2007 年 11 月 17 日（土）13:30～18:30
会場：愛知大学車道キャンパス 9 階 K902 教室
報告
1）冨村　圭氏（名古屋大学大学院）
「銀行における取締役会による企業統治―取締役会の規模と構成がリストラクチャリングに及ぼす影響」
2）斉藤智美氏（名城大学）
「媒介通貨としてのユーロ―ＥＵ新規加盟国を中心に―」
3）小林慎哉氏（愛知大学）

「購買力平価の実証分析」
4）村瀬英彰氏（名古屋市立大学）
「なぜ、見張り番はときどき居眠りをするのか」

日時：2008 年 3 月 29 日（土）14:00～
会場：中京大学八事キャンパス
報告
1）北川彰男氏（木村証券）
「貯蓄から投資への流れはなぜ必要なのか―ローリスク＆ミドルリターンの投資手法とは―」
2）西垣秀樹氏（三菱東京 UFJ 銀行）
「世界的な経常収支不均衡の調整過程について」
3）金井雄一氏（名古屋大学）
「ポンド残高の累積とブレトン・ウッズ会議におけるイギリスの立場」

日時：2008 年 6 月 28 日（土）14:00～
会場：名古屋大学大学院経済学研究科第 1 会議室（経済学部 2 階）
報告
1）岡　俊太郎氏（日本銀行）
「名古屋金利についての分析と地域金融機関の課題」
2）家森信善氏（名古屋大学）・冨村　圭氏（名古屋大学）・播磨谷浩三氏（札幌学院大学）
「協同組織金融機関のガバナンス改革－信用金庫の理事会規模と経営パフォーマンス－」
3）熊倉修一氏（日本銀行）
「日本銀行のプルーデンス政策－日銀考査は金融機関経営をどのようにみるのか－」

日時：2008 年 11 月 15 日（土）13:30～
会場：愛知大学車道校舎 K202 教室
報告
1）前田真一郎氏（名城大学）
「貸金業と銀行業－銀行と消費者金融会社の提携－」
2）Nguyen Duc La 氏（広島修道大学）
"Analysis of Transmission Mechanism of Monetary Policy in Vietnam-Some Evidences from a Structural VAR Approach-"
3）北川彰男氏（木村証券）
「株式市場における不思議な出来事への挑戦－株価の暴落はなぜ発生した のか？」
フリートーク：水谷研治　氏（東京福祉大学）

日時：2009 年 3 月 28 日（土）13:30～
会場：中京大学八事キャンパス
報告
第 1 報告（13:30～14:30）
座長：荒井好和氏（南山大学）
「地方銀行における店舗・ATM 戦略の現状と展望」
報告者：近藤万峰氏（愛知学院大学）
討論者：
第 2 報告（14:30～15:30）
「最近における東海地域の企業動向の変化について―企業金融を中心として―」
報告者：奥田真之氏（十六銀行）
討論者：家森信善氏（名古屋大学)
第 3 報告（15:50～16:50）
座長：千田純一氏（中部学院大学）
「サブプライム問題と 2008 年米国地方銀行の破綻について」
報告者：水野伸昭氏（名古屋大学）
討論者：由里宗之氏（中京大学）
第 4 報告（16:50～17:50）
「サブプライム住宅ローン問題に関する幾つかの視点について」
報告者：服部正純氏（日本銀行）
討論者：村瀬英彰氏（名古屋市立大学）

日時：2009 年 9 月 19 日（土）14:00～17:30
会場：南山大学名古屋キャンパス　J 棟 1F　特別合同研究室（P ルーム）
報告
1）小野田晃氏（愛知県信用保証協会）
「信用保証制度の現状」
2）小林照義氏（中京大学）
「Monetary Policy Transmission under Credit Rationing」
3）村瀬英彰氏（名古屋市立大学）
「Macroeconomics of Weak Governance: A New Interpretation of Japan's Prolonged Stagnation」

日時：2010 年 3 月 27 日（土）13:30～
会場：中京大学八事キャンパス　会議棟　中会議室

第 1 報告（13:30～14:30）
「ハイテク産業における R&D 投資と M&A の関係に関する実証分析」
報告者：宮崎浩伸氏（南山大学）
第 2 報告（14:30～15:30）
「金融危機で日本のメガバンクのリスクは増加したか―CDS プレミアムの変動要因分析―」
報告者：水野伸昭氏（名古屋大学）
第 3 報告（15:50～16:50）
「金融と不動産の融合―不動産市場の現場から見るサブプライム金融危機―」
報告者：川津昌作氏（川津商事（株））
第 4 報告（16:50～17:50）
「信用金庫業務運営の現状―リスク管理を中心に―」
報告者：山田　功氏（中日信用金庫）

日時：2010 年 9 月 4 日（土）13:30～
会場：名城大学 天白キャンパス　共通講義棟北　N-102 教室
研究報告
第 1 報告（13:30～14:35）
座長：栗原　裕氏（愛知大学）
「小国開放経済における為替レート政策の厚生分析」
報告者：高久賢也氏（名古屋大学）
討論者：小林　毅氏（中京大学）
第 2 報告（14:35～15:40）
座長：金井雄一氏（名古屋大学）
「イタリアの戦後復興と通貨安定化」
報告者：伊藤カンナ氏（明治学院大学）
討論者：高山晃郎氏（名城大学）
第 3 報告（16:00～17:05）
座長：奥野博幸氏（愛知大学）
「日本国債の国内消化構造はいつまで維持できるか」
報告者：高山　真氏（三菱東京 UFJ 銀行）
討論者：清水克俊氏（名古屋大学）

日時：2011 年 3 月 5 日（土）13:30～
会場：中京大学・名古屋キャンパス　会議棟　中会議室
報告

第 1 報告（13:30～14:35）
座長：横山和輝氏（名古屋市立大学）
「アムステルダム銀行と 1763 年危機」（The Bank of Amsterdam and The Crisis of 1763）
報告者：橋本理博氏（名古屋大学大学院）
討論者：名城邦夫氏（名古屋学院大学）
第 2 報告（14:35～15:40）
座長：藤井正志氏（愛知淑徳大学）
「米国大手銀行と世界金融危機」（U. S. Major Banks and the Global Financial Crisis）
報告者：水野伸昭氏（名古屋大学大学院）
討論者：前田真一郎氏（名城大学）
第 3 報告（16:00～17:05）
座長：三井　哲氏（名古屋学院大学）
「金融フリクションと通貨統合の費用」（Financial Friction and the Cost of Currency Integration）
報告者：吉見太洋氏（南山大学）
討論者：北野重人氏（神戸大学）

日時：2011 年 8 月 27 日（土）13:30～
会場：名古屋市立大学　滝子（山の畑）キャンパス　経済学部棟 1 階　大会議室
報告
第 1 報告（13:30～14:35）
座長：横山和輝氏（名古屋市立大学）
Has Japanese Big Bang Deregulation improved life insurers' productivity?
報告者：浅井義裕氏（城西大学）
討論者：打田委千弘氏（愛知大学）
第 2 報告（14:35～15:40）
座長：金井雄一氏（名古屋大学）
「日本の都市構造と金融の問題」
報告者：川津昌作氏（川津商事）
討論者：奥野博幸氏（愛知大学）
第 3 報告（16:00～17:05）
座長：荒井好和氏（南山大学）
「品質調整手法の比較分析 ― 企業物価指数『テレビ』の例」
報告者：三尾仁志氏（日本銀行）
討論者：村瀬英彰氏（名古屋市立大学）

日時：2012 年 3 月 3 日（土）13:30～
会場：中京大学・名古屋キャンパス　会議棟　中会議室
報告
第 1 報告（13:30～14:30）
座長：奥野博幸氏（愛知大学名誉教授）
「The Stages of Markets: Money, Arbitrage and Enforcement」
報告者：横山和輝氏（名古屋市立大学）
討論者：山本千映氏（大阪大学）
第 2 報告（14:30～15:30）
座長：栗原　裕氏（愛知大学）
「イングランド銀行国有化法（1946 年）の性格」（The Character of the Bank of England Act 1946）
報告者：金井雄一氏（名古屋大学）
討論者：高山晃郎氏（名城大学）
第 3 報告（15:50～17:20）
座長：家森信善氏（名古屋大学）
「日本における消費金融の発展」（The Development of Consumption Finance in Japan）
報告者：川波洋一氏（九州大学）・前田真一郎氏（名城大学）
討論者：山田　功氏（中日信用金庫）

日時：2012 年 8 月 18 日（土）13:30～
会場：愛知淑徳大学・星ヶ丘キャンパス　1 号館 3 階　13B 教室
報告
第 1 報告（13:30～14:30）
座長：横山和輝氏（名古屋市立大学）
「戦前日本の地方資産家の銀行経営－新潟県・鍵三銀行を事例に－」（The banking business of the local wealthy family in pre-war Japan― A case of the Kagisan Ginko in Niigata Prefecture ―）
報告者：早川大介氏（愛知大学）
討論者：岩間剛城氏（近畿大学）
第 2 報告（14:30～15:30）
座長：金井雄一氏（名古屋大学）
「インドの金融システムは変化したのか？」（Does Indian financial system change?）
報告者：西尾圭一郎氏（松山大学）
討論者：栗原　裕氏（愛知大学）
第 3 報告（16:00～17:00）

座長：荒井好和氏（南山大学）
「金融のマクロモデルとクラウディングアウト効果の計測」（Macro-model of finance and an estimation result of crowding-out effect）
報告者：藤井正志氏（愛知淑徳大学）
討論者：家森信善氏（名古屋大学）

日時：2013 年 3 月 9 日（土）13:30～
会場：名古屋大学・東山キャンパス　経済学研究科棟　2 階　第 1 会議室
報告
第 1 報告（13:30～14:30）
座長：前田真一郎氏（名城大学）
「東海地域における中小企業の経営力強化のための金融機関と地方自治体の取り組み　－企業アンケート調査の概要－」（What Are Regional Governments and Financial Institutions Doing to Strengthen SMEs in the Tokai Region?：A Survey Result）
報告者：家森信善氏（名古屋大学）・冨村　圭氏（愛知大学）・高久賢也氏（名古屋大学）
討論者：荒井好和氏（南山大学）
第 2 報告（14:30～15:30）
座長：金井雄一氏（名古屋大学）
「金融グローバリゼーションと米国の国際資本移動」（Financial Globalization and International Capital Movement in the United States）
報告者：高山晃郎氏（名城大学）
討論者：徳永潤二氏（和光大学）
特別報告（16:00～17:00）
座長：村瀬英彰氏（名古屋市立大学）
「経済政策の目標と効果」（The Objectives and Effects of Economic Policies）
報告者：水谷研治氏（東京福祉大学）

日時：2014 年 3 月 15 日（土）13:30 ～
会場：愛知大学・名古屋キャンパス（笹島）　講義棟 807 教室
報告
第 1 報告（13:30～14:30）
座長：内田　滋氏（愛知学院大学）
「金融機関の競争が新規参入企業の廃業率に与える影響に関する研究」
報告者：大鐘雄太氏（名古屋大学大学院）
討論者：打田委千弘氏（愛知大学）
第 2 報告（14:30～15:30）

座長：荒井好和氏（南山大学）
「日本の株式市場の動向」
報告者：北川彰男氏（木村証券）
討論者：奥田真之氏（十六総合研究所）
特別講演（16:00～17:00）
座長：家森信善氏（名古屋大学）
「量的・質的金融緩和（QQE）の波及ルートと『2 年程度で CPI2%』の実現性」
講師：愛宕伸康氏（日本経済研究センター主任研究員）

関西部会

日時：2004 年 3 月 27 日（土）14:00～
会場：神戸大学経済経営研究所　会議室（新館 2 階）
報告
司会：宮尾龍蔵氏（神戸大学）
1）鈴木喜久氏（広島大学）
「金融時系列データのボラティリティ・モデルとパラメーターの安定性」
司会：田中　敦氏（関西学院大学）
2）鎮目雅人氏（日本銀行）
「低金利の背後で何が起こっていたのかー高橋財政期日本の国債金利ー」

日時：2004 年 12 月 11 日（土）
会場：同志社大学光塩館地下 1 階、会議室
報告
1）中島清貴氏（京都学園大学）
"Uncovering Interest-elastic Money Demand: Evidence from the Japanese Money Market with a Low Interest Policy," (with Makoto Saito)
2）鹿野嘉昭氏（同志社大学）（福澤　満氏との共著）
「グローバル化、情報化と日本型金融システム-メインバンク関係の変容を中心として-」

日時：2005 年 7 月 15 日（金）
会場：大阪銀行協会
報告
1）中川竜一氏（関西大学経済学部）
"Optimal Monetary Policy in a Credit Economy"
2）中嶋智之氏（京都大学経済研究所）
"Optimal monetary policy with imperfect unemployment insurance"
懇談会
米田道生氏（大阪証券取引所社長）
「これからの大証」

日時：2006 年 6 月 17 日（土）14:00～
会場：神戸大学経済経営研究所新館 2F 会議室
報告
1）松井建二氏（横浜国立大学）

"Overpricing of New Issues in the Japanese Straight Bond Market"
2）松尾順介氏（桃山学院大学）
「地域再生ファンドと地域金融機関」

日時：2007 年 6 月 9 日（土）14:00～17:00
会場：関西学院大学大阪梅田キャンパス
報告
1）王　凌氏（甲南大学特別研究員）
"Lending Behavior of Japanese Banks since the 1980s"
2）秋吉史夫氏（同志社大学）
"Banking Panics and the Lender of Last Resort: The Showa Depression of 1930-1932"

日時：2008 年 5 月 24 日（土）14:00～
会場：神戸大学経済経営研究所　会議室（新館 2 階）
報告
1）山本　淳氏（みずほ総合研究所）
「サブプライム問題と経済金融市場動向」
2）中川竜一氏（関西大学）
"Herd Behavior by Japanese Banks After Financial Deregulation in the 1980s"

日時：2008 年 11 月 15 日（土）14:00～
会場：関西大学 100 周年記念会館 第 3 会議室
報告
1）敦賀貴之氏（関西大学）
“The Law of One Price without the Border: the Roles of Geography versus Sticky Prices”
2）岡田敏裕氏（関西学院大学）
"U. S. R&D and Japanese Medium Cycles"

日時：2009 年 3 月 14 日（土）14:00～
会場：神戸大学経済経営研究所　会議室　（研究所新館 2 階）
報告
1）植杉威一郎氏（一橋大学経済研究所）
"Top Executive Turnover in Japanese Non-listed Firms: Causes and　Consequences"
2）小倉義明氏（立命館大学）
"Lending Competition, Relationship Banking, and Credit Availability for Entrepreneurs"

日時：2009 年 10 月 17 日（土）14:00～17:00
会場：関西学院大学大阪梅田キャンパス　K.G.ハブスクエア大阪 1005 室　アプローズタワー10 階
報告
1）王　凌氏（甲南大学特別研究員）・石橋尚平氏（大阪産業大学）・中岡孝剛氏（神戸大学大学院）
「景気拡大期における全国信用金庫の利鞘分析」
2）田村香月子氏（関西大学）
「信用格付けと日本の地方債市場」

日時：2010 年 5 月 1 日（土）14:00～17:00
会場：大阪国際会議場 805 会議室
報告
1）加納　望氏（（株）日本政策投資銀行関西支店支店長）
「DBJ の危機対応業務の概要と関西経済の概況」（“A Summary of DBJ's Financial Crisis Response Business and the Current Economic Environment in Kansai Area"）
2）久保英也氏（滋賀大学経済学部）
「生命保険会社の破綻を早期に予測する健全性指標の提案」（“The Proposal of the Soundness Indices which predict the Bankruptcy of Life Insurance Companies at an Early Stage"）

日時：2011 年 1 月 22 日（土）14:00～17:00
会場：神戸大学経済学研究科　会議室（本館 2 階）
報告
1）小立　敬氏（野村資本市場研究所）
「国際的な金融制度改革(Global Financial Regulatory Reform)」
2）堀江康熙氏（関西外国語大学）
「地域銀行の営業地盤と収益力」（On the Measurement of Operating Areas and Profitability for Regional Banks）

日時：2011 年 9 月 17 日（土）14:00～17:00
会場：関西学院大学梅田キャンパス（14F 1408 教室）
報告
1）広瀬純夫氏（信州大学経済学部）
「メインバンクの特性が私的整理による企業再建の可能性に及ぼす影響-債権放棄事例を対

象とした実証分析-」(Out-of-court debt restructuring is ineffective when a distressed firm is a large borrower from its main bank: evidence from Japan during its "lost decade")
2）太田浩司氏（関西大学商学部）
"Information content of analysts' ratings and earnings forecasts in the presence of management earnings forecasts"

日時：2012 年 3 月 17 日（土）13:00～16:00
会場：同志社大学今出川キャンパス　光遠館（地下 1Ｆ会議室）
報告
1）播磨谷浩三氏（立命館大学経営学部）
「地域銀行の店舗広域化の効率性への影響に関する実証的検証」
2）五百籏頭真吾氏（同志社大学商学部）
"Patterns of Current Account Reversal"

日時：2013 年 1 月 12 日（土）14:00～17:00
会場：関西学院大学・大阪梅田キャンパス 14 階・1404 教室
報告
1）王　凌氏（阪南大学経済学部）
「非伝統的金融政策とリスク・プレミアム」
2）大田英明氏（愛媛大学法文学部）
"Capital Inflows and Controls in Malaysia -Effectiveness of independent Policy under Financial Liberalization-"

日時：2014 年 1 月 25 日（土）14:00
場所：関西大学千里山キャンパス内　100 周年記念会館ホール内　第 6 会議室
1）北野友士氏（金沢星稜大学）
「イギリスにおける金融規制監督アプローチの変化と課題」
2）田中　敦氏（関西学院大学）
"Central Bank Exit Strategies and Credibility: A Simple Dynamic Optimization Model"

西日本部会

日時：2004 年 3 月 27 日（土）
会場：広島修道大学　新図書館ライブラリーホール
報告
1）伊東和久氏（広島女子大学）
「アジア通貨危機後の東アジア国際金融協力」
2）伊鹿倉正司氏（九州大学大学院）
「中南米金融市場における外国金融機関の役割」
3）グエン・ドゥク・ラップ氏（広島修道大学）
「ベトナム経済・金融システムの現状と課題」
4）徳永正二郎氏（九州産業大学）
「近世ヨーロッパにおける 2 つの多角的決済システム：リヨンとアムステルダム」

日時：2004 年 7 月 24 日（土）
会場：九州大学 国際研究交流プラザ
報告
1）高山晃郎氏（九州大学大学院）
「ニューヨーク為替市場の取引増大メカニズム―変動相場制以降を中心に―」
2）吉川卓也氏（中村学園大学）
「特性モデルによる日本人の金融資産選択行動の実証分析」
3）岡本悳也氏（熊本学園大学）
「決済システムの高度化・大衆化～クレジットカードを中心に～」
4）堀江康熙氏（九州大学）
「金融機関と企業との取引に関する考察」

日時：2004 年 12 月 4 日（土）
会場：九州大学　箱崎文系キャンパス
報告
1）川野祐司氏（東洋大学）
「ユーロ決済システム改革」
2）森保　洋氏（長崎大学）・須齋正幸氏（長崎大学）
「大阪証券取引所とシンガポール取引所における情報流入構造－日経 225 先物ティック・データを用いた実証分析－」
3）西田顕生氏（西南学院大学）
「地域金融機関におけるリレーションシップバンキングの現状と課題」

4）深浦厚之氏（長崎大学）
「事業の証券化（Whole Business Securitisation）と間接金融」

日時：2005 年 3 月 26 日（土）
会場：鹿児島国際大学　図書館 4 階ホール
報告
1）韓　尚均氏（鹿児島国際大学大学院）
「韓国金融危機における公的資金の活用」
2）掛下達郎氏（松山大学）
「マネー・センター・バンクの金利デリバティブ取引―アメリカ商業銀行の投資銀行業務―」
3）尾田温俊氏（福山大学）
「米国経常収支赤字」
4）岩野茂道氏　（熊本学園大学名誉教授）
「ドル本位制再論」

日時：　2005 年 7 月 23 日（土）
会場：九州大学 箱崎文系キャンパス
報告
1）米倉　茂氏（佐賀大学）
「米国の『双子の赤字』の“conundrum” ― J.リュエフから A.グリーンスパーンまで」
2）山野　勲氏（九州産業大学）
「開放経済下における金融財政政策,為替介入および期待の効果：IS-LM モデルの拡張」
3）楊枝嗣朗氏（佐賀大学）
「資本主義的貨幣の生成」

日時：2005 年 12 月 17 日（土）13:00～17:00
会場：九州大学　箱崎文系キャンパス　経済学部 6 階　大会議室
報告
1）高山晃郎氏　（九州大学大学院）
「米国機関投資家の国際資産運用と国際資本移動」
2）吉田友紀氏　（九州大学大学院）
「破産法における管財人の最適報酬について」
3）村藤　功氏　（九州大学）
「政府の財務再構築」

日時：2006 年 3 月 25 日（土）

会場：九州大学 経済学部（箱崎文系キャンパス）6 階大会議室
報告
1）掛下達郎氏（松山大学）
「アメリカのマネー・センター・バンクの業務展開：ローン・セール、証券化、ディリバティブ」
2）尾上修悟氏（西南学院大学）
「ユーロと経済・通貨同盟下の経済政策をめぐる諸問題―フランスでの議論を中心として」

日時：2006 年 7 月 29 日（土）13:30～17:00
会場：九州大学 箱崎文系キャンパス 経済学部 6 階 大会議室
報告
1）青木圭介氏（長崎県立大学）
「国際通貨としてのユーロの現状と展望」
2）張　南氏（広島修道大学）
「国際資金循環分析の理論モデルと応用」
3）深浦厚之氏（長崎大学）
「報道資料から見た”証券化”定着の経緯」

日時：2006 年 12 月 2 日（土）13:45～16:40
会場：北九州市立大学 北方（きたがた）キャンパス
報告
1）ワッタナワリン スカンヤ氏（九州大学大学院）
「通貨危機後のタイ債券市場の発展―アジア債券市場育成イニシアチブとの関連で―」
2）岡本悳也氏（熊本学園大学）・松田英明氏 （熊本学園大学大学院）
「米国と開発途上国の相互依存関係―グローバリゼーション下のドル本位制―」
3）下田真也氏（九州大学大学院）
「銀行の情報開示に対する規制の効率性」
4）堀江康熙氏（九州大学）
「地域間所得格差と金融・財政面からの影響」

日時：2007 年 3 月 24 日（土）13:30～17:00
会場：九州大学 西新プラザ 2 階中会議室
報告
特別セッション
稲永俊介氏（九州大学）
「電子マネーシステムの情報科学的モデル化」

研究報告
1）鳥井鋼生氏（久留米工業大学）
「投資拡張期の負債比率の動き」
2）岡本悳也氏（熊本学園大学）
「『近代世界システム論』の分析視点～基軸通貨論と資本移動論の整序～」

日時：2007 年年 7 月 21 日（土）13：30～17：00
会場：福岡大学　文系センター　15 階　会議室
報告
1）下田真也氏（九州大学大学院）
「The disclosure regulation and accountability of financial institution」
2）楊枝嗣朗氏（佐賀大学）
「木下悦二氏の国際通貨論の衝撃とその後−『国際経済の理論』（1979 年）の検討」
3）久保田勇夫氏（西日本シティ銀行頭取・福岡大学客員教授）
「1970 年代以降の円相場の決定要因と為替相場政策の変遷―何故に教科書の説明は不十分か―」

日時：2007 年 12 月 8 日（土）13:00～16:40
会場：九州大学 箱崎文系キャンパス 経済学部 6 階大会議室
報告
1）宇土至心氏（九州大学大学院）
「価値評価基準としての『収益力』と『企業の擬制資本化』」
2）米倉　茂氏（佐賀大学）
「サブプライムローン問題の波紋―ドル危機説への審判」
3）深浦厚之氏（長崎大学）
「実証データから見た証券化市場の展開 －集約化・二極化・機関化－」
4）堀江康熙氏（九州大学）
金融貯蓄のない世帯の増加と特徴
5）及能正男氏
「本邦金融制度改革運動の帰趨」

日時：2008 年 3 月 29 日（土）13:30～
会場：佐賀大学経済学部（本庄キャンパス）
報告
1）岩野茂道氏（熊本学園大学名誉教授）
「ドル本位制の定理」

2）松田英明氏（熊本学園大学大学院）
「世界的過剰貯蓄とサブプライム問題の“霧の中”」
特別報告
張　鎬氏（佐賀大学大学院）
「世界を飛翔する赤い龍―　中国人民元問題」

日時：2008 年 7 月 26 日（土）14:00～
会場：九州大学 経済学部（箱崎文系キャンパス）　2 階中会議室
報告
1）米倉　茂氏（佐賀大学）
「21 世紀に蘇生するケインズ『一般理論』」
2）村藤　功氏（九州大学）
「日本のバランスシートの現状と問題点」

日時：2008 年 12 月 6 日（土）13:00～16:40
会場：九州大学 箱崎文系キャンパス 経済学部 6 階大会議室
報告
1）山本御稔氏（九州大学大学院）
「企業価値変動における退職金・年金の役割－退職給付会計導入後の計量分析結果より－」
2）堀江康熙氏（九州大学）
「高齢社会の進行と地域金融機関」
3）塚崎公義氏（久留米大学）
「金融危機時に於ける検査・考査の不良債権処理への影響」
4）深浦厚之氏（長崎大学）
「証券化商品の仕組みと金融危機の関連について」
5）岡本悳也氏（熊本学園大学）・松田英明氏（熊本学園大学大学院）
「金融資本主義のダイナミズム ～「サブプライム金融危機」は「死に至る病」か？～」

日時：2009 年 3 月 28 日（土）13:00～15:30
会場：九州大学 箱崎文系キャンパス 経済学部 2 階中会議室
報告
1）中田真佐男氏（九州大学）
「電子マネーの普及が小額決済に及ぼす影響」
2）前田真一郎氏（名城大学）
「クレジットカードの出現と消費者信用の形態変化－戦後アメリカの消費者信用－」

日時：2009 年 7 月 18 日（土）14:00～16:20
会場：九州大学 経済学部（箱崎文系キャンパス）6 階大会議室
報告
1）伊豆　久氏（久留米大学）
「金融危機と FRB の流動性対策」
2）中塚晴雄氏（福岡大学）
「1920 年代の商業銀行の投資銀行業務と証券発行構造－ニューヨーク外債市場と証券子会社の引受とリテール販売－」

日時：2009 年 12 月 5 日（土）11:45～17:55
会場：九州国際大学 経済学部（3 号館）
報告
1）Ms. Eva Banincova（Kyushu University, Graduate School）
“Financial Crisis in the EU and Banking Sectors of Central and Eastern Europe and Three Baltic States”（英語での報告）
2）苗　金芳氏（佐賀大学大学院）
「グローバルインバランス問題の軸となる中米経済関係」
3）下田真也氏（久留米信愛女学院短期大学）
「金融行政の実効性とその影響について」
4）後藤尚久氏（北九州市立大学）
「BIS 比率と裁量的行動－2000 年以降のデータを用いた実証分析－」
5）篠﨑伸也氏（九州大学大学院）
「企業の配当政策の変容とその要因についての研究」
6）山本御稔氏（九州大学大学院）
「確定拠出年金制度と企業価値　－企業ガバナンスの観点から－」
7）堀江康熙氏（九州大学）
「地域金融機関の効率性分析」

日時：2010 年 12 月 4 日（土）13:30～15:40
会場：九州大学 箱崎文系キャンパス 経済学部 5 階 510B 教室
報告
1）頼藤瑠璃子氏（熊本学園大学大学院）
「マイクロファイナンスの変遷と展望」
2）楊枝嗣朗氏（佐賀大学（名））
「歴史から見た現代銀行業―支払決済・信用創造・金融仲介―」
3）堀江康熙氏（関西外国語大学）

「地域銀行の営業地盤と行動」

日時：2010 年 7 月 24 日（土）13:30～16:50
会場：九州大学 経済学部 6 階大会議室
報告
1）厳　偉祥氏（鹿児島国際大学大学院）
「ヘッジファンドのリスク管理における GARCH 型モデルを用いた VaR の推定と応用」
2）篠﨑伸也氏（九州大学大学院）・内田交謹氏（九州大学）
「ストックオプションと配当政策」
3）楊枝嗣朗氏（佐賀大学（名））
「『つなぐ通貨』ユーロと『粉飾された』中央銀行 ECB」

日時：2012 年 3 月 24 日（土）13:30～17:00
会場：九州大学 箱崎文系キャンパス 経済学部 2 階中会議室
報告
1）劉　哲怡氏（九州大学大学院）
「Financial Development, Industrial Structure and Economic Growth in China」
2）矢野（ワッタナワリン）スカンヤ氏（九州大学）
「ASEAN における取引所間連携の進展」
3）米倉　茂氏（佐賀大学）
「国際金融危機の淵源なる「グローバル・インバランス」の深層―“global imbalances”から“global financial imbalances”への視角転移」

日時：2011 年 12 月 3 日（土）13:00～16:00
会場：九州産業大学 2 号館 W302 教室
報告
1）高橋義雄氏（岡山大学大学院）
「先駆的銀行合同例の地銀間比較 ― 第一合同銀行と藝備銀行との財務諸表の比較を中心としてー」
2）劉　哲怡氏（九州大学大学院）
"Financial Development, Government Behavior and Economic Growth in China"'
3）厳　偉祥氏（鹿児島国際大学大学院）
「テイラー・ルールと中国の金融政策」
4）堀江康熙氏（関西外国語大学）
「東日本大震災と地域金融」

日時： 2012 年 12 月 1 日（土）11:15～17:20
会場： 熊本学園大学 14 号館 1 階 1411 教室
報告
1）Bhim Prasad BHUSAL 氏（九州大学大学院）
"Financial Development and Economic Growth in Nepal :An Empirical Analysis"
2）関根順一氏（九州産業大学）
「消費選択と貨幣保有：理論の統合」
3）蒲　和重氏（岡山商科大学）
「中国での現地調査に基づいた消費者信用需要に関する一考察」
4）森　祐司氏（九州共立大学）
「銀行の役員規模と経営パフォーマンス」
5）堀江康熙氏（関西外国語大学）
「信金・信組に於ける 2 つの不良資産問題」
6）坂本　正氏（熊本学園大学）
「フーバー・ニューディールと国家市場経済―国家市場経済への移行過程の意義―」
7）楊枝嗣朗氏（佐賀大学名誉教授）
「ユーロ通貨危機が提起する貨幣の再定義―『異端派マルクス経済学の系譜』に寄せて―」

日時：2013 年 3 月 23 日（土）13:00～17:25
会場：九州大学 箱崎文系キャンパス 経済学部棟 6 階大会議室
報告
1）ダスティン　ブルワー氏（九州大学大学院）
「信用情報機関の国際展開―国際銀行業におけるビッグ・データの意義」
2）深浦厚之氏（長崎大学）・曹　樅　氏（長崎大学大学院）
「中国資本市場の諸問題と資産証券化の可能性」
3）西垣鳴人氏（岡山大学）
「廃止された米国郵便貯金の再検証～アメリカ銀行業界の果した役割～」
4）米倉　茂氏（佐賀大学）
「ユーロ瓦解につながる金融活断層－ユーロ決済システム・ターゲット 2 の不均衡問題」

日時：2013 年 12 月 7 日（土）14:00～17:40
会場：大分大学経済学部 2 階 201 教室
報告
1）Jasur Karshibaev 氏（九州大学大学院）
「Capital liberalization in Central Asia since 1990's」
2）高﨑春華氏（九州大学）

「モロッコの銀行セクターと EU 金融ネットワーク」
3）森　祐司氏（九州共立大学）
「地域銀行の非金利収入と分散化」
4）金城亜紀氏（関西外国語大学）
「ケーススタディーにみるアセット・ベースト・レンディング（ABL）が地方銀行の融資業務に与える影響」
5）堀江康熙氏（関西外国語大学）
「農業協同組合と信用事業」

日時：2014 年 3 月 15 日（土）14:00～16:00
会場：九州大学 箱崎文系キャンパス　経済学部棟 2 階中会議室
報告
1）森　祐司氏（九州共立大学）
「北九州市における金融機関の店舗戦略」
2）堀江康熙氏（関西外国語大学）
「英語力のある学生は経済学関係科目の得点も高いかー語学系大学 の新学部に於ける金融関係科目等に関する分析結果ー」

歴史部会

日時：2004 年 3 月 13 日（土）
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告
1）白鳥圭志氏（東北学院大学）
「両大戦間期における普通銀行制度改善政策の展開」
2）立脇和夫氏（早稲田大学）
「在日外銀 140 年の盛衰―1863～2003―」

日時：2004 年 6 月 5 日（土）14:00～17:30
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告
1）鎮目雅人氏（日本銀行金融研究所）
「低金利の背後で何が起こっていたのか：戦間期日本の国債金利からみた金融市場の動向」
2）鈴木俊夫氏（東北大学）
「19 世紀の『通信革命』とシティ」

日時：2004 年 9 月 4 日（土）14:00～17:30
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告
1）大貫摩里氏（日本銀行金融研究所）
「日本銀行のネットワークと金融市場の形成----日銀設立前後から 20 世紀初頭の為替送金と貸付金利の動向を中心として」
2）早川大介氏（東京大学大学院）
「日本銀行と地域経済----1920 年代日銀松山支店誘致運動を事例に」

日時：2004 年 12 月 11 日（土）
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告
1）金井雄一氏（名古屋大学）・矢後和彦氏（東京都立大学）
「金井雄一著『ポンドの苦闘』をめぐって」
2）島村高嘉氏（麗澤大学）
「護送船団資本主義の思想的基盤」

日時：2005 年 3 月 12 日（土）14:00～17:30

会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告
1）春井久志氏（関西学院大学）・菅原　歩氏（東北大学）
「田中素香・春井久志・藤田誠一 編『欧州中央銀行の金融政策とユーロ』をめぐって」
2）飯田　隆氏（法政大学）
「『護送船団方式』とは何だったのか」

日時：2005 年 6 月 11 日（土）14:00～17:30
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告
1）南條　隆氏（日本銀行金融研究所）・粕谷　誠氏（東京大学）
「ポートフォリオ選択の効率性―戦前期日本における普通銀行の資産運用を事例として―」
2）邉　英治氏（日本学術振興会特別研究員）
「戦後復興期に検査・考査はどう変わったのか」

日時：2005 年 9 月 3 日（土）14:00～17:30
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告
1）鹿野嘉昭氏（同志社大学）
「三貨制、銭遣いと銭勺勘定――国際比較の観点から江戸期幣制の特色を再検討する――」
2）伊藤　修氏（埼玉大学）
「『護送船団』型金融行政はその後どうなったのか」

日時：2005 年 12 月 17 日（土）14:00～17:30
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告
1）西村閑也氏（法政大学）
「アジアにおける英系国際銀行――1890－1913 年――」
2）堀内昭義氏（中央大学）
「小銀行と工業化――日本の経験――」

日時：2006 年 3 月 11 日（土）14:00～17:30
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告
1）松島正之氏（クレディ・スイス）

「アジア通貨の諸問題」
2）西村吉正氏（早稲田大学）
「バブル崩壊と金融行政の転換」

日時：2006 年 6 月 17 日（土）14:00～17:30
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告
1）川合　研氏（福岡大学）
「金融恐慌と決済システム―連邦準備制度以前のアメリカの経験―」
2）畑瀬眞理子氏（日本銀行）
「輸出主導型高成長経済は固定相場制からのスムーズな離脱が可能か？―日本の高度成長期から現代中国への教訓―」

日時：2006 年 9 月 30 日（土）14:00～17:30
会場：秋葉原コンベンションホール（ダイビル）5A 会議室
報告
1）松井謙一郎氏（国際通貨研究所）
「中南米諸国の公式ドル化政策の歴史－エルサルバドル・エクアドル・パナマの 3 か国の比較から-」
2）緒田原涓一氏（前　日本大学教授）
「アジアにおける国際金融協力」

日時：2006 年 12 月 16 日（土）14:00～17:30
会場：秋葉原コンベンションホール（ダイビル）5A 会議室
報告
1）三ツ石郁夫氏（滋賀大学）
「ナチス期金融体制における貯蓄銀行組織の展開とその意義」
2）及能正男氏（前　西南学院大学）
「普通銀行の理念と現実」

日時：2007 年 3 月 17 日（土）14:00～17:30
会場：秋葉原コンベンションホール（ダイビル）5A 会議室
報告
1）布目稔生氏
「50 年を超えた日本の ODA―その経緯と今後の課題―」
2）鎮目雅人氏（神戸大学経済経営研究所）

「第 2 次大戦前の日本における財政の維持可能性」

日時：2007 年 6 月 30 日（土）14:00～17:30
会場：秋葉原コンベンションホール（ダイビル）5A 会議室
報告
1）門　闖氏（東京大学大学院）
「中国における都市信用社の変遷」
2）古賀大介氏（山口大学）
「第一次大戦期におけるモルガン商会と英米政府」

日時：2007 年 9 月 29 日（土）14:00～17:30
会場：秋葉原コンベンションホール（ダイビル）5A 会議室
報告
1）今城　徹氏（早稲田大学）
「戦間期日本における中小商工業者向け金融機関の展開」
2）韓　載香氏（首都大学東京）
「在日企業と民族金融機関：関西興銀の経営史を中心に」

日時：2007 年 12 月 15 日（土）14:00～17:30
会場：秋葉原コンベンションホール（ダイビル）5A 会議室
報告
1）李　明輝氏（梨花女子大学）
「1950 年代韓国の二重金融市場」
2）陳　玉雄氏（麗澤大学）
「中国東南沿海部におけるインフォーマル金融―「中間制度」としての可能性に関する試論―」

日時：2008 年 3 月 15 日（土）14:00～17:30
会場：秋葉原コンベンションホール（ダイビル）5A 会議室
報告
1）大江清一氏（埼玉大学大学院）
「銀行検査の史的展開」
2）富崎美穂氏（東京大学大学院）
「1950～1960 年代の韓国におけるインフレ対策」

日時：2008 年 6 月 21 日（土）14:00～17:30

会場：秋葉原コンベンションホール（ダイビル）5A 会議室
報告
1）松井謙一郎氏（国際通貨研究所）
「中南米地域の郷里送金の歴史－中米・ブラジル・エクアドルの事例比較とサブプライムローン問題との関連－」
2）布田功治氏（東京大学大学院）
「通貨危機直前のタイにおける外国為替レート政策－その政策形成論理に焦点を当てて－」

日時：2008 年 9 月 20 日（土）14:00～17:30
会場：秋葉原コンベンションホール（ダイビル）12D 会議室
報告
1）佐藤　滋氏（横浜国立大学大学院）
「競争と信用統制の歴史的意義とケインズ政策――帝国からヨーロッパへ――」
2）熊倉修一氏（日本銀行）
「日本銀行のプルーデンス政策――変遷史から見た日銀考査の位置付け――」

日時：2008 年 12 月 20 日（土）14:00～17:30
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告
1）早川大介氏（東京大学大学院）
「農工銀行とインターバンク市場－新潟県農工銀行を事例に－」
2）岩間剛城氏（東北大学大学院）
「幕末維新期における農村金融講の展開－信州上田上塩尻村「永続講」の歴史的分析 －」

日時：2009 年 3 月 28 日（土）14:00～17:30
会場：秋葉原コンベンションホール（ダイビル）12E 会議室
報告
1）権上康男氏（横浜商科大学）
「スネイクから EMS へ―1970 年代の大転換とフランス―」
2）神崎稔章氏（北海道大学大学院）
「長短金利逆転現象について ―イギリス金融市場とアメリカ金融市場を例に―」

日時：2009 年 6 月 20 日（土）14:00～17:30
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告

1）林　幸司氏（一橋大学経済研究所）
「近代中国における地方銀行の設立と展開 －四川地方における「新式銀行」の展開と社会変容－」
2）高橋秀直氏（一橋大学大学院）
「1931 年の「ポンド危機」 －ロンドン外国為替市場のワーキングから－」

日時：2009 年 9 月 19 日（土）14:00～17:30
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告
1）石井里枝氏（三菱経済研究所）
「戦前期日本における企業発展と資本市場 －関東地方を事例として－」
2）西川　輝氏（東京大学大学院）
「1950 年代における IMF 融資制度の形成」

日時：2009 年 12 月 19 日（土）14:00～17:30
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告
1）鎮目雅人氏（日本銀行）
「世界恐慌と経済政策の再検討－1929～1936 年－」
（参照文献『世界恐慌と経済政策』日本経済新聞出版社、2009 年）
2）伊藤正直氏（東京大学）
「360 円レートの成立と終焉－ＩＭＦ体制との関係－」
（参照文献『戦後日本の対外金融』名古屋大学出版会、2009 年）

日時：2010 年 3 月 27 日（土）14:00～17:30
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告
1）清水太陽氏（立教大学大学院）
「埼玉県における銀行合同の前提－武州銀行の設立過程－」
2）渡部　訓氏（首都大学東京大学院、日本銀行）
「金融システム安定のための国際協力の起源と発展－バーゼル銀行監督委員会の発展過程－」

日時：2010 年 7 月 17 日（土）14:00～17:30
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告

1）神谷久覚氏（東京大学大学院）
「1910 年代日本における海上保険業の競争構造」
2）陳　玉雄氏（麗澤大学）
「近代中国における「銭荘」の衰退要因」
（参照文献『中国のインフォーマル金融と市場化』麗澤大学出版会、2010 年）

日時：2010 年 11 月 20 日（土）14:00～17:30
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告
1）R. スメサースト氏（ピッツバーグ大学）
「高橋是清と日本経済」（参照文献『高橋是清：日本のケインズ―その生涯と思想』東洋経済新報社、2010 年）
コメント：佐藤政則氏（麗澤大学）
2）吉國眞一氏（みずほ証券）・緒方四十郎氏（元・日本銀行）
「BIS と国際通貨体制」」（参照文献『サウンドマネー』蒼天社出版、2010 年）
コメント：矢後和彦氏（首都大学東京）

日時：2011 年 7 月 2 日（土）14:00～17:30
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告
1）佐久間　健氏（早稲田大学大学院）
「大正デモクラシー下における金融機関の政治問題化―社会的統合の視点から―」
2）坂東義徳氏（首都大学東京大学院）
「1970 年代シンガポールにおける対外開放政策の展開と IMF コンサルテーション」

日時：2011 年 11 月 26 日（土）14:00～17:30
会場：日本大学経済学部　7 号館 13 階　会議室 3
報告
1）堀　峰生氏（一橋大学大学院）
「万代順四郎が志向した銀行経営とは」
2）新井大輔氏（中央大学大学院）
「1980 年代における中小企業向け貸出の再検討」

日時：2012 年 3 月 24 日（土）14:00～17:30
会場：日本大学経済学部　7 号館 13 階　会議室 3
報告

1）鹿野嘉昭氏（同志社大学）
「太政官札、会計基立金と商法司」
2）高橋秀直氏（一橋大学大学院）
「再建金本位制離脱前後のイギリス金融市場動向の再検討」

日時：2012 年 7 月 28 日（土）14:00～17:30
会場：日本大学経済学部　7 号館 13 階　会議室 3
報告
1）田中　光氏（東京大学大学院）
「中央と地域の関係から見る「信用」創造と金融ルート形成の過程 －産業組合中央会（後の農林中金）と長野県の一産業組合（後の農協）の事例からー」
2）陶山悠紀美氏（立教大学大学院）
「ロイズ銀行初期金融・インサイダー・レンディングを超えてー」

日時：2012 年 11 月 17 日（土）14:00～17:00
会場：麗澤大学東京研究センター 大研究会室
合評会：寺西重郎『戦前期日本の金融システム』岩波書店、2011 年
報告
1 部「問題の所在と分析の準備」、4 部「戦間期から戦後へ」を中心に
伊藤　修氏（埼玉大学）
2 部「銀行」を中心に
岩間剛城氏（近畿大学）
3 部「金融市場」を中心に
早川大介氏（愛知大学）
総括コメント
石井寛治氏（東京大学名誉教授）
コメントに応えつつ
寺西重郎氏（日本大学）

日時：2013 年 3 月 2 日（土）14:00～17:00
会場：麗澤大学東京研究センター　大研究会室
報告
1）永廣　顕氏（甲南大学）
「日銀引受国債発行方式の形成過程：1932」
2）佐藤政則氏（麗澤大学）
「国債引受シンジケート銀行と売オペ：1932-37」

日時：2013 年 7 月 6 日（土）14:00～17:30
会場：麗澤大学東京研究センター
報告
1）南條　隆氏（日本銀行）・畑瀬真理子氏（日本銀行）
「戦前期日本におけるマネーと実体経済の関係について： フリードマン＝シュワルツ『米国金融史』(1963 年)を踏まえた日本金融史の分析」
2）菅原　歩氏（東北大学）
「カナダ変動相場制と IMF：1950-1962 年」

日時：2013 年 11 月 23 日（土）14:00～17:30
会場：麗澤大学東京研究センター
報告
1）土橋康人氏（慶應義塾大学大学院）
『トルーマン政権期の金融政策構築過程―「アコード」の再検討』
2）清水太陽氏（立教大学大学院）
『埼玉県における銀行合同の展開－武州銀行を事例として－』

日時：2014 年 3 月 15 日（土）13:00～17:00
場所：早稲田大学 11 号館 4 階第二会議室
報告
1）春井久志氏（関西学院大学）
「中央銀行の経済学――『カンリフ委員会審議記録』を読む――」
2）岸田　真氏（日本大学）
「日本のブレトンウッズ体制への復帰と戦前期外債処理問題」

国際金融部会

日時：2004 年 4 月 17 日（土）
会場：神戸大学経済経営研究所
報告
1）稲垣一之氏（神戸大学大学院）
「ユーロエリアにおける金融政策：LA-VAR モデルによる検証」
2）山上宏人氏（神戸学院大学）
「ユーロの国際政治経済学」

日時：2004 年 10 月 29 日（金）
場所：一橋大学商学研究科 丸の内産学連携センター
報告
1）岡野衛士氏（一橋大学大学院）
「Inflation Targeting during the Lost Decade in Japan」
2）福田慎一氏（東京大学）
「通貨危機後の東アジア経済圏における為替政策」（大野早苗氏（武蔵大学）との共著）
（一橋大学国際共同研究センター「アジア金融アーキテクチャー研究会」との共催）

日時：2005 年 5 月 7 日（土）
会場：関西学院会館
報告
1）道和孝治郎氏（神戸大学大学院）
「新しい開放マクロ経済学」に基づく金融政策の国際波及効果：ドル建て取引を仮定した日米アジア 3 カ国モデルによる分析」
2）岩壷健太郎氏（一橋大学）
Signaling Effects of Foreign Exchange Interventions and Expectation Heterogeneity among Traders
3）北村歳治氏（早稲田大学）
「イスラミック・ファイナンスにおける利子論の考察」

日時：2005 年 10 月 28 日（金）
会場：一橋大学商学研究科 丸の内産学連携センター（丸の内ビルディング 10 階）
報告
1）浦出隆行氏（野村資本市場研究所・一橋大学大学院）
「アジアにおける資本フローの分析(仮)」

2）木原隆司氏（財務省財務総合政策研究所）
「開発援助ファイナンスの新潮流」

日時：2006 年 5 月 27 日（土）14:00～17:00
会場：大阪市立大学文化交流センター会議室
報告
1）星河武志氏（神戸大学大学院）
“Testing for Causality-in-Variance :An Application to the Japanese Foreign Exchange Policy”
2）大田英明氏（愛媛大学）
「資本取引・金融自由化と経済発展―新しい成長のパラダイム―」

日時：2006 年 11 月 9 日（木）
会場：一橋大学商学研究科 丸の内産学連携センター（丸の内ビルディング 10 階）
報告
1）絹川直良氏（国際通貨研究所）
「通貨の非国際化と東アジア新興諸国の短期金融市場整備」
2）金京拓司氏（財務省）
「アジア通貨危機と地域為替協力」

日時：2007 年 3 月 25 日（日）9:20～19:30
会場：一橋大学、マーキュリータワー　5 階
国際金融部会研究会
“The Third International Workshop of Joint Research Study Group “EU Economy” of EUIJ Tokyo Consortium”

日時：2007 年 4 月 7 日（土）
会場：関西大学 100 周年記念会館第 2 会議室（2 階）
報告
1）山本周吾氏（神戸大学大学院）
“The Structural Change of Balassa-Samuelson Effects in Japan in 1990s”
2）富崎美穂氏（東京大学大学院）
「韓国の金融危機対策の特徴」
3）小笠原　悟氏（埼玉大学大学院）
「量的緩和政策の為替レートへの影響」
4）クラフチック・マリウシュ氏（龍谷大学）

“Asian Monetary Cooperation: Economic Necessity or Political Illusion”

日時：2007 年 9 月 11 日（火）9:55～19:45
会場：一橋大学　国立東キャンパス　マーキュリータワー　7 階
国際シンポジウム
The International Symposium of Joint Research Study Group "EU Economy" of EUIJ Tokyo Consortium

日時：2007 年 11 月 23 日（金・祝）　13:00～
場所：神戸大学経済学研究科会議室（本館 2 階）
ワークショップ『ＥＵ拡大とその経済効果』
（共催：日本 EU 学会、EU インスティテュート関西、日本金融学会国際金融部会）
プログラム：
基調講演
EU-Enlargement: How Far, How Fast?
Michael Reiterer（Adjunct Professor for International Politics, University of Innsbruck）
論題及び報告者
1. Trade Effects of the European Agreements: A Theory-Based Gravity Approach
Julia Spies (University of Hohenheim)
2. Enlarging the EMU to the East: What Effects on Trade
Ansgar Belke (University of Duisburg-Essen)
3. Volatility of Exchange Rates in Selected New EU Members: Evidence from Daily Data
Jarko Fidrmuc (University of Munich and CES-Ifo
討論者
Eiji Ogawa (Hitotsubashi University)
Hiromasa Kubo (Kobe University)

日時：2008 年 4 月 5 日（土）13:30 ～
会場：龍谷大学深草キャンパス　紫英館 2 階　第 2 会議室
報告
1）布目稔生氏
「転換期を迎えた日本の ODA」
2）福井真樹氏（みずほコーポレート銀行）
「円キャリートレイド的なポジションの動向」
3）山上秀文氏（近畿大学）
「東アジアの新しい金融・資本市場の構築：銀行融資市場と債券市場の融合」

日時：2008 年 7 月 19 日（土）10:30～17:30
会場：一橋大学国立東キャンパス　マーキュリータワー7 階
International Conference by EU Institute in Japan and Bocconi University

日時：2009 年 2 月 23 日（月）10:00～17:00
会場：一橋大学　国立東キャンパス　マーキュリータワー　7 階　会議室
国際コンファレンス
The International Conference of Joint research Study Group "EU Economy" of EUIJ-Tokyo Consortium

日時：2009 年 4 月 11 日（土）13:30～
会場：近畿大学本部キャンパス（東大阪キャンパス）B 館（経済学部棟）10 階　マルチメディア会議室
報告
1）星河武志氏（近畿大学）
「外国為替市場介入と為替相場の経路」
2）中島清貴氏（甲南大学）
"Credit Spreads on Corporate Bonds and the Macroeconomy in Japan"
3）竹中正治氏（龍谷大学）　（前国際通貨研究所チーフエコノミスト）
「縮小基調を辿る米国の経常収支赤字：所得効果、為替相場効果に 次ぐ第３の要因？」

The International Conference of Joint Research Study Group "EU Economy" of EUSI in Tokyo
The Financial Crisis: Learning from Europe, Learning from Japan
Date and Time: 12 December, 2009 (Sat) , 10:00 - 17:00
Venue: Keio University (Mita Campus), East Building Hall (8F),East Research Building
Organized by: Joint Research Study Group "EU Economy" of EUSI in Tokyo
Sponsored by: Japan Society of Monetary Economics, Group of International Finance
Language: English
Agenda

9:40 - 10:00	Registration
10:00 - 10:10	Opening Remarks
	Prof. Eiji Ogawa, Hitotsubashi University
Session I	Japan's Lost Decade and the Current Crisis
	Chair: Prof. Takamoto Sugisaki, Tsuda College

10:10 - 11:00	Speaker: Prof. Sahoko Kaji, Keio University
	Title: “Japan's Lost Decade revisited”
	Discussant: Prof. Souichi Enkyo, Nihon University
11:00 - 11:50	Speaker: Prof. Mitsuhiro Fukao, Keio University
	Title: “Comparing the current crisis in the USA and the crisis in Japan”
	Discussant: Prof. Toshiki Jinushi, Kobe University
11:50 - 13:00	Lunch
Session Ⅱ	Europe’s Experience in the Current Crisis
	Chair: Prof. Chisato Shibayama, Otaru University of Commerce
13:00 - 13:50	Speaker: Prof. Carlo Altomonte, Bocconni University
	Title: “Europe and the financial crisis: short term responses and medium term implications”
	Discussant: Prof. Soko Tanaka, Chuo University
13:50 - 14:40	Speaker: Prof. Helmut Wagner, University of Hagen
	Title: “Implications of the Global Financial Crisis for EMU-Integration and Real Convergence in the EU” (tentative)
	Discussant: Associate Prof. Masao Kumamoto, Tokyo Keizai University
14:40 - 15:00	Coffee Break
Session Ⅲ	Exchange Rates and Other External Effects
	Chair: Lecturer Hideki Hayashi, Keio University
15:00 - 15:50	Speaker: Prof. Iain Begg, London School of Economics
	Title: “European policies and effects of the global crisis from the point of view of the UK”
	Discussant: Prof. Junko Shimizu, Senshu University
15:50 - 16:40	Speaker: Prof. Eiji Ogawa, Hitotsubashi University
	Title: “Effects on the Yen then and now, and effects on the Euro and the Pound during the current crisis”
	Discussant: Prof. Kentaro Kawasaki, Toyo University
17:00 - 17:10	Closing Remarks
	Prof. Sahoko Kaji, Keio University

日時：2010 年 4 月 24 日（土）13:00～

会場：同志社大学今出川キャンパス　至誠館 3 階会議室

報告

1）Nguyen Thi Thuy Vinh 氏（神戸大学大学院）

「Exchange Rate Volatility and Economic Performances in Vietnam」
2）赤羽　裕氏（みずほコーポレート銀行・埼玉大学大学院）
「マレーシア為替・資本規制（1998 年）について：貿易への影響と ACU への応用」
3）井澤秀記氏（神戸大学）
「IMF による為替相場制度の分類改訂について」

Who will provide the next Financial Model? Asia's Financial Muscle and Europe's Financial Maturity
Hosted by the Joint Research Study Group on EU Economy, EUSI in Tokyo Co-Hosted by the Support Project for Strategic University Collaborations Supported by International Monetary Economics Study Group, the Japan Society of Monetary E

Saturday, 11th December, 2010
・Conference Room 307
・Faculty Building 3
・Kunitachi Campus
・Hitotsubashi University
・Japan

Programme

8:30 - 9:00	Registration
9:00 - 9:10	Opening Remarks
	Prof. Toshiro Tanaka, EUSI and Keio University
	Prof. Eiji Ogawa, EUSI and Hitotsubshi University
Session Ⅰ	Financial regulation
	Chair: Prof. Chisato Shibayama, Otaru University of Commerce
9:10 - 9:30	Title: "The EU's approach to improving financial regulation"
	Speaker: Prof. Iain Begg, London School of Economics
9:30 - 9:50	Title: "Asia's approach to in Financial Services Agency proving financial regulation"
	Speaker: Mr. Atsushi Mimura, Financial Services Agency
10:00 - 10:15	Discussion
10:15 - 10:30	Coffee Break
Session Ⅱ	Monetary and fiscal policy
	Chair: Prof. Souichi Enkyo, Nihon University
10:30 - 10:50	Title: "ECB's policy and implications of the worsening fiscal balances"

	Speaker: Dr. Francecso Drudi, ECB
10:50 - 11:10	Title: “Monetary (and fiscal) policies in non-Japan Asia”
	Speaker: Prof. Akira Ariyoshi, Hitotsubashi University
11:10 - 11:30	Title: “China's monetary/financial policy and financial sector”
	Speaker: Dr. Alicia Garcia-Herrero, BBVA Hong Kong
11:30 - 11:35	Discussant: Prof. Soko Tanaka, Chuo University
11:35 - 11:40	Discussant: Prof. Masao Kumamoto, Tokyo Keizai University
11:40 - 11:45	Discussant: Ms. Kumiko Okazaki, Bank of Japan
11:45 - 12:05	Discussion
12:05 - 13:30	Lunch
	(Conference Room 308)
Session Ⅲ	Financial sector
	Chair: Prof. Sanae Ohno, Musashi University
13:30 - 13:50	Title: “Competitiveness/maturity/stability of Europe's financial institutions”
	Speaker: Prof. Carlo Altomonte, Bocconi University
13:50 - 14:10	Title: “Competitiveness /maturity/stability of Japan's financial institutions”
	Speaker: Prof. Mitsuhiro Fukao, Keio University
14:10 - 14:30	Title: “BOJ's policy and implications of the worsening fiscal balances” (tentative)
	Speaker: Dr. Shigenori Shiratsuka, Bank of Japan
14:30 - 14:35	Discussant: Mr. Hideki Hayashi, Keio University and Shinko Security
14:35 - 14:40	Discussant: Prof. Etsuko Katsu, Meiji University
14:40 - 14:45	Discussant: Prof. Naoyuki Yoshino, Keio University
14:45 - 15:05	Discussion
15:05 - 15:25	Coffee Break
Session Ⅳ	Exchange rate system
	Chair: Prof. Yuri Sasaki, Meiji Gakuin University
15:25 - 15:45	Title: “Implications for EMU-integration of Europe’s Policy Response to the fiscal crisis (in Greece and other countries)”
	Speaker: Prof.Helmut Wagner, University of Hagen
15:45 - 16:05	Title:“Regional Monetary Co-operation in Asia”
	Speaker: Prof. Eiji Ogawa, EUSI and Hitotsubashi University
16:05 - 16:25	Title: “Role of the SDR”
	Speaker: Dr. Paola Subacchi, Chatham House

16:25 - 16:45　Title: “Financial crises, balance of payments and exchange rate regimes”
Speaker: Prof. Sahoko Kaji, EUSI and Keio University
17:05 - 17:25　Discussion
17:25-17:40　Closing Remarks
Prof. Sahoko Kaji, EUSI and Keio University
18:00-20:00　Reception (venue：Sano Shoin)

日時：2011 年 4 月 23 日（土）　13:30～
会場：大阪経済大学　大隅キャンパス G 館 6 階 G61 教室
報告
1）渡辺寛之氏（神戸大学大学院）
”Detecting the bubbles in central and eastern European countries”
2）山本周吾氏（神戸大学研究員）
「アジア通貨危機と貿易収支の反転：“Investment Drought”と為替レートの影響」
3）西村陽造氏（立命館大学）（前国際通貨研究所経済調査部長）
「幻想の東アジア通貨統合～日本の経済・通貨戦略を問う～」

日時：2011 年 12 月 10 日（土）
会場：慶應義塾大学三田キャンパス
EUSI in Tokyo "EU 経済"共同研究グループ
国際コンフェランス
Who will provide the next Financial Model?
Asia's Financial Muscle and Europe's Financial Maturity
主催：EUSI in Tokyo 「EU 経済」共同研究グループ
協賛：日本金融学会国際金融部会
プログラム
8:30 - 9:00　受付
9:00 - 9:10　開会の挨拶
小川英治（EUSI／一橋大学）
Session I　The Financial Regulation
座長：柴山千里　教授（小樽商科大学）
9:10 - 9:30　タイトル：“The EU’s Approach to Improving Financial Regulation”
スピーカー：Prof. Iain Begg, London School of Economics
9:30 - 9:50　タイトル：“Asia’s Approach to Improving Financial Regulation”

	スピーカー：三村　淳　氏（金融庁）
9:50 - 9:55	討論者：井上　淳　准教授（大妻女子大学）
9:55 - 10:00	討論者：鯉渕　賢　准教授（中央大学）
10:00 - 10:15	討論
10:15 - 10:30	コーヒーブレイク
Session Ⅱ	Monetary and Fiscal policy
	座長：円居総一　教授（日本大学）
10:30 - 10:50	タイトル：“ECB's Policy and Implications of the Worsening Fiscal Balances”
	スピーカー：Dr. Francesco Drudi/ECB
10:50 - 11:10	タイトル：“Monetary Policy in Emerging Asia: Evolution and Challenges Spanning the Asian and Global Financial Crises”
	スピーカー：有吉　章　教授（一橋大学）
11:10 - 11:15	討論者：田中素香　教授（中央大学）
11:15 - 11:20	討論者：熊本方雄　教授（東京経済大学）
11:25 - 12:00	討論
12:00 - 13:30	昼食
Session Ⅲ	The Financial Sector
	座長：吉野直行　教授（EUSI／慶應義塾大学）
13:30 - 13:50	タイトル：“Competitiveness/Maturity/Stability of Europe's Financial Institutions”
	スピーカー：　Prof. Carlo Altomonte/Bocconi University
13:50 - 14:10	タイトル：“Competitiveness/Maturity/Stability of Japan's Financial Institution”
	スピーカー：深尾光洋　教授（慶應義塾大学）
14:10 - 14:30	タイトル：“Evolution of Quantitative Easing” (tentative)
	スピーカー：白塚重典　氏（日本銀行）
14:30 - 14:35	討論者：林　秀毅　氏（慶應義塾大学・みずほ証券）
14:35 - 14:40	討論者：勝　悦子　教授（明治大学）
14:40 - 14:45	討論者：地主敏樹　教授（神戸大学）
14:45 - 15:05	討論
15:05 - 15:25	コーヒーブレイク
Session Ⅳ	Exchange Rate System
	座長：佐々木百合　教授（明治学院大学）
15:25 - 15:45	タイトル：“Implications for EMU-Integration of Europe’s Policy Response to the Fiscal Crisis”

スピーカー：Prof. Helmut Wagner/University of Hagen

15:45 - 16:05　タイトル：“Regional Monetary Cooperation Asia”

スピーカー：小川英治　教授（EUSI／一橋大学）

16:05 - 16:25　タイトル：“Beyond the Dollar? ? A Tentative View of the International Monetary System to 2020”

スピーカー：　Dr. Paola Subacchi/Chatham House

16:25 - 16:45　タイトル：“Financial Crises, B alance of Paymnets and Exchange Rate Regimes”

スピーカー：嘉治佐保子　教授（EUSI/慶應義塾大学）

16:45 - 16:50　討論者：岡野衛士　准教授（千葉経済大学）

16:50 - 16:55　討論者：工藤芽衣　氏（津田塾大学）

16:55 - 17:00　討論者：川﨑健太郎　准教授（東洋大学）

17:00 - 17:05　討論者：清水順子　准教授（専修大学）

17:05 - 17:25　討論

17:25 - 17:40　開会の挨拶

嘉治佐保子　教授（慶應義塾大学）

18:00 - 20:00　懇親会（慶應義塾大学東館 8 階ホール）

日時：2012 年 4 月 7 日（土）13:30～

会場：神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ　大阪市北区鶴野町　大阪ゲートタワー 8F

報告

1）猪口真大氏（京都産業大学）

「世界金融危機の世界各国への伝播」（坂井功治氏と共著）

2）山口昌樹氏（山形大学）

「地方銀行によるタイ国銀行との業務提携：誘因と実態の解明」

3）高橋　亘氏（神戸大学）

「アジアの金融統合：これまでの経験と今後の課題」

日時：2013 年 1 月 12 日（土）　15:00～17:10

場所：明治学院大学白金キャンパス本館 8 階経済学部共同研究室

報告

1）熊倉正修氏（大阪市立大学）

「日本の外国為替市場介入と外貨準備管理の問題点」

2）川崎健太郎氏（東洋大学）

「How does the Regional Monetary Unit work as a surveillance tool in East Asia?」

2013 年 4 月 27 日（土） 13:00～
会場：大阪市立大学文化交流センター
報告
1）Tran Thi Van Anh 氏（神戸大学大学院）
「アジアにおける上場企業の資金調達」
2）吉田裕司氏（滋賀大学）
「マーケットシェアと為替パススルー：同一国輸出企業間の競争」
3）大田英明氏（立命館大学）
「日本の金融政策と国際資本流入の影響」

日時：2014 年 1 月 25 日（土）15:00 ～17:10
場所：明治学院大学白金キャンパス本館 8 階経済学部共同研究室
1）田中茉莉子氏（明海大学）
「通貨交換のミクロ的基礎」
2）大野弘明氏（明治学院大学）
「Volatility, Market Integration, and Growth」

中央銀行部会

日時：2004 年 3 月 27 日（土）
会場：中央大学駿河台記念館
報告
1）藤井良広氏（日本経済新聞社経済部編集委員）
「新日銀法下での制度面、政策面での機能性の検証」
2）鮎瀬典夫氏（日本銀行金融研究所・参事）
「法的観点からみた中央銀行の独立性」

日時：2004 年 4 月 24 日（土）
会場： 関西学院大学　K.G.ハブスクエア大阪
報告
1）Mr. Stephen Davies 氏（神戸大学経済経営研究所）
"Finessing the Zero Bound on Interest Rates"
討論者：地主敏樹氏（神戸大学）
2）佐野幹雄氏（名古屋証券取引所専務取締役）
「金融自由化と日本銀行 」

日時：2004 年 9 月 4 日（土）
会場：麗澤大学東京研究センター 研究会室
報告
1）大貫摩里氏 （日本銀行金融研究所）
「日本銀行のネットワークと金融市場の形成----日銀設立前後から２０世紀初頭の為替送金と貸付金利の動向を中心として」
2）早川大介氏（東京大学大学院）
「日本銀行と地域経済----1920 年代日銀松山支店誘致運動を事例に」

日時：2004 年 12 月 11 日（土）
会場：早稲田大学西早稲田キャンパス 9 号館商学部第一会議室
報告
1）薫　建偉氏・斉藤壽彦氏（千葉商科大学）
「中国為替制度の改革と人民元高の可能性について」
2）湯本崇雄氏（日本銀行）
「中高教科書の中の日本銀行」

日時：2005 年 4 月 23 日（土）
会場：愛知大学　車道キャンパス
報告
1）栗原　裕氏（愛知大学）
「量的緩和政策の検証と出口政策」
2）建部正義氏（中央大学）
「内生的貨幣供給論から見た量的緩和政策」

日時：2005 年 9 月 24 日（土）14:00～17:00
会場：　関西学院大学　大阪梅田キャンパス
報告
1）根本直子氏（スタンダード＆プアーズ）
「金融機関の債券スプレッドーシグナルとしての役割と限界」
2）小林礼実氏（名古屋大学大学院）
「Is Issuing Subordinated Debt by Japanese Banks Effective in the Japanese Market?」

日時：2005 年 9 月 24 日（土）
会場：明治大学駿河台キャンパス,
報告
1）NTT データ・決済ソリューション事業本部
「エレクトロニック・マネーの現状」
2）建部正義氏（中央大学）
「電子マネーの貨幣論上、金融政策論上の位置付け」

関東地区研究会
日時：2006 年 4 月 1 日（土）
会場：明治大学駿河台キャンパス研究棟
報告
1）立脇和夫氏（早稲田大学）
「スウェーデン中央銀行形成史―世界最古の中央銀行の形成―」
2）折谷吉治氏（明治大学）
「中央銀行の存在理由―取引コスト経済学からのアプローチー」

西日本地区研究会
日時：2006 年 4 月 15 日（土）14:00～17:00
会場：　愛知大学　車道キャンパス

パネル・ディスカッション
共通論題：「デフレ克服と金融政策―新生日本銀行を中心に―」
パネリスト：千田純一氏（中京大学）・根津永二氏（愛知学院大学）・春井久志氏（関西学院大学）
座長： 鐘ヶ江毅氏（中京大学）

日時：2007 年 3 月 31 日（土）14:00～17:00
会場：明治大学駿河台キャンパス研究棟
報告
1）宮沢和正氏（ビットワレット社執行役員常務）
「電子マネーEdy の現状と将来」
2）大泉　琢氏（日本銀行決済機構局）
「日銀ネット次世代 RTGS の開発について」

日時：2007 年 7 月 14 日（土）14:00～17:00
会場：神戸大学経済経営研究所会議室　（研究所新館 2 階）
報告
1）後藤　康氏（三菱総合研究所）
「金融政策と期待形成」
2）加藤　出氏（東短リサーチ）
「マネーマーケットから見た量的緩和策の実際」

中央銀行研究部会（関東）
日時：2007 年 10 月 6 日（土）14:00～17:00
会場：明治大学駿河台キャンパス　研究棟 4 階・第 1 会議室
報告
1）露口洋介氏（日本銀行国際局企画役）
「最近の中国の金融情勢」
2）田中　修氏（財務省財務総合政策研究所研究部長）
「最近の中国のマクロ経済情勢」

日時：2008 年 4 月 5 日（土）14:00～17:00
会場：明治大学駿河台校舎研究棟 4 階第 1 会議室
報告
1）熊倉修一氏（日本銀行）
「日本銀行のプルーデンス政策―日銀考査の意義と限界―」

2）山村延郎氏（拓殖大学）・三田村　智氏（慶応義塾大学大学院博士課程後期課程）
「欧州中央銀行制度の金融監督行政の役割」

日時：2008 年 9 月 6 日（土）14:00～17:00
会場：明治大学駿河台校舎研究棟 4 階第 1 会議室
報告
1）吉國眞一氏（新光証券シニアアドバイザー）
「2 つの Stability を巡る中央銀行間の国際協力」
2）白川浩道氏（クレディ・スイス証券経済調査部長）
「日本銀行のインフレ参照政策に関する批判的検討～日銀は期待インフレを安定化させられるのか？」

日時：2009 年 3 月 28 日（土）14:00～17:00
会場：麗澤大学　東京研究センター
報告
1）関根敏隆氏（日本銀行企画局参事役）
「中央銀行とインフレ予想」
2）田中隆之氏（専修大学）
「日本の金融政策の経験、政策論争の成果をどう生かすかーーサブプライム発世界金融危機へのインプリケーション」

日本金融学会中央銀行研究部会（西日本地区）研究会
（神戸大学金融研究会 7 月例会と共催）
日時：2009 年 7 月 18 日（土）14:00～
会場：神戸大学経済学部　中会議室　（第 3 学舎西側 1 階）
報告
1）髙屋定美氏（関西大学）
「EU でのマクロ経済政策の枠組みと欧州金融危機」
2）関根敏隆氏（日本銀行）
「最近の金融政策運営について」

日時：2009 年 9 月 26 日（土）14:00～17:00
会場：麗澤大学　東京研究センター
報告
1）竹田陽介氏（上智大学）
「資産価格と金融政策」

2）北原　徹氏（立教大学）
「サブプライム金融危機と証券化の功罪」

日時：2010 年 3 月 20 日（土）14:00～17:00
会場：麗澤大学　東京研究センター
報告
1）古賀麻衣子氏（日本銀行金融市場局）
「世界的な金融危機の波及とグローバルな銀行活動 ― 既存研究からのインプリケーション ―」
2）大山　剛氏（あらた監査法人　リスク・レギュラトリー・アドバイザリー）
「金融危機後に構築すべき強靭な金融システム ― 当局と金融機関間の適切な役割分担の確立 ―」

日時：2010 年 9 月 18 日（土）14:00～17:00
会場：麗澤大学　東京研究センター
報告
1）鈴木敏之氏（三菱東京 UFJ 銀行　シニアマーケットエコノミスト）
「危機後のインフレーション・ターゲット」
2）清水誠一氏（日本銀行金融機構局　金融モニタリング課長）
「米国金融規制改革について ― 金融システム安定へのインプリケーション ―」

日時：2011 年 9 月 6 日（火）14:00～17:00
会場：麗澤大学　東京研究センター
報告
1）翁　百合氏（日本総合研究所理事）
「マクロプルーデンスの視点に立った規制監督政策－背景、論点、課題」
2）折谷吉治氏（明治大学）
「プルーデンス政策のオーナーシップ理論」

日時：2012 年 3 月 17 日（土）14:00～17:00
会場：麗澤大学　東京研究センター
報告
1）河村小百合氏（日本総合研究所主任研究員）
「欧州ソブリン危機の最近の展開と国際金融市場」
2）梅田雅信氏（首都大学東京）
「日銀の政策形成」

日時：2012 年 9 月 7 日（金）14:00～17:00
会場：成城大学　3 号館 2 階　321 教室
報告
1）藤木　裕氏（日本銀行金融研究所参事役）
“Policy Measures to Alleviate Foreign Currency Liquidity Shortages under Aggregate Risk with Moral Hazard“
2）井上哲也氏（野村総合研究所主席研究員）
「先進諸国の中央銀行の政策課題－金融政策と金融システム安定策のクロスオーバー」

中央銀行部会（関東）
日時：2013 年 3 月 22 日（金）14:00～17:00
会場：トムソン・ロイター・マーケッツ株式会社　赤坂 Biz タワーオフィス
報告
1）土屋宰貴氏（日本銀行金融機構局）
「日銀ネット次世代 RTGS 化と決済動向」
2）中島真志氏（麗澤大学）
「国際的な潮流からみた日銀ネット次世代 RTGS の位置づけ」

日時：2013 年 8 月 27 日（火）14:00～17:00
会場：麗澤大学　東京研究センター
報告
1）春井久志氏（関西学院大学）
「イングランド銀行はいつ中央銀行に変貌したのか」
2）末澤豪謙氏（SMBC 日興証券　チーフ債券ストラテジスト）
「異次元緩和と国債市場」

中央銀行部会（関東）
日時：2014 年 3 月 22 日（土）14:00～17:00
会場：成城大学
報告
1）蒲原為善氏（日本銀行金融研究所歴史研究課長）
「日本銀行アーカイブについて」
2）権上康男氏（横浜国立大学名誉教授）
「アーカイブにもとづく欧州通貨統合史：新たな知見と論点」

震災復興金融部会

日時：2011 年 10 月 15 日（土）14:00～17:00
会場：明治大学駿河台キャンパス研究棟　4 階　第 3 会議室
報告
1）相澤朋子氏（東北文化学園大学）
「東日本大震災の経済的影響と課題」
2）西山慎一氏（東北大学）
「東日本大震災の復興金融に関する政策提言」

日時：2011 年 12 月 22 日（木）14:00～17:00
会場：同志社大学東京オフィス
報告
1）内田浩史氏（神戸大学）
「阪神大震災と中小企業金融について」
2）西山慎一氏（東北大学）
「二重債務問題克服に向けた政策提言」
3）平田英明氏（法政大学）
「復興に向けた金融面からの政策提言～民間資金の呼び込み、二重ローン対策、原発問題」

日時：2012 年 10 月 27 日（土）14:00～17:00
会場：青山学院大学　ガウチャー・メモリアル・ホール（15 号館）5 階　15504 教室
報告
1）齊藤壽彦氏（千葉商科大学）
「東日本大震災発生後 1 年間における金融上の対策――金融機関の被災中小企業向け貸出を中心として――」
2）相澤朋子氏（青山学院大学）
「東北地方における地域金融機関の現状と課題」
3）西山慎一氏（東北大学）
「被災地における企業活動状況と復興状況：『震災復興企業実態調査』の調査報告」

日時：2013 年 3 月 23 日（土）14:00～17:00
会場：東北大学片平キャンパス・エクステンション教育研究棟 6F 講義室 C
報告
1）品田誠司氏（仙台市役所）
「災害後の起業家活動－なぜ、大災害の発生が起業家の増加を引き起こすのか？」

2）増島雄樹氏（日本経済研究センター）
「東北被災地向け貸出の課題と改善余地」

日時：2013 年 7 月 13 日（土）14:00～17:00
会場：青山学院大学　11 号館　1134 教室
報告
1）浅井義裕氏（明治大学）
「東日本大震災後の家計の保険需要とロスコントロール」
2）相澤朋子氏（青山学院大学）
「地域金融機関と地域の経済成長 」
3）福田一雄氏（日本銀行）
「東日本大震災における金融機能 」

日時：2013 年 8 月 31 日（土）14:00～16:50
会場：東北福祉大学 ステーションキャンパス　6 階 601 教室
報告
1）鴨池　治氏（東北福祉大学）
「自然災害リスクに対する金融面での対応について」
2）亀坂安紀子氏（青山学院大学）
「東日本大震災前後の外国人投資家と国内投資家の行動」
3）吉田　浩氏（東北大学）
「東日本大震災、被災地・首都圏比較調査からわかること」

⑤　学会誌（金融経済研究、JJMFE）の目次

『金融経済研究』第 21 号（2004 年 12 月）

［大会・記念講演］

自己資本と中央銀行
……植田和男　1

［論文］

信用組合間合併における規模の経済性の有用性
……岩坪加紋　13

為替レートにおけるバブルの実証分析
……熊本方雄　31

An Empirical Investigation of Cost Efficiency in Japanese Banking
……Keiichi Hori　45

市場別価格設定行動とインフレターゲティング
……岡野衛士　68

信用金庫の効率性の計測
……播磨谷浩三　92

日本の政策反応関数
……小塚匡文　112

［書評］

松本朗著『円高・円安とバブル経済の研究』（吉田賢一）
深尾光洋・吉川洋編『ゼロ金利と日本経済』（中川竜一）
齋藤壽彦著『信頼・信認・信用の構造』（深町郁彌）
寺西重郎著『日本の経済システム』（田中秀臣）
日経金融新聞編・地方金融史研究会著『日本地方金融史』（鎮目雅人）
スティグリッツ，グリーンワルド著，内藤純一・家森信善訳『新しい金融論』（榊原英資）
花崎正晴・寺西重郎編『コーポレート・ガバナンスの経済分析』（首藤　惠）
齊藤正著『戦後日本の中小企業金融』（福光　寛）
津田和夫著『現代銀行論研究序説』（一之瀬篤）

『金融経済研究』第 22 号（2005 年 6 月）

［大会･記念講演］

中央銀行の情報発信と金融政策
……須田美矢子　1

［論文］

Adoption of New Technologies in the Japanese Banking Industry
……Michiko Miyamoto　22
誤差修正 VAR モデルによる通貨代替の実証分析
……熊本尚雄・熊本方雄　41
マネタリーモデルの共和分分析
……福本幸男　59
住宅購入を考慮した家計の金融資産選択
……上山仁恵・下野恵子　77
A Conjectural User-Revenue Model of Financial Firms under Dynamic Uncertainty
……Tetsushi Homma and Toshiyuki Souma　95
1990 年代後半の国際資本移動におけるアメリカの役割
……徳永潤二　111

［書評］

西嶋鳴人著『ディレギュレーション時代の公的金融』(内田　滋)
佐藤隆文著『信用秩序政策の再編』(翁　百合)
吉冨　勝著『アジア経済の真実』(勝　悦子)
安部悦生編著『金融規制はなぜ始まったのか』(邉　英治)
楊枝嗣朗著『近代初期イギリス金融革命』(小林襄治)
伊牟田敏充著『昭和金融恐慌の構造』(永　廣顕)
須藤時仁著『イギリス国債市場と国債管理』(釜江廣志)
2004 年度金融学会春季大会経過報告
2004 年度金融学会秋季大会経過報告
各部会報告記事

『金融経済研究』第 23 号（2006 年 6 月）

［大会・会長講演］

不動産価格と金融市場
……清水啓典　1

［大会・特別講演］

25 年後の「金融政策と銀行行動」
……岩田一政　15

［論文］

デフレ下における非上場企業のデフォルト分析
……福田慎一・粕谷宗久・赤司健太郎　31

Monitored versus Non-monitored Finance: The Bank-centered System as a Coordination Failure
……Hideaki Murase　51

退職給付債務と企業の投資行動
……佐々木隆文　65

日本の証券市場の効率性とノイズの大きさ
……木成勇介　86

［書評］

福田慎一編著『日本の長期金融』（小川一夫）
浅井良夫著『戦後改革と民主主義』（岡崎哲二）
J・ペルクマンス著、田中素香全訳『EU 経済統合』（星野　郁）
村本孜著『リレーションシップ・バンキングと金融システム』（栗原　裕）
金井雄一『ポンドの苦闘』（吉田　暁）
2005 年度金融学会春季大会経過報告
2005 年度金融学会秋季大会経過報告
各部会報告記事

『金融経済研究』第 24 号（2007 年 3 月）

「ショートペーパー」セクションの新設について
……日本金融学会『金融経済研究』編集委員会
［大会・特別講演］

バブル崩壊以降の破綻処理政策の彷徨
……西村吉正　2
［論文］

寡占経済における金融の不安定性，循環と所得分配
……二宮健史郎　12
マル優制度と家計の資産選択
……関田静香　26
地銀の預貸利鞘とリレーションシップ・バンキング
……石橋尚平　49
東アジアの不動産価格と銀行対外債務の銀行貸出への影響
……猪口真大　69
［書評］

植田和男著『ゼロ金利との闘い』（宮尾龍蔵）
宮尾龍蔵『マクロ金融政策の時系列分析』（細野　薫）
筒井義郎著『金融業における競争と効率性』（岡崎哲二）
ラグラム・ラジャン，ルイジ・ジンガレス著，堀内昭義ほか訳『セイヴィング・キャピタリズム』（寺西重郎）
櫻川昌哉著『金融立国試論』（村瀬英彰）
藤原賢哉著『金融制度と組織の経済分析』（小西　大）
釜江廣志著『日本の国債市場と情報』（須齋正幸）
福田慎一・小川英治編『国際金融システムの制度設計』（白井早由里）
松浦克己・白石小百合著『資産選択と日本経済』（村本　孜）
堀江康熙編著『地域金融と企業再生』（藤原賢哉）
松本久雄著『マルクス信用論の解明と展開』（建部正義）
2006 年度金融学会春季大会経過報告
2006 年度金融学会秋季大会経過報告
各部会報告記事

『金融経済研究』第 25 号（2007 年 10 月）

［大会・会長講演］

インフレーションの終焉
……清水啓典　1

［論文］

経済実験とアンケート調査に基づく時間割引率の研究
……晝間文彦・池田新介　14
パススルーの低下は為替レートの経常収支調整機能を弱めるのか
……五百旗頭真吾　34
東アジア社債市場の発展は可能か？
……永野　護　55
インサイダー取引が株価形成に与える影響
……三好祐輔　72

［書評］

地主敏樹著『アメリカの金融政策』（鹿野嘉昭）
高木仁著『アメリカの金融制度（改訂版）』（翁　百合）
二宮健史郎著『金融恐慌のマクロ経済学』（吉田博之）
植田宏文著『金融不安定性の経済分析』（二宮健史郎）
益田安良著『中小企業金融のマクロ経済分析』（根本忠宣）
岡田義昭著『国際金融の新たな枠組み』（根津永二）
向壽一著『マネタリー・エコノミクス』（北原　徹）
2007 年度日本金融学会春季大会経過報告
各部会報告記事

『金融経済研究』第 26 号（2008 年 4 月）

［国際金融パネル］

アジア通貨危機から 10 年
……小川英治・伊藤隆敏・河合正弘・浅川雅嗣　1

［論文］

証券業の再編と効率性の検証
……播磨谷浩三・奥山英司　27

家計の資産選択における実物資産の位置付け
……下野恵子・上山仁恵　41

財政政策の効果について
……藤井隆雄　63

銀行の追い貸しインセンティブと銀行規制
……豊福建太　87

［書評］

伊藤隆敏・林伴子著『インフレ目標と金融政策』（浜田宏一）
小川一夫著『大不況の経済分析』（地主敏樹）
田中敦著『日本の金融政策』（岡部光明）
宮島英昭編著『日本の M&A』（小藤康夫）
八木慶和著・齊藤壽彦監修『日本銀行総裁　結城豊太郎』（鈴木恒一）
2007 年度日本金融学会秋季大会経過報告
各部会報告記事

『金融経済研究』第 27 号（2008 年 10 月）

［論文］

「失われた 10 年」の債権放棄
……鯉渕　賢　1
景気循環同調性の決定要因
……吉見太洋　25
Why Watchdogs Sometimes Forget to Bark?
……Hideaki Murase　47
米国金融システムの二面性
……内田　聡　58

［書評］

筒井義郎・植村修一編『リレーションシップバンキングと地域金融』（堀江康熙）
池尾和人著『開発主義の暴走と保身』（荒井好和）
中原伸之著『日銀はだれのものか』（鐘ヶ江毅）
小野有人著『新時代の中小企業金融』（村瀬英彰）
2008 年度日本金融学会春季大会経過報告
各部会報告記事

『金融経済研究』第 28 号（2009 年 4 月）

［大会・会長講演］

地域金融研究の課題
……筒井義郎　1

［展望論文］

長期的貸出関係に関する理論と実証
……清水克俊・家森信善　23

［論文］

信用金庫の合併
……坂井功治・鶴　光太郎・細野　薫　47

銀行部門と地域の経済発展
……山根智沙子・筒井義郎　68

［ショートペーパー］

銀行における取締役会による企業統治
……冨村　圭　91

消費者金融と企業貸出の連関
……工藤和久　100

［書評］

藤原秀夫著『マクロ貨幣経済の基礎理論』（清水啓典）
渡辺努・植杉威一郎編著『検証中小企業金融』（益田安良）
岡部光明著『日本企業と M&A』（米澤康博）
山上秀文著『東アジアの新しい金融・資本市場の構築』（小川英治）
熊倉修一著『日本銀行のプルーデンス政策と金融機関経営』（建部正義）
山口博教著『ドイツ証券市場史』（清田　匡）
最近の金融の教科書について（櫻川昌哉）
2008 年度日本金融学会秋季大会経過報告
各部会報告記事

『金融経済研究』第 29 号（2009 年 10 月）

［論文］

貿易統計を利用した契約通貨の検証
……大野正智　1
途上国・新興国における金融グローバル化の進展
……上坂　豪　27
日本における危険資産保有比率の決定要因
……木成勇介・筒井義郎　46
経営者報酬と取締役会の経営監視機能についての検証
……坂和秀晃・渡辺直樹　66

［書評］

堀江康熙著『地域金融機関の経営行動』（安孫子勇一）
森澤龍也著『資産市場と実体経済』（平山健二郎）
近藤万峰著『ポストバブル期の金融機関の行動』（奥野博幸）
岡田義昭著『開放経済下の新マクロ経済分析』（佐藤俊幸）
由里宗之著『地域社会と協働するコミュニティ・バンク』（濱田康行）
小川一夫著『「失われた 10 年」の真実』（北坂真一）
随　清遠著『銀行中心型金融システム』（野間敏克）
2009 年度日本金融学会春季大会経過報告
各部会報告記事

『金融経済研究』第 30 号（2010 年 4 月）

［論文］

どのような企業が買収防衛策を導入するのか
……滝澤美帆・鶴　光太郎・細野　薫　1
損害保険の産業組織に関する実証的研究
……姉﨑正起子・本間哲志　21
制度部門間の資金循環統計の推計
……真鍋雅史　42
ETF 導入は日経 225 現先間の裁定取引を活発にさせたか
……高阪勇毅　63

［書評］

白川方明著『現代の金融政策』（宮尾龍蔵）
筒井義郎・平山健二郎著『日本の株価』（首藤　恵）
花崎正晴著『企業金融とコーポレート・ガバナンス』（細野　薫）
高屋定美著『EU 通貨統合とマクロ経済政策』
『ユーロと国際金融の経済分析』（小川英治）
須藤　功著『戦後アメリカ通貨金融政策の形成』（坂本　正）
長島芳枝著『多国籍金融機関のリテール戦略』（勝　悦子）
小川　功著『虚構ビジネス・モデル』（黒羽雅子）
2009 年度日本金融学会秋季大会経過報告
各部会報告記事

『金融経済研究』第 31 号（2010 年 10 月）

［論文］

Competition in the Japanese Life Insurance Industry
……Toshiyuki Souma and Yoshiro Tsutsui　1
担保可能性（pledgeability）と融資配分の非効率性
……江口允崇　20
株式市場・債券市場への金融政策の影響
……青野幸平　32
資本注入政策のキャピタル・クランチ促進効果
……長田　健　49

［ショートペーパー］

Theory of Currency Basket
……Chikafumi Nakamura　69
アナザー・ライブドア・ショック？
……三浦一輝・郡司大志　75

［書評］

小川英治編『アジア・ボンドの経済学』（宮越龍義）
吉川　洋編『デフレ経済と金融政策』（小川一夫）
鎮目雅人著『世界恐慌と経済政策』（井手英策）
伊藤正直著『戦後日本の対外金融』（岸田　真）
細野　薫著『金融危機のミクロ経済分析』（北坂真一）
林　幸司著『近代中国と銀行の誕生』（陳　玉雄）
城下賢吾・森安保著『日本株式市場の投資行動分析』（奥山英司）
2010 年度日本金融学会春季大会経過報告
各部会報告記事

『金融経済研究』第 32 号（2011 年 4 月）

［大会・会長講演］

マクロ的枠組みの下での貨幣と銀行信用の基本問題について
……藤原秀夫　1

［論文］

スコアリング貸出の収益性
……蓮見　亮・平田英明　31
企業・銀行間のスイッチングコストの計測
……中岡孝剛　54
日銀当座預金残高目標の引き上げによる長短金利差への影響
……英　邦広　78

［書評］

陳玉雄著『中国のインフォーマル金融と市場化』（北村歳治）
秋葉弘哉・飯田幸裕・北村能寛著『外国為替制度論』（松林洋一）
久保英也著『保険の独立性と資本市場との融合』（小林　毅）
建部正義著『金融危機下の日銀の金融政策』（斉藤美彦）
根本直子著『残る銀行、沈む銀行』（植杉威一郎）
宇沢弘文・武田晴人編『日本の政策金融』（Ⅰ・Ⅱ）（浅井良夫）
斉藤美彦・須藤時仁著『国債累積時代の金融政策』（内田真人）

『金融経済研究』第 33 号（2011 年 10 月）

［論文］

営業地盤を考慮した地域銀行技術効率性と経営意欲
……山本　俊　1
家計の資産選択行動における学歴効果
……北村行伸・内野泰助　24
民間消費と政府消費の代替性について
……藤井隆雄　46
高度成長前半期における証券市場
……白鳥圭志　60

［書評］

矢後和彦著『国際決済銀行の 20 世紀』（畑瀬真理子）
丸茂俊彦著『金融取引と銀行組織の経済理論』（藤原賢哉）
カーメン・M・ラインハート、ケネス・S・ロゴフ著、村井章子訳『国家は破綻する』（佐々木百合）
内藤敦之著『内生的貨幣供給理論の再構築』（野下保利）
斉藤由里子・重頭ユカリ著『欧州の協同組合銀行』（濱田康行）
内田浩史著『金融機能と銀行業の経済分析』（安田行宏）

『金融経済研究』第 34 号（2012 年 4 月）

［論文］

経済学的視点から見た重債務問題
……内田浩史・植杉威一郎・小野有人・細野　薫・宮川大介　1
金融リンケージと日本の景気循環
……新開潤一　28
金融危機における米中株式市場間情報伝達の考察
……西村友作・孫便霞・門明　44
Macroeconomics of Weak Corporate Governance: An Alternative Theory of Japan's Lost Decade
……Hideaki Murase　64

［書評］

ラグラム・ラジャン著，伏見威蕃・月沢李歌子訳『フォールト・ラインズ』（有岡律子）
木原隆司著『援助ドナーの経済学』（奥田英信）
柴田善雅著『戦時日本の金融統制』（鎮目雅人）
岡本悳也･楊枝嗣朗編著『なぜドル本位制は終わらないのか』（前田直哉）
梅田雅信著『日銀の政策形成』（春井久志）
山崎志郎著『戦時経済総動員体制の研究』（邉 英治）
村本孜著『リレーションシップバンキングと知的資産』（安孫子勇一）
岩田一政著『デフレとの闘い』（竹田陽介）

『金融経済研究』特別号（2013 年 1 月）

なぜ金融危機は起こるのか
――金融経済研究のフロンティア――

第１章　バブルと金融危機
……櫻川昌哉　3
第２章　流動性と金融危機
……石原秀彦　35
第３章　金融危機の歴史
……伊藤正直　61
第４章　金融危機と銀行規制
……池尾和人　93
第５章　金融危機、バブルと行動ファイナンス
……筒井義郎　119
第６章　金融危機下の中小・地域金融
……家森信善　141
第７章　アメリカ経済と金融危機
……川波洋一・地主敏樹　169
第８章　金融危機とグローバル・インバランス
……福田慎一・松林洋一　199
第９章　金融危機と欧州経済
……小川英治　223

『金融経済研究』第 35 号（2013 年 4 月）

［論文］

日本におけるバラッサ・サミュエルソン効果の構造変化
……山本周吾　1
最適金融政策における政策バッファー効果
……荒井壮一　16
IPO の株価観察不能性と正の初期収益率
……池田直史　34
1940 年代の金融仲介構造
……宇都宮浄人　52

［書評］

翁百合著『金融危機とプルーデンス政策』（鹿野嘉昭）
川波洋一・前田真一郎編『消費金融論研究』（内田　聡）
今喜典著『中小企業金融と地域振興』（家森信善）
釜江廣志著『日本の債券市場の史的分析』（米澤康博）
門闖著『中国都市商業銀行の成立と経営』（陳玉雄）
一橋大学東アジア政策研究プロジェクト『東アジアの未来』（勝　悦子）

『金融経済研究』特別号（2014 年 1 月）

東日本大震災復興の金融問題

復興需要と企業業績
……中岡孝剛・内田浩史　3
東日本大震災と企業の二重債務問題
……植杉威一郎・内田浩史・小野有人・細野薫・宮川大介　17
東北被災地向け貸出と案件評価の新手法――ソーシャル・ファイナンスで未来志向の資金供給を
……増島雄樹　37
東北 6 県の銀行貸出と景気の因果関係――相対パワー寄与率の適用
……相澤朋子　59
どのような家計が地震保険を購入しているのか？――東日本大震災後のアンケート調査から分かること
……姜英英・浅井義裕・森平爽一郎　77
東日本大震災における金融機能――金融面からみた復旧過程の評価と今後の復興に向けた課題
……福田一雄　93
南三陸町の産業復興に関する一考察
……大川口信一　107
東日本大震災前後の外国人投資家と国内投資家の行動
……田村輝之・亀坂安紀子　125
防災工事と災害復旧費用の負担配分と防災工事のタイミングについて
……鴨池治　137

Japanese Journal of Monetary and Financial Economics (JJMFE)
Vol.1 No.1 (August 2013)

■Inaugural introduction

Naoyuki Yoshino

■Invited articles

An Injection of Base Money at Zero Interest Raates: Empirical Evidence from the Japanese Experience 2001-2006

Yuzo Honda,Yoshihiro Kuroki,and Minoru Tachibana

Coping with Capital Inflow Surges: Reviewing the IMF's New 'Institutional View'

Akira Ariyoshi

Are Chinese Stock Investors Watching Tokyo?
International Linkage of Stock Prices Using Intraday High-Frequency Data

Yoshiro Tsutsui and Kenjiro Hirayama

Japanese Banking Regulations and SME Finance under the Global Financial Crisis

Nobuyoshi Yamori,Kazumine Kondo,Kei Tomimura,Yuko Shindo,and Kenya Takaku

■Articles

Required Return on Investment and Its Financing

Yukitami Tsuji

⑥　役員名簿

（**太字ゴシック**は会長および常任理事）

平成 16 年 5 月

清水啓典（会長）	有馬敏則	池尾和人	石垣健一	今井　譲
岩田健治	内田　滋	大矢繁夫	**小川英治**	奥野博幸
貝塚啓明	**片岡　尹**	**金子邦彦**	**金子　隆**	**鴨池　治**
齋藤壽彦	佐藤政則	下平尾　勲	首藤　恵	千田純一
高山洋一	宅和公志	建部正義	立脇和夫	**地主敏樹**
筒井義郎	濱田康行	**春井久志**	**畫間文彦**	藤田誠一
藤井宏史	本多佑三	古川　顕	宮尾龍蔵	**村本　孜**
渡辺良夫	片山博臣	斉藤　哲	高橋　宏	

平成 18 年 5 月

清水啓典（会長）	**池尾和人**	石垣健一	岩田健治	宇恵勝也
大矢繁夫	**小川英治**	奥野博幸	片岡　尹	**金子邦彦**
金子　隆	**川波洋一**	栗原　裕	小林真之	今　喜典
齋藤壽彦	坂本　正	佐藤政則	須藤　恵	高橋豊治
高山洋一	宅和公志	建部正義	**筒井義郎**	**春井久志**
福田慎一	藤原賢哉	**藤原秀夫**	本多佑三	**宮尾龍蔵**
宮越龍義	**村本　孜**	森　映雄	矢野順治	家森信善
渡辺良夫	斉藤　哲	服部盛隆	高橋　宏	

平成 20 年 5 月（＊会長は前理事選出）

筒井義郎*（会長）	有馬敏則	**池尾和人**	岩田健治	宇恵勝也
内田　滋	片岡　尹	**金子邦彦**	川波洋一	北岡孝義
栗原　裕	小林真之	**今　喜典**	齊藤壽彦	坂本　正
佐藤政則	清水啓典	首藤　恵	高橋豊治	髙屋定美
宅和公志	地主敏樹	**畫間文彦**	**福田慎一**	藤井宏史
藤田誠一	藤原賢哉	**藤原秀夫**	**本多佑三**	三隅隆司
宮尾龍蔵**	宮越龍義	**村本　孜**	森　映雄	矢野順治
家森信善	渡辺良夫	斉藤　哲	谷　正明	柴生田晴四

（＊＊宮尾理事は任期途中で辞任。後任空席）

平成 22 年 5 月

藤原秀夫（会長）	明石茂生	有馬敏則	**池尾和人**	岩田健治
内田　滋	**小川英治**	折谷吉治	片岡　尹	金子　隆
鴨池　治	川波洋一	北岡孝義	栗原　裕	小林真之
齊藤壽彦	櫻川昌哉	佐々木百合	佐藤政則	**清水啓典**
首藤　恵	千田　隆	高橋豊治	髙屋定美	**地主敏樹**
晝間文彦	**福田慎一**	藤井宏史	**藤田誠一**	藤原賢哉
三隅隆司	村本　孜	**矢野順治**	山上秀文	**家森信善**
和田耕志	久保田勇夫	柴生田晴四		

平成 24 年 5 月

藤原秀夫（会長）	明石茂生	植田宏文	**小川英治**	折谷吉治
金井雄一	**金子　隆**	**鴨池　治**	**川波洋一**	清田　匡
栗原　裕	小林真之	今　喜典	坂本　正	櫻川昌哉
佐々木百合	千田　隆	**高橋豊治**	髙屋定美	**地主敏樹**
林　康史	兵藤　隆	晝間文彦	**福田慎一**	藤井宏文
藤田誠一	藤原賢哉	本多佑三	前田　淳	三隅隆司
宮越龍義	村瀬英彰	矢野順治	山上秀文	**家森信善**
渡辺良夫	和田耕志	谷　正明	柴生田晴四	

⑦　編集委員会の歴代委員名簿

2004 年 12 月時点

編集委員長　筒井義郎（大阪大学）

編集委員　秋葉弘哉（早稲田大学）、小川英治（一橋大学）、佐藤政則（麗澤大学）、福重元嗣（大阪大学）、藤原賢哉（神戸大学）、宮尾龍蔵（神戸大学）、宮越龍義（筑波大学）、家森信善（名古屋大学）、吉田賢一（工学院大学）

編集専門委員　伊藤修（埼玉大学）、岩佐代市（関西大学）、内田和男（北海道大学）、内田滋（長崎大学）、金井雄一（名古屋大学）、鴨池治（東北大学）、北川雅章（同志社大学）、今喜典（青森公立大学）、櫻川昌哉（慶應義塾大学）、下野恵子（名古屋市立大学）、平山健二郎（関西学院大学）、福田慎一（東京大学）、藤井宏史（香川大学）、堀江康熙（九州大学）、松浦克己（横浜市立大学）、宮島英昭（早稲田大学）、矢野順治（広島大学）、米澤康博（横浜国立大学）

2005 年 6 月時点

編集委員長　本多佑三（大阪大学）

編集委員　秋葉弘哉（早稲田大学）、小川英治（一橋大学）、佐藤政則（麗澤大学）、福重元嗣（大阪大学）、藤原賢哉（神戸大学）、宮尾龍蔵（神戸大学）、宮越龍義（東北大学）、家森信善（名古屋大学）、吉田賢一（工学院大学）

編集専門委員　伊藤修（埼玉大学）、岩佐代市（関西大学）、内田和男（北海道大学）、内田滋（長崎大学）、金井雄一（名古屋大学）、鴨池治（東北大学）、北川雅章（同志社大学）、今喜典（青森公立大学）、櫻川昌哉（慶應義塾大学）、下野恵子（名古屋市立大学）、平山健二郎（関西学院大学）、福田慎一（東京大学）、藤井宏史（香川大学）、堀江康熙（九州大学）、松浦克己（横浜市立大学）、宮島英昭（早稲田大学）、矢野順治（広島大学）、米澤康博（早稲田大学）

2006 年 6 月時点

編集委員長　本多佑三（大阪大学）

編集委員　秋葉弘哉（早稲田大学）、小川英治（一橋大学）、齊藤壽彦（千葉商科大学）、福重元嗣（大阪大学）、藤原賢哉（神戸大学）、宮尾龍蔵（神戸大学）、宮越龍義（東北大学）、家森信善（名古屋大学）、吉田賢一（工学院大学）

編集専門委員　伊藤修（埼玉大学）、内田和男（北海道大学）、内田滋（長崎大学）、金井雄一（名古屋大学）、鴨池治（東北大学）、北川雅章（同志社大学）、黒木祥弘（中央大学）、今喜典（青森公立大学）、櫻川昌哉（慶應義塾大学）、下野恵子（名古屋市立大学）、平山健二郎（関西学院大学）、福田慎一（東京大学）、

藤井宏史（香川大学）、堀江康熙（九州大学）、松浦克己（広島大学）、宮島英昭（早稲田大学）、矢野順治（広島大学）、米澤康博（早稲田大学）

2007 年 10 月時点

編集委員長　本多佑三（大阪大学）

編集委員　小川英治（一橋大学）、齊藤壽彦（千葉商科大学）、櫻川昌哉（慶應義塾大学）、福重元嗣（大阪大学）、福田慎一（東京大学）、宮尾龍蔵（神戸大学）、宮越龍義（大阪大学）、家森信善（名古屋大学）、吉田賢一（工学院大学）

編集専門委員　伊藤修（埼玉大学）、内田和男（北海道大学）、内田滋（長崎大学）、金井雄一（名古屋大学）、鴨池治（東北大学）、北川雅章（同志社大学）、黒木祥弘（中央大学）、今喜典（青森公立大学）、下野恵子（名古屋市立大学）、平山健二郎（関西学院大学）、藤井宏史（香川大学）、堀江康熙（九州大学）、松浦克己（広島大学）、宮島英昭（早稲田大学）、矢野順治（広島大学）、米澤康博（早稲田大学）

2008 年 10 月時点

編集委員長　本多佑三（大阪大学）

編集委員　小川英治（一橋大学）、齊藤壽彦（千葉商科大学）、櫻川昌哉（慶應義塾大学）、福重元嗣（大阪大学）、福田慎一（東京大学）、宮尾龍蔵（神戸大学）、宮越龍義（大阪大学）、家森信善（名古屋大学）、吉田賢一（工学院大学）

編集専門委員　伊藤修（埼玉大学）、内田和男（北海道大学）、内田滋（長崎大学）、金井雄一（名古屋大学）、鴨池治（東北大学）、北川雅章（同志社大学）、黒木祥弘（中央大学）、今喜典（青森公立大学）、下野恵子（名古屋市立大学）、平山健二郎（関西学院大学）、藤井宏史（香川大学）、堀江康熙（九州大学）、松浦克己（広島大学）、宮島英昭（早稲田大学）、矢野順治（広島大学）、米澤康博（早稲田大学）

2009 年 10 月時点

編集委員長　本多佑三（大阪大学）

編集委員　小川英治（一橋大学）、齊藤壽彦（千葉商科大学）、櫻川昌哉（慶應義塾大学）、福重元嗣（大阪大学）、福田慎一（東京大学）、宮尾龍蔵（神戸大学）、宮越龍義（大阪大学）、家森信善（名古屋大学）、吉田賢一（工学院大学）

編集専門委員　伊藤修（埼玉大学）、内田和男（北海道大学）、内田滋（長崎大学）、金井雄一（名古屋大学）、鴨池治（東北福祉大学）、北川雅章（同志社大学）、黒木祥弘（中央大学）、今喜典（青森公立大学）、平山健二郎（関西学院大学）、藤井宏史（香川大学）、堀江康熙（九州大学）、松浦克己（広島大学）、宮島

英昭（早稲田大学）、矢野順治（広島大学）、米澤康博（早稲田大学）

2010 年 10 月時点

編集委員長　櫻川昌哉（慶應義塾大学）

編集委員　北坂真一（同志社大学）、福重元嗣（大阪大学）、福田慎一（東京大学）、宮越龍義（大阪大学）、矢後和彦（首都大学東京）、家森信善（名古屋大学）

編集専門委員　伊藤修（埼玉大学）、内田和男（北海道武蔵女子短期大学）、内田滋（長崎大学）、金井雄一（名古屋大学）、鴨池治（東北福祉大学）、北川雅章（同志社大学）、今喜典（青森公立大学）、千田隆（広島大学）、藤井宏史（香川大学）、堀江康熙（関西外国語大学）、松浦克己（広島大学）、宮島英昭（早稲田大学）、米澤康博（早稲田大学）

2011 年 10 月時点

編集委員長　櫻川昌哉（慶應義塾大学）

編集委員　北坂真一（同志社大学）、福重元嗣（大阪大学）、福田慎一（東京大学）、宮越龍義（大阪大学）、村瀬英彰（名古屋市立大学）、矢後和彦（早稲田大学）、家森信善（名古屋大学）

編集専門委員　伊藤修（埼玉大学）、内田和男（北海道武蔵女子短期大学）、内田滋（長崎大学）、金井雄一（名古屋大学）、鴨池治（東北福祉大学）、北川雅章（同志社大学）、今喜典（青森公立大学）、千田隆（広島大学）、藤井宏史（香川大学）、堀江康熙（関西外国語大学）、松浦克己（広島大学）、宮島英昭（早稲田大学）、米澤康博（早稲田大学）

2012 年 4 月時点

編集委員長　櫻川昌哉（慶應義塾大学）

編集委員　北坂真一（同志社大学）、福重元嗣（大阪大学）、福田慎一（東京大学）、宮越龍義（法政大学）、村瀬英彰（名古屋市立大学）、矢後和彦（早稲田大学）、家森信善（名古屋大学）

編集専門委員　伊藤修（埼玉大学）、内田和男（北海道武蔵女子短期大学）、内田滋（愛知学院大学）、金井雄一（名古屋大学）、鴨池治（東北福祉大学）、北川雅章（同志社大学）、今喜典（青森公立大学）、千田隆（広島大学）、藤井宏史（香川大学）、堀江康熙（関西外国語大学）、松浦克己（広島大学）、宮島英昭（早稲田大学）、米澤康博（早稲田大学）

2013 年 4 月時点

編集委員長　櫻川昌哉（慶應義塾大学）

編集委員　北坂真一（同志社大学）、竹田陽介（上智大学）、福重元嗣（大阪大学）、福田慎一（東京大学）、宮越龍義（法政大学）、村瀬英彰（学習院大学）矢後和彦（早稲田大学）、家森信善（名古屋大学）

編集専門委員　伊藤修（埼玉大学）、内田和男（北海道武蔵女子短期大学）、内田滋（愛知学院大学）、金井雄一（名古屋大学）、鴨池治（東北福祉大学）、北川雅章（同志社大学）、今喜典（青森公立大学）、千田隆（広島大学）、藤井宏史（香川大学）、堀江康熙（関西外国語大学）、松浦克己（広島大学）、宮島英昭（早稲田大学）、米澤康博（早稲田大学）

⑧　会員の動向

	個人会員（名）	団体会員（数）	特別会員（社・法人）
2004 年	1,233	8	
2005 年	1,275	7	7
2006 年	1,274	7	11
2007 年	1,290	7	11
2008 年	1,329	7	12
2009 年	1,319	7	9
2010 年	1,334	7	16
2011 年	1,337	7	16
2012 年	1,351	7	14
2013 年	1,359	7	14

⑨　予算・決算の状況

平成 16 年度　収支決算書（平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日）

支出の部				収入の部			
勘定科目	予算	実績	対比	勘定科目	予算	実績	対比
	円	円	円		円	円	円
1 平成16年 春季大会運営費	1,000,000	1,000,000	0	1 前年度繰越金	11,240,502	11,240,502	0
2 同 会報制作費等	1,700,000	1,628,716	71,284	2 会費	11,940,000	11,940,000	0
3 平成16年 秋季大会運営費	1,000,000	1,000,000	0	3 賛助金	2,240,000	2,100,000	140,000
4 同 会報制作費等	1,700,000	1,539,175	160,825	4 受取利息	100	78	22
5 60周年記念誌刊行費	2,000,000	2,581,190	△ 581,190	5 受取利息	200,000	223,250	△ 23,250
6 金融経済研究21号刊行費	3,900,000	4,251,064	△ 351,064				
7 金融経済研究22号刊行費	3,900,000	0	3,900,000				
8 北海道部会費	100,000	100,000	0				
9 関東部会費	100,000	100,000	0				
10 中部部会費	100,000	100,000	0				
11 関西部会費	100,000	100,000	0				
12 西日本部会費	100,000	100,000	0				
13 歴史部会費	100,000	100,000	0				
14 国際金融部会費	100,000	100,000	0				
15 中央銀行研究部会費	100,000	100,000	0				
16 ホーム頁制作費	700,000	700,000	0				
17 日本金融学会連合分担金	35,000	35,000	0				
18 室料	435,000	365,400	69,600				
19 給料	3,000,000	1,932,800	1,067,200				
20 電話料	250,000	257,517	△ 7,517				
21 事務用品費	35,000	11,870	23,130				
22 交通費	20,000	107,690	△ 87,690				
23 通信発送費	1,000,000	758,156	241,844				
24 雑費	600,000	913,062	△ 313,062				
25 予備費	3,545,602	0	3,545,602				
次年度繰越金	0	7,622,190					
合計	25,620,602	25,503,830	116772		25,620,602	25,503,830	116,772

平成 17 年度　収支決算書（平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）

支出の部				収入の部			
勘定科目	予算	実績	対比	勘定科目	予算	実績	対比
	円	円	円		円	円	円
1 平成17年 春季大会運営費	1,000,000	1,000,000	0	1 前年度繰越金	7,622,190	7,622,190	0
2 同 会報制作費等	1,700,000	1,380,318	△ 319,682	2 会費	12,330,000	13,030,000	700,000
3 平成17年 秋季大会運営費	1,000,000	1,000,000	0	3 賛助金	2,000,000	1,765,000	△ 235,000
4 同 会報制作費等	1,700,000	1,448,978	△ 251,022	4 特別会員会費	0	900,000	900,000
5 金融経済研究22号刊行費	3,900,000	4,031,584	131,584	5 受取利息	100	46	△ 54
6 金融経済研究23号刊行費	3,900,000	0	△ 3,900,000	6 雑収入	700,000	556,090	△ 143,910
7 北海道部会費	100,000	100,000	0				
8 関東部会費	100,000	100,000	0				
9 中部部会費	100,000	100,000	0				
10 関西部会費	100,000	100,000	0				
11 西日本部会費	100,000	100,000	0				
12 歴史部会費	100,000	100,000	0				
13 国際金融部会費	100,000	100,000	0				
14 中央銀行研究部会費	100,000	100,000	0				
15 ホーム頁制作費	700,000	700,000	0				
16 会員名簿制作費	1,500,000	1,521,532	21,532				
17 日本金融学会連合分担金	35,000	35,000	0				
18 会議費	50,000	106,879	56,879				
19 室料	435,000	365,400	△ 69,600				
20 給料	2,200,000	1,848,160	△ 351,840				
21 電話料	250,000	201,727	△ 48,273				
22 事務用品費	70,000	257,075	187,075				
23 交通費	100,000	28,720	△ 71,280				
24 通信発送費	1,500,000	903,163	△ 596,837				
25 雑費	600,000	756,334	156,334				
26 予備費	1,212,290	0	△ 1,212,290				
次年度繰越金		7,488,456					
合計	22,652,290	23,873,326	1,221,036		22,652,290	23,873,326	1,221,036

平成 18 年度　収支決算書

（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）

支出の部				収入の部			
勘定科目	予算	実績	対比	勘定科目	予算	実績	対比
	円	円	円		円	円	円
1 平成 18 年 春季大会運営費	1,000,000	650,630	△ 349,370	1 前年度繰越金	7,488,456	7,488,456	0
2 同 会報制作費等	1,700,000	1,269,878	△ 430,122	2 会費	12,750,000	13,020,000	270,000
3 平成 18 年 秋季大会運営費	1,000,000	862,257	△ 137,743	3 賛助金	1,765,000	1,765,000	0
4 同 会報制作費等	1,700,000	1,477,069	△ 222,931	4 特別会員会費	1,500,000	1,300,000	△ 200,000
5 金融経済研究 23 号刊行費	3,900,000	4,099,584	199,584	5 受取利息	50	2996	2,946
6 金融経済研究 24 号刊行費	3,900,000	3,640,000	△ 260,000	6 雑収入	500,000	432,110	△ 67,890
7 北海道部会費	100,000	100,000	0				
8 関東部会費	100,000	100,000	0				
9 中部部会費	100,000	100,000	0				
10 関西部会費	100,000	100,000	0				
11 西日本部会費	100,000	100,000	0				
12 歴史部会費	100,000	100,000	0				
13 国際金融部会費	100,000	100,000	0				
14 中央銀行研究部会費	100,000	100,000	0				
15 ホームページ制作費	700,000	700,000	0				
16 日本金融学会連合分担金	35,000	35,000	0				
17 会議費	100,000	128,693	28,693				
18 室料	718,200	747,600	29,400				
19 給料	2,200,000	2,225,280	25,280				
20 電話料	250,000	214,871	△ 35,129				
21 事務用品費	150,000	392,644	242,644				
22 交通費	100,000	2,540	△ 97,460				
23 通信発送費	1,000,000	492,660	△ 507,340				
24 雑費	600,000	656,869	56,869				
25 予備費	4,150,306	0	△ 4,150,306				
次年度繰越金		5,612,987					
合計	24,003,506	24,008,562	5,056		24,003,506	24,008,562	5,056

平成 19 年度　収支決算書

（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

支出の部				収入の部			
勘定科目	予算	実績	対比	勘定科目	予算	実績	対比
	円	円	円		円	円	円
1 平成 19 年 春季大会運営費	1,000,000	1,000,000	0	1 前年度繰越金	5,612,987	5,612,987	0
2 同 会報制作費等	1,500,000	1,336,027	△ 163,973	2 会費	12,500,000	13,235,000	735,000
3 平成 19 年 秋季大会運営費	1,000,000	1,000,000	0	3 賛助金	1,765,000	1,765,000	0
4 同 会報制作費等	1,500,000	1,888,921	388,921	4 特別会員会費	1,500,000	1,300,000	△ 200,000
5 金融経済研究 25 号刊行費	3,900,000	4,374,220	474,220	5 受取利息	3,000	9,242	6,242
6 金融経済研究 26 号刊行費	3,900,000	78,750	△ 3,821,250	6 雑収入	600,000	773,830	△ 173,830
7 北海道部会費	100,000	100,000	0				
8 関東部会費	100,000	100,000	0				
9 中部部会費	100,000	100,000	0				
10 関西部会費	100,000	100,000	0				
11 西日本部会費	100,000	100,000	0				
12 歴史部会費	100,000	100,000	0				
13 国際金融部会費	100,000	100,000	0				
14 中央銀行研究部会費	100,000	100,000	0				
15 ホームページ制作費	1,200,000	1,100,000	△ 100,000				
16 会員名簿制作費	1,500,000	1,302,393	△ 197,607				
17 日本金融学会連合分担金	35,000	35,000	0				
18 会議費	100,000	48,728	△ 51,272				
19 室料	718,200	718,200	0				
20 給料	2,200,000	2,152,080	△ 47,920				
21 電話料	250,000	197,980	△ 52,020				
22 事務用品費	200,000	194,937	△ 5,063				
23 交通費	100,000	25,420	△ 74,580				
24 通信発送費	600,000	527,273	△ 72,727				
25 雑費	800,000	494,845	△ 305,155				
26 予備費	677,787	0	△ 677,787				
次年度繰越金		5,421,285					
合計	21,980,987	22,696,059	715,072		21,980,987	22,696,059	715,072

平成 20 年度　収支決算書（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

支出の部				収入の部			
勘定科目	予算	実績	対比	勘定科目	予算	実績	対比
	円	円	円		円	円	円
1 平成20年 春季大会運営費	1,000,000	1,000,000	0	1 前年度繰越金	5,421,285	5,421,285	0
2 同 会報制作費等	500,000	527,076	27,076	2 会費	12,750,000	13,297,000	547,000
3 平成20年 秋季大会運営費	1,000,000	1,000,000	0	3 賛助金	1,765,000	1,790,000	25,000
4 同 会報制作費等	500,000	744,082	244,082	4 特別会員会費	1,300,000	1,400,000	100,000
5 金融経済研究26号刊行費	4,000,000	4,199,690	199,690	5 受取利息	10,000	6,559	△ 3,441
6 金融経済研究27号刊行費	4,100,000	4,170,000	70,000	6 雑収入	700,000	667,740	△ 32,260
7 北海道部会費	100,000	100,000	0				
8 関東部会費	100,000	100,000	0				
9 中部部会費	100,000	100,000	0				
10 関西部会費	100,000	100,000	0				
11 西日本部会費	100,000	100,000	0				
12 歴史部会費	100,000	100,000	0				
13 国際金融部会費	100,000	100,000	0				
14 中央銀行研究部会費	100,000	100,000	0				
15 ホームページ制作費	700,000	700,000	0				
16 日本金融学会連合分担金	35,000	35,000	0				
17 会議費	100,000	42,890	△ 57,110				
18 室料	718,200	718,200	0				
19 給料	2,200,000	2,196,000	△ 4,000				
20 電話料	220,000	150,676	△ 69,324				
21 事務用品費	300,000	138,038	△ 161,962				
22 交通費	100,000	57,870	△ 42,130				
23 通信発送費	600,000	741,858	141,858				
24 雑費	700,000	337,489	△ 362,511				
25 予備費	4,373,085	0	△ 4,373,085				
次年度繰越金		5,023,715					
合計	21,946,285	22,582,584	636,299		21,946,285	22,582,584	636,299

平成 21 年度　収支決算書（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

支出の部				収入の部			
勘定科目	予算	実績	対比	勘定科目	予算	実績	対比
	円	円	円		円	円	円
1 平成21年 春季大会運営費	1,000,000	793,900	△ 206,100	1 前年度繰越金	5,023,715	5,023,715	0
2 同 会報制作費等	500,000	721,977	221,977	2 会費	13,200,000	13,278,000	78,000
3 平成21年 秋季大会運営費	1,000,000	1,050,000	50,000	3 賛助金	1,765,000	1,740,000	△ 25,000
4 同 会報制作費等	500,000	870,508	370,508	4 特別会員会費	1,100,000	1,200,000	100,000
5 金融経済研究28号刊行費	4,100,000	4,205,000	105,000	5 受取利息	7,000	1,554	△ 5,446
6 金融経済研究29号刊行費	4,100,000	4,195,000	95,000	6 雑収入	700,000	630,630	△ 69,370
7 北海道部会費	50,000	50,000	0	7 日本経済学会連合補助金	0	50,000	50,000
8 関東部会費	50,000	50,000	0				
9 中部部会費	50,000	50,000	0				
10 関西部会費	50,000	50,000	0				
11 西日本部会費	50,000	50,000	0				
12 歴史部会費	50,000	50,000	0				
13 国際金融部会費	50,000	50,000	0				
14 中央銀行研究部会費	50,000	50,000	0				
15 ホームページ制作費	700,000	700,000	0				
16 会員名簿作成費	400,000	503,737	103,737				
17 日本金融学会連合分担金	35,000	35,000	0				
18 会議費	100,000	35,017	△ 64,983				
19 室料	718,200	718,200	0				
20 給料	2,200,000	2,093,520	△ 106,480				
21 電話料	180,000	171,312	△ 8,688				
22 事務用品費	400,000	338,296	△ 61,704				
23 交通費	100,000	25,420	△ 74,580				
24 通信発送費	600,000	868,880	268,880				
25 雑費	400,000	374,015	△ 25,985				
26 予備費	4,362,515	0	△ 4,362,515				
次年度繰越金		3,824,117					
合計	21,795,715	21,923,899	128,184		21,795,715	21,923,899	128,184

平成 22 年度　収支決算書（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

支出の部				収入の部			
勘定科目	予算	実績	対比	勘定科目	予算	実績	対比
	円	円	円		円	円	円
1 平成22年度 春季大会運営費	1,000,000	1,000,000	0	1 前年度繰越金	3,824,117	3,824,117	0
2 同 会報制作費等	700,000	653,016	△ 46,984	2 会費	13,095,000	13,416,000	321,000
3 同 プログラム委員会費	100,000	100,000	0	3 賛助金	1,740,000	1,740,000	0
4 平成22年度 秋季大会運営費	1,000,000	1,000,000	0	4 特別会員会費	1,100,000	2,450,000	1,350,000
5 同 会報制作費等	700,000	743,530	43,530	5 受取利息	2,000	1,257	△ 743
6 同 プログラム委員会費	100,000	100,000	0	6 雑収入	650,000	606,530	△ 43,470
7 金融経済研究30号刊行費	4,100,000	4,205,000	105,000				
8 金融経済研究31号刊行費	4,100,000	3,757,000	343,000				
9 北海道部会費	50,000	50,000	0				
10 関東部会費	50,000	50,000	0				
11 中部部会費	50,000	50,000	0				
12 関西部会費	50,000	50,000	0				
13 西日本部会費	50,000	50,000	0				
14 歴史部会費	50,000	50,000	0				
15 国際金融部会費	50,000	50,000	0				
16 中央銀行研究部会費	50,000	50,000	0				
17 ホームページ制作費	630,000	630,000	0				
18 日本金融学会連合分担金	35,000	35,000	0				
19 会議費	100,000	0	△ 100,000				
20 室料	718,200	718,200	0				
21 給料	2,200,000	2,137,440	△ 62,560				
22 電話料	180,000	125,055	△ 54,945				
23 事務用品費	300,000	306,129	6,129				
24 交通費	100,000	31,200	△ 68,800				
25 通信発送費	600,000	630,946	30,946				
26 雑費	300,000	232,553	△ 67,447				
27 予備費	3,047,917	0	△ 3,047,917				
次年度繰越金		5,232,835					
合計	20,411,117	22,037,904	1,626,787		20,411,117	22,037,904	1,626,787

平成 23 年度　収支決算書（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）

支出の部				収入の部			
勘定科目	予算	実績	対比	勘定科目	予算	実績	対比
	円	円	円		円	円	円
1 平成23年度 春季大会運営費	1,000,000	1,000,000	0	1 前年度繰越金	5,232,835	5,232,835	0
2 同 会報制作費等	700,000	617,911	△ 82,089	2 個人会員会費	13,265,000	13,414,000	149,000
3 同 プログラム委員会費	100,000	100,000	0	3 賛助団体会費	1,740,000	1,740,000	0
4 平成23年度 秋季大会運営費	1,000,000	1,000,000	0	4 特別会員会費	2,200,000	2,200,000	0
5 同 会報制作費等	700,000	686,787	△ 13,213	5 受取利息	2,000	941	△ 1,059
6 同 プログラム委員会費	100,000	100,000	0	6 雑収入	600,000	647,670	47,670
7 大会活性化費	400,000	350,000	△ 50,000				
8 金融経済研究32号刊行費	3,744,000	3,744,000	0				
9 金融経済研究33号刊行費	3,744,000	3,744,000	0				
10 金融経済研究編集費等	320,000	295,000	△ 25,000				
11 北海道部会費	50,000	50,000	0				
12 関東部会費	50,000	50,000	0				
13 中部部会費	50,000	50,000	0				
14 関西部会費	50,000	50,000	0				
15 西日本部会費	50,000	50,000	0				
16 歴史部会費	50,000	50,000	0				
17 国際金融部会費	50,000	50,000	0				
18 中央銀行研究部会費	50,000	50,000	0				
19 震災復興金融部会費	0	50,000	50,000				
20 ホームページ制作費	700,000	700,000	0				
21 日本金融学会連合分担金	35,000	35,000	0				
22 会員名簿作成費	500,000	518,367	18,367				
23 会議費	100,000	0	△ 100,000				
24 室料	718,200	718,200	0				
25 給料	2,200,000	2,122,800	△ 77,200				
26 電話料	150,000	115,703	△ 34,297				
27 事務用品費	300,000	323,778	23,778				
28 交通費	100,000	31,370	△ 68,630				
29 通信発送費	700,000	814,107	114,107				
30 雑費	300,000	321,547	△ 21,547				
31 日韓国際交流協定調印式費用	0	113,787	113,787				
32 予備費	5,028,635		△ 5,028,635				
次年度繰越金		5,333,089					
合計	23,039,835	23,235,446	195,611		23,039,835	23,235,446	195,611

平成 24 年度　収支決算書（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）

支出の部				収入の部			
勘定科目	予算	実績	対比	勘定科目	予算	実績	対比
	円	円	円		円	円	円
1 平成24年度 春季大会運営費	1,000,000	1,000,000	0	1 前年度繰越金	5,333,089	5,333,089	0
2 同 会報制作費等	700,000	813,540	113,540	2 個人会員会費	13,295,000	13,349,000	54,000
3 同 プログラム委員会費	100,000	90,620	△ 9,380	3 賛助団体会費	1,740,000	1,740,000	0
4 平成24年度 秋季大会運営費	1,000,000	1,000,000	0	4 特別会員会費	2,200,000	2,200,000	0
5 同 会報制作費等	700,000	736,158	36,158	5 受取利息	1,000	1,138	138
6 同 プログラム委員会費	100,000	100,000	0	6 雑収入	550,000	535,280	△ 14,720
7 大会活性化費	400,000	400,000	0				
8 金融経済研究34号買上費	3,744,000	3,743,712	△ 288				
9 金融経済研究特別号買上費	3,032,000	3,024,000	△ 8,000				
10 金融経済研究編集費等	320,000	190,000	△ 130,000				
11 北海道部会費	50,000	50,000	0				
12 関東部会費	50,000	50,000	0				
13 中部部会費	50,000	50,000	0				
14 関西部会費	50,000	50,000	0				
15 西日本部会費	50,000	50,000	0				
16 歴史部会費	50,000	50,000	0				
17 国際金融部会費	50,000	50,000	0				
18 中央銀行研究部会費	50,000	50,000	0				
19 震災復興金融部会費	50,000	50,000	0				
20 部会活性化費	450,000	0	△ 450,000				
21 ホーム頁制作費	700,000	700,000	0				
22 日本金融学会連合分担金	35,000	35,000	0				
23 会議費	100,000	3,690	△ 96,310				
24 室料	718,200	718,200	0				
25 給料	2,200,000	2,152,080	△ 47,920				
26 電話料	150,000	132,365	△ 17,635				
27 事務用品費	350,000	210,601	△ 139,399				
28 交通費	100,000	215,540	115,540				
29 通信発送費	750,000	626,252	△ 123,748				
30 雑費	300,000	224,024	△ 75,976				
31 ＊電子ジャーナル刊行準備費	700,000	483,100	△ 216,900				
32 予備費	5,019,889		△ 5,019,889				
次年度繰越金		6,109,625					
合計	23,119,089	23,158,507	39,418		23,119,089	23,158,507	39,418

（注）＊　平成24年9月15日、補正予算として会員総会で承認。

⑩　年表

2004 年	3 月 31 日	会員 1200 人　突破
	5 月	清水啓典・一橋大学教授　会長就任
	5 月 15 日～16 日	春季全国大会（神奈川大学）開催
	9 月 11 日～12 日	秋季全国大会（愛知大学）開催
	12 月	『金融経済研究』第 21 号　刊行
2005 年	5 月 28 日～29 日	春季全国大会（日本大学）開催
	6 月	『金融経済研究』第 22 号　刊行
	10 月 8 日～9 日	秋季全国大会（大阪大学）開催
2006 年	4 月 29 日～30 日	春季全国大会（早稲田大学）開催
	5 月	清水啓典・一橋大学教授　会長再任
	6 月	『金融経済研究』第 23 号　刊行
	9 月 9 日～10 日	秋季全国大会（小樽商科大学）開催
2007 年	3 月	『金融経済研究』第 24 号　刊行
	5 月 12 日～13 日	春季全国大会（麗澤大学）開催
	9 月 8 日～9 日	秋季全国大会（同志社大学）開催
	10 月	『金融経済研究』第 25 号　刊行
2008 年	4 月	『金融経済研究』第 26 号　刊行
	5 月	筒井義郎・大阪大学教授　会長就任
	5 月 17 日～18 日	春季全国大会（成城大学）開催
	10 月 12 日～13 日	秋季全国大会（広島大学）開催
	10 月	『金融経済研究』第 27 号　刊行
2009 年	3 月 31 日	会員数 1300 人　突破
	4 月	『金融経済研究』第 28 号　刊行
	5 月 16 日～17 日	春季全国大会（東京大学）開催
	10 月	『金融経済研究』第 29 号　刊行
	11 月 7 日～8 日	秋季全国大会（香川大学）開催
2010 年	4 月	『金融経済研究』第 30 号　刊行
	5 月	藤原秀夫・同志社大学教授　会長就任
	5 月 15 日～16 日	春季全国大会（中央大学）開催

	10 月 25 日～26 日	秋季全国大会（神戸大学）開催
	10 月	『金融経済研究』第 31 号　刊行
2011 年	4 月	『金融経済研究』第 32 号　刊行
	5 月 28 日～29 日	春季全国大会（明治大学）開催
	9 月 18 日～19 日	秋季全国大会（近畿大学）開催
	10 月 15 日	震災復興金融部会（新設）第 1 回研究会開催
	10 月	『金融経済研究』第 33 号　刊行
	12 月 23 日	日韓学術交流協定の締結・調印式（於：一橋大学　丸の内産学連携センター）
2012 年	4 月	『金融経済研究』第 34 号　刊行
	5 月	藤原秀夫・同志社大学教授　会長再任
	5 月 19 日～20 日	春季全国大会（立正大学）開催
	9 月 15 日～16 日	秋季全国大会（北九州市立大学）開催
2013 年	1 月	『金融経済研究』特別号　刊行
	4 月	『金融経済研究』第 35 号　刊行
	5 月 25 日～26 日	春季全国大会（一橋大学）開催
	8 月	Japanese Journal of Monetary and Financial Economics（JJMFE）創刊
	9 月 21 日～22 日	秋季全国大会（名古屋大学）開催

⑪　現行学会諸規則（一部）

日本金融学会規則

第１条　本会は日本金融学会と称する。

第 2 条　本会は金融および金融に関する事項の理論並びに政策の研究を行い学問の進歩、経済の発達に寄与することを目的とする。

第３条　本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

1. 研究および調査。
2. 研究報告会および講演会の開催。
3. 会報、報告書および図書の刊行。
4. 研究調査の援助および受託。
5. その他本会の目的を達成するに適当と認められる事項

第４条　本会の本部を東京に置く。本会は支部を設けることを得る。

第５条　本会に事務局を置く。事務局は東洋経済ビル内に設ける。

第６条　本会は、以下の会員を以て組織する。

1. 個人会員　金融に関する学識経験者
2. 賛助団体　本会の事業に賛助する者
3. 特別会員　本会の事業の主旨に賛同する団体・法人

賛助団体および特別会員については別に定める。

第７条　本会に個人会員として入会するためには、個人会員２名の推薦を要し理事会の承認を必要とする。

個人会員の入会資格については別に定める。

第８条　個人会員は年額 10,000 円の会費を納めるものとする。

継続して３カ年以上会費を納めない者は原則として会員の資格を失う。

個人会員で大学院博士後期課程に在籍する者は、所定の手続きを経て、会費の減免を受けることができる。所定の手続きについては別に定める。

第 9 条　本会に名誉会長および名誉会員を置くことができる。名誉会長および名誉会員は理事会において推薦する。

第 10 条　本会に下の役員を置く。

1. 会長　１名

会長は本会を代表し、会務を処理する。

会長の任期は 2 年とし、通算して２期を超えないものとする。

会長は理事会を主宰する。

2. 理事　39 名

理事は理事会を組織し、重要な会務を決定する。

理事の任期は 4 年とし、連続して 2 期を超える場合を除き、再選を妨げない。

ただし、東京銀行協会、全国地方銀行協会、東洋経済新報社を代表する 3 理事については、上記の任期の制限に関する規定を適用しないものとする。

3. 常任理事　10 名以内

常任理事は会務を処理する。

常任理事の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

4. 監事　2 名

監事は会務および会計を監理する。

監事の任期は 2 年とし、再任を 妨げない。

以上の外、会務の都合により副会長 1 名を置くことができる。

第 11 条　役員の選任は下の方法による。

1. 会長は理事会において選挙し、総会の承認を得るものとする。

会長の被選挙権者は、理事および会員である前理事とする。ここで、前理事とは、役員改選時点で連続 2 期の任期を終えた理事のことを指す。

なお、前理事が会長となった場合は、理事（職責上の理事）となり、理事の人数は 40 名となる。

ただし、前理事から選出された会長は、会長の任期を終えた時点で理事ではなくなるので、次期会長の選挙権、被選挙権をもたない。さらに、次期理事の被選挙権ももたない。

2. 理事の選出は 2 年ごとに半数の 18 名について行うものとする。理事のうち 12 名は会員（名誉会員および維持会員を除く）の投票（無記名 5 名連記 ）によって選出し、他の 6 名は引き続き在任する理事および新たに選出された理事が地理的分布その他を考慮して協議のうえ推薦し、総会の承認を得るものとする 。

理事選挙の管理は当期の常任理事がこれに当る。

3. 常任理事は理事の互選によって決める。
4. 任期中に、理事および常任理事に欠員が生じた場合の選出については別に定める。
5. 監事は理事会において推薦する。

第 12 条　本会に顧問及び評議員を置くことができる。

顧問および評議員は理事会において推薦する。

顧問および評議員は重要事項について理事会の諮問に応ずる。

第 13 条　本会は毎年 1 回以上総会を開く。

会長は総会に会務の重要事項及び会計について報告をし承認を求めるものとする。

第 14 条　本会の経費は会費その他の収入金を以てこれに充てる。

第 15 条　本会の会計年度は 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終るものとする。

第 16 条　本規則の変更は総会の議決を要する。

付　則

1. この規則は昭和 54 年 10 月 20 日から実施する。
   (1) この規則による当初の理事は 24 名を選出するものとして、この得票数の上位 12 名の理事の任期を 4 年とし、他の 12 名の理事の任期は 2 年とする。
   (2) 前項により選出された理事がさらに 12 名の理事を推薦するものとするが、その任期については 4 年の者 6 名、2 年の者 6 名を指名するものとする。
   (3) 現理事の任期は次期総会までとする。
2. この規則は昭和 61 年 10 月 10 日から一部改正（第 10 条 2 項但書）実施する。
3. この規則は平成 2 年 6 月 2 日から一部改正（第 10 条 2 項）実施する。
4. この規則は平成 9 年 11 月 3 日から一部改正（第 1 条）実施する。
5. この規則は平成 17 年 10 月 8 日から一部改正（第 10 条 1 項、第 11 条 1 項）実施する。
6. この規則は平成 19 年 4 月 1 日から一部改正（第 6 条、第 7 条、第 8 条、第 9 条）実施する。
7. この規則は平成 23 年 9 月 19 日から一部改正（第 11 条 1 項、4 項、5 項）実施する。

個人会員の入会資格　（1999 年 5 月 28 日および 2000 年 5 月 26 日での理事会決定）

本学会へ入会を希望する者の審査基準を、従来から行われてきた慣例および理事会審議により、次のようにきめた。

入会希望者はいかなる場合も、学会規則第 7 条に基づき会員 2 名による紹介を要し、理事会で入会を承認されなければならない。

入会希望者に著書や論文等の業績があるとき、入会申込書の該当欄にこれらを記入しなければならない。

入会希望者を、次のように分類して審査する。

（a）金融分野の研究に関心を持っている大学教員（非常勤者を含む）は、入会を認める。

（b）金融分野の研究を行っている大学院博士後期課程の学生および同課程の在籍経験

者は、指導教授の推薦状添付を条件として、入会を認める（大学院博士前期課程の学生は不可）。

（ｃ）金融分野の実務に就いている、あるいは就いたことがある社会人は、入会希望を紹介する会員２名のうち１名の推薦状添付を条件として、入会を認める。

入会希望者の審査について、申込書類の内容に疑義あるとき、または入会基準を満たしていない恐れがあるときは、そのたびごとに理事会で協議して対応するが、必要な場合は入会基準の改定を行う。

特別会員に関する細則（2005 年 10 月 7 日常任理事会・理事会で了承）、

１　本会の事業の主旨に賛同する団体・法人は、特別会員になることができる。

２　特別会員の入会は、理事会の承認を要する。

３　特別会員の年会費は、１口１０万円とする。この口数には上限を設けない。

４　特別会員は、本会理事の選挙権・被選挙権、および総会での議決権を有しない。

５　特別会員は、１口につき２名を登録することができる（登録会員と称する）。

６　特別会員の代表者および前条の登録会員は、大会・部会などの研究集会への参加・報告、学会誌など刊行物の配布など、本会の提供するサービスを享受することができる。

賛助団体に関する細則

（2006 年９月８日常任理事会・理事会で了承、同月９日会員総会で決定）

１　本会の事業に賛助する者は、賛助団体になることができる。

２　賛助団体の入会は、理事会の承認を要する。

３　賛助団体は、任意の賛助金を毎年、本会に拠出するものとする。

４　賛助団体は、本会理事の選挙権・被選挙権、および総会での議決権を有しない。
ただし、全国銀行協会、全国地方銀行協会、および東洋経済新報社の各代表者は、本会の理事となる。

５　賛助団体は、代表者のほか２名を登録することができる（登録会員と称する）。

６　賛助団体の代表者および前条の登録会員は、大会・部会などの研究集会への参加・報告、学会誌など刊行物の配布など、本会の提供するサービスを享受することができる。

大学院博士後期課程在籍者である個人会員の会費減免措置細則

（2006 年９月８日常任理事会・理事会で了承、同月９日会員総会で決定）

１　年会費は 7000 円とする（3000 円の減額）。

２　減免を受けようとする者は、当該会計年度の在籍証明書および社会人院生でないことの申告書を、当該年度の４月末日までに、事務局に提出しなければならない。

日本金融学会 70 年史編集に関する申し合わせ

第 1 条　本学会は、日本金融学会 70 年史を編集・公刊するために、日本金融学会 70 年史編集委員会を置く。

第 2 条　委員会は次の事項に関する活動を行なう。

1. 70 年史の企画･編集･公表に関する事項

2. その他 70 年史に関する事項

第 3 条　委員会は６名程度の委員で構成する。

1. 常任理事から会長が指名し、理事会の承認を得た者３名

2. 理事および会員の中から会長が指名し、理事会の承認を得た者３名程度。

第 4 条　委員会に委員長および副委員長を置く。

1. 委員長は第 3 条第 1 項の委員の内から、会長が指名する。委員長は、委員会を代表して、必要な活動を行う。

2. 副委員長は第３条第１項の委員のうち、委員長以外の委員 2 名を当てる。副委員長は、委員長を補佐し、また、委員長に事故がある場合は、委員長に代わり、委員会の活動を行う。

第 5 条　委員会は、必要な場合、予算上の措置を理事会に提案できる。

第６条　委員会は、必要に応じて、第３条の委員以外の会員の協力を得て、編集ワーキンググループを設置できる。

第７条　委員会の設置期限は、2014 年春季大会開催時までとする。ただし、編集作業の遅

れ等のやむを得ない事情があった場合、第３条の規定にかかわらず、暫定的に在任委員の任期を 70 年史の編集・公刊の完了までとする。ただし､暫定延長期間が半年を超える場合には、改めて編集態勢を検討することとし、本委員会は解散する。

第８条　委員会解散後に、生じる 70 年史に関する事項は、常任理事会において適宜対応することとする。

附則 1. この規定は 2013 年 9 月 20 日から実施する。

第VI部

特別資料編

第１章　日本金融学会の 60 年

佐藤政則（麗澤大学）

1943（昭和 18）年に創立された金融学会は，日本における経済学関係の学会のなかでも古参学会の一つである。第二次大戦後の 1950 年に再建され，1996（平成 8）年に日本金融学会と改称して 2003（平成 15）年には 60 周年を迎えた。今日では，会員数約 1,200 名，春季と秋季の大会開催，地域別・テーマ別に組織された８つの研究部会，機関誌『金融経済研究』と大会報告集『金融学会会報』の刊行，活発な国際交流等々，会員個々の旺盛な研究活動と相俟って名実ともに有力な学会となっている。

創立以来の60年間を振り返れば様々な学会活動が展開されてきた。なかでも1950（昭和25）年に開かれた戦後の再建総会から半世紀以上にわたって1度も中断することなく，年２回の全国大会を開催し続けてきたことは特筆に値するだろう。しかも近年では，共通論題を別にして自由論題報告とパネルだけで50本ほどの報告が立つ活況を呈している。本稿では，この全国大会に焦点をあて学会の歩みをサーヴェイすることにしたい。全国大会は，学会の研究活動を集約しており，そこで取り上げられた共通論題のテーマは，戦後日本経済が抱えた金融問題そのものであった。また他方で開催校の尽力や様々な工夫の集積が全国大会であり，常任理事会・理事会，学会事務局等々の弛まぬ努力の結晶でもある。

なお金融学会の創立事情と戦後の再建過程，初期の学会活動等については，創立 40 周年記念事業として田中生夫，麻島昭一，堀家文吉郎が中心となって編集した『金融学会の創立と初期の活動』（金融学会編，東洋経済新報社発行，昭和 59 年刊行）が詳細に明らかにしている。したがって本稿では，こうした創立と再建への取り組みに関しては同書に依拠して簡潔に述べ，重点を 1950 年代以降におくことにしたい[1]。

１．金融学会の創立と戦後の再建

金融学会の創立と戦前の活動

金融学会を誕生させた母体として，石橋湛山は二つの研究会を挙げている。一つは1922（大正11）年11月から活動を始めた「金融制度研究会」であり，今一つは1932（昭和7）年6月に第一回の会合をもった「通貨制度研究会」である。もっとも通貨制度研究会は，１年間の予定で始まっており，金融学会創立に至る直接の母体は，1941（昭和16）年４月から活動を再開した第２次の「通貨制度研究会」であった。こうした研究会活動のなかから全

[1] 本稿の作成にあたっては，資料収集に関して邊英治氏（日本学術振興会特別研究員，東京大学大学院）のご協力を得た。また村本孜（成城大学），金子邦彦（明治大学），晝間文彦（早稲田大学）の各氏には事実確認等でたびたびお手を煩わせた。記して感謝いたします。

国的な学会設立の動きが始まったのである[2]。

1943(昭和18)年5月13日,金融学会創立発起人会が東洋経済新報社において催された。続いて同年6月17日，東洋経済新報社ビル経済倶楽部において創立総会が開催され金融学会が発足した。創立総会において「金融学会規則」が承認され[3]，次の役員が選任されている。また渋沢敬三日本銀行副総裁の「金融学会の創立に当たりて」，富田勇太郎の「通貨管理制の将来」と題する記念講演があった。

顧問	池田成彬	深井英五	結城豊太郎	
理事会長	山崎覚次郎			
常任理事	高垣寅次郎	荒木光太郎	金原賢之助	柳田誠二郎
	森広蔵	石橋湛山		
理事	飯田清三	服部文四郎	大矢知昇	大島堅造
	太宰正伍	高田保馬	高島佐一郎	田中金司
	高橋亀吉	土屋計左右	小島昌太郎	佐野善作
	澁沢敬三	土方成美		
監事	明石照男	山室宗文		

創立発起人会において承認された「設立趣意書」には，金融学会設立の意義が次のように示された。「金融に関する理論及び政策の研究は，学者及実際家の連携の下に，総合的に之を行ふことによって最も善くその目的を達成し得べし。学問と現実との密接なること，蓋し金融問題の如く切なるは稀なるに拘らず，我国未だこの目的に副ふべき研究団体の存せざることは，国家の為寔に遺憾とする所なり。」[4]つまり金融問題の解明が理論と現実の融合を求めていることから，学者と実務家の双方によって構成される金融学会を設立する，というものであった。理論と現実，学者と実務家，これらの連携という考え方は，今日に至るまで金融学会のあらゆる活動を貫く考え方であった。

創立総会の時点での入会申し込みは，法人47社，個人111名であり，総会出席は54名であった。1943(昭和18)年9月20日現在の「金融学会会員名簿」によれば，維持会員(法人)77社，普通会員(個人)163名である[5]。なお，学会事務所は東洋経済新報社におき，事務を同社社員に委託した。

1943（昭和18）年7月10日に開かれた第1回理事会において4つの研究委員会の設置が決まった。この委員会方式による研究活動が戦前金融学会の特徴と言われている。今日で言う研究プロジェクトの活動である。そのスタイルは，１テーマにつき1委員会，1年間の研究

---

[2] 石橋湛山「金融学会が生まれるまで」『金融学会会報』第１回，1943年9月，同「あとがきに代えて」『金融論選集』Ⅰ，1954年7月。いずれも金融学会編『金融学会の創立と初期の活動』，東洋経済新報社，1984年，付録に収録されている。

[3] 創立時の「金融学会規則」および戦後再建時の「金融学会規則」は，いずれも『金融学会の創立と初期の活動』付録に資料2として収録されている。

[4] 『金融学会の創立と初期の活動』p62。

[5] この「金融学会会員名簿」(昭和18年9月20日現在)は，『金融学会の創立と初期の活動』付録に資料4として収録されている。

期間，年1万円の研究費，報告書の提出といったものであった。なかでも1万円という年間研究費は，本部事業費が年約1万円と見積もられていたことを考えれば，かなりの金額であった。また具体的なテーマの設定には常任理事会での議論が決定的であった模様である。最初の委員会となる下記の4委員会の責任者はいずれも常任理事が務めていた。第１，第２，第３の各委員会は1943（昭和18）年10月から，第４委員会は1944年2月から活動を始めた。

第１委員会「管理通貨制度の本質並に其の将来」
責任者　荒木光太郎

第２委員会「将来に於ける日本を中心とする為替及び国際金融」
責任者　高垣寅次郎

第３委員会「貯蓄の本質と資金配分計画」
責任者　金原賢之助

第４委員会「我国に於ける金融機構整備の方向に関する理論的研究」
責任者　石橋湛山

さらに1944（昭和19）年9月15日の第3回理事会において委員会を再編成し，新たに次の４委員会が設けられた。

第１委員会「我国の産業金融」　責任者　川北禎一
第２委員会「戦時戦後の国際金融」　責任者　金原賢之助
第４委員会「我国の国債政策」　責任者　土方成美
第４委員会「統制経済下のインフレーション」　責任者　大島堅造

こうして委員会方式の研究活動が始まったが，戦況の悪化に伴い期待した成果を上げることはできなかった。なお，1943(昭和18)年11月4日の常任理事会において関西部会の設置が決定されており，同年12月10日に関西部会の初会合が開かれた。こうして金融学会の研究活動を支える全国大会(総会)，テーマ別委員会，地域別部会という3本柱が出揃ったのである。

1943（昭和 18）年 10 月 18 日，19 日に秋季総会が東洋経済新報社ビルにて開催された。第１分科会（金利問題）では大島堅造と高橋亀吉が，また第２分科会（貯蓄問題）では春日井薫，中村佐一が報告を行った。続いて 1944（昭和 19）年 5 月 7 日に春季総会が開催されている。ここでは工藤昭四郎「通貨膨張と資金使用の効率化問題」，高田保馬「物価の問題」の報告があった。1944（昭和 19）年 10 月 15 日に秋季総会が開催され，結城豊太郎「最近に於ける我国の通貨政策」，塩野谷九十九「国民所得の変動」，新庄博「中国のインフレーション」の講演があり，研究委員会の経過報告が高田保馬，高垣寅次郎，柳田誠二郎，石橋湛山の各委員長から行われた。また山崎覚次郎理事長の辞任により結城豊太郎が新設された会長に就任した。

その後，1945 年 4 月 10 日の理事会を最後に学会の正規の運営は途絶えた。前年 11 月頃

から空襲が本格化しており，敗色漂うなかで学会を維持していくことは無理であった[6]。

金融学会の再発足と再建時の役員

第二次大戦後における学会活動の再開は，1945（昭和20）年12月の常任理事会から始まった模様である。1946年1月9日には「ブレトンウッズ協定に関する委員会」が新たに設置され，常任理事の荒木光太郎が委員長になった。詳細は不明だが，この委員会は都合17回の研究会を開き，同年9月4日の委員会において第２回中間報告をまとめて事実上終了した[7]。戦後速やかに活動を再開したものの，翌1947年春以降になると社会的混乱を反映したものか，学会としての活動は休止してしまった。

学会再建の動きが始まるのは1948（昭和23）年末頃からである。これは，他の主要学会と同様に，日本学術会議法の制定（1948年7月），学術会議第３部の発足（1949年１月），日本経済学会連合の創立（1950年1月）といった戦後の学術団体の再建・再結集の動きに対応したものと考えられる[8]。

1950（昭和 25）年 1 月 21 日の学会再建に向けた準備総会を経て，本格的な総会（大会）が開催されたのは，同年 12 月 16 日，17 日である。会場は東洋経済新報社ビルを使用し，出席者は約 100 名であった。この総会の議事には，①会務報告，②規約改正，③役員改選，④委員会報告，⑤関西部会報告があげられた。このうち規約改正は，戦後の状況に合わせた字句の手直し，規定の追加を行ったものであり，大幅な改定ではない[9]。しかし役員の改選は，戦後の円滑な学会運営を行う上で重要な課題であった。新役員が選任されるまで戦前の常任理事が運営にあたってきたからである。選任された会長・理事，監事，評議員は次のとおりであった[10]。

会長　高垣寅次郎

理事（順不同）

荒木光太郎	金原賢之助	服部文四郎	中村佐一	土方成美
高橋泰蔵	山口　茂	塩野谷九十九	一谷藤一郎	田中金司
新庄　博	森川太郎	岸本誠二郎	西村純平	飯田清三
柳田誠二郎	酒井杏之助	井上敏夫	中山素平	山田秀雄

監事　佐藤喜一郎　千金良宗三郎

協議員（順不同）

---

6 以上については，日本経済学会連合『ブレティン』第1号，1951年，p34～p35。『金融学会の創立と初期の活動』第一部を参照。

7 日本経済学会連合『ブレティン』第1号，1951年，p35。『金融学会の創立と初期の活動』，p131～p132。

8 『金融学会の創立と初期の活動』p134。

9 『金融学会の創立と初期の活動』p135。なお同書 p222～p223 には 1950 年の改正「金融学会規則」が資料 2 として全文掲載されている。

10 日本経済学会連合『ブレティン』第 2 号，1951 年，p53。

吉田政治	小池厚之助	金子　鋭	堀江薫雄	沖中恒幸
大野純一	栗村雄吉	小島昌太郎	高島佐一郎	永田　清
中村重夫	増井光蔵	山下宇一	小笠原光雄	川北禎一
工藤昭四郎	櫛田光男	土屋計左右	難波勝二	宮川三郎
堀田庄三	大矢知昇	清口厳根	綿野脩三	

翌 1951(昭和 26)年 1 月 25 日に第 1 回の理事会が開かれ，下記の 11 名が常任理事に互選された。また同年 6 月の上期総会(春季大会)において明石照男，石橋湛山，澁沢敬三の 3 名を顧問とし，理事の追加として高田保馬と大島堅造が選任された[11]。以上が再建時の役員構成であった。

常任理事	土方成美	高橋泰蔵	山口　茂	井上敏夫	酒井杏之助
	金原賢之助	山田秀雄	塩野谷九十九	田中金司	新庄　博
	中山素平				

こうして定期的な大会開催に向けた努力が始まるとともに研究成果の刊行も追求された。1952（昭和 27）年 6 月には『金融学会々報』の復刊第 1 号を発行した。1943 年 9 月の第 1 号以来，発行部数 300 部(公称)の『金融学会々報』は，1946 年 9 月の第 4 号まで発行されていたが，その後は休刊していたのである。大会研究報告を収録した『金融学会報告』は 1955 年 2 月から刊行が始まり，『金融学会名簿』の作成も 1953 年から開始された。そして 1954 年 7 月からは『金融論選集』が刊行されている。これは，会員の研究成果のなかから特に優れた論文を精選収録したものであり，第 1 巻から第 21 巻(1975 年)まで刊行された[12]。

２．全国大会からみた学会活動の発展

大会会場（開催校）の推移

今日で言う全国大会のことを戦前では「春季総会」，「秋季総会」と呼び，戦後の再建直後は「上期総会」，「上期大会」，「下期総会」，「下期大会」と呼んでおり，必ずしも一定してはいなかった。「秋季大会」の名称が用いられるようになるのは1953（昭和28）年頃からのようであり，これ以降，「春季大会」「秋季大会」の名称が定着していった。この名称の変化は，会務としての「総会」がメインであった戦前・戦後直後タイプから研究報告を中心とする戦後タイプへの移行を物語っていた。

戦時下や再建初期の社会情勢や食糧・交通事情を考慮すると，総会（全国大会）を開催すること自体が，現在では想像できない困難を伴ったことであろう。大会会場の確保も難しい問題であった。創立以来の大会会場は表 1 に示したとおりである。

---

11 『金融学会の創立と初期の活動』p135。日本経済学会連合『ブレティン』第 3・4 合併号，1952 年，p73。

12 『金融学会の創立と初期の活動』p136～p139。日本経済学会連合『ブレティン』第 1 号，1951 年，p34。

表１　大会会場（開催校）の推移

年		春秋	会場	年		春秋	会場
1943	昭和18	創立	東洋経済新報社ビル	1976	昭和51	春季	早稲田大学
		秋季	東洋経済新報社ビル			秋季	神戸大学(六甲台学舎)
1944	昭和19	春季	東洋経済新報社ビル	1977	昭和52	春季	慶応義塾大学(三田)
		秋季	東洋経済新報社ビル			秋季	東北大学(経済学部)
1950	昭和25	上期	東洋経済新報社ビル	1978	昭和53	春季	学習院大学
		下期	東洋経済新報社ビル			秋季	香川大学(経済学部)
1951	昭和26	上期	東洋経済新報社ビル	1979	昭和54	春季	日本大学(経済学部)
		下期	神戸銀行協会ビル			秋季	金沢大学(法文学部)
1952	昭和27	上期	東洋経済新報社ビル	1980	昭和55	春季	中央大学(8号館)
		秋季	東海銀行本部新館			秋季	関西大学(千里山学舎)
1953	昭和28	春季	明治大学研究所	1981	昭和56	春季	明治大学(駿河台)
		秋季	京都大学(経済学部)			秋季	九州大学(経済学部)
1954	昭和29	春季	早稲田大学(文系大学院講堂)	1982	昭和57	春季	上智大学(経済学部)
		秋季	大和銀行船場支店ビル			秋季	中京大学(商学部)
1955	昭和30	春季	慶応義塾大学	1983	昭和58	春季	一橋大学(如水会館)
		秋季	神戸大学			秋季	同志社大学(至誠館)
1956	昭和31	春季	明治大学(大学院)	1984	昭和59	春季	横浜市立大学(商学部)
		秋季	福岡市電気ホール			秋季	北海道大学(経済学部)
1957	昭和32	春季	一橋大学(一橋講堂)	1985	昭和60	春季	早稲田大学
		秋季	東北大学(経済学部)			秋季	神戸大学(経済学部)
1958	昭和33	春季	慶応義塾大学(日吉)	1986	昭和61	春季	法政大学(富士見)
		秋季	関西大学			秋季	山口大学(経済学部)
1959	昭和34	春季	早稲田大学(文系大学院講堂)	1987	昭和62	春季	慶応義塾大学(三田)
		秋季	名古屋大学(経済学部)			秋季	名古屋大学(経済学部)
1960	昭和35	春季	明治大学(大学院内講堂)	1988	昭和63	春季	東京大学(経済学部)
		秋季	広島大学(政経学部)			秋季	東北大学(経済学部)
1961	昭和36	春季	慶応義塾大学(三田)	1989	平成1	春季	明治大学(和泉)
		秋季	北海道拓殖銀行会議室			秋季	関西学院大学
1962	昭和37	春季	一橋大学(一橋講堂・如水会館)	1990	平成2	春季	中央大学(駿河台記念館)
		秋季	名古屋大学・東海銀行本店			秋季	広島大学(経済学部)
1963	昭和38	春季	東京大学(経済学部)	1991	平成3	春季	日本大学(経済学部)
		秋季	京都大学(経済学部)			秋季	滋賀大学(経済学部)
1964	昭和39	春季	成城大学(経済学部)	1992	平成4	春季	一橋大学(国立)
		秋季	松山商科大学			秋季	香川大学(経済学部)
1965	昭和40	春季	慶応義塾大学(三田)	1993	平成5	春季	東京大学(経済学部)
		秋季	山口大学			秋季	長崎大学(経済学部)
1966	昭和41	春季	明治大学(駿河台)	1994	平成6	春季	成城大学(経済学部)
		秋季	東北学院大学(経済学部)			秋季	中京大学（名古屋キャンパス）
1967	昭和42	春季	早稲田大学(第19号館)	1995	平成7	春季	早稲田大学（本部キャンパス）
		秋季	関西大学(第三学舎新館)			秋季	神戸大学（六甲台キャンパス）
1968	昭和43	春季	青山学院大学	1996	平成8	春季	武蔵大学
		秋季	福岡大学			秋季	熊本学園大学
1969	昭和44	春季	横浜市立大学	1997	平成9	春季	千葉商科大学
		秋季	同志社大学(京都銀行本店)			秋季	北海道大学(学術交流会館)
1970	昭和45	春季	慶応義塾大学(三田)	1998	平成10	春季	東京経済大学

		秋季	南山大学			秋季	大阪市立大学
1971	昭和46	春季	成城大学	1999	平成11	春季	明治大学（駿河台校舎リバティタワー）
		秋季	関西学院大学			秋季	東北大学（川内南キャンパス）
1972	昭和47	春季	明治大学(駿河台)	2000	平成12	春季	中央大学（多摩キャンパス）
		秋季	北海道大学			秋季	九州大学（箱崎文系キャンパス）
1973	昭和48	春季	一橋大学(一橋講堂)	2001	平成13	春季	慶応義塾大学（三田キャンパス）
		秋季	熊本商科大学			秋季	福島大学
1974	昭和49	春季	青山学院大学	2002	平成14	春季	横浜市立大学（金沢八景キャンパス）
		秋季	大阪市立大学			秋季	関西学院大学（西宮上ヶ原キャンパス）
1975	昭和50	春季	東京大学(経済学部別館)	2003	平成15	春季	一橋大学（学術総合センター）
		秋季	岡山大学(法文学部)			秋季	滋賀大学(経済学部)

1943（昭和 18）年の創立総会から 1951 年の上期総会までいずれも東洋経済新報社ビルが使われてきた。東京以外での初の開催となった 1951 年下期総会は神戸銀行協会ビルが利用できた。1952 年上期大会はまた東洋経済新報社ビルで開かれ，同年秋季大会には東海銀行本部新館が利用された。その後も 1954 年秋季大会では大和銀行船場視点ビル，1956 年秋季では福岡市電気ホール，1961 年秋季大会では北海道拓殖銀行会議室が用いられ，1962 年秋季大会では名古屋大学施設とともに東海銀行本店が，1969 年秋季大会では同志社大学施設とともに京都銀行本店も併用された。これらの施設の利用には関係会員や関係校，常任理事などの尽力が大きい。また創立時はもとより，戦後再建後の大会開催においても東洋経済新報社，銀行協会，銀行などの支援が絶大であった。

大学施設の利用が始まるのは 1953(昭和 28)年春季大会（明治大学）からである。創立総会から 2003 年の秋季大会（滋賀大学）まで計 112 回の総会・大会が開催された。このうち開催頻度が高い会場をあげれば，東洋経済新報社，明治大学，慶応義塾大学が各々８回，一橋大学，早稲田大学が各々６回，神戸大学，東京大学，東北大学が各々４回，関西学院大学，関西大学，成城大学，中央大学，名古屋大学，北海道大学，横浜市立大学が各々３回である。これらの合計回数は 69 回となり，全体の 6 割程度を占めている。定期的・継続的な大会開催には，こうした拠点大学等の貢献が大きかった。

他方で新規の開催会場を開拓することは，学会活動の広がりの点からも重要な課題であった。全112回の大会は，複数開催をカウントしなければ，実は47の会場（開催校等）によって開催されていた。大学施設（41会場）だけを取り上げて年代別にみると，1950年代に初めて開催校になったのは，明治大学，京都大学，早稲田大学，神戸大学，慶応義塾大学，東北大学，一橋大学，関西大学の8校である。これらはその後の拠点大学の中核を形成することになる。1960年代では広島大学，名古屋大学，東京大学，松山商科大学，山口大学，東北大学，福岡大学，青山学院大学，同志社大学，横浜市立大学の10校が新たに加わった。1970年代では南山大学，関西学院大学，成城大学，北海道大学，熊本商科大学，大阪市立大学，岡山大学，香川大学，学習院大学，金沢大学，日本大学の11校が初の開催校になっ

た。1980年代には中央大学，九州大学，中京大学，上智大学，法政大学の5校が，また1990年代では滋賀大学，長崎大学，熊本学園大学，武蔵大学，千葉商科大学，東京経済大学の6校が，そして2000年代に入って福島大学が新規開催校を務めた。

以上によって，1950 年代～1970 年代に広がった開催校の存在が，その後の大会開催に大きく寄与していることがわかるのである。

大会運営スタイルの変化

大会運営は基本的に開催校に委ねられている。したがって新規の開催校はもとより，複数開催校でも前回開催校の会員や常任理事などから各種の情報を収集して，開催準備にあたる。そのなかで様々な反省点が認識され，それが新たな改善策をもたらし，さらに次回開催校に継承されていった。こうした反省→改善の連鎖を無意識のうちに持続できていることが，本学会の特徴の一つであろう。

戦後の大会運営は，日本社会の大きな変化のなかで，会員数の増加や施設の充実など物理的条件の変化，上述の改善策等々によってそのスタイルを変えてきた。なかでも銀行等による招待晩餐会の廃止と会費制懇親会への切替，また自由論題報告会場の複数化は重要な変化を象徴していたと思われる。

銀行等による招待晩餐会が大会プログラムに明記されるようになるのは，1952(昭和 27)年の秋季大会(東海銀行本部本館)からのようである。この大会では，大会初日に日本銀行名古屋支店，二日目には東海銀行による招待晩餐会がもたれている。翌 1953 年の春季大会(明治大学)では，開催校と第一銀行による招待晩餐会があった。これ以降，銀行等の招待晩餐会は定着し，むしろ次第に制度化していった。春季大会では主に東京に本店をおく都市銀行が，秋季大会では主に当該地を基盤とする都市銀行，地方銀行，相互銀行等が分担して招待晩餐会をもった。このような状態は 1970 年代初頭まで続いた。社会的に許された時代ではあったが，対外的には無用の誤解を招きやすいものであった。

1960 年代の公害問題の激化に伴い企業や銀行等の社会的責任を指摘する声が学会の内外で高まった。また変動相場制，石油危機を契機とする低成長経済への移行は，収益環境の悪化を誘引し，銀行等の経費節減をもたらした。このような背景もあり，1973(昭和 48)年秋季大会(熊本商科大学)のプログラムでは銀行等の明記がなくなった。翌 1974 年春季大会(青山学院大学)のプログラムではまた復活したが，同年の秋季大会(大阪市立大学)からは晩餐(懇親)会そのものの記載がなくなる。今日の大会のような会費制の「会員懇親会」がプログラムに明記されるのは，1976 年春季大会(早稲田大学)からである。会費制懇親会はこれ以降の大会において定着していった。金融学会が共通論題において「銀行の社会的役割」を取り上げたのは 1976 年秋季大会（神戸大学）であった。

もともと金融学会の設立趣旨書に示されていたように，理論と現実，学者と実務家の連携による総合的な研究が基本的な方向であった。しかしこれが学会運営費をはじめ銀行等に，不用意かつ過度に依存する傾向の底流ともなっていた。銀行等による招待晩餐会の消

滅は，こうした傾向を是正し，適切な状態を回復する流れの一つであった。

その現れが入会資格の緩和であろう。金融学会の運営費の過半は維持会員による拠出金によって賄われていた。もちろん，それらの拠出金は『金融論選集』の刊行をはじめ金融問題を解明する各種の研究活動に適切に費消されてきた。しかし会員の会費収入に多くを依存しない稀有な学会であったことは間違いない。このためか，金融学会の入会資格は厳しく，若手研究者には敷居の高い学会になっていた。この結果，金融研究という広範な分野を擁するにもかかわらず会員数は顕著に増加しなかった。ちなみに 1959(昭和 34)年 3 月末の会員数は 400 名強であったが，1966 年 3 月末には約 500 名，1975 年 3 月末には減少して 400 名強であった。

入会資格がいつ頃からどのように緩和されてきたのかは，資料的には不明である。今日ではＡ(非常勤を含む大学教員)，Ｂ(大学院博士後期課程)，Ｃ(金融分野の実務に従事している社会人)に区分され各々について入会基準がある。1970年代後半から会員数が著増していくことを考えれば，1970年代後半から1980年代前半にかけてＡとＣに該当する入会基準が緩和され，Ｂに該当する入会資格を新たに設けたものと考えられる。

入会資格・入会基準の緩和は，会員数の増加をもたらし，それは自由論題報告のあり方を変化させることになった。後述するように，「共通論題」というスタイルが大会に登場するのは，1951（昭和 26）年下期総会（神戸銀行協会ビル）からである。しかし，これは今日で言う「共通論題」とはかなり異なっていた。

まず今日のような複数会場（教室）を使用したのではなく，研究報告のすべてを同一会場，単一会場で行っていた。したがって理論，現状，政策の研究，日本や諸外国の金融に関する研究，国際金融や制度研究等々，関心に応じて選択聴講するのではなく，すべて聴くことができた（聴かねばならなかった）のである。そのなかでの「共通論題」であり，むしろ今日で言う「パネル」に近いものであったかもしれない。

こうした一元的な進め方には，理論と現実，学者と実務家の連携のもとに総合的な研究を目指す金融学会の考え方が投影していたと思われる。しかし，現実的な大会運営を考えると，なかなか難しいものがあった。報告希望者は多く，それに対して春秋の大会で最大 20 本弱の報告しかできないとなると，報告の選択が必要以上に厳しくなるからである。総合的研究のスタイルを大会において堅持しようとすれば，どうしても報告規制を行わねばならなかった。入会資格も厳しく，報告もまた難しいとなると，多くの研究者を結集するには難があろう。

1954（昭和29）年秋季大会（大和銀行船場支店ビル）頃から，それまで単に研究報告と言っていたものを「自由論題」報告と呼ぶようになった。「共通論題」に対する「自由論題」という意味である。しかし同一会場，単一会場に変化はなかった。

1960（昭和 35）年秋季大会（広島大学）において初めて自由論題報告が２会場になった。二日目をフルに共通論題にあてようとすれば，初日の報告可能時間は最大６時間程度であり，報告６本が限界であった。同大会では２会場にすることにより 10 本の報告が設定でき

た。翌 1961 年春季大会（慶応義塾大学）も２会場にて８本の報告を行った。しかしこれで一挙に２会場方式が定着したわけではない。１会場であったり，２会場であったりする状態が 1974 年春季大会（青山学院大学）まで 10 年以上も続いた。そして 1974 年秋季大会（大阪市立大学）から２会場方式が常態化するのである。その後，1980 年代後半以降になると３会場，４会場，５会場と会員数・報告希望数の増加に伴いながら複数化が進むのであった。

関心の有無や程度にかかわらず，大会では広く耳学問をして学識を広げるという金融学会における総合研究のスタイルは，1970年代なかばに大きな壁に直面した。これ以降，総合性を企図しながら細分化する研究領域の深化を図るという難しい課題への挑戦が続くのである。

それにしても 1974 年秋季大会（大阪市立大学）は，戦後の大会運営において大きな節目であった。この大会プログラムからは晩餐(懇親)会の記載がなくなり，またこれ以降自由論第報告の２会場方式が常態化していった。これらは，いずれも金融学会の新たな一歩を象徴するものであった。

自由論題報告の継続的改善

1970 年代後半から自由論題報告数が増加し始め，次第にそのテンポも速まっていった。それまでは１大会あたり概ね 10 本弱で推移していたが，1970 年代後半から 1980 年代前半には 15 本弱の水準となり，1980 年代後半には 20 本前後に至った。なかでも 1989（平成元）年秋季大会（関西学院大学）では 25 本の記録をつくった。1990 年代前半には 20 本台にのり，創立 50 周年大会となった 1993 年春季大会（東京大学）では 28 本と記録を更新した。1990 年代後半では 30 本台が水準となり，次々に記録更新が現れた。例えば 1998 年秋季大会（大阪市立大学）では 41 本に達した。2000 年から 2003 年では増加のテンポは一層速まり，自由論題報告のほかにパネル形式の研究報告も定着した。2001 年春季大会（慶応義塾大学），2001 年秋季大会（福島大学）では自由論題だけで各々50 本を越えた。2003 年秋季大会（滋賀大学）では 57 本の自由論題報告のほかに３パネルが用意され，報告数は優に 70 本近いものになった。このような活況は，報告会場の増加と報告希望の採否緩和が直接的要因だが，従来からの改善努力の積み重ねが功を奏したものでもあった。

自由論題報告のあり方については，これまで様々な改善策が，常任理事会や開催校を中心に講じられてきた。優れた改善策は次回開催校が継承しており，その意味で工夫の集積が大会であった。とくに 1990 年代に入って改善の動きが顕著になる。このうち主要なものを取り上げておこう。

まず，報告数の増加に伴って議論に活発，不活発の差がはっきりと出るようになった。その改善策として 1991（平成３）年秋季大会（滋賀大学）において，ある程度の議論を担保する仕組みとして「討論者」が導入された。同大会では 22 本の自由論題報告すべてに「討論者」が立てられた。報告 40 分，討論者のコメント 10 分，一般質疑 10 分という設定であ

ったが，目的を充分に達成できる仕組みであった。これは翌 1992 年春季大会（一橋大学）に継承され，現在に至っている。

次に，会場数の増加に伴って各会場におけるグルーピングの意図を明示する必要性が高まった。報告数の増加により，全体像が把握し難くなったからである。1989（平成元年）年春季大会（明治大学）は，自由論題報告のうち関連性が高い報告をまとめて一会場におく「特定論題研究報告」を二つ設けた。そして各々に「金融システムの発展」，「各国の金融市場」というタイトルを付けた。それまでの開催校も複数会場の設定においては，会場ごとに何らかのグルーピングを行っていた。同大会ではその意図を積極的に明示したわけである。これは現在のセッションとタイトルの先駆けであったが，次回以降の大会には継承されなかった。

1993（平成５）年秋季大会（長崎大学）では，３つの会場で行われた自由論題報告を２～３にグルーピングして各々タイトルを付けた。「政策金融の諸問題」，「生命保険の経済分析」，「アメリカの金融政策」，「金融政策の諸問題Ⅰ」，「金融政策の諸問題Ⅱ」，「金融市場の経済分析」，「銀行行動の経済分析」，「国際通貨制度の諸問題」，「国際金融と金融制度改革」の９つである。このやり方は翌 1994 年春季大会（成城大学）にも継承された。同大会では，「金融の新たな課題」，「金融と実物の関連」，「銀行貸出の課題」，「金融のミクロ的課題」，「金融システムの安定性」，「金融システムの諸問題」，「個人金融・住宅金融」，「アメリカの金融システム」，「金融の証券化」の９つが立った。しかしこれ以降，タイトル付けを行った大会は少数であった。例えば，1995 年春季大会（早稲田大学）では「保険と遺産」，「金融自由化と証券価格」，「外国為替市場の分析」，「貨幣と景気循環」，「銀行の社会的責任」，「アジアの金融市場」，「経済変動と金融効率」，「貸出市場と貯蓄」，「金融市場の国際比較」，「デリバティブとリスク」，「メインバンク制度の分析」，「金融機関と消費者」，「金融機関の行動と不良債権」という 13 のタイトルが付けられた。また 1998 年春季大会（東京経済大学）では「貸出金利の実証分析」，「アジア通貨危機Ⅰ」，「アジア通貨危機Ⅱ」，「金融説作の実証分析」，「不良債権の流動化と金融システム」，「金融史の諸問題」，「企業金融」，「金融マクロの実証」，「ファイナンスとマネジメント」，「銀行規制」，「決済制度」，「英米の金融」，「国際金融」の 13 のタイトルが付けられた。

タイトル付けが常態化するのは，1999（平成11）年春季大会（明治大学）からである。同大会では，「ファイナンスⅠ」，「ファイナンスⅡ」「貨幣・信用論の現代的課題」，「地域金融」，「金融恐慌の過去と現在」，「ケインズ理論の再検討」，「金融システムの安定性」，「金融制度改革」，「金融政策」，「国際金融」，「21世紀の金融サービス」，「銀行業の計量分析」，「中央銀行制度」の13タイトルが付けられた。会場の都合を勘案しながら自由論題報告を２～３のグループに区分してタイトルを付けることは，容易なことではない。会場の都合によっては必ずしも適切と思われないタイトルのもとに配置される場合もあり得る。そのようなマイナス面もあるが，全体を鳥瞰できるというプラス面の意義がより重要だろう。

最後に，自由論題報告の採否の方法である。報告希望数の増大によってより公正な採否の方法が求められるようになった。開催校任せでは当該校の会員の負荷が大きくなりすぎたのである。この問題は1997（平成9）年春季大会（千葉商科大学）によって打開された。同大会において当該校の大会準備委員会とは別に「プログラム委員会」が設立された。この委員会が報告の採否とグルーピングを行い，プログラム案を作成する。その案に基づいて大会準備委員会がプログラムを決定する，という仕組みを作ったのである。この最初のプログラム委員会は，齊藤壽彦（千葉商科大学，大会準備委員長），村本孜（成城大学），金子邦彦（明治大学），釜江廣志（一橋大学），晝間文彦（早稲田大学），建部正義（中央大学），筒井義郎（大阪大学），地主敏樹（神戸大学）によって構成された。プログラム委員会方式は，同年の秋季大会（北海道大学）にも継承され，これ以降常態化した。

研究領域の広がりや開催校の尽力とともに，討論者の導入，セッションタイトルの設定，プログラム委員会の設置という３つの装置の考案は，自由論題報告の活況をもたらす重要な要素であったと思われる。

特別講演とパネル等への取り組み

金融学会の全国大会は，基本的に「自由論題」と「共通論題」によって構成されているが，場合によってはそれらと異なる形式の報告・講演が行われてきた。1960 年代から登場する「学会展望」や「シンポジュウム」，1980 年代末から頻度が増す「特別講演」，1990 年代末から盛況となる「パネルディスカッション」等々である。

表２ 学会展望等（1960 年代～1980 年代初頭）

年次	開催校	タイトル		報告者	
1963 春季	東京大学	学会展望	戦後のインフレーション論争 二重構造と金融	三木谷良一 川口 弘	神戸商大 中央大学
1970 秋季	南山大学	学会展望	Portfolio-selection理論の展開 資産選択理論の概観 銀行講堂と資産選択	江沢太一 水野正一	学習院大学 名古屋大学
1972 春季	明治大学	学会展望	貨幣需要理論の展開 貨幣需要にかんする理論的研究 貨幣需要関数の実証的研究	鍬田邦夫 石川常雄	富山大学 大阪府立大学
1976 秋季	神戸大学	シンポジュウム	ケインズ経済学の再評価	三木谷良一 川合一郎 館龍一郎	神戸大学 大阪市立大学 東京大学
1981 春季	明治大学	学会展望	ケインズ経済学の再検討 レイヨンヴドのケインズ理論 フリードマンの貨幣主義とケインズ批判 貨幣経済の論理とポスト・ケインズ派	津ノ国脩 加藤寛孝 青木達彦 保坂直達(討論者) 川口 弘(討論者)	愛知学院大学 創価大学 信州大学 神戸商科大学 中央大学

表３　1989 年～2003 年の特別講演

年次			開催校	タイトル		報告者	
1989	(平成1)	秋季	関西学院大学	特別講演	金融自由化と日本経済	若月三喜雄	日本銀行理事
1991	(平成3)	秋季	滋賀大学	特別講演	90年代における金融政策の課題	南原　晃	日本銀行理事
1993	(平成5)	春季	東京大学	記念講演	中央銀行の使命と責務:今日的意義を踏まえて	福井俊彦	日本銀行
				記念講演	Ownership(所有権について)	Colin Mayer	Warwick大学
				特別講演	The Current Challenge Confronting U.S. Monetary Policy (アメリカの金融政策の諸問題)	B.M.Friedman	Harvard大学
1995	(平成7)	春季	早稲田大学	特別講演	Central Bank Independence	C.A.E.Goodhart	London大学
1995	(平成7)	秋季	神戸大学	特別講演	History of Monetary Targeting in the United States	B.M.Friedman	Harvard大学
1996	(平成8)	春季	武蔵大学	特別講演	Preventing Banking Crises in the Future ;Lessons from Past Mistakes	G.G.Kaufman	Loyola大学
1996	(平成8)	秋季	熊本学園大学	特別講演	中国の経済改革と金融制度改革	黄達	中国金融学会会長
1997	(平成9)	春季	千葉商科大学	特別講演	IndependencyofCentralBanksandMonetaryPolicy	Dr.Jacob Frenkel	ｲｽﾗｴﾙ中央銀行総裁
1998	(平成10)	春季	東京経済大学	特別講演	21世紀における日本銀行	黒田巌	日本銀行金融研究所長
				特別講演	The Historical and Contemporary Perspective on Bank Instability,Deposit Insurance,and Prudential Regulation and Supervision	C.W.Calomiris	Columbia大学
1998	(平成10)	秋季	大阪市立大学	特別講演	中国人民銀行の中央銀行化にむけて	趙海寛	中国金融学会副会長
1999	(平成11)	春季	明治大学	特別講演	MonetaryPolicyforaPost-BubbleEconomy	J.S.Flemming	ｵｯｸｽﾌｫｰﾄﾞ大学 Wahdom College Master, 元BOEｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ
2000	(平成12)	春季	中央大学	特別講演	日本経済と日本銀行	篠塚英子	日本銀行審議委員
2001	(平成13)	春季	慶応義塾大学	招待講演	RecentDevelopmentsandIssuesinMonetaryPolicy	B.McCallum	ｶｰﾈｷﾞｰ･ﾒﾛﾝ大学
2001	(平成13)	秋季	福島大学	特別講演	流動性の罠と金融政策	植田和男	日本銀行政策委員･東京大学
2002	(平成14)	春季	横浜市立大学	基調講演	構造改革と景気対策	浜田宏一	ｲｪｰﾙ大学
2002	(平成14)	秋季	関西学院大学	特別講演	日本金融の将来ﾋﾞｼﾞｮﾝ	蝋山昌一	高岡短期大学
2003	(平成15)	春季	一橋大学	特別講演 特別講演	MacroeconomicPolicyinJapan	Ben Bernanke 福井俊彦	米国連邦準備理事会理事 日本銀行総裁
2003	(平成15)	秋季	滋賀大学	記念講演		植田和男	日本銀行政策委員

「学会展望」が初めてプログラムに明記されるのは，創立20周年にあたる1963（昭和38）年春季大会（東京大学）である。その後1980年代に入ると大会での取り組みはほとんどなくなる。これは機関誌『金融学会報告』に「展望論文」というジャンルが設けられたことも影響していると思われる。「共通論題」が当面する現実的な問題を主に扱うとすれば，「学会展望」は理論的側面を補強するものであった。「特別講演」は，それまでも適時行われてきたが，1980年代末からは頻度が高まった。これによって金融政策上の極めてホットな問題に関する認識を深めることが意図されている。こうしたところに理論と現実の総合研究を目指す金融学会の姿勢が現れていた。

1990 年代末からは「パネル」形式の自由論題報告が顕著になる。その最初が 1998 年(平成 10)年春季大会（東京経済大学）における「中央銀行の独立性と信用秩序維持」（司会：

春井久志）であった。このパネルは，中央銀行研究部会の旗揚げでもあった[13]。もっとも，まだ「パネル」という呼び方は用いられていなかった。この名称は 2001（平成 13）年春季大会（慶応義塾大学）において使用され，一挙に「21 世紀の国際通貨」（座長：片岡尹），「郵貯・年金改革と金融システム」（座長：貝塚啓明），「日本の金融政策：変動相場制移行後の四半世紀」（座長：花輪俊哉），「21 世紀の中小企業金融」（座長：藪下史郎）の４会場が設けられた。直接的・間接的な共同研究の成果を報告するには，こうした「パネル」形式が向いていた。また中央銀行研究部会のように積極的にパネルを活用するケースも生まれた。2001 年秋季大会（福島大学）でも１パネルが立ち，2002 年春季大会（横浜市立大学）では４パネル，2002 年秋季大会（関西学院大学）と 2003 年春季大会（一橋大学）では各々２パネル，2003 年秋季大会（滋賀大学）が３パネルと，ほぼ常態化したのである。

部会の増設と活動の定着化

日本金融学会は，春季・秋季の大会を補完するものとして地域別，テーマ別研究部会の活動を奨励してきた。現在では，地域別部会としては北海道部会，関東（理論政策）部会，中部部会，関西部会，西日本部会の５つが活動しており，またテーマ別部会としては国際金融部会，歴史部会，中央銀行研究部会の３つがある。これら部会の活動が活発であることも日本金融学会の特徴の一つであろう。部会は，テーマを限定し参加者を特定して報告書の提出を義務付ける戦前の委員会方式と異なり，会員・非会員の研究成果を適宜報告し，自由闊達な議論を行う場として重要な役割を果たしてきた。

地域別部会の設置は，創立直後の 1943 年 12 月に第１回会合を開いた関西部会が最初であった。次に 1953(昭和 28)年 4 月に東京部会(金利問題研究委員会として発足，後の関東部会)が発足した[14]。その後，中部部会と西日本部会が組織され，北海道部会が誕生した。テーマ別部会としては関東部会から歴史部会が，また関西部会から国際金融部会（当初は国際金融研究委員会と称した）が発足し，中央銀行研究部会は 1998 年春季大会（東京経済大学）の総会において発足が承認された。

残念ながら，初期に発足した中部，西日本，歴史，国際金融の各部会がいつ第 1 回研究会を開催したのかは，資料的に確定できない。ただし，1954 年の秋季大会における部会報告は関西部会と東京部会のみであるのに対して，1960 年度の活動状況報告では関東，歴史，中部，関西，国際金融，西日本の各部会報告が行われている[15]。ここから中部，西日本，歴史，国際金融の各部会は 1950 年代後半に発足したものと考えられる。

各部会における初期の活動を垣間見るために，全体が一望できる 1960（昭和 35）年度の

---

13 詳細は，本書第２章「学会活動」の中央銀行研究部会を参照。

14 初期の東京部会，すなわち金利問題研究委員会の活動については，『金融学会の創立と初期の活動』p140～p141 を参照。

15 日本経済学会連合『ブレティン』第 7 号，1956 年，p113。『金融学会会報』1961 年 2 月，p1～p2。

研究会開催状況を下記に掲げた[16]。当時の研究状況や金融問題を反映した報告が数多く，開催回数も非常に多い。1960 年前後の雰囲気を物語っていると言えよう。

［関東部会］

月日	報告タイトル	報告者	所属
5月7日	発券制度の焦点	柿沼幸一郎	大蔵省
6月11日	同上	浜崎敬治	日本銀行
7月2日	保有外貨と発券制度	新井真次	
10月29日	通貨供給方式についての諸問題	小宮隆太郎	東京大学
12月10日	マネー・フロー表から見た通貨供給	日本銀行	石田定夫
1月21日	ガァリィショウの方法の米国学会における評価	桜井欣一郎	青山学院大学

［歴史部会］

月日	報告タイトル	報告者	所属
5月31日	ケインズとジョンロー	大野信三	明治大学
6月15日	戦後の日本証券市場の発達	長谷川正名	日興証券
9月27日	証券取引の歴史的比較	小竹豊治	慶応大学
10月26日	通貨制度論	森七郎	神奈川大学
12月17日	1920年代の管理通貨制度	森垣淑	拓殖大学
1月28日	最近におけるアメリカの景気循環と国民所得の変動	春日井薫	明治大学

［中部部会］

月日	報告タイトル	報告者	所属
1月	新しい信用統制理論について	江崎洋吾	名古屋市立女子短大
2月	欧米の中央銀行を訪ねて	塩野谷九十九	名古屋大学
3月	日本における金融機構の歴史的変遷	二村和之	東海銀行
4月	自由化について	佐治義久	東海銀行
	同上	二村和之	東海銀行
	経済成長と金融的要因	三上正之	中京大学
5月	日本における法人貯蓄函数	上野裕也	名古屋大学
6月	新しい信用統制理論とその財政金融政策との関連	山崎研治	名古屋大学
7月	価格機構，二重構造，過当競争，金融政策	飯田経夫	名古屋大学
8月	日本における金利体系の変遷	水谷研治	東海銀行
9月	貨幣的動学モデルについて	木村吉男	名古屋大学
10月	金融機関を含む一般的均衡体系	水野正一	名古屋大学
11月	金融政策の分析	木村吉男	名古屋大学
12月	金融正常化について	木全七朗	東海銀行

16 『金融学会会報』1961 年 2 月，p1～p2。

［関西部会］

月日	報告タイトル	報告者	所属
2月6日	アメリカにおける最近の消費者信用	関西大学	上田昭三
	証券金融のメカニズム	杉江雅彦	大阪証券経済研究所
5月28日	ハミルトンの金融思想	片山貞雄	滋賀大学
	資産選好理論について	則武保夫	神戸大学
10月1日	「貨幣作用」再考	大野喜久之輔	神戸大学
	物価安定の政策的意義	一谷藤一郎	大阪大学
1月28日	資本輸出形態の推移について	中西市郎	大阪市立大学
	開発援助投資の効率化について	傍島省三	大阪大学

［国際金融部会］

月日	報告タイトル	報告者	所属
1月23日	アメリカの管理価格について	川田冨久雄	神戸大学
12月10日	経済成長と通貨の供給方式	新庄博	神戸大学
1月23日	価値の生産価格への転化問題	金子甫	九州大学

［西日本部会］

月日	報告タイトル	報告者	所属
1月23日	価値の生産価格への転化問題	金子甫	九州大学
	J・S・ミルの経済学体系における信用理論	宮崎喜代司	九州大学
	日本貿易の特質	中田操六	九州大学
2月27日	合衆国銀行の成立について	高橋久弥	九州大学
	－A・ハミルトン体制の歴史的意義－		
	消費者金融と金融政策	尾崎康夫	下関短期大学
	ボェーム・バウエルクの利子論	安田充	山口大学
	信用補完制度からみた中小企業金融の問題点	白松真	山口県信用保証協会
	国民所得概念について	武野秀樹	九州大学
4月23日	九州経済における大分県経済，金融の地位	溝口幸太郎	大分銀行
	市場価格の変動について	阿部真也	九州大学
	貸付け資金説と流動性選好説	平岡規正	西南学院大学
	フラァトンの貨幣論について	中村宏治	大分大学
5月31日	現代インフレーション論	竹村脩一	大分大学
	銀行券論争の問題点	岡橋保	九州大学
7月13日	中世貨幣制度史の一こま	山村延昭	九州大学
	いわゆる「転化問題」について	藤田暁男	九州大学
9月2日	オーバーストンの通貨論研究序説	深町郁弥	九州大学
	発券と地金報告の背景	飯田正義	久留米大学
9月29日	現在のドルの性格について	寺園徳一郎	福岡大学
	銀行券の法貨規定と保証発行規定	松井安信	西南学院大学
10月28日	**＊金融問題研究会と共同**		
	経済の成長と通貨の供給	伊賀武美	日本銀行
	福岡県における金融機関の店舗配置について	脇坂泰寿	福岡銀行
	金融機関における長期計画の考え方	岩田竜雄	西日本相互銀行
	銀行券をめぐる諸問題	岡橋保	九州大学
	独占価格について	馬場元二	久留米大学

11月28日	**＊金融問題研究会と共同**		
	資産吸収面からみた金融機関の比重変化について	坂柳隆二	日本銀行
	利益計画について	市村昭三	西南学院大学
12月3日	費用価格の概念について	逢坂充	九州大学
	国際価値論の一問題点	村岡俊三	西南学院大学
1月26日	地方における金融機関のありかた	市川衛門	北九州財務局
	中央銀行政策の成立過程	深町郁弥	九州大学
2月2日	最近の金融経済事情をめぐって	吉野俊彦	日本銀行

３．共通論題と戦後の金融問題

全国大会の華が「共通論題」である。戦後，半世紀超にわたる金融学会の共通論題を眺めれば，その時々の日本経済の激しい展開から湧出する金融問題を的確につかまえてきたと言えるだろう。

金融学会が「共通論題」という報告を組織したのは，1951（昭和 26）年下期総会（神戸銀行協会ビル）が最初であった。もっとも，この総会（大会）では共通論題に統一テーマを設けていない。「共通論題」方式はその後も継承されていくが，会場が単一であるか，複数であるかによって意味合いが変わってくる。複数会場を用いて自由論題報告を行うことになれば，「共通論題」の求心力を強める必要性が一段と高まるのである。

金融学会において取り上げられた共通論題は，理論的な側面が強いものと現実的な金融問題に大別されるが，圧倒的に後者のウェイトが高い。したがって，戦後の日本経済の展開に応じてある程度機械的な時期区分が可能である。すなわち，まず 1950 年代から 60 年代である。この時期には日本経済が復興から成長軌道にのり，高度成長という時代のなかで金融の役割が格段に高まる。次に変動相場制と石油危機を契機に日本経済が転身を遂げ，新たな金融問題が浮上する 1970 年代から 1980 年代である。最後に東西冷戦が終結し，バブル崩壊とそこからの脱却が問われる 1990 年代以降であろう。以下では，こうした時期区分を念頭において進めていきたい。

1950年代から60年代

一般的に言えば，貧しさや悔しさはアスピレーションの原動力に成り得る。戦前期には一応の「帝国」日本に到達していたが，戦後は一転してゼロないしマイナスからの再出発であった。戦前の高い教育水準とある程度の工業力が，貧しさと悔しさからの脱却志向に結びついたとき，予想をはるかに上回る事態が生まれていった。戦後の高度経済成長の始まりである。

1950年代から1960年代にかけての共通論題は表４に掲げたとおりである[17]。この一覧に示されたテーマが，金融学会が関心をもった復興期から高度成長期の金融問題であった。も

[17] 報告者等については，本書巻末の大会報告一覧を参照。

っとも共通論題の報告者には，学界，大蔵省，日本銀行，都市銀行などの銀行から各々１名ほどを立てる配慮が初期からなされていた。したがって特定の問題について何らかの結論を導き出すというものではなかった。

1950年代前半の共通論題は，金融政策の目標や手段に関する理論的・制度的問題を主に扱っている。後半以降1960年代を通じて，幾つかの問題の流れが相互に結び合いながら，角度を変えて取り上げられている。その第１の流れは，1958年秋季大会（関西大学）で共通論題となった「中央銀行の性格と運営」である。これは，1956年頃から浮上した日本銀行法改正の議論を睨んでの企画であった。同法改正をめぐる議論は，経済成長⇔通貨価値の安定，監督権強化⇔中立性強化，というように対立点がクリアーであったことから多くの議論を惹起した。ちなみにこの共通論題では，意識したものか，日本銀行と大蔵省からの報告者を立てていない。

第２は，当時最大の関心を集めた，いわゆる「金融正常化」問題に関わる流れである。急速な経済成長が，閉鎖的な経済環境のなかで貯蓄以上の投資を必要としたために金融，証券，財政の各方面に歪みが生じていた。その解消策をめぐって様々な議論が生起したのである。この問題については，大方の共通論題で何らかの言及が行われているのであるが，とくに1959年春季大会（早稲田大学）から1962年秋季大会（名古屋大学）までの共通論題は，正常化問題を意識したテーマ設定が目立つ。

第３の流れは，財政政策と金融政策との関係を問題にするものである。初期には1953年春季大会（明治大学）において取り上げられ，1956春季大会（明治大学）も対象とした。しかし1965年以降は，長期国債の発行が現実となり新たな状況に入った。1966年春季大会（明治大学）の「国債をいだく金融経済の諸問題」は，いち早く議論を提起したものであった。

第４の流れはインフレーションに関する政策的な検討であろう。1960年代は消費者物価上昇・卸売物価安定という傾向がみられ，1960年代末頃からはインフレの国際性が問題になった。インフレ現象の解明は，当然ながら関連する領域が広範であることから，多くの共通論題で言及されているが，なかでも1961春季大会（慶応義塾大学），1967年春季大会（早稲田大学），1969年春季大会（横浜市立大学）が，この問題を正面から取り上げた。

第５は「国際収支の天井」問題に関わる流れであろう。1960年代なかば以降，国際収支の黒字基調が定着し，外貨制約を意味する「国際収支の天井」から離脱した。国際収支の変動を基準とした金融引き締めは過去のものとなり，改めて政策目標と有効な手段の議論が生起した。一方，1960年代末には国際通貨ドルの信認が低下してきた。1958年春季大会（慶応義塾大学）「国際収支と金融政策」は外貨制約を意識したものであったが，1968年春季大会（青山学院大学）「わが国の国際収支」では議論の方向性が変わる。これに関連する共通論題の設定は，1960年代後半に頻度が高くなった。

表４　1950年代，1960年代の共通論題

年次		春秋	テーマ
1951	(昭和26)	下期	統一テーマなし（資本形成と金融政策の問題を扱う）
1952	(昭和27)	上期	金融制度の在り方
1952	(昭和27)	秋季	金利問題
1953	(昭和28)	春季	金融政策と財政政策
1953	(昭和28)	秋季	我国の資金計画
1954	(昭和29)	春季	金融統制の組織
1954	(昭和29)	秋季	貨幣の価値
			金融政策の目標と基準
1955	(昭和30)	春季	金融調整の方法
1955	(昭和30)	秋季	金利体系と金利政策
1956	(昭和31)	春季	財政投融資の効果と限界
1956	(昭和31)	秋季	景気上昇過程の金融政策
1957	(昭和32)	春季	わが国発券制度の問題点
1957	(昭和32)	秋季	金融政策の効果と限界
1958	(昭和33)	春季	国際収支と金融政策
1958	(昭和33)	秋季	中央銀行の性格と運営；日本銀行制度の改正問題に関連して
1959	(昭和34)	春季	長期金融市場と短期金融市場との関連
1959	(昭和34)	秋季	経済成長と金融の役割
1960	(昭和35)	春季	貿易為替の自由化と金融
1960	(昭和35)	秋季	企業の体質改善と金融
1961	(昭和36)	春季	インフレーション
1961	(昭和36)	秋季	直接金融と間接金融
1962	(昭和37)	春季	経済成長と適正通貨供給
1962	(昭和37)	秋季	貯蓄の構造
1963	(昭和38)	春季	学会展望:最近10年間の我が国金融政策についての回顧
1963	(昭和38)	秋季	資本移動の自由化に対処する金融政策
1964	(昭和39)	春季	国際流動性の諸問題
1964	(昭和39)	秋季	金融引締効果の検討
1965	(昭和40)	春季	金利の自由化
1965	(昭和40)	秋季	わが国高度経済成長下における金融政策の功罪
1966	(昭和41)	春季	国債をいだく金融経済の諸問題
1966	(昭和41)	秋季	資本の自由化と金融政策
1967	(昭和42)	春季	物価問題の金融的側面
1967	(昭和42)	秋季	金融政策と財政政策の調整;ポリシイ・ミックスの問題点
1968	(昭和43)	春季	わが国の国際収支－その金融的対策－
1968	(昭和43)	秋季	国際通貨の将来とわが国の立場
1969	(昭和44)	春季	物価問題と金融政策－国際物価水準に関連せしめて－
1969	(昭和44)	秋季	SDRの性格

1970年代から80年代

1970年代の二度にわたる石油危機、1970年代後半と80年代後半の急激な円高という未曾有の試練が日本経済を襲った。脆いと思われていた日本経済であったが、意外にも強靭な底力を見せた。企業体質を変え、消費行動が変わり、引いては産業構造が変わることによ

ってより高度な経済社会を作り上げたのである。その結果、戦後復興期、高度成長期に続く安定成長期という新しい時代が到来した。それは同時に、経済大国への道程でもあった。

1970年代と80年代の共通論題掲げた表５を一覧すれば，70年代と80年代に大きな違いがあることが明白だろう。ニクソンショック，石油危機，変動相場制移行，貿易摩擦，高度成長の終焉といった時代状況を反映して1970年代は危機意識の強い時代であった。

1970年代は，国際的にも国内的にも，あるいは経済的にも政治的にも，実に混沌とした状況が続いた10年間であった。物価上昇を伴う景気後退という事態はもっとも厄介であり，金融政策発動の目標も物価重視に大きく変わった。円相場の上昇と貿易摩擦の激化は，輸出関係企業の現地生産を促した。「大量」の国債発行と金融・経済の国際化は，金利の自由化と金融の自由化を促進した。資源の有限性に対する認識も，政府・国民・企業のあらゆるレベルで深まった。そのなかで企業や銀行の社会的責任を問う声も強くなった。1970年代の共通論題は,次々に発生するこうした難問に対して挑戦する姿勢が強く出たと言えよう。

1970年代の共通論題を通観すれば，第１にインフレーションないしスタグフレーション，第２にポリシーミックスないし国債管理，第３に国際通貨ないし変動相場制，そして第４に金融政策の再評価，第５に金利自由化といった問題を中心に設定されている。これらの問題は相互に密接な関連を有しており，いずれも解明が急がれた重要な問題であった。

1980年代に入ると日本経済そのものの様子が大きく変わった。省資源・省エネルギーにいち早く対応できた強靭な日本経済の姿が国際的に浮上してきた。1985年9月のプラザ合意を契機とする「円高不況」は，1987年に入ると「円高好況」に転じた。円高により一般物価は安定しており、インフレ懸念のない大型景気の始まりであった。

1986年12月から始まった景気の拡大は、1991年2月まで51カ月続いた。この間における地価と株価の上昇はすさまじかった。企業のエクイティ・ファイナンスは1985年に4兆円であったが、89年には26兆円となった。資金調達の主要な手段は銀行借入から有価証券にシフトし，金融業務の自由化が促された。大企業の銀行離れに対して銀行は土地・株式担保の融資を増大させ、地価・株価を押し上げた[18]。1986年1月に13,000円であった株価（日経平均）は、1987年10月19日のニューヨーク株式市場の暴落（「ブラック・マンデー」）による影響も短期間で回復し、ついに1989年12月29日には史上最高値となる38,915円87銭まで上昇した。全国上場株式時価総額は国民総生産の1.5倍となる630兆円に達したのである。株価の高騰に連動して地価も上昇した。とくに6大都市は顕著であり、商業地平均で1990年の地価は1985年の約4倍となった[19]。実態経済から格段に離れた資産価格の投機的上昇が続く、まさにバブル、狂宴の時代であった[20]。

---

18 原朗『改訂版日本経済史』放送大学教育振興会、1999 年、p190-p200。

19 吉田和男『平成不況 10 年史』PHP 新書、1998 年、p18-p23。

20 以上は，『大東京火災海上史』あいおい損害保険株式会社，2004 年，第 5 章(執筆:佐藤政則)第１節，第６章(執筆:同)第１節に依拠している。

表５　1970年代，1980年代の共通論題

年次		春秋	テーマ
1970	(昭和45)	春季	金利の自由化
1970	(昭和45)	秋季	Policy-mixの理論と実際
1971	(昭和46)	春季	所得政策と金融政策
1971	(昭和46)	秋季	輸入インフレーションと平価の調整
1972	(昭和47)	春季	平価調整と財政金融政策の役割
1972	(昭和47)	秋季	国際通貨不安定下の国内金融の課題
1973	(昭和48)	春季	金融政策の新傾向
1973	(昭和48)	秋季	世界インフレーション下の金融政策
1974	(昭和49)	春季	ケインズ的財政金融政策の検討
1974	(昭和49)	秋季	世界的インフレーションと国際通貨・金融の現状と展望
1975	(昭和50)	春季	戦後日本の金融政策とその評価
1975	(昭和50)	秋季	戦後日本の金利自由化問題;
1976	(昭和51)	春季	わが国における国債管理の諸問題
1976	(昭和51)	秋季	銀行の社会的役割
1977	(昭和52)	春季	資金運用部資金と金融市場
1977	(昭和52)	秋季	スタグフレーションと財政金融政策
1978	(昭和53)	春季	わが国における金融システムの変貌と金利調整
1978	(昭和53)	秋季	金融政策の再評価
1979	(昭和54)	春季	当面する国際金融の諸問題
1979	(昭和54)	秋季	わが国における金融市場の現状からみた公債管理の問題点
1980	(昭和55)	春季	国際通貨をめぐる諸問題
1980	(昭和55)	秋季	金融構造の変化に伴う諸問題
1981	(昭和56)	春季	金融政策の現状と今後のあり方
1981	(昭和56)	秋季	金融構造の変化と制度改革
1982	(昭和57)	春季	変動相場制の回顧と展望
1982	(昭和57)	秋季	金融構造の変化と直接および間接金融
1983	(昭和58)	春季	金融政策の再評価と今後の展望
1983	(昭和58)	秋季	日本における金融のイノベーション
1984	(昭和59)	春季	金融の対外的側面
1984	(昭和59)	秋季	金融構造はどこまで変わるかー主として日・米の現状と展望ー
1985	(昭和60)	春季	金融革新と金融政策
1985	(昭和60)	秋季	金融理論の最近の発展
			金融の国際化と金融政策
1986	(昭和61)	春季	技術革新と金融ファンダメンタルズへの影響
1986	(昭和61)	秋季	円高基調下での金融政策
1987	(昭和62)	春季	金融革新と金融システムの安定性
1987	(昭和62)	秋季	金融の証券化
1988	(昭和63)	春季	金融のグローバリゼーションと金融市場の安定性
1988	(昭和63)	秋季	金融の自由化とリスク管理
1989	(平成1)	春季	貨幣とはなにか;金融システムの発展に関連して
1989	(平成1)	秋季	金融環境の変化と民間金融機関の役割;業際問題をどう考えるか
			金融環境の変化と金融政策

こうした1980年代後半において金融研究の有力な学会である金融学会が，充分な警鐘をならし得たのか，どうか，自省することも多いと思われる。1980年代後半の共通論題において金融システムの安定性やリスク管理を，幾度も取り上げたことがいささかの救いかもしれない。

1980年代における共通論題の大きな特徴を挙げれば，第１に国際的な側面が非常に強く意識され，認識が次第に深化していったことである。1979年春季大会（日本大学）の「当面する国際金融の諸問題」と1988年春季大会（東京大学）「金融のグローバリゼーションと金融市場の安定性」では，みている世界が大きく異なっていた。第２に金融構造の変化に強い関心が寄せられたことである。1980年秋季大会（関西大学）において「金融構造の変化に伴う諸問題」が取り上げられたが，これ以降しばしば問題にされた。第３に1980年代後半に入ると，イノベーション，金融革新，金融自由化の問題とともに関心が「金融システム」に引き寄せられていくのである。

1990年代以降

1989年における「ベルリンの壁」の崩壊を契機とする社会主義体制の終焉は、第二次世界大戦後の世界的枠組みであった「東西冷戦」を終結させた。1990年代に入ってからは唯一の超大国となったアメリカの主導のもとに世界秩序の再構築が、試行錯誤をしながら進められていった。

日本にとっても「北朝鮮」以外の諸国が対話可能になるという国際関係は、1931年の満州事変以降失っていたものであり、事実上未知の環境であった。新たな国際関係・外交政策の模索が始まるのである。他方で「東西冷戦」の終結がもたらした国内への影響も甚大であった。冷戦構造のなかで有効に作動した日本の国内的仕組みが、その役割を終えていったのである。例えば「1940年体制」とまで言われた官主導の協調体制や閉鎖的な行政スタイル、あるいは「1955年体制」と呼ばれた自民党・社会党を軸とする政官民労の協調体制などは、急速に存在意義を失っていった。日本の社会の彷徨が始まるのである。こうした過渡期の混乱が鎮静化するには、10年以上の歳月が必要であった。欧米社会からは「日本株式会社」と揶揄され、中国共産党の江沢民からは「素晴らしい社会主義国」[21]と絶賛された日本社会の再構築が、1990年代からの大きな課題となるのである。

1990年代に入ってからの共通論題は，表６に示すとおりである。90年代における金融に関わる問題は，実に深刻であった。なかでも1994年末から96年にかけて現実化した地域金融機関の破綻，1997年11月に発生した北海道拓殖銀行，山一證券，三洋証券，徳陽シティ銀行の経営破綻，1998年10月から12月にかけての日本長期信用銀行，日本債権信用銀行の国有化等々は，金融研究にも深い影響を与えた。他方で日本版ビッグバンに象徴される規制緩和・自由化の動きが次第に早くなった。

1990年代の共通論題は，金融研究をめぐる迷いや逡巡，不可解さが色濃く投影している

21　「経済漂流３」『朝日新聞』2002 年 9 月 1 日。

表６　1990年代以降の共通論題

年次		春秋	テーマ
1990	(平成2)	春季	「金融大国」日本の課題
1990	(平成2)	秋季	資産価格変動と金融政策
1991	(平成3)	春季	21世紀の民間金融と公的金融
1991	(平成3)	秋季	世界のマネー・フローと資金過不足
1992	(平成4)	春季	銀行の公共性と信用秩序
1992	(平成4)	秋季	EC通貨統合と国際通貨制度の将来
1993	(平成5)	春季	1980年代の金融経済 ;金融システムの安定性をいかに維持するか
1993	(平成5)	秋季	三極体制と国際通貨制度
1994	(平成6)	春季	金融システムの健全性とその活性化
1994	(平成6)	秋季	アジアの金融改革と日本の金融システムー日本はモデルとなりうるかー
1995	(平成7)	春季	平成不況ーマクロ経済と金融システムー
1995	(平成7)	秋季	共通論題Ⅰ: 国際通貨制度改革と日本の選択
			共通論題Ⅱ: 中央銀行の独立性
1996	(平成8)	春季	金融システムの再構築
1996	(平成8)	秋季	共通論題Ⅰ: 中央銀行の独立性
			共通論題Ⅱ: 転換期の金融制度
1997	(平成9)	春季	公的金融の課題と展望
1997	(平成9)	秋季	日本版ビッグバン
1998	(平成10)	春季	金融システムの安定性;信用秩序維持に関連して
1998	(平成10)	秋季	アジアの通貨危機と日本の役割
1999	(平成11)	春季	構造不況と金融改革
1999	(平成11)	秋季	金融システム不安からの脱却
2000	(平成12)	春季	現下のわが国の金融政策運営について
2000	(平成12)	秋季	金融再編と金融業の未来
2001	(平成13)	春季	21世紀の金融制度のアーキテクチャー
2001	(平成13)	秋季	21世紀の日本経済と金融
2002	(平成14)	春季	地域経済，地域金融の再生
2002	(平成14)	秋季	金融システムの変化とコーポレート・ガバナンス
2003	(平成15)	春季	デフレと金融市場
2003	(平成15)	秋季	日本の金融再生プログラム

と言えよう。90年代前半は国際通貨制度や金融改革を取り扱ったものが多いが，後半から2003年までは，日本版ビッグバンの動きのなかで金融業・金融制度全体の変革を問題にするようになる。

2002年からの景気回復は，バブル崩壊後3度目となる。短期間で終わった1999年からの回復同様，自動車産業や電子・電気機器産業が主力である。しかし，懸案であった金融機関の不良債権問題に目処がついたこと，トヨタ自動車の業績に代表されるように個々の企業レベルにおいて国際競争力の回復に見通しがついたこと，1990年代に比べれば総じて政治的，経済的，社会的な「安定感」のなかで進行していること等々，これまでにない新たな

特徴を具備するものである。どうやら，長かった混迷の時代にも終わりが見えてきた。

不良債権問題や金融機関の経営破綻に彩られた1990年代は，ある意味で金融・証券のもつ重要性を改めて示した時代でもあった。この時代で培った貴重な経験が，これからの日本金融学会の活動にどのように活かされていくのか，問われているのである。